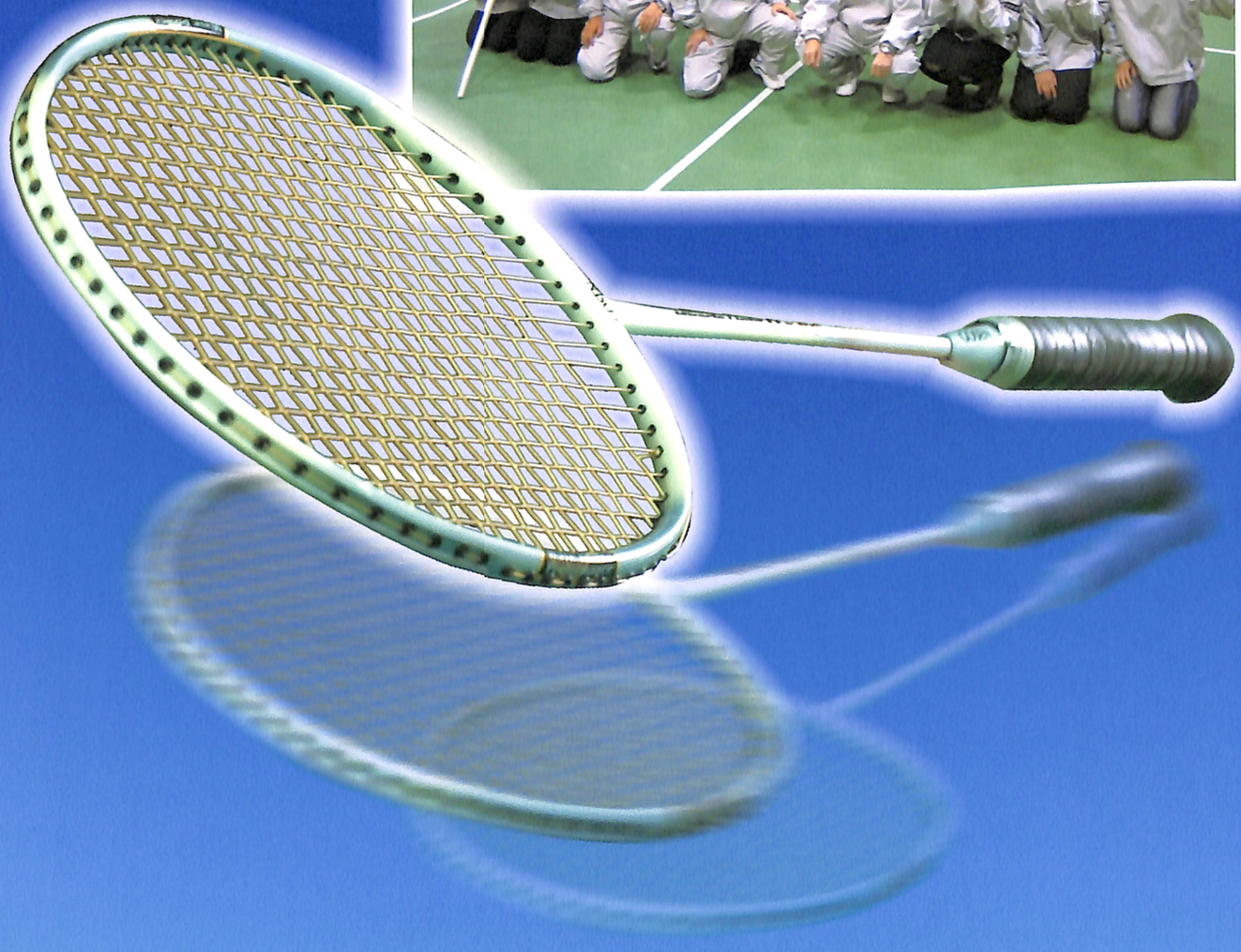
NTT北海道
バドミントン部記念史

夢に挑戦!!





NTT DoCoMo

つぎに、つなぐもの。

空の大きさ、風の透明さ、大地の寛容さ。

北海道でなければ、感じることができないものがある。

この広いどこかで、今日も誰かとつながること。そのよろこびを、いつまでも…。

わたしたちドコモ北海道は、広大な大地である北海道において

新しいライフスタイル、ビジネススタイルを通じて、

土地柄に適した環境にやさしいサービスを提案してまいります。

いのちの森を、母なる大地を、あなたのよろこびを、つぎの世代へつないでいくために。

使用済みケータイの“100%リサイクル化”へ

地球環境保護のため、ご不要になった携帯電話、電池等を回収し、100%リサイクルしております。

“eビリング”で限りある資源を守る

紙資源と郵送エネルギーを減らすために、ご請求額等をiモード等でご確認いただける「eビリング」サービスを提供しております。

今年も、ひとりひとりの手で“森づくり”

2001年から「ドコモグリーンドリーム活動」と称して、毎年、当別町・道民の森にて社員ボランティアによる苗木の植樹活動をしております。

発想を変えた“エコケータイ”

環境に配慮したケナフ繊維強化バイオプラスチックを使用したエコケータイ「FOMA N701iECO」を取り扱っております。



●総合お問い合わせ先　各種ご注文受付（DoCoMo インフォメーションセンター）

ドコモの携帯電話、PHSからの場合
（局番なし）151（無料）
※一般電話などからはご利用になれません。

一般電話などからの場合
0120-800-000
※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

受付時間
午前9:00～午後8:00
※番号をよくお確かめの上、おかけください。

●ドコモ北海道のホームページ　http://www.nttdocomo-h.co.jp/

ケータイ・バーコードでアクセス

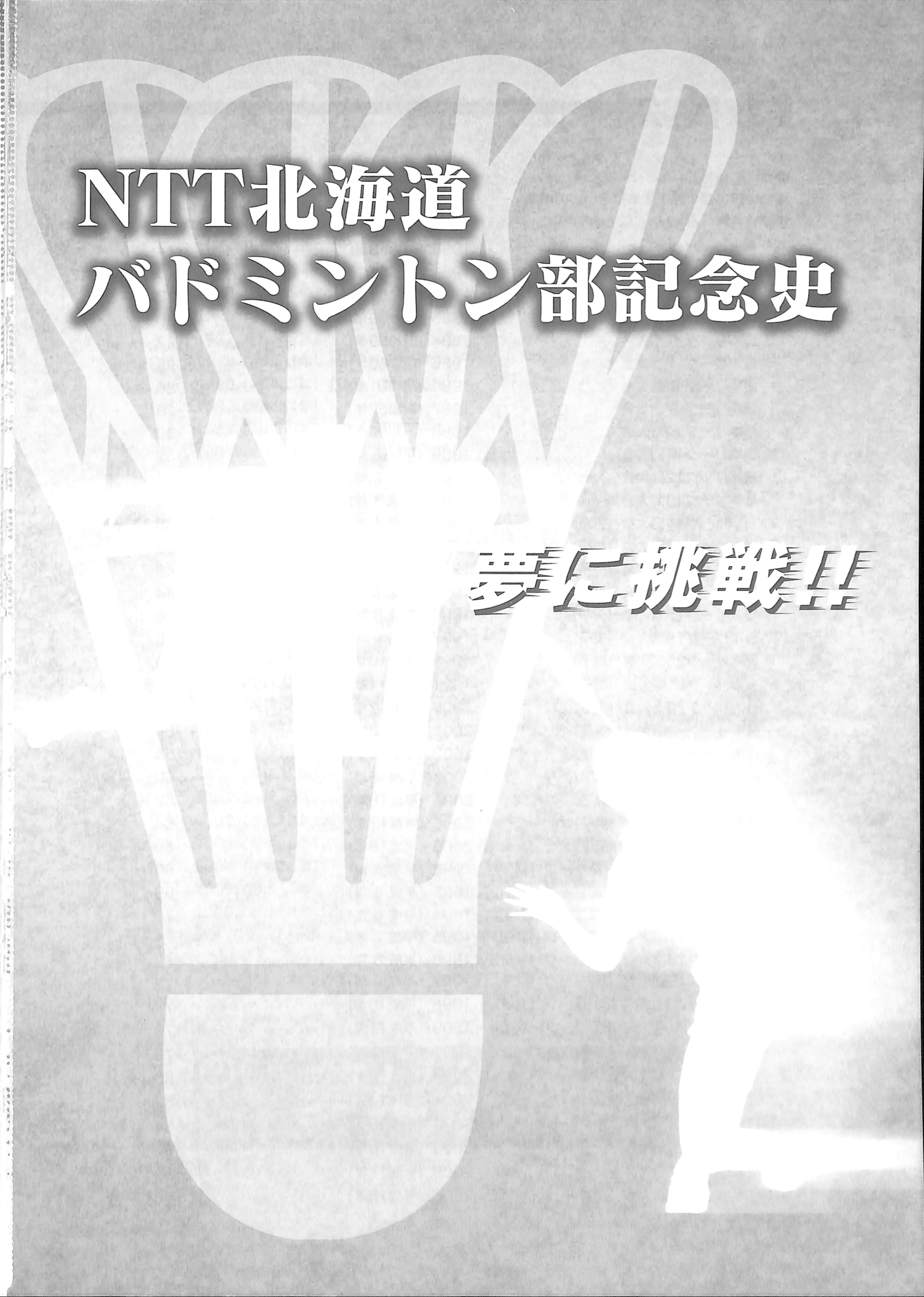
みんなで止めよう温暖化
チーム マイナス6%

もっともっと、地球に、いいケータイへ。

NTT DoCoMo北海道

NTT北海道
バドミントン部記念史

夢に挑戦!!



目次

●発刊に寄せて ……4
●熱い思いがよみがえる　想い出の場面 ……8
●夢に挑戦　日本リーグ27年の歩み ……13

日本リーグ２回大会　1980（昭和55年）……14
日本リーグ３回大会　1981（昭和56年）……16
日本リーグ４回大会　1982（昭和57年）……18
日本リーグ５回大会　1983（昭和58年）……20
日本リーグ６回大会　1984（昭和59年）……22
日本リーグ７回大会　1985（昭和60年）……24
日本リーグ８回大会　1986（昭和61年）……26
日本リーグ９回大会　1987（昭和62年）……28
日本リーグ10回大会　1988（昭和63年）……30
日本リーグ11回大会　1989（平成元年）……32
日本リーグ12回大会　1990（平成２年）……34
日本リーグ13回大会　1991（平成３年）……36
日本リーグ14回大会（男子）　1992（平成４年）……38
日本リーグ15回大会（男子）　1993（平成５年）……40
日本リーグ16回大会（男子）　1994（平成６年）……42
日本リーグ17回大会（男子）　1995（平成７年）……44
日本リーグ18回大会（男子）　1996（平成８年）……46
日本リーグ19回大会（男子）　1997（平成９年）……48
日本リーグ20回大会（男子）　1998（平成10年）……50
日本リーグ21回大会（男子）　1999（平成11年）……52
日本リーグ22回大会（男子）　2000（平成12年）……54
日本リーグ23回大会（男子）　2001（平成13年）……56
日本リーグ24回大会（男子）　2002（平成14年）……58
日本リーグ25回大会（男子）　2003（平成15年）……60
日本リーグ26回大会（男子）　2004（平成16年）……62
日本リーグ27回大会（男子）　2005（平成17年）……64
日本リーグ28回大会（男子）　2006（平成18年）……66
日本リーグ14回大会　2部リーグ（女子）　1992（平成４年）……68
日本リーグ15回大会　2部リーグ（女子）　1993（平成５年）……69
日本リーグ16回大会　2部リーグ（女子）　1994（平成６年）……70
日本リーグ17回大会　2部リーグ（女子）　1995（平成７年）……71
日本リーグ18回大会　2部リーグ（女子）　1996（平成８年）……72
日本リーグ19回大会　2部リーグ（女子）　1997（平成９年）……73
日本リーグ20回大会　2部リーグ（女子）　1998（平成10年）……74
日本リーグ21回大会　2部リーグ（女子）　1999（平成11年）……76
日本リーグ22回大会（女子）　2000（平成12年）……78
日本リーグ23回大会（女子）　2001（平成13年）……80
日本リーグ24回大会（女子）　2002（平成14年）……82
日本リーグ25回大会（女子）　2003（平成15年）……84
日本リーグ26回大会（女子）　2004（平成16年）……86
日本リーグ27回大会（女子）　2005（平成17年）……88
日本リーグ28回大会　2部リーグ（女子）　2006（平成18年）……90

●バドミントン部40年の軌跡 ……93
創部当時の想い出……94
1967（昭和42年）1968（昭和43年）1969（昭和44年）……95
1971（昭和46年）1972（昭和47年）……96
1973（昭和48年）……97
1974（昭和49年）……98
1975（昭和50年）1976（昭和51年）……99
1977（昭和52年）……100
1978（昭和53年）1979（昭和54年）……101
1980（昭和55年）1981（昭和56年）……102
1982（昭和57年）……103
1983（昭和58年）1984（昭和59年）……104
1985（昭和60年）1986（昭和61年）……105
1987（昭和62年）……106
1988（昭和63年）……107
1989（平成元年）……109
1990（平成２年）……110
1991（平成３年）……112
1992（平成４年）……114
1993（平成５年）……116
1994（平成６年）……117
1995（平成７年）……119
1996（平成８年）……120
1997（平成９年）……121
1998（平成10年）……122
1999（平成11年）……123
2000（平成12年）……124
2001（平成13年）……126
2002（平成14年）……127
2003（平成15年）……128
2004（平成16年）……129
2005（平成17年）……130
2006（平成18年）……131
●歴代メンバー ……132
●あとがき ……134





記念史の発刊にあたって

NTT北海道バドミントン部　部長

富居　次郎

NTT 北海道バドミントン部は、「平成 18 年のバドミントン日本リーグを最後に団体戦から撤退する」。

この苦渋の決断により、平成 18 年のシーズンを戦い抜いた今、チームとしての活動は休眠状態に入りました。

昭和 42 年の創部以来、男子は 40 年、女子は 19 年もの間、北海道を代表するトップチームとして活躍し、男子は全道実業団 34 連覇、日本リーグ準優勝、全日本実業団準優勝等、また、女子も全道実業団 13 連覇、全日本実業団第 3 位、日本リーグ参戦等、輝かしい歴史を築いてきました。

また、この間、地域に根ざした活動として全道各地で開催してきたスポーツ教室は 150 回以上実施し、北海道におけるバドミントンの普及に大きく貢献してきました。

しかしながら、活動が休眠状態になった状況では、時が経過するとともに NTT 北海道バドミントン部の輝かしい歴史等が人々の記憶から遠くなることや、貴重な資料等が確認できる今、「40 年にわたるバドミントン部の軌跡を何とか形として残したい」、という関係者各位の強い気持ちが、四囲の人々の賛同を得、ここに記念史として発刊することになりました。

発刊にいたるまでの間、現役、OB の皆さんによる資料収集や資料を提供していただいた関係各位、ご協力いただいた総ての皆さんに感謝するとともに、お礼を申し上げます。

「本当にありがとうございました。」



NTT北海道バドミントン部　OB会会長

古川　孝行

ここに40年間に渡る長い活動の歴史に幕を下ろすことにあたり、OBOGを代表いたしてまして心よりお礼を申上げます。

この間、部を支えご協力を下さいました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

また、これまでの部の活動に対して深いご理解と温かいご声援を送ってくださいました多くのファンの皆様には、重ねて感謝を申し上げます。

歴史に残る部の輝かしい成績は、ご支援、ご声援を下さいました多くの皆様と一緒に築きあげたものと確信しております。

今後は、OBOG会を中心として、これまでの皆様のご厚情に感謝し報いるため、北海道バドミントン競技の普及・発展のため、あらゆる機会を通し協力していく所存でおりますので、何卒よろしくお願いいたします。

長い間本当にありがとうございました。



北海道実業団バドミントン連盟　会長

山田　龍一

NTT北海道バドミントン部のOBとしてではなく、北海道実業団連盟の代表としてご挨拶させていただきます。

貴チームへの思いは語り尽くせない事で一杯です。このような形で日本リーグ等から撤退するとは、夢にも思っていなかったと言うのが、私を含めました多くの皆様の偽ざる正直な気持ちだと思います。

北海道を代表するチームとしての活躍は勿論ですが、それ以外にも当バドミントン連盟への貢献と長年の地道な社会貢献活動であります「NTT北海道バドミントン教室」の開催による全道各地での普及活動は評価できるものであり、この活動のお陰で北海道のジュニア選手の登録数が全国一になった大きな要因であると確信し感謝の気持ちで一杯です。

昨年の日本リーグ札幌大会、試合後のセレモニーでチームからの挨拶があり「チームは力がなく日本リーグから撤退するのではなく、選手の将来を考えた苦しい選択です」とありましたが、まさしくその言葉が今回、日本リーグからの撤退となったチーム状況を凝縮している表現ではないかと、推察しております。

選手諸君は、貴チームで培った財産を糧として、チームスローガンであります「夢に挑戦」をし続けて、今後もご活躍されん事を心より願っております。

また、今年の7月4日から第57回全日本実業団バドミントン選手権大会が札幌で開催されますが、この中で他チームへ移籍して活躍される選手が、多くいると伺っておりますが、元気に札幌大会でお会いできます事を楽しみにしておりますと共に、北海道に残った選手及びOBの皆さんで、地元での開催大会ですので、ぜひ参加していただきますよう主管連盟の会長として切に願っております。

近い将来にNTT北海道が復活していただければと、強く強く願っています。



日本リーグ挑戦への思い出

現NTTドコモ北陸相談役

菅原　光宏

昭和55年2月～昭和57年6月　バドミントン部長

「日本リーグに参戦したい」平山・遠藤の両君が建設部長室でこう切り出した。少し前に伊勢さんからバドミントン部の活動状況は聞いていたし、北海道で敵なしのバドミントン部が日本リーグ参戦の意欲を示していることも薄々聞いていた。「良かろう。責任を持ってオーナーの了解を取り付ける。」と答えたことを思い出す。硬式野球部は都市対抗で後楽園の常連だったが、大昭和製紙に押され気味の頃だ。

スポーツチームの活躍が企業の宣伝活動の中で大きな効果を収めているのは周知のこと。マラソンなど長時間テレビで放送する番組では、トップグループで走る選手が所属する企業や団体が否が応でも目に入る。

しかし、それ以上に地域のスポーツ文化向上に資するものだということに、意外と気がついていない場合が多い。スポーツ好きの子供たちや学生・生徒に希望や夢を与えることが出来る。ひいてはこのことがそのスポーツを応援している企業のポテンシャルを高める。NTTのような当時は独占企業が地域還元として、スポーツ文化の向上に手を染めるのは当然だと思っていた。

信澤オーナーはすんなりと了承してくれた。CI活動などで電電北海道にもっと活力をつけようとの考えをお持ちの方だから、「北海道内では常勝チーム、しかし日本リーグに参戦することは、北海道内のバドミントン愛好者にとって大きなプラスです。」との説明に、一言で賛意を示され、さらに「初めは遠征費など財政的にも大変だろうが、将来は野球部の後援会のような、後援組織を作りなさい。」と後押しをしていただけた。部員たちの喜びは大きかった。もちろんリーグ参戦資格は、勝って手にしなければならない。練習に次ぐ練習で太目の体格の木村選手が汗ビッショリ、痩せ型の遠藤選手がゼイゼイしているのを見て、「こいつらスゴイ」と思ったものだ。10月京都でリーグ参戦権をかけて3チームの予選リーグ、対戦相手のチーム名など忘れてしまったが、下馬評では最も評価が低かった我チームが、全勝で日本リーグ参戦の切符を手にした。

平山監督（当時）は「部長の誕生日プレゼントにするから必ず勝て」と選手たちの尻をたたいたのだと、後で報告をもらい私も自分のことのように嬉しかった。

選手たちの熱意が勝ち取った快挙である。当時電電公社という企業がおかれていた立場は、近畿事件なる不祥事で社会的には首をすくめていた状況で、日本リーグ参戦など夢だと諦め半分だった。

一年目は勝ち点なしで最下位だったが、あと少しで参戦一年目の一勝というところで、佐藤選手のアキレス腱が断裂する鈍い「ブツッ」という音が、日本リーグ初戦の代々木第２体育館内に響いた。佐藤選手を札幌逓信病院まで皆で搬送し、それぞれが帰路についたのは夜半を過ぎていただろうか…。

思い起こすと決して平坦ではなかった。私にとってスポーツ振興という活動に携わる各界の方々に出会えたし、米山さんや木村さんの結婚披露宴で仲人をさせていただいたり、私の人生にとってプラスになったし、出会いから得た多くの感動は、今でも新鮮である。

2006 年の晩秋、約 40 年の歴史を持つ北海道バドミントン界の雄・NTT 北海道バドミントン部の事実上の廃部が決まったと聞いた。日本リーグからも当然撤退。企業が経営状況から色々な文化活動を縮小することは良くあることだが、「情けない」の一語に尽きる。

NTT の東西分割と同時に都市対抗野球に九州や北海道という NTT の地域名称が消えた。同一企業の各地域に強い野球チームがある。素晴らしいことだと思っていた。野球以外のスポーツだって地域ごとにあったって問題ないとすら思う。

そのスポーツチームが各地域で、それぞれスポーツ文化の向上に貢献する。これは企業の社会的責任だと考える。ドコモに転籍してからはフォーミュラ日本にチームを 10 年がかりで送り出し、経営上の理由で解散する NTT 関西のラグビーチームをドコモ関西に引き取った。企業の社会貢献はやる気のある人たちによって支えられている。そんな企業文化が日本には十分根付いていないような気がする。もう私は第一線を退いたが、企業の CSR 発揮の原点にそのような企業文化が根付くよう、機会を捉えてやる気ある人たちの後押しを続けたい。ありがとう NTT 北海道バドミントン部の皆さんとバドミントン部を支えてくれた人達。







昭和60年　日本リーグAクラス入り



平成2年　全道実業団大会アベック初優勝



平成3年　全日本実業団準優勝

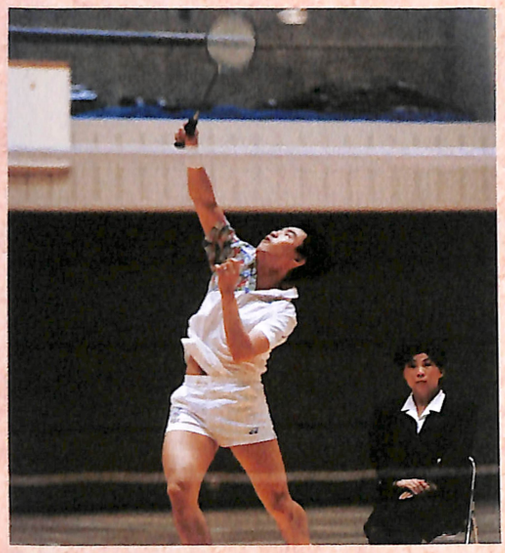


小笠原・佐藤組



平成4年　全道実業団アベック優勝報告会

熱い思いがよみがえる　想い出の場面



伊藤選手



スポーツニッポン新聞提供

吉岡・水澤組



米山・伊藤組



平成7年　全道実業団大会優勝　男子25連覇



村井・古川組



武田・高橋組

夢に挑戦

日本リーグ27年の歩み



日本リーグ 第2回大会

1980(昭和55)年

〈 メンバー 〉


【部長】 菅原　光宏


【監督】 平山　三城


【コーチ兼選手】 赤塚　正三


【マネージャー兼選手】 木村　敏男


【選手】 遠藤　好男


高木　勝弘


佐藤　義孝


平沢　徹


米山　孝二


篠尾　幸孝


高田　浩二

○第2回大会(昭和55年)

チーム名	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	全日本学生	カワサキ	電電北海道	勝点	取得点 A	喪失点 B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
電電東京		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	5	12	3	0.800	1
ヨネックス	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	4	12	3	0.800	2
高岡市役所	● 1－2	● 0－3		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	3	9	6	0.600	3
全日本学生	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	2	4	11	0.267	4
カワサキ	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	5	10	0.333	5
電電北海道	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		0	3	12	0.200	6

○ 男子の部（第1日）

会場	代々木第2体育館			入場者数	1,000
成績	カワサキ 1勝 0敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	電電北海道 0勝 1敗
複	銭谷欽治 角田重男	2	15－9 15－12 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	根岸　淳	2	15－5 5－15 9－13	1	佐藤義孝 キケン
複	今井茂満 斉藤敏行	0	3－15 12－15 －	2	高木勝弘 米山孝二

○ 男子の部（第4日）

会場	刈谷市体育館			入場者数	1,500
成績	全日本学生 1勝 2敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	電電北海道 0勝 2敗
複	上原　明 西山博司	2	15－13 15－13 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	坂井茂則	2	15－5 15－11 －	0	平沢　徹
複	宮本幸弘 久郷俊明	0	8－15 11－15 －	2	高木勝弘 米山孝二

○ 男子の部（第5日）

会場	札幌中島体育センター			入場者数	3,700
成績	ヨネックス 3勝 1敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	電電北海道 0勝 3敗
複	梅野尾昌一 飯野佳孝	2	15－8 15－9 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	長谷川博幸	2	15－3 15－2 －	0	平沢　徹
複	林田草樹 辻　敏弘	1	6－15 15－10 7－15	2	高木勝弘 米山孝二

○ 男子の部（第6日）

会場	群馬県営スポーツセンター			入場者数	1,600
成績	高岡市役所 2勝 2敗	3	単1 － 0 複2 － 0	0	電電北海道 0勝 4敗
複	今泉　勉 米沢和男	2	15－0 18－13 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	米　正隆	2	15－1 15－5 －	0	平沢　徹
複	関村順治 牧野光男	2	15－3 15－12 －	0	高木勝弘 米山孝二

○ 男子の部（最終日）

会場	代々木第2体育館			入場者数	2,200
成績	電電東京 5勝 0敗	3	単1 － 0 複2 － 0	0	電電北海道 0勝 5敗
複	池田信孝 尾崎幹雄	2	15－7 15－11 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	土田証雄	2	15－6 15－10 －	0	平沢　徹
複	田所光男 宮森庄吉	2	15－12 15－7 －	0	高木勝弘 米山孝二

日本リーグ 第2回大会

1980（昭和55）年

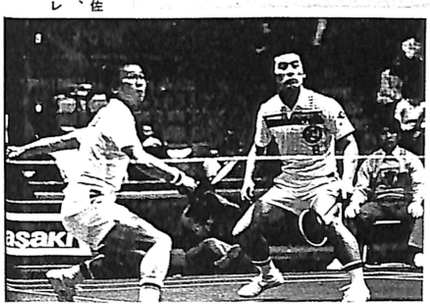
［11・29］北海道新聞

電電北海道及ばず

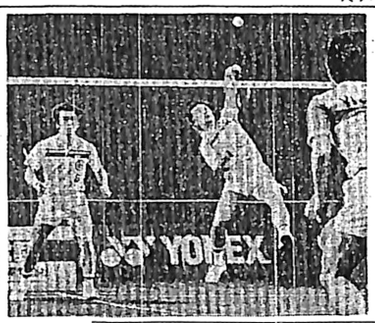
男子 ヨネックス早くも4勝



〈カワサキ2対1電電北海道〉電電北海道のシングルスに登場した佐藤義孝は、ファイナルゲームの熱戦、13－9とリードしながら左足のアキレス腱を負傷、試合続行不可能で棄権



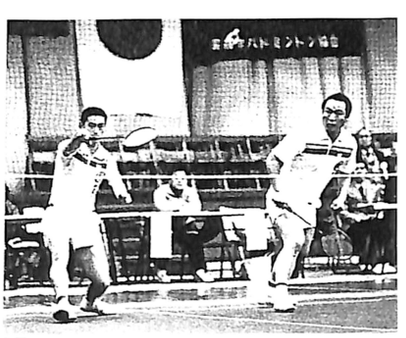
〈カワサキ2対1電電北海道〉2敗して負けは決ったものの、第2ダブルスに登場した電電の高木（左）／米山組は、今井／斎藤のベテランペアを2－0で降す



〈ヨネックス2－1電電北海道〉第二ダブルスで勝った電電北海道・米山のスマッシュ。左は坂本

［12・29］北海タイムス

大健闘、札幌のファン酔う



▶電電北海道の第1ダブルス・木村／遠藤組は健闘したがこの試合でも敗れ去った



「いいゲームをお見せできて本当によかった」―平山監督の口元は思わず緩んだ

いいゲームに満足

電電 平山監督

日本リーグ新加入の電電北海道が、世界のヨネックス相手に燃えた。前後のレセプションでヨネックスに格下の電電を「3対0で下す」と宣言されたのに発奮。過去二試合をオールストレート負けしたヨネックスから、初めてポイントを奪った。

「なんとか声援にはこたえられました。最後のダブルス（米山・高木組）を取って、勝ったような雰囲気さえしてます」と思わず表情を緩めた平山監督。

もともと予想だにしなかった日本リーグ入りだった。「この初めてのイスを決める予選リーグではほとんど評価されていなかったんですから」と、平山監督は自ちょう気味に笑ってそえた。

しかし初日のカワサキ戦では瀬戸際まで追い詰められる大殊勲。マッチポイントを取る寸前に、佐藤がアキレスケンを切断する思わぬアクシデントで勝利は逃したが、各選手たちに大きな自信を持った。

この日のヨネックス戦も選手たちには、われわれの不利は否めないが、勝つ意気込みでいた。職場からかけつけた約二百人の大声援にも支えられて、ヨネックスを圧倒する場面さえあったトップダブルスの遠藤・木村、シングルスの平沢ともに、全日本チャンピオン相手に健闘したが及ばなかった。しかしこれまで2戦2勝と絶好調の米山・高木組が奮起した敗戦が決まっても席を立つ観客はいない1ゲームを落としたものの"完全優勝"をねらうヨネックスから初めて勝ちゲームをつかんだナショナル選手で固めるヨネックスの壁はやはり厚かったが、選手たちは満足な表情。シングルスで完敗した平沢が「全日本チャンピオンだけあって、フットワークが全然違います。勉強になりました」とさわやかに語れば、松葉づえの佐藤も「負けたがみんな僕の分もがんばってくれたので言うことなしです」

勝敗のことより上に、平山監督らが気にしていたファンの目にはどう映ったろうか「われわれは、もうひとふんばりなんですよ。この日のゲームを見てかなりバドミントンファンが増えたんじゃないかな」と言う平山監督。感触十分の表情だった。



ヨネックスに一矢報いた高木／米山ペア

第5週

（12月29日）

〈札幌・中島体育センター〉

〈男子〉

ヨネックス　2－1　電電北海道

梅野尾　昌一　2（15－8）
　　　（15－9）
假野佳孝　0　遠藤好男

長谷川　博幸　2（15－3）
　　　（15－2）
林田幸樹　辻　敏弘　1　0平沢　撤

（6－15）
（15－10）
（7－15）
2　高木勝弘　米山孝二

地元・札幌開催で電電北海道が闘志あるプレーを披露したが、優勝候補の一角、ヨネックスのベスト・オーダーの第2ダブルスを破るだけにとどまった。電電北海道の第2ダブルス・米山／高木組は、これで3試合に全て白星。

「他会場に負けるな！」と、北海道協会が観客動員に力を入れ、今リーグ最高の3700人を集めた。

■追悼

この記事を書かれた石田記者（当時タイムス）は、その後、読売新聞北海道の運動担当記者として活躍された。主に、アマチュアスポーツを担当され、ラジオ番組でのスポーツコーナーにも携わるなど幅広く活躍されていたが、2006年12月末に50歳の若さで突然永眠された。

アマチュアスポーツをこよなく愛され、アマチュアスポーツを多く取り上げていただき、北海道のスポーツ振興発展に大きく貢献されていた方を突然失ったことは、誠に残念であり断腸の思いで一杯です。多くのアマチュアスポーツと選手等を取り上げていただいたことに感謝し、安らかなご冥福をお祈りしたい。

何回か、プライベートでアマチュアスポーツ等について、熱く語り合ったことと温和な人柄が懐かしく思い出される。

日本リーグ 第3回大会

1981（昭和56）年

〈 メンバー 〉


【部長】 菅原　光宏


【監督】 平山　三城


【コーチ兼選手】 赤塚　正三


【マネージャー兼選手】 木村　敏男


【選手】 遠藤　好男


高木　勝弘


佐藤　義孝


平沢　徹


米山　孝二


篠尾　幸孝


高田　浩二

○第3回大会（昭和56年）

チーム名	電電東京	全日体大	高岡市役所	カワサキ	電電北海道	ヨネックス	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
電電東京		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	● 1－2	4	11	4	0.733	1
全日体大	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	8	7	0.533	2
高岡市役所	● 0－3	○ 2－1		● 0－3	○ 2－1	○ 2－1	3	6	9	0.400	3
カワサキ	● 1－2	● 1－2	○ 3－0		● 1－2	○ 2－1	2	8	7	0.533	4
電電北海道	● 0－3	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		○ 2－1	2	6	9	0.400	5
ヨネックス	○ 2－1	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		1	6	9	0.400	6

○ 男子の部（第1日）

会場	京都市立体育館			入場者数	1,000
成績	電電北海道 1勝 0敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	カワサキ 0勝 1敗
複	佐藤義孝 平沢　徹	0	9－15 6－15 －	2	斉藤敏行 中井基夫
単	遠藤好男	2	15－12 15－7 －	0	根岸　淳
複	木村敏男 米山孝二	2	15－5 15－1 －	0	角田重男 藤波哲治

○ 男子の部（第2日）

会場	上尾運動公園体育館			入場者数	1,500
成績	電電北海道 2勝 0敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	ヨネックス 0勝 2敗
複	木村敏男 遠藤好男	0	7－15 15－18 －	2	辻　敏弘 長谷川博幸
単	佐藤義孝	2	15－10 15－11 －	0	林田草樹
複	高木勝弘 米山孝二	2	15－10 15－13 －	0	栂野尾昌一 山本　浩

○ 男子の部（第3日）

会場	札幌市中島体育センター			入場者数	2,500
成績	高岡市役所 2勝 1敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	電電北海道 2勝 1敗
複	今泉　勉 米沢和男	2	15－6 15－8 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	米　正隆	2	15－3 15－5 －	0	佐藤義孝
複	関村順治 牧野光男	0	8－15 2－15 －	2	高木勝弘 米山孝二

○ 男子の部（第3日）

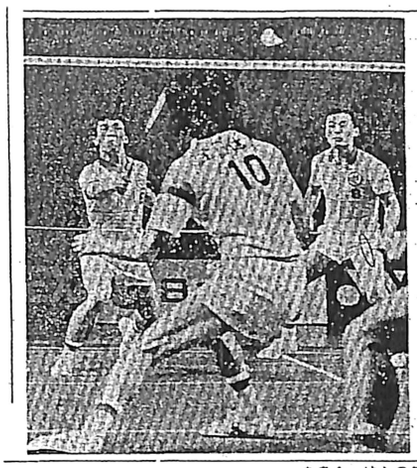
会場	札幌市中島体育センター			入場者数	2,500
成績	全日体大 2勝 1敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	電電北海道 2勝 2敗
複	井上哲章 大島正志	2	15－9 15－13 －	0	木村敏男 遠藤好男
単	権藤浩二	2	15－1 15－8 －	0	佐藤義孝
複	西村金次 北橋　進	0	6－15 4－15 －	2	高木勝弘 米山孝二

○ 男子の部（第4日）

会場	山形県体育館			入場者数	2,500
成績	電電東京 3勝 0敗	3	単1 － 0 複2 － 0	0	電電北海道 2勝 3敗
複	池田信孝 尾崎幹雄	2	15－9 15－12 －	0	高木勝弘 米山孝二
単	土田証雄	2	15－4 15－6 －	0	遠藤好男
複	田所光男 宮森庄吉	2	15－7 15－4 －	0	佐藤義孝 平沢　徹

日本リーグ 第3回大会

1981（昭和56）年



電電（北海道）善戦及ばず

優勝戦線から大きく後退

［12・7］北海道新聞

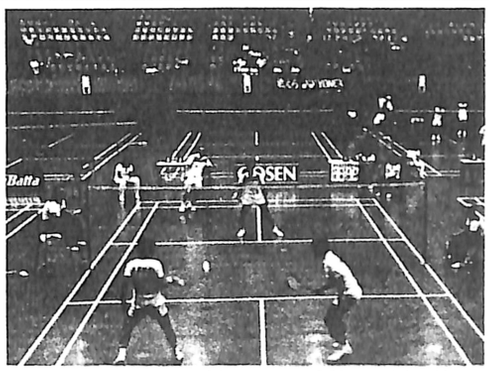


北海電電時報　第646号　昭和56年10月15日（木曜日）毎月1日・15日発行

電電北海道バドミントン部 二年連続〝日本リーグ〟入り

赤塚・木村組 個人ダブルスで初優勝

去る九月十日から六日間、真藤総裁が大会会長になっている秩父宮妃賜杯・労働大臣杯争奪第三一回全日本実業団バドミントン選手権大会が愛知県体育館、名古屋市体育館、知多市体育館、一宮市産業体育館の四会場で華やかに繰り広げられた。この大会に我が電電北海道バドミントン部が出場し、団体戦では五位に食い込み去年に続いて日本のトップグループ六チームで構成する〝日本リーグ〟入りした。また、個人戦のダブルスでは赤塚・木村組が初優勝を収めた。



男子30歳ダブルスで優勝した赤塚・木村組の試合模様

電電北海道バドミントン部の団体戦は、四回戦で群馬県代表の富士重工と対戦。3対2で勝ったが、思わぬ苦戦を強いられた。

続く五回戦、静岡県代表の富士フィルムと対戦して3対0とストレート勝ちを収め、意気上がる電電北海道だったが、準々決勝では東京都代表の電電東京と対戦し、0対3で敗れはしたものの五位を保持して、二年連続〝日本リーグ〟入りの金願を果たした。

一方、個人戦でも電電北海道はその強さを見せつけたが、そのなかでも男子三〇歳ダブルスに出場した赤塚・木村組が圧倒的な強さで決勝戦に駒を進めた。

決勝戦では、この種目で三連勝をねらう横浜市役所の渡辺・金子組と対戦。一セット目は落としたが、二、三セットとも安定したスマッシュ力にものをいわせ、見事初優勝を飾った。

なお〝日本リーグ〟の札幌大会は十二月六日、札幌中島体育センターで予定されている。

こぼれ話 ■日本リーグ当初のおもしろいルール等の紹介

○日本リーグへの試合に関わる経費は、全て日本リーグ運営委員会から支給されていた。（チームは参加料と登録料のみ納付）
＊我がチームが参戦することを想定外であったようである。翌年度から見直しされ、参加チームが経費負担に変更された。
○各チームで、選手の組み合わせによるダブルスのランキング表を提出し、お互いに事前にチェックし合いランキングを確定する。決定したチームランキング表を元に上位ランキングのダブルスが第一ダブルスに出場する。（このランキング表が、色んな組み合わせも想定して決めるので大変な作業であった）
○試合のそれぞれのゲーム中（一回のみ）に、監督が作戦タイムをお互いに取ることができる。（取るタイミングが難しかったが、監督が目立つ場面も多かった）
○大会は、前半戦と後半戦に別れていた。前半戦は１２月まで、後半戦は１月からの再スタートであった。（我がチームとしては、１月に再会される試合へは、天候との戦いもあり大変でもあった）
○各試合開始前に、必ず監督が観衆にチームを代表して挨拶と選手紹介をすることになっていた。（受けを狙ったトークなどや選手名を間違った監督もいた）

日本リーグ 第4回大会

1982(昭和57)年

〈 メンバー 〉

【部長】



中道　雅克

【監督兼選手】



木村　敏男

【コーチ兼選手】



遠藤　好男

【マネージャー兼選手】



米山　孝二

【選手】



佐藤　義孝



平沢　徹



篠尾　幸孝



久郷　俊明



千葉　昌弘



高田　浩二

○第4回大会(昭和57年)

チーム名	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	全日体大	カワサキ	電電北海道	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
電電東京		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	5	11	4	0.733	1
ヨネックス	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	4	11	4	0.733	2
高岡市役所	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	8	7	0.533	3
全日体大	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	2	7	8	0.467	4
カワサキ	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	5	10	0.333	5
電電北海道	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		0	3	12	0.200	6

○ 男子の部（第1日）

会場	大阪府立体育館		入場者数	3,000
成績	カワサキ 1勝 0敗	2 { 単1 — 0 / 複1 — 1 } 1	電電北海道 0勝 1敗	
複	中井基夫 根岸　淳	2 { 15－3 / 18－13 } 0	遠藤好男 米山孝二	
単	楠美誠悦	2 { 15－9 / 15－11 } 0	久郷俊明	
複	銭谷欽治 別府雅典	0 { 9－15 / 16－18 } 2	佐藤義孝 平沢　徹	

○ 男子の部（第2日）

会場	帯広市総合体育館		入場者数	1,700
成績	電電東京 2勝 0敗	2 { 単1 — 0 / 複1 — 1 } 1	電電北海道 0勝 2敗	
複	池田信孝 尾崎幹雄	0 { 17－18 / 12－15 } 2	遠藤好男 米山孝二	
単	土田証雄	2 { 15－9 / 15－7 } 0	千葉昌弘	
複	田所光男 宮森庄吉	2 { 15－6 / 15－7 } 0	佐藤義孝 平沢　徹	

○ 男子の部（第3日）

会場	高岡市民体育館		入場者数	3,800
成績	高岡市役所 2勝 1敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0	電電北海道 0勝 3敗	
複	今泉　勉 米澤和男	2 { 15－3 / 15－13 } 0	遠藤好男 米山孝二	
単	米　正隆	2 { 18－14 / 18－16 } 0	千葉昌弘	
複	関村順治 牧野光男	2 { 15－8 / 18－14 } 0	佐藤義孝 平沢　徹	

○ 男子の部（第4日）

会場	福井県営体育館		入場者数	2,000
成績	ヨネックス 3勝 1敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0	電電北海道 0勝 4敗	
複	梶野尾昌一 辻　敏弘	2 { 15－6 / 15－11 } 0	遠藤好男 米山孝二	
単	長谷川博幸	2 { 15－1 / 15－8 } 0	千葉昌弘	
複	山本　浩 宮本幸弘	2 { 15－3 / 15－9 } 0	佐藤義孝 平沢　徹	

○ 男子の部（最終日）

会場	八王子市民体育館		入場者数	1,800
成績	全日体大 2勝 3敗	2 { 単1 — 0 / 複1 — 1 } 1	電電北海道 0勝 5敗	
複	井上哲章 大正正志	0 { 11－15 / 8－15 } 2	遠藤好男 米山孝二	
単	坂井茂則	2 { 15－0 / 15－3 } 0	久郷俊明	
複	権藤浩二 石場隆雄	2 { 15－3 / 10－15 / 15－10 } 1	佐藤義孝 平沢　徹	

日本リーグ 第4回大会

1982（昭和57）年

[3・15]

北海電電時報　第656号　昭和57年3月15日（月曜日）毎月1日・15日発行

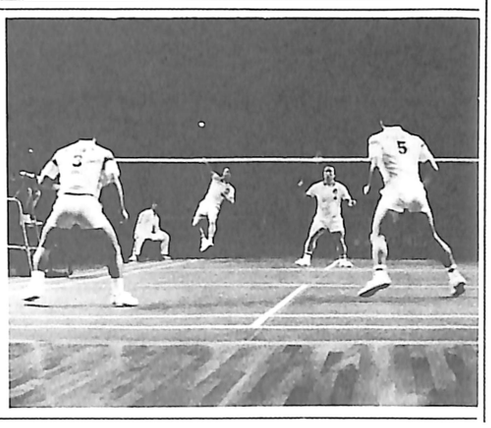
電電北海道バドミントン部
平山前監督ご苦労さま
木村新監督に交代

電電北海道バドミントン部の監督がこの程、平山前監督から木村新監督へとバトンタッチした。

平山前監督は、五十二年三月に就任して以来、道内選手権大会で完全優勝を収め、さらに五十五年から二年連続日本リーグ入りを果たし、電電北海道バドミントン部の名をとどろかせたほか、町の電話局づくりの一環として各地でバドミントン教室を開き、地域に密着した活動も展開してきた。

また、木村新監督は選手時代、守備力では天性の〝かん〟のよさですばらしいレシーブを見せるチーム貢献度ナンバーワンのダブルスプレーヤーだっただけに、今後、同部の活躍がさらに期待されている。

なお、五十七年の日本リーグ上位を目指し、ことしは二人の有望新人を迎えることになっている。



監督就任に当たって

木村　敏男

平山前監督のあとを引き継ぎ、監督という大役を引き受けましたが、新旧交代で部員の若返りを図ったチーム状況を考えれば、ことしは厳しいシーズンになると思います。

しかし、伊勢総監督（北見部）のもと、ことしからコーチ兼任として頑張る大黒柱・遠藤選手や日本リーグ以来自信をつけ、新主将として張り切っている佐藤選手、そして米山選手らを中心とする若手に期待し、去年までの成績に甘んじることなくチーム一丸となって、より以上の成績が残せるように頑張りたいと思います。

また、ことしからは後援会も作ってもらい、今までにも増して皆様がたの期待を担うことになると思いますが、その期待にこたえるように選手一同、一生懸命練習に励んでいますので、今まで同様、皆様がたのご理解と温かいご声援をことしもよろしくお願いします。

電電北海道バドミントン部の
後援会が発足する

通信局でこの程、橋爪会長（副局長）をはじめとする電電北海道バドミントン部後援会が発足した。

同部は、昭和四十年五月に職員の親ぼくを目的として創部して以来、各大会で優勝し、今では日本一を目指すチームにまで成長しており、こうした選手らを励ますとともに同部の発展を願って発足したもの。

会員は、北海道管内の公社職員および本会の目的に賛同する有志のかたがたの加入を期待している。

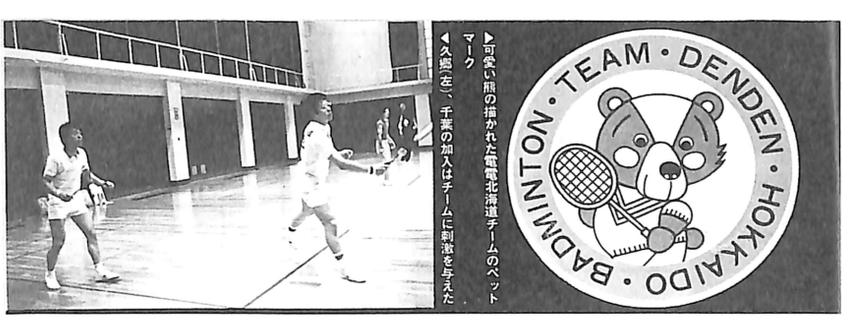
退任あいさつ

平山　三城

私が電電北海道バドミントン部の監督として五年間、すばらしい選手たちに恵まれて精いっぱいやれましたことは、皆様のご支援があったからと思っています。本当にありがとうございました。

これから木村新監督の下でさらに強いチームを作り、皆様の期待にこたえることはもちろんですが、道民の〝アイドルチーム〟となれるよう祈っています。

これからもさらに、皆様のご支援をお願いします。



▶可愛い熊の描かれた電電北海道チームのペットマーク
◀久嶋（左）、千葉の加入はチームに刺激を与えた

札幌体育館がオープン

去る九月十六日、札幌体育館＝南区南三六西一〇＝がオープンした。

これは、スポーツを通じ公社職員と家族の健康増進を図るために昭和五十六年四月から着工していたもので、体育室、武道場、トレーニングルームのほか、ミーティングルーム、幼児体育室なども完備されている。

当日は、オープンを祝い高橋通信局長と河本藻岩下連合町内会会長がそろってテープカット＝写真左＝。引き続き、電電北海道バドミントン部と電電東京バドミントン部の交歓試合が行われた。

〈利用方法等〉

▽運営時間＝午前九時～午後九時

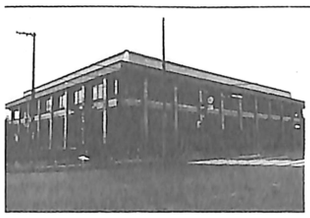
▽申し込み時期＝利用希望日の一カ月前から四日前まで

▽申し込み先＝体育館管理人事務室、電話〇一一―五八四―〇六二六番

▽利用＝利用当日、管理人に許可書を提出

なお、職員以外のかたの利用については、北海道電気通信局職員部厚生課、電話〇一一―二一一―四一九〇番へ連絡のこと。

北海道電電時報
昭和57年10月1日





▲札幌中央電報局庶務課で働く米山選手。左の庶務課長、江口氏は部の副間でもある



▲地崎商事女子チームも練習に来ていたので遠藤　米山組が相手を務めた

電電東京2―1電電北海道



◀地元出身の新人　千葉（電電北海道）が土田を相手に大健闘　敗れはしたが観衆の拍手を浴びた



▶帯広大会は、この遠藤（手前）米山（電電北海道）の活躍に尽きる　池田　尾崎を相手に好ゲームを展開　18―17、15―12で見事な勝利を飾った

日本リーグ 第5回大会

1983(昭和58)年

〈 メンバー 〉


【部長】 中道　雅克


【監督】 木村　敏男


【コーチ兼選手】 遠藤　好男


【マネージャー兼選手】 篠尾　幸孝


【選手】 佐藤　義孝


平沢　徹


米山　孝二


久郷　俊明


千葉　昌弘


中島　俊也


高田　浩二

○第5回大会(昭和58年)

チーム名	ヨネックス	電電東京	高岡市役所	電電北海道	カワサキ	電電近畿	勝点	取得点 A	喪失点 B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
ヨネックス		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	5	10	5	0.667	1
電電東京	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	4	13	2	0.867	2
高岡市役所	● 1－2	● 0－3		○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	3	8	7	0.533	3
電電北海道	● 1－2	● 0－3	● 0－3		○ 3－0	○ 3－0	2	7	8	0.467	4
カワサキ	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 0－3		○ 2－1	1	4	11	0.267	5
電電近畿	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2		0	3	12	0.200	6

○ 男子の部（第1日）

会場	大阪市立東淀川体育館		入場者数	1,500
成績	電電北海道 1勝 0敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0	電電近畿 0勝 1敗	
複	遠藤好男 米山孝二	2 { 15－9 / 15－7 / — } 0	冨田章夫 吉兼保	
単	千葉昌広	2 { 15－1 / 17－15 / — } 0	保科正浩	
複	佐藤義孝 平沢徹	2 { 18－15 / 15－12 / — } 0	松重恵三 守安達二	

○ 男子の部（第2日）

会場	札幌中島体育センター別館		入場者数	2,000
成績	ヨネックス 2勝 0敗	2 { 単0 — 1 / 複2 — 0 } 1	電電北海道 1勝 1敗	
複	長谷川博幸 宮本幸弘	2 { 18－15 / 14－17 / 15－10 } 1	遠藤好男 米山孝二	
単	千徳勝利	0 { 8－15 / 9－15 / — } 2	千葉昌広	
複	梅野尾昌一 丹藤勇一	2 { 15－9 / 15－11 / — } 0	佐藤義孝 平沢徹	

○ 男子の部（第3日）

会場	浜松市体育館		入場者数	1,200
成績	電電東京 3勝 0敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0	電電北海道 1勝 2敗	
複	土田証雄 宮森庄吉	2 { 15－2 / 15－4 / — } 0	遠藤好男 米山孝二	
単	西山博司	2 { 15－3 / 15－5 / — } 0	中島俊也	
複	池田信孝 尾崎幹雄	2 { 17－15 / 15－7 / — } 0	久郷俊明 千葉昌広	

○ 男子の部（第4日）

会場	新潟市体育館		入場者数	1,700
成績	高岡市役所 3勝 1敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0	電電北海道 1勝 3敗	
複	今泉勉 米澤和男	2 { 15－6 / 17－14 / — } 0	遠藤好男 米山孝二	
単	米正隆	2 { 15－5 / 15－2 / — } 0	千葉昌広	
複	関村順治 牧野光男	2 { 12－15 / 15－5 / 18－13 } 1	佐藤義孝 平沢徹	

○ 男子の部（最終日）

会場	代々木第2体育館		入場者数	1,800
成績	電電北海道 2勝 3敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0	カワサキ 1勝 4敗	
複	遠藤好男 米山孝二	2 { 17－14 / 18－15 / — } 0	銭谷欽治 角田重男	
単	千葉昌広	2 { 15－6 / 15－12 / — } 0	楠美誠悦	
複	佐藤義孝 平沢徹	2 { 10－15 / 15－3 / 15－7 } 1	根岸淳 別府雅典	

日本リーグ 第5回大会

1983(昭和58)年

浜松大会 11月20日 静岡県浜松市体育館

(男子)久郷／千葉、池田組に善戦

電電東京	3－0		電電北海道
土田	(15－4)		遠藤
宮森2	(15－4)	0	米山
西山博司2	(15－5)	0	中島俊也
池田	(15－7)	0	久郷
尾崎2	(17－15)	0	千葉

主客東京に対して北海道がどこまで頑張るか期待された電電決戦だったが、実力の差はいかんともし難く簡単に勝負はついた。

第1ダブルス宮森の豪快なスマッシュ、土田の安定したレシーブにまったく手も足も出ない遠藤／米山組は第1ゲームの14－0からやっと1本を奪ったほどで、第2ゲームも9－0とリードした土田組の圧勝に終わった。

シングルスは新人中島を起用した北海道だったが、エース西山の前には手の打ちようがなく、サービスオーバーを奪うのがやっとで得点にはならない。西山は楽に試合を進め、まったく危なげないプレーで、時折決めるスマッシュもノータッチで見事に決まって段違いの強さを見せた。

しかし、第2ダブルスに入って北海道も意地を見せた。第1ゲーム7－11から一気に逆転して12－11、14－13とゲームポイントを奪って池田組をおびやかした。しかし、セッティングに追いついた後はベテラン勢のもので、北海道の善戦もここまで。第2ゲームは9－0とリードした池田組が楽な試合運びで楽勝。結局、どの試合も力の差を見せつけた東京の圧勝に終わった。



久郷(左)／千葉(電電北海道)

電電北海道、チーム最高の4位確保

電電北海道	3－0		カワサキ
遠藤	(17－14)		銭谷
米山2	(18－15)	0	角田
千葉昌弘2	(15－6)	0	楠葉誠悦
佐藤2	(10－15 15－3 15－7)	1	根岸
平沢		別府	

4位争いだったが、3試合とも接戦ながら電電北海道が勝った。

ダブルスに起用された銭谷はこの試合勝負と全力をぶつけたが、レシーブの堅い遠藤、サウスポーから鋭いクロスを決める米山の絶妙なコンビに苦戦。14－12と銭谷組リードするも、セッティングに追いついた遠藤組が一気に抜き去り第1ゲームを先取。



4位の座をかけて対戦した電電北海道―カワサキ。北海道のトップダブルス遠藤(右)／米山は銭谷／角田と対戦。ガッツむきだしに2ゲームともセッティングという熱戦を展開、ストレート勝ちでまず1ポイントをあげた



千葉が楠美に勝った時点で北海道の4位は決まったが、佐藤(左)／平沢は根岸／別府に2－1で逆転勝ちをおさめ、手をゆるめなかった



電電北海道　3－0　カワサキ

[1・1]

クラブのリーダー大いに語る
一九八三年の目標

若手中心にファイトあるチーム作り



電電北海道バドミントン部監督　木村敏男

道内では、無敵を誇っている我が電電北海道バドミントン部ですが、全国大会では今一歩、力不足で皆さんの期待にこたえられなくて申しわけなく思っています。

昨年は、若手中心のチーム作りを目標としてスタートしましたが、けっきょくベテラン・遠藤選手中心の結果になってしまいました。しかし、後半にやっと社会人のプレーになれたのか、久郷、千葉の両新人選手が実力を発揮してきており、ことしの活躍に期待できます。

また、全日本実業団大会が六月に札幌で開かれますが、ことしこそ、若手中心にベテランをからめ、ファイトあるチームを作り、すばり「優勝」の二文字を目標に頑張ります。

昨年は後援会も作っていただいたほか体育館も完成し、なんの心配もない環境ですが、甘えることなくより厳しく練習に励み、皆さんの期待にこたえるように努力したいと思います。

新潟大会 11月27日 新潟市体育館

(男子)高岡、ストレートで電電北海道倒す

高岡市役所	3－0		電電北海道
今泉2	(17－15 14－6)	0	遠藤
米沢	(15－5)	0	山本
米正隆2	(15－12)	0	千葉昌弘
関村2	(18－13 12－15 15－5)	1	佐藤
牧野		平沢	

上位進出を狙う電電北海道はベストオーダーで臨んだが、ベテラン牧野を起用した高岡市役所が必勝を期して3－0で快勝。第1ダブルスは今泉組が実力を発揮して軽く1ゲームを先取。第2ゲームも10－3、14－11とマッチポイントを迎えた今泉組に気のゆるみが出たか、セッティングに持ち込まれたが、サービス権を奪い返してからは一気にたたみかけて試合終了。

シングルスでは北海道千葉が立ち上がり良く3－0とリードして飛びかけたものの、逆転されてからは米のうまい配球についていけず5本取るのがやっと。第2ゲームに入ると、動きの止まった千葉に対してますます快調の米は楽な展開で相手を寄せつけず2本を与えただけで完勝。

第2ダブルスは好試合。第1ゲーム、逆転した佐藤組は一気に連取して15－12で先制。しかし、第2ゲームに入ると、別人のごとくよみがえった牧野が随所でファインプレーを見せ、往年の関村とのコンビネーションが出てきて15－5と圧勝し、ファイナルへ。ファイナルゲームは、佐藤組が断然リード5－0から8－3とコートを奪って11－5まで進んだ。ここで勝負あったかと思われたが、さすがベテラン関村／牧野組がじわじわと追い上げる。

札幌大会 11月13日 中島体育センター別館

(男子)電電北海道、ヨネックスに惜敗

ヨネックス	2－1		電電北海道
長谷川2	(15－18 18－15 15－10)	1	遠藤
宮本		米山	
千徳勝利	(9－15)	0	2千葉昌弘
梅野尾2	(15－9 11－9)	0	佐藤
丹藤		平沢	

大阪での1勝で気分をよくしている電電北海道の各選手は、全体に動きがよく、対照的に動きの悪いヨネックスを苦しめ、地元での初の1勝を目ざし健闘したが、惜しくも1－2で惜敗した。

第1ダブルスの遠藤／米山組対長谷川／宮本組の試合は、宮本のショートサーブ、ショットミスが多く1、2ゲームとも10－2、8－4と前半、長谷川／宮本組はリードをゆるすが、後半守りに回った遠藤／米山組を追い上げ18－15、14－17と大接戦を演じる。ファイナルゲームに入り長谷川／宮本組は、米山を狙わずにセンター気味に遠藤を狙う作戦が成功して、15－10で辛くも勝った。

シングルスは電電北海道期待の若手千葉が千徳を15－8、15－9のストレートで下し、今リーグ2勝目を上げた。

電電北海道は第2ダブルスの佐藤／平沢組の試合を勝敗のポイントにしていたが、気持ちの昂ぶりからか前半でのポイントの差が大きくひびき、15－9、15－11と梅野尾／丹藤組に敗れ、電電北海道は前年度2位のヨネックスに惜しい敗戦を喫した。

電電北海道木村監督の話

「第2ダブルスは取れると思ったが…。第1ダブルスは思った通りの試合ができていた。これからの試合はシングルスでがんばって最後のダブルスでとる展開にもっていきたい。電電東京以外はドングリの背くらべ、今回は3位以内を目標にしたい」

日本リーグ 第6回大会

1984(昭和59)年

〈メンバー〉


【オーナー】阪上 昭二


【部長】中道 雅克


【副部長】伊勢 武


【監督兼選手】遠藤 好男


【マネージャー兼選手】篠尾 幸孝


【選手】米山 孝二


久郷 俊明


千葉 昌弘


中島 俊也


加藤 学

○第6回大会(昭和59年)

チーム名	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	トヨタ自動車	電電近畿	電電北海道	勝点	取得点 A	喪失点 B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
電電東京		○ 4－1	○ 4－1	○ 4－1	○ 5－0	○ 4－1	5	21	4	0.840	1
ヨネックス	● 1－4		○ 3－2	● 2－3	○ 4－1	○ 4－1	3	14	11	0.560	2
高岡市役所	● 1－4	● 2－3		○ 4－1	○ 3－2	○ 3－2	3	13	12	0.520	3
トヨタ自動車	● 1－4	○ 3－2	● 1－4		○ 3－2	○ 3－2	3	11	14	0.440	4
電電近畿	● 0－5	● 1－4	● 2－3	● 2－3		○ 4－1	1	9	16	0.360	5
電電北海道	● 1－4	● 1－4	● 2－3	● 2－3	● 1－4		0	7	18	0.280	6

○男子の部(第1日)

会場	那覇市奥武山体育館			入場者数	1,600
成績	高岡市役所 1勝 0敗	3	単2 — 1 複1 — 1	2	電電北海道 0勝 1敗
単	今泉 勉	2	15－3, 15－12	0	中島俊也
単	米沢和男	0	7－15, 3－15	2	千葉昌弘
単	米 正隆	2	15－6, 15－8	0	遠藤好男
複	今泉 勉 米沢和男	2	15－2, 15－5	0	久郷俊明 千葉昌弘
複	関村順治 米 正隆	0	6－15, 8－15	2	遠藤好男 米山孝二

○男子の部(第2日)

会場	徳島市立体育館			入場者数	1,500
成績	電電東京 2勝 0敗	4	単2 — 1 複2 — 0	1	電電北海道 0勝 2敗
単	西山博司	2	15－0, 15－0	0	中島俊也
単	宮森庄吉	2	15－4, 15－2	0	千葉昌弘
単	長内征美	1	15－7, 9－15, 11－15	2	米山孝二
複	尾崎幹雄 西山博司	2	15－5, 15－7	0	久郷俊明 千葉昌弘
複	土田証雄 宮森庄吉	2	15－6, 15－6	0	遠藤好男 米山孝二

○男子の部(第3日)

会場	石巻市民体育館			入場者数	1,600
成績	ヨネックス 2勝 1敗	4	単3 0 複1 1	1	電電北海道 0勝 3敗
単	宮本幸弘	2	12－15, 18－17, 15－5	1	米山孝二
単	長谷川博幸	2	15－6, 15－5	0	千葉昌弘
単	石場隆雄	2	12－15, 15－5, 15－2	1	中島俊也
複	長谷川博幸 宮本幸弘	2	15－6, 15－11	0	久郷俊明 千葉昌弘
複	丹藤勇一 石場隆雄	0	6－15, 9－15	2	遠藤好男 米山孝二

○男子の部(第4日)

会場	柏市民体育館			入場者数	850
成績	トヨタ自動車 3勝 1敗	3	単2 — 1 複1 — 1	2	電電北海道 0勝 4敗
単	坂本昌嗣	2	15－6, 9－15, 15－11	1	中島俊也
単	坂本宏志	2	15－6, 15－9	0	千葉昌弘
単	須貝英徳	0	11－15, 12－15	2	遠藤好男
複	上田哲夫 川本英明	2	14－17, 15－10, 15－8	1	久郷俊明 千葉昌弘
複	山本秀樹 坂本宏志	0	14－18, 10－15	2	遠藤好男 米山孝二

○男子の部(最終日)

会場	札幌市中島体育センター別館			入場者数	1,500
成績	電電近畿 1勝 4敗	4	単2 — 1 複2 — 0	1	電電北海道 0勝 5敗
単	守安達二	2	15－6, 15－11	0	千葉昌弘
単	松井峰生	2	15－9, 15－12	0	遠藤好男
単	保科正浩	1	15－12, 7－15, 14－17	2	中島俊也
複	冨田章夫 近藤雅明	2	15－6, 15－8	0	遠藤好男 米山孝二
複	松重恵三 守安達二	2	15－2, 15－6	0	久郷俊明 千葉昌弘

日本リーグ 第6回大会

1984（昭和59）年

［11・26］北海道新聞

電電東京、2年ぶりV

電電北海道は最下位に

バドミントン 日本リーグ

第六回バドミントン日本リーグ最終戦は二十五日、男子が札幌中島体育センター別館、女子が東京代々木第一体育館で各試合を行った。

男子はこれまで4勝全勝の電電東京がトヨタ自動車を4―1で破り、土つかずの5連勝で二年ぶり四度目の優勝。4勝4敗の電電北海道はこの日も元気がなく、電電近畿に1―4で敗れ、5敗で最下位になった。

女子は全勝同士の対決となったが、サントリーが4―1で三洋電機に勝ち。四年連続五度目の優勝が決まった。

最高殊勲選手は、男子が富永正吉（電電東京）女子が池田和子（サントリー）がともに初受賞した。

▽男子

電電東京 4（単2―1 複2―0）1 トヨタ自動車
電電近畿 4（単2―1 複2―0）1 電電北海道
ヨネックス 3（単2―1 複1―1）2 所属
電電北海道 4（単2―1 複2―0）1 電電近畿

▽最終順位 ①電電東京5勝（勝ち点5）②ヨネックス3勝2敗（3）③電電近畿3勝2敗（3）④トヨタ自動車3勝2敗（3）⑤電電北海道1勝4敗（1）⑥電電北海道5敗（0）

（2、3、4位は最終マッチ率による）

▽女子

サントリー 4（単2―1 複2―0）1 三洋電機
ヨネックス 4（単2―1 複2―0）1 日本楽器
日本楽器 5（単3―0 複2―0）0 トヨタ自動車

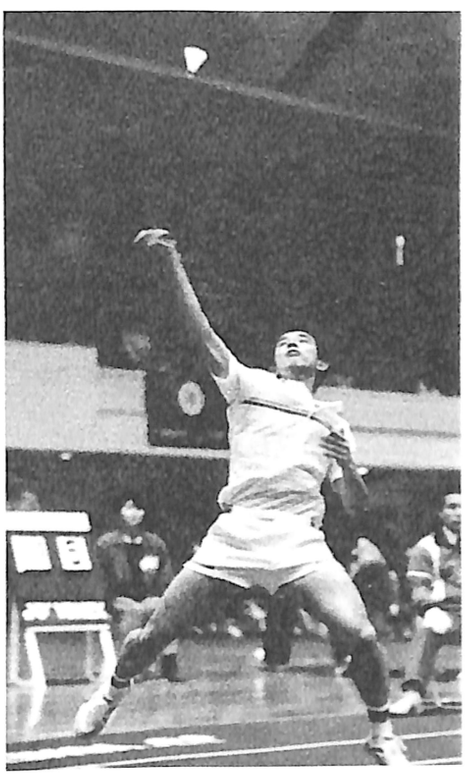
▽最終順位 ①サントリー5勝（勝ち点5）②三洋電機4勝1敗（4）③ヨネックス3勝2敗（3）④日本楽器2勝3敗（2）⑤日本楽器1勝4敗（1）⑥トヨタ自動車5敗（0）

日本リーグ脱落も

○…この日も敗れ、リーグ最下位となった電電北海道。張戸の入れ替え戦で、日本リーグ脱落の可能性も出てきた。今年からプレーイングマネジャーになった遠藤監督は「理に負けはしたが悲しくはない」と敗戦の悔しさにことばもとぎれがち。

この日はシングルスで中島が逆転の一勝をもぎとっただけ。過去4試合同様いずれもいいところまでこぎつけながら「追いついてそれを追い越せない」強がいい試合はかりだった。技術的には決して劣っていないのに「何が足りないかと言われれば経験ず」と同監督は「理に負けはしまい神力の不足弱調。「また来年一から鍛え直します」と再起を誓っていた。

◀北海道・中島は、90分の熱戦の末保科に逆転勝ち、会場をわかせた





日本リーグ沖縄大会

日本リーグ 第7回大会

1985(昭和60)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 阪上 昭二



【部長】 望月 幸三郎



【副部長】 伊勢 武



【監督兼選手】 遠藤 好男



【マネージャー兼選手】 篠尾 幸孝



【選手】 米山 孝二



久郷 俊明



千葉 昌弘



中島 俊也



伊藤 雅弘



加藤 学



○第7回大会(昭和60年)

チーム名	NTT東京	ヨネックス	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT関西	高岡市役所	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
NTT東京		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	13	2	0.867	1
ヨネックス	● 1－2		● 1－2	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	3	10	5	0.667	2
NTT北海道	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	3	8	7	0.533	3
トヨタ自動車	● 0－3	● 0－3	○ 2－1		○ 3－0	○ 2－1	3	7	8	0.467	4
NTT関西	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3		○ 3－0	1	4	11	0.267	5
高岡市役所	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 0－3		0	3	12	0.200	6

○ 男子の部（第1日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,500
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 － 1 複1 － 0	1	高岡市役所 0勝 1敗
単	伊藤雅弘	2	10－15 15－ 6 15－ 5	1	今泉 勉
複	遠藤好男 米山孝二	2	12－15 15－ 5 15－ 4	1	関村順治 米沢和男
単	中島俊也	0	11－15 9－15 －	2	米 正隆

○ 男子の部（第2日）

会場	リージョンプラザ上越			入場者数	1,500
成績	NTT北海道 2勝 0敗	2	単1 － 1 複1 － 0	1	ヨネックス 1勝 1敗
単	千葉昌弘	0	6－15 15－17 －	2	長谷川博幸
複	遠藤好男 米山孝二	2	12－15 15－ 9 18－16	1	丹藤勇一 石場隆雄
単	伊藤雅弘	2	15－11 15－ 7 －	0	宮本幸弘

○ 男子の部（第3日）

会場	勝沼町民体育館			入場者数	850
成績	NTT東京 3勝 0敗	2	単1 － 1 複1 － 0	1	NTT北海道 2勝 1敗
単	西山博司	2	15－ 8 15－ 6 －	0	中島俊也
複	土田証雄 宮森庄吉	2	15－ 2 15－ 3 －	0	遠藤好男 米山孝二
単	長内征美	0	5－15 6－15 －	2	伊藤雅弘

○ 男子の部（第4日）

会場	札幌市中島スポーツセンター別館			入場者数	2,000
成績	NTT北海道 3勝 1敗	2	単1 － 1 複1 － 0	1	NTT関西 0勝 4敗
単	伊藤雅弘	2	15－ 8 15－11 －	0	松井峰生
複	遠藤好男 米山孝二	2	15－ 9 15－11 －	0	冨田章夫 近藤雅明
単	千葉昌弘	0	11－15 11－15 －	2	保科正浩

○ 男子の部（最終日）

会場	代々木第2体育館			入場者数	1,000
成績	トヨタ自動車 3勝 2敗	2	単1 － 1 複1 － 0	1	NTT北海道 3勝 2敗
単	古賀勝志	1	18－16 12－15 11－15	2	伊藤雅弘
複	須貝英徳 坂井外喜男	2	15－ 1 12－15 15－10	1	遠藤好男 米山孝二
単	坂本宏志	2	15－11 15－12 －	0	中島俊也

日本リーグ 第7回大会

1985（昭和60）年

［11・25］北海道新聞



老練なプレーでＮＴＴ関西に貴重勝ちしたダブルス、遠藤（向こう側左）と米山（同右）のＮＴＴ北海道コンビ

ＮＴＴ対決 北海道勝つ

Ａクラス入りに前進

地元札幌で「関西」に２－１

バドミントン 日本リーグ 第７日

第七回バドミントン日本リーグ第七日は二十四日、札幌中島体育センター別館と岡山県体育館で男女各２試合が行われた。

今季Ａクラス確保を目指すＮＴＴ北海道は、地元でＮＴＴ関西（大阪）と対戦。２－１で勝って通算成績を３勝一敗とした。首位に立つＮＴＴ東京はどの日も勝って４連勝、最終戦は十二月一日、東京と大阪で行われる。

▽男子

ＮＴＴ北海道 ２ 3時20分 １ ＮＴＴ関西

伊藤 2 15 11 0 松井
遠藤 1 11 15 1 4 徳田
米山 2 15 11 0 近藤
千葉 0 11 11 15 2 保谷

ＮＴＴ北海道が日本リーグ入り六年目で初めて３勝を挙げ、念願のＡクラス入りに一歩近づいた。

今季七回のＮＴＴ北海道は昨季最下位の６位。今夏の入れ替え戦はまずシングルスで、新人の伊藤淳弘（白大出）が快勝した。第２ゲームは２－７とリードを許してからの逆転勝ち、１１８分の長身を生かした角度のあるスマッシュに威力があり、夏以降メキメキと力をつけている。遠藤所男監督が「まだまだゲーム運びが粗いが、一発の魅力がある。最近は自信を身につけてきたように」と期待する成長株だ。

その遠藤監督も三十五歳ながら現役選手としてチームを引っ張る。米山孝二と組んだダブルスでは１５－１１、１５－２で快勝ち。

ダブルスとともに３勝一敗で続いている。遠藤監督は「昨年は全敗ですから、初めて（日本リーグで）３勝した意義は大きい。最終戦の対トヨタ自動車に勝ってＡクラスをとりたい」。

「実業団」敗退で奮起

念願達成へ若手も成長

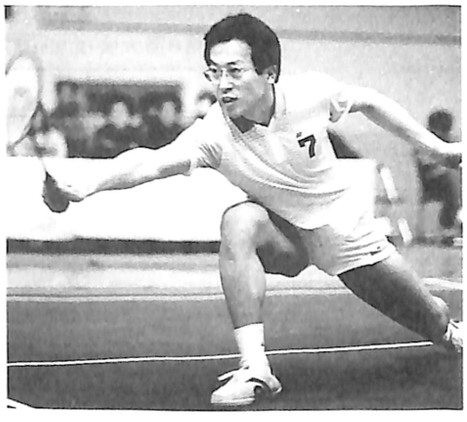
ＮＴＴ北海道は第二回から日本リーグで戦っているが、第五回（五十八年）の４位が最高で昨年は最下位の６位。今夏の入れ替え戦ではもう少しリーグ残留を決めるが成績はいまひとつだった。今シーズンも六月の全日本実業団では序盤戦で不覚をとり、十数年維持していたシード権を失ってしまった。

しかしこの敗退を糧に奮起し、今リーグでは初戦、前年３位の高岡市役所（富山）を下して波に乗り、Ｖ候補筆頭のＮＴＴ東京に１－２で敗れたものの、ヨネックスとともに３勝一敗で続いている。遠藤監督は「昨年は全敗ですから、初めて（日本リーグで）３勝した意義は大きい。最終戦の対トヨタ自動車に勝ってＡクラスをとりたい」。

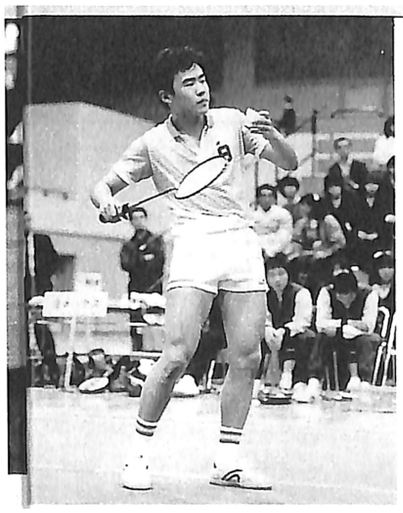


◀遠藤好男監督「ダブルスに力を入れれば、ＮＴＴ東京以外はどこもシングルスは苦しいと思う。うちはベテランでダブルスをまかない、シングルスは若手主体でいこうと思う。チームの過渡期だけに若手に期待する。若々しいガムシャラなプレーで番狂わせをねらってもらいたい。入れ替え戦はもう二兎を追うが非でも１勝以上が目標」

ＮＴＴ北海道（男子６位）



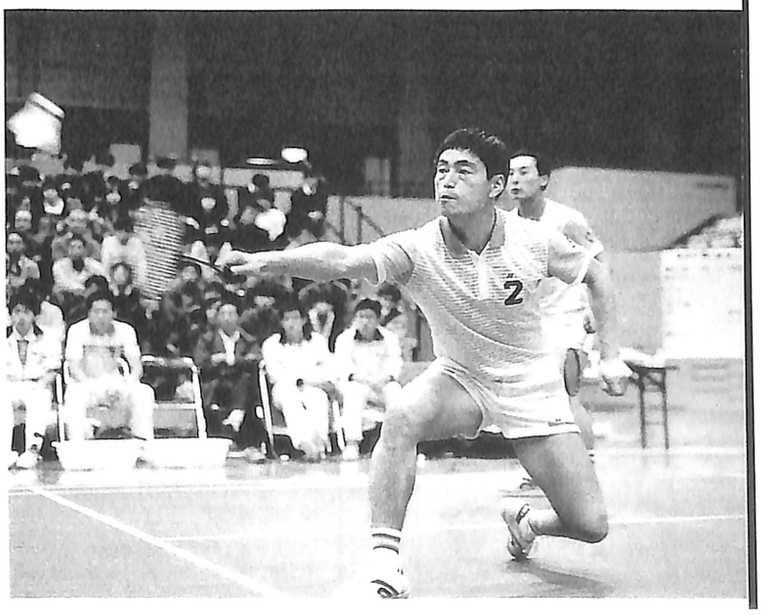
▶地元で今リーグ初勝利をねらった千葉だが、保科に０－２の競り負け。２ゲームとも11オールからの負けで上位進出へ１ポイントでも多く欲しいだけに惜しまれた



ＮＴＴ北海道　２－１　ヨネックス

◀伊藤の起用法がカギを握る北海道だが、長谷川を避けて第２シングルスに登場、期待通りの働きで早くも北海道は２勝目をあげた

▼監督自らチームを引っ張る北海道。遠藤（前）／米山は丹藤組に見事な逆転勝ちで、第２シングルスにつないだ



日本リーグ 第8回大会

1986（昭和61）年

〈 メンバー 〉


【オーナー】外松　源司


【部長】望月　幸三郎


【副部長】伊勢　武


【監督兼選手】遠藤　好男


【マネージャー】篠尾　幸孝


【選手】米山　孝二


久郷　俊明


千葉　昌弘


中島　俊也


伊藤　雅弘


加藤　学


田中　弘幸

○第8回大会（昭和61年）

チーム名	ヨネックス	NTT東京	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT関西	高岡市役所	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
ヨネックス		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	5	13	2	0.867	1
NTT東京	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	4	12	3	0.800	2
NTT北海道	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	● 1－2	2	7	8	0.467	3
トヨタ自動車	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	2	6	9	0.400	4
NTT関西	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 3－0	1	4	11	0.267	5
高岡市役所	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 0－3		1	3	12	0.200	6

○ 男子の部（第1日）

会場	多摩市立総合体育館		入場者数	800
成績	NTT東京 1勝　0敗	3－0 単2 — 0 複1 — 0	NTT北海道 0勝　1敗	
単	西山博司	2－0 15－5 15－1	中島俊也	
複	土田証雄 宮森庄吉	2－0 15－4 15－2	遠藤好男 米山孝二	
単	長内征美	2－1 17－15 11－15 15－7	伊藤雅弘	

○ 男子の部（第3日）

会場	箕面市サントリー体育館		入場者数	800
成績	NTT北海道 1勝　1敗	3－0 単2 — 0 複1 — 0	NTT関西 0勝　3敗	
単	伊藤雅弘	2－0 15－5 15－8	奥野勉	
複	遠藤好男 米山孝二	2－1 13－18 15－5 15－7	冨田章夫 近藤雅明	
単	千葉昌弘	2－0 17－15 15－7	保科正浩	

○ 男子の部（第4日）

会場	八千代市民体育館		入場者数	1,200
成績	ヨネックス 3勝　0敗	2－1 単2 — 0 複0 — 1	NTT北海道 1勝　2敗	
単	松浦進二	2－0 15－8 15－6	伊藤雅弘	
複	石場隆雄 伊東幸男	1－2 15－6 10－15 11－15	遠藤好男 米山孝二	
単	長谷川博幸	2－0 15－7 15－8	中島俊也	

○ 男子の部（第5日）

会場	札幌市中島体育センター別館		入場者数	2,000
成績	高岡市役所 1勝　3敗	2－1 単1 — 1 複1 — 0	NTT北海道 1勝　3敗	
単	末坂進	0－2 12－15 2－15	伊藤雅弘	
複	今泉勉 米沢和男	2－0 15－4 15－12	遠藤好男 米山孝二	
単	米正隆	2－0 17－15 17－15	千葉昌弘	

○ 男子の部（最終日）

会場	桐生市民体育館		入場者数	900
成績	NTT北海道 2勝　3敗	2－1 単1 — 1 複1 — 0	トヨタ自動車 2勝　3敗	
単	伊藤雅弘	2－0 15－7 17－14	須貝英徳	
複	遠藤好男 米山孝二	2－1 15－9 12－15 15－7	山本秀樹 川本英明	
単	千葉昌弘	0－2 10－15 6－15	坂井外喜男	

日本リーグ 第8回大会

1986（昭和61）年

［11・24］道新スポーツ

日程ニュースワイド

第8回バドミントン日本リーグ札幌大会（23日 札幌中島体育センター別館）

NTT北海道惜敗

地元戦、気合が気負いに

連続Aクラス絶望

道新スポーツなどの主催で、2000人のファンが見守る中、男子NTT北海道－高岡市役所、女子ヨネックス－NTT東京の2試合が行われた。注目の地元・NTT北海道は1－2で敗れた。これでNTT北海道は1勝3敗となり、2年連続のAクラス入りはほぼ絶望になった。女子はNTT東京が勝った。

【男子】
高岡市役所 2 複1－1 1 NTT北海道
末坂 0 12－15 2 伊藤
○今泉 2 15－12 0 遠藤
米沢 2 15－4 0 米山
○米 2 17－15 0 千葉

【女子】
NTT東京 2 単1－1 1 ヨネックス
2 複1－0

遠藤監督「楽勝するはずが…」

NTT北海道は痛い星を落とした。これまで3敗と片目も開いていない高岡市役所が相手。しかも地元戦とあって、各選手とも気合が入っていた。第1シングルのエース伊藤があっさり勝って、残るダブルスと第2シングルの2試合のうち一つ勝つとリーグ2勝目が転がり込むところだった。

ところが、声援の声援で気合が、気負いに変わって空回り。遠藤・米山ペアが敗れ、頼みの綱だった千葉もストレート負けした。これで勝ち点1のままで、高岡市役所と並んで4位タイ。余程のことがない限り、昨年の順位3位をキープするのは無理になった。

試合後、遠藤好男監督は「一方的に勝たなければならないのに、相手のペースに合わせてしまった。あの試合が本当にもったいなかった」と悔やんだ。その試合は千葉－米戦。いずれもチームが負けてしまって千葉が前半リードを奪いながら、14－14ともつれ、このあとのセッティングゲームで敗れてしまった。

伊藤は「私としてはまずまずの試合が出来ました。でもチームが負けてしまってはね」と喜びも半減のよう。また、千葉は「痛いところでミスをしてしまいましたが、勝てない相手でなかったのにと残念そうだった。

NTTで唯一の勝利者の



NTT北海道で唯一の勝ち星を挙げ女子高生のサイン攻めに照れ笑いの伊藤雅弘

徳光故郷デビュー

「もっと粘れたかもしれないけど、現在の力ではこんなものです」とヨネックスの徳光由美子。社会人2年目で、青森・千葉学園高出だが、赤平生まれで上砂川中出の道産子選手だ。

日本リーグの出場はこの日初めて。保さん（55）＝無職＝、幸子さん（46）の両親の前でハッスルプレーをみせたが、相手が全日本のエース格の米倉よし子で強過ぎた。結果は3－11、0－11。「もともと自信はなかったんです。もっと練習を積んでから出たかった。早く強くなってレギュラーになりたいです」と話していた。



NTT北海道 2－1 トヨタ自動車

北海道、トヨタをふり切って3位へ



▲地元札幌での高岡戦の敗戦で3位の座も危うしと思われたが、遠藤（前）／米山が山本／川本を下して、北海道は3位を確保

▼古賀の故障で山本監督（右）がダブルスに初登場したが、ラリーを支配できずに敗れ、トヨタは前回同様の4位にとどまった



◀とりこぼしもあったが、伊藤はこの最終戦で須貝を破り、3位へ1歩前進

日本リーグ 第9回大会

1987（昭和62）年

〈 メンバー 〉

【オーナー】



外松　源司

【部長】



北川　誠

【部長代行】



伊勢　武

【副部長】



山本　英一

【監督兼選手】



遠藤　好男

【マネージャー兼選手】



久郷　俊明

【選手】



米山　孝二



千葉　昌弘



中島　俊也



伊藤　雅弘



山尾　克則



加藤　学



田中　弘幸

○第9回大会（昭和62年）

チーム名	NTT東京	ヨネックス	トヨタ自動車	NTT関西	NTT北海道	高岡市役所	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	15	0	1.000	1
ヨネックス	● 0－3		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	4	11	4	0.733	2
トヨタ自動車	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	7	7	0.500	3
NTT関西	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	2	7	8	0.467	4
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	1	4	10	0.286	5
高岡市役所	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3		0	0	15	0.000	6

○ 男子の部（第1日）

会場	京都府立体育館			入場者数	1,500
成績	NTT関西 1勝　0敗	2	単1 — 1 複1 — 0	1	NTT北海道 0勝　1敗
単	辻田泰昌	2	15－3 15－3	0	千葉昌弘
複	冨田章夫 奥野勉	2	15－10 15－8	0	米山孝二 山尾克則
単	松井峰生	0	10－15 9－15	2	伊藤雅弘

○ 男子の部（第2日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	4,000
成績	NTT北海道 1勝　1敗	3	単2 — 0 複1 — 0	0	高岡市役所 0勝　2敗
単	千葉昌弘	2	7－15 15－3 15－10	1	西本幸夫
複	米山孝二 山尾克則	2	15－10 15－10	0	今泉勉 末坂進
単	伊藤雅弘	2	15－5 15－5	0	米正隆

○ 男子の部（第3日）

会場	八戸市東体育館			入場者数	1,300
成績	NTT東京 3勝　0敗	3	単2　0 複1　0	0	NTT北海道 1勝　2敗
単	西山博司	2	15－2 15－5	0	中島俊也
複	松野修二 柳谷辰哉	2	15－4 18－15	0	米山孝二 山尾克則
単	長内征美	2	15－4 12－15 15－2	1	伊藤雅弘

○ 男子の部（第4日）

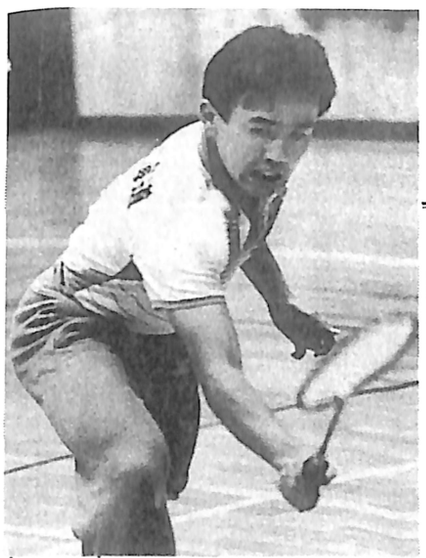
会場	札幌市中島体育センター			入場者数	2,000
成績	ヨネックス 4勝　0敗	3	単2 — 0 複1 — 0	0	NTT北海道 1勝　3敗
単	井上哲章	2	15－7 15－9	0	伊藤雅弘
複	宮本幸弘 石場隆雄	2	15－7 15－4	0	米山孝二 山尾克則
単	長谷川博幸	2	15－3 15－9	0	千葉昌弘

○ 男子の部（最終日）

会場	立川市市民体育館			入場者数	700
成績	トヨタ自動車 3勝　2敗	2	単1 — 1 複1 — 0	1	NTT北海道 1勝　4敗
単	坂井外喜男	1	6－15 15－4 10－15	2	伊藤雅弘
複	坂本宏志 古賀勝志	2	15－17 15－10 15－10	1	米山孝二 山尾克則
単	小本義久	2	15－7 15－12	0	中島俊也

日本リーグ 第9回大会

1987(昭和62)年



伊藤雅弘は、Aクラス確保へのポイントゲッターだ

［11・22］道新スポーツ

地元で燃えるＮＴＴ北海道

きょう札幌でバドミントン日本リーグ

「Ａクラス確保だ！」

カギ握るエース伊藤

バドミントンの日本リーグでAクラス確保に燃えるNTT北海道がきょう22日、地元の札幌中島体育センター別館でヨネックスと対戦する。一昨年、昨年と連続3位になったNTT北海道は、現在1勝2敗で3位だが、同じ3位にトヨタ自動車などと3チームがひしめいており、Aクラス確保は予断を許さない状態だ。3位争いの混戦レースを抜け出すのにカギを握るのはエース伊藤雅弘(25)。「ここは正念場」と、昨年の覇者ヨネックス戦に闘志をかきたてている。

伊藤は日大を卒業、インカレベスト8(シングルス)の実績を引っ下げ、60年にNTT北海道入りした。その年の日本リーグでルーキーながらシングルス5連勝、61年は3勝2敗とAクラス入りの原動力となってきた。今年も2勝1敗とまずまずの成績を残している。

そんな伊藤の前に大きく立ちはだかるのがヨネックス。現在、3戦全勝、NTT東京とともに首位を走る強豪だ。3つどもえの3位争いとなった今、Aクラス確保にはシングルス2、ダブルスーの試合で、1戦も無駄には出来ず、遠藤監督は「なんとか伊藤に頑張ってもらい、最終戦（トヨタ自動車）につなげたい」と期待をかけている。

その伊藤の予想される対戦相手は長谷川博幸（30）か井上哲章（24）。いずれもナショナルメンバーで、ともに苦手とするサウスポー。どちらが来ても苦しい相手だが「抜け目がないわけではない。いい試合が出来る自信はある」と伊藤は言い切る。全日本社会人シングルスで昨年3位、今年5位という実績が言わせる言葉だ。まして地元での一戦。「やんなくっちゃ！」の思いは強くなる一方だ。（岩田）

日本リーグ札幌大会

順位	チーム	勝数	負数
①	ＮＴＴ東京	3	0
①	ヨネックス	3	0
③	ＮＴＴ北海道	1	2
④	トヨタ自動車	1	2
⑤	ＮＴＴ関西	1	2
⑥	高岡市役所	0	3

［11・23］

ＮＴＴ北海道完敗

地元でガックリ Aクラスほぼ絶望

相手がV2を狙う強豪ヨネックスとはいえ、3試合で1ゲームも取れないとこ ろから2ケタポイントも挙げられない惨敗。地元で見せ たかがいなさに遠藤好男監督は「地元というプレッシャーの中でもふだんのプレーが出来なけりゃ実力とは言えませんね。収穫が全くない」とほやいていた。

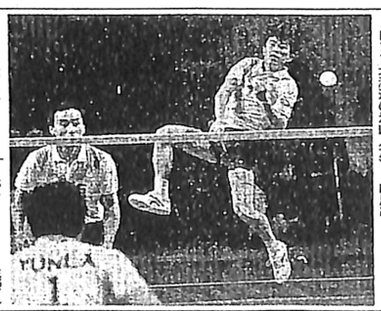
一勝3敗となったNTT北海道の最後の相手はトヨタ自動車。実力は互角と見られるだけに、何とか勝って2勝3敗とし、Aクラスにわずかとはいえ望みをつなぎたいところ。そのためにも遠藤監督は「もっとダブルスに出た伊藤雅弘は、得意のスマッシュが決まらずストレート負け。最も期待された米山孝二、山尾克一ゃ」と選手にハッパをかけていた。（宗像）

［11・23］北海道新聞

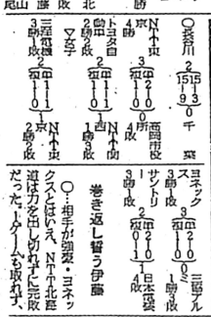
強豪・ヨネックス男子が

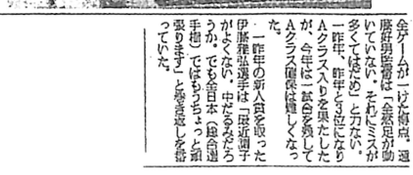
ＮＴＴ北海道に完勝

バドミントン 日本リーグ



（ヨネックス－NTT北海道）最終ゲーム及ばず敗れたNTT北海道の米山（左）・山尾組





会ゲームが一けた得点で伊藤雅弘選手は「最近調子がよくない。中だるみだろうか。でも全日本（社会人選手権）ではもうちょっと頑張ります」と巻き返しを誓っていた。

一昨年の新人賞を取った伊藤雅弘選手は「最近調子がよくない。中だるみだろうか。でも全日本（社会人選手権）ではもうちょっと頑張ります」と巻き返しを誓っていた。

日本リーグ 第10回大会

1988(昭和63)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 西野 博


【部長】 北川 誠


【副部長】 伊勢 武


【監督兼選手】 米山 孝二


【マネージャー】 大沼 哲哉


【選手】 千葉 昌弘


中島 俊也


伊藤 雅弘


山尾 克則


加藤 学


田中 弘幸

○第10回大会(昭和63年)

チーム名	NTT東京	トヨタ自動車	NTT関西	NTT北海道	日本電装	高岡市役所	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	5	14	1	0.933	1
トヨタ自動車	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	4	9	6	0.600	2
NTT関西	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	3	9	6	0.600	3
NTT北海道	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	2	8	7	0.533	4
日本電装	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	1	4	11	0.267	5
高岡市役所	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		0	1	14	0.067	6

○ 男子の部（第1日）

会場	名古屋市総合体育館			入場者数	5,000
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	日本電装 0勝 1敗
複	米山孝二 中島俊也	2	15－6 15－7 －	0	中川智史 磯部昌弘
単	伊藤雅弘	2	15－0 15－11 －	0	福田 実
複	千葉昌弘 山尾克則	1	12－15 17－15 7－15	2	西川 勉 常山兼二

○ 男子の部（第2日）

会場	板橋区立小豆沢体育館			入場者数	700
成績	NTT北海道 2勝 0敗	3	単1 － 0 複2 － 0	0	高岡市役所 0勝 2敗
複	千葉昌弘 山尾克則	2	15－11 15－12 －	0	今泉 勉 米沢和男
単	伊藤雅弘	2	15－5 15－4 －	0	末坂 進
複	米山孝二 中島俊也	2	15－12 15－9 －	0	関村順治 米 正隆

○ 男子の部（第3日）

会場	可美公園総合センター			入場者数	500
成績	NTT東京 3勝 0敗	2	単1 0 複1 1	1	NTT北海道 2勝 1敗
複	柳谷辰哉 長内征美	1	15－8 12－15 3－15	2	米山孝二 中島俊也
単	松野修二	2	15－7 15－11 －	0	伊藤雅弘
複	西山博司 本田浩二	2	15－3 15－4 －	0	千葉昌弘 加藤 学

○ 男子の部（第4日）

会場	旭川市総合体育館			入場者数	2,000
成績	トヨタ自動車 4勝 0敗	2	単0 － 1 複2 － 0	1	NTT北海道 2勝 2敗
複	古賀勝志 川本英明	2	15－4 15－12 －	0	米山孝二 中島俊也
単	小本義久	1	15－13 11－15 2－15	2	伊藤雅弘
複	須貝英徳 坂井外喜男	2	10－15 15－5 15－5	1	千葉昌弘 山尾克則

○ 男子の部（最終日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	4,500
成績	NTT関西 3勝 2敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	NTT北海道 2勝 3敗
複	松井峰生 奥野 勉	1	17－15 1－15 9－15	2	伊藤雅弘 山尾克則
単	辻田泰昌	2	15－6 15－10 －	0	千葉昌弘
複	冨田章夫 村山友二	2	15－9 15－8 －	0	米山孝二 中島俊也

日本リーグ 第10回大会

1988（昭和63）年

［11・3］道新スポーツ

NTT北海道 日本リーグ日程

	開催地	対戦相手
3日	名古屋	日本電装㊍
5日	東京	高岡市役所㊎
13日	福岡	NTT東京①
20日	旭川	トヨタ自動車③
23日	高崎	NTT関西④

（○内は昨年の成績、昨年2位のヨネックスは出場辞退）

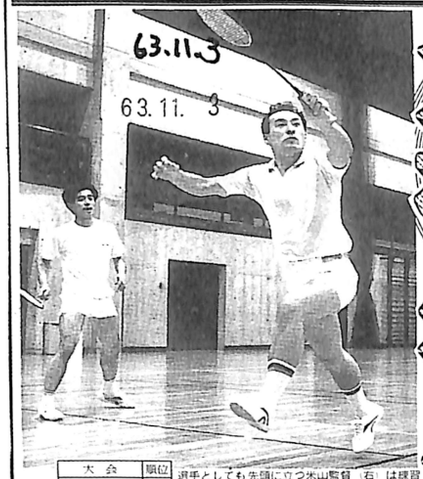
NTT北海道7人衆

米山孝二 31歳、165㌢、65㌔、中大卒、69㌔級、中島俊也 27歳、170㌢、64㌔級、北学園大卒、千葉昌弘 28歳、176㌢、伊藤雅弘 26歳、178㌢、70㌔級、日大卒、山尾克則 24歳、168㌢、61㌔級、日大卒、加藤 学 22歳、166㌢、52㌔級、美唄東高卒、田中弘幸 21歳、174㌢、65㌔級、札工高卒

バドミントン日本リーグが3日、名古屋市総合体育館で開幕、23日まで全国各地で熱戦を繰り広げる。本道からは男子のNTT北海道が出場する。昨年、3位から5位に転落したので、Aクラス復帰が最大の目標だ。

バドミントン日本リーグきょう開幕

NTT北海道 危機感ヒシヒシ



大会	順位
第2回（55年）	6位
第3回（56年）	5位
第4回（57年）	6位
第5回（58年）	4位
第6回（59年）	6位
第7回（60年）	3位
第8回（61年）	3位
第9回（62年）	5位

（第7回大会までは電電北海道）

選手としても先頭に立つ米山監督（右）は練習にも一段と気合が入る

「今年は正念場です。」NTT北海道・米山孝二監督（31）が闘志を燃やした。日本リーグに参加して8年目。チームはこれまでになった厳しい環境に置かれているのだ。

試合形式が変更

NTT北海道は日本リーグで昨年5位、2年続けてAクラスから転落した。今年は試合形式が1度戻り、最低4人の選手に変更になった。部員7人と選手層の薄いチームにとって厳しい状況になった。

そのうえ、追い打ちをかけるような未安材料が出てきた。日本リーグには現在、NTT関東、同関西、同北海道のNTT勢3チームが入っている。しかし、「同一業種がそんなにたくさんリーグに加入するのは好ましくない」という意見が最近、強くなってきた。NTTをも…チーム。

「とにかく今リーグで好成績を挙げて、チームの印象を良くしたい」と気持ち多き監督がいる。

今リーグは、全日本選手で固めたNTT東京の実力が一つ抜け出ているが、他の5チームはトップの育成ぺだ。だから、NTT北海道にも上位進出のチャンスは大いにある。

練習時間も延長

肯定の陣のチームに、会社側は特別に練習時間の延長を認めてくれた。「そのために負けるわけにはいかない。今年で、米山監督の厳しい口調がNTT北海道の誇かれた立場を物語っている。（岩田）

兼任・米山監督「今年は正念場」

苦しい台所事情

手薄の7人部隊

兄弟チームの"整理"案も

エース伊藤が大張り切り

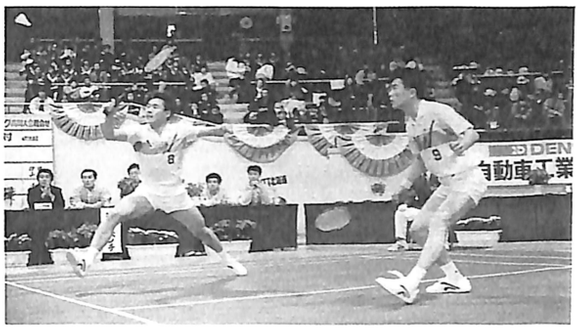
「今年はやるゼ」

巻き返しをはかるNTTリーグでは2勝3敗と不振の北海道のカギを握るのがエース伊藤雅弘だ。昨年の北海道が3勝と不振の位転落につながった。


伊藤 雅弘

「昨年はチーム（NTT）全体に悪い意識をかけた。でも今年は違います。9月の全日本社会人で二昨年に続く3位となり、自信を回復した。10月末にはNTT東京の山梨合宿に参加、1週間バドミントンに打ち込み、昨年上がった。米山監督も「伊藤のシングルスの負けは計算に入れていない」と言い切る。

今年、社会人4年目、二番差実している時」という伊藤は「Aクラス復帰を目指して頑張ります」と力強い。



◀開幕戦で松野に敗れた以外は全勝の辻田。前回同様、敢闘賞に値する活躍ぶりだった

▲ダブルス2本ねらいに絞った北海道は、伊藤（左）を山尾との複に回し、幸先よい1ポイント目をあげたが…





北海道、またも地元勝利逃す

トヨタ自動車 2―1 NTT北海道

▲ベテラン2人の頑張り（左）。福井が不慣れな逆転勝ちをして、1勝1敗2敗3敗の最終戦でNTT東京と全勝決定することになった

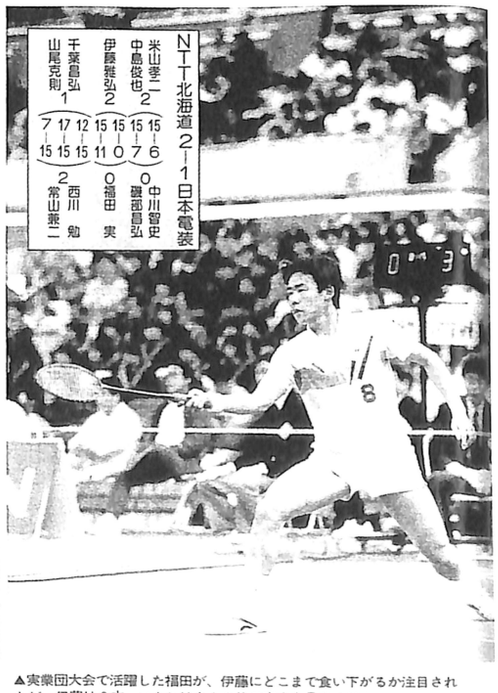
▶ダブルスを組んで、この1本で福田が単に突立場面のトヨタ。伊藤に警戒しての配球いい結果にしてはいるものだ



▲この日は第1複で登場した千葉（左）／山尾は、今泉組に手こずりながらも先制ポイント

▼監督兼任の米山（左）が中島をリードし、電装の若手ペアにまずストレート勝ち





▲実業団大会で活躍した福田が、伊藤にどこまで食い下がるか注目されたが、伊藤は0本、11本と社会人3位の実力を見せつけた

日本リーグ 第11回大会

1989(平成元)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 西野 博


【部長】 北川 誠


【副部長】 伊勢 武


【監督兼選手】 米山 孝二


【コーチ兼選手】 千葉 昌弘


【マネージャー兼選手】 中島 俊也


【選手】 伊藤 雅弘


山尾 克則


加藤 学


田中 弘幸


角谷 淳一


工藤 忠和

○第11回大会(平成元年)

チーム名	NTT東京	NTT関西	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT東北	日本電装	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
NTT東京		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	14	1	0.933	1
NTT関西	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	9	6	0.600	2
NTT北海道	● 0－3	○ 2－1		● 1－2	○ 3－0	○ 2－1	3	7	8	0.467	3
トヨタ自動車	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		○ 2－1	○ 2－1	3	7	8	0.467	4
NTT東北	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	1	6	9	0.400	5
日本電装	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 0－3		0	2	13	0.133	6

○ 男子の部（第1日）

会場	大和スポーツセンター			入場者数	
成績	NTT東京 1勝 0敗	3 { 単1 — 0 / 複2 — 0 } 0		NTT北海道 0勝 1敗	
複	松野修二 柳谷辰哉	2 { 15－5 / 15－6 } 0		米山孝二 中島俊也	
単	江藤裕樹	2 { 15－3 / 15－7 } 0		伊藤雅弘	
複	西山博司 宮 康二	2 { 15－9 / 15－8 } 0		山尾克則 角谷淳一	

○ 男子の部（第2日）

会場	宮城県スポーツセンター			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝 1敗	2 { 単1 — 0 / 複1 — 1 } 1		NTT東北 0勝 2敗	
複	山尾克則 角谷淳一	0 { 16－17 / 12－15 } 2		原田利雄 吉田幸司	
単	伊藤雅弘	2 { 8－15 / 18－17 / 15－5 } 1		韮沢伸幸	
複	米山孝二 中島俊也	2 { 11－15 / 15－3 / 15－6 } 1		加藤安史 渡辺勝治	

○ 男子の部（第3日）

会場	道立札幌中島体育センター 別館			入場者数	
成績	NTT北海道 2勝 1敗	2 { 単1 — 0 / 複1 — 1 } 1		日本電装 0勝 3敗	
複	山尾克則 角谷淳一	2 { 15－7 / 15－4 / — } 0		福田実 中川健	
単	伊藤雅弘	2 { 15－9 / 15－9 / — } 0		磯部昌弘	
複	米山孝二 中島俊也	1 { 18－14 / 11－15 / 9－15 } 2		西川勉 常山兼二	

○ 男子の部（第4日）

会場	下関市体育館			入場者数	
成績	トヨタ自動車 3勝 1敗	2 { 単0 — 1 / 複2 — 0 } 1		NTT北海道 2勝 2敗	
複	古賀勝志 川本英明	2 { 15－6 / 15－6 / — } 0		米山孝二 中島俊也	
単	小本義久	0 { 4－15 / 4－15 / — } 2		伊藤雅弘	
複	須貝英徳 福田昭典	2 { 11－15 / 15－11 / 15－3 } 1		山尾克則 角谷淳一	

○ 男子の部（最終日）

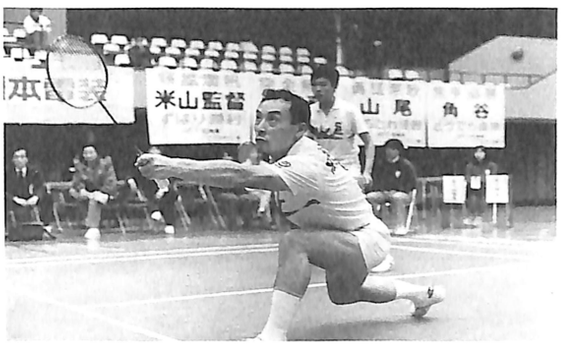
会場	板橋区小豆沢体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 3勝 2敗	2 { 単0 — 1 / 複2 — 0 } 1		NTT関西 3勝 2敗	
複	米山孝二 中島俊也	2 { 15－10 / 15－10 / — } 0		奥野勉 今東健	
単	伊藤雅弘	0 { 7－15 / 2－15 / — } 2		辻田泰昌	
複	山尾克則 角谷淳一	2 { 15－2 / 3－15 / 15－12 } 1		冨田章夫 村山友二	

日本リーグ 第11回大会

1989（平成元）年

北海道は関西に競り勝ちAクラス入り

NTT北海道 2－1 NTT関西



▶北海道は米山監督（左）の采配、伊藤とのコンビもよく先制ポイント

［10・28］道新スポーツ

来月3日からバドミントン日本リーグ開幕

NTT北海道いざ出陣

狙いはAクラス

カギ握る第一ダブルス 山尾・角谷組

複・専門家と攻撃型 息ピタリ全勝目指す

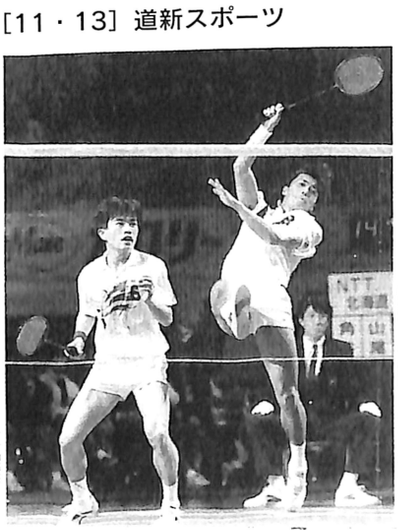
60、61年の3位が最高



▼強豪・辻田のスマッシュを懸命に耐えた新人・工藤だったが、ストレート負けに退く



［11・13］道新スポーツ



地元戦、詰所でハッスルプレーを見せ、ストレート勝ちにNTT北海道の谷口（右）山尾ペア

2年ぶりAクラスへ一歩前進

NTT北海道 2位タイ

2勝1敗

山尾・角谷ペア今リーグ初白星

若手ダブル地元でハッスル

強敵相手に圧勝

バドミントン日本リーグ 札幌大会

伊藤主将も単でストレート勝ち

「若さ武器にやるぞ！」山尾

日本リーグ 第12回大会

1990(平成2)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】



高橋 徹

【部長】



北川 誠

【副部長】



伊勢 武

【監督兼選手】



米山 孝二

【マネージャー】



加藤 学

【選手】



伊藤 雅弘



山尾 克則



田中 弘幸



角谷 淳一



工藤 忠和



古川 英樹

○第12回大会(平成2年)

チーム名	NTT東京	NTT北海道	NTT関西	トナミ運輸	日本電装	北國銀行	トヨタ自動車	ジャトコ	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	20	1	0.952	1
NTT北海道	● 0－3		● 0－3	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	5	11	10	0.524	2
NTT関西	● 1－2	○ 3－0		● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	● 1－2	○ 3－0	4	14	7	0.667	3
トナミ運輸	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	4	12	9	0.571	4
日本電装	● 0－3	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 3－0	○ 2－1	3	10	11	0.476	5
北國銀行	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		○ 2－1	○ 2－1	3	8	13	0.381	6
トヨタ自動車	● 0－3	● 1－2	○ 2－1	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	2	6	15	0.286	7
ジャトコ	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		1	3	18	0.143	8

○ 男子の部（第1日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	4,500
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 0 複1 1	1	トヨタ自動車 0勝 1敗
複	米山孝二 古川英樹	0	10－15 9－15 －	2	古賀勝志 福田昭典
単	伊藤雅弘	2	15－2 15－4 －	0	小本義久
複	山尾克則 角谷淳一	2	18－13 15－10 －	0	川本英明 城木夢高

○ 男子の部（第2日）

会場	高槻市立総合スポーツセンター			入場者数	1,500
成績	NTT北海道 2勝 0敗	2	単1 0 複1 1	1	トナミ運輸 0勝 2敗
複	米山孝二 古川英樹	2	15－11 15－4 －	0	石橋 隆 気谷篤人
単	伊藤雅弘	2	18－13 5－15 15－11	1	濱北和彦
複	山尾克則 角谷淳一	1	11－15 18－17 10－15	2	木船栄士 岩渕公一

○ 男子の部（第3日）

会場	小樽市総合体育館			入場者数	2,000
成績	NTT北海道 3勝 0敗	2	単1 0 複1 1	1	北國銀行 0勝 3敗
複	山尾克則 角谷淳一	0	12－15 11－15 －	2	羽田義仁 崎田健一
単	伊藤雅弘	2	15－9 11－15 15－7	1	山本明彦
複	米山孝二 古川英樹	2	5－15 15－0 15－5	1	羽田憲治 武田 修

○ 男子の部（第4日）

会場	広島市中区スポーツセンター			入場者数	1,300
成績	NTT北海道 4勝 0敗	2	単1 0 複1 1	1	日本電装 2勝 2敗
複	山尾克則 角谷淳一	2	15－9 15－8 －	0	西川 勉 福田 実
単	伊藤雅弘	2	15－2 15－6 －	0	磯部昌弘
複	米山孝二 古川英樹	1	11－15 15－13 3－15	2	中川 健 常山兼二

○ 男子の部（第5日）

会場	新庄市体育館			入場者数	1,500
成績	NTT北海道 5勝 0敗	3	単1 0 複2 0	0	ジャトコ 0勝 5敗
複	米山孝二 古川英樹	2	15－7 15－6 －	0	若松 誠 石嶺善健
単	伊藤雅弘	2	7－15 15－6 17－16	1	吉野智昭
複	山尾克則 角谷淳一	2	15－5 15－6 －	0	飯野 馨 坂上隆広

○ 男子の部（第6日）

会場	立川市市民体育館			入場者数	1,100
成績	NTT東京 6勝 0敗	3	単1 0 複2 0	0	NTT北海道 5勝 1敗
複	松野修二 宮 康二	2	15－12 15－1 －	0	米山孝二 古川英樹
単	江藤裕樹	2	15－13 10－15 15－7	1	伊藤雅弘
複	西山博司 長内征美	2	15－10 9－15 15－11	1	山尾克則 角谷淳一

○ 男子の部（最終日）

会場	立川市市民体育館			入場者数	1,500
成績	NTT関西 4勝 3敗	3	単1 0 複2 0	0	NTT北海道 5勝 2敗
複	村山友二 早戸敬雄	2	15－8 15－2 －	0	米山孝二 古川英樹
単	辻田泰昌	2	15－11 12－15 15－8	1	伊藤雅弘
複	奥野 勉 今東 建	2	15－9 11－15 15－7	1	山尾克則 角谷淳一

日本リーグ 第12回大会

1990（平成2）年

3日からバドミントン日本リーグ

NTT北海道 Aクラス死守だ

[11・1] 道新スポーツ

「敵に不足なし」第1戦、トヨタ

3日から始まるバドミントンの日本リーグに参加する男子のNTT北海道チームが10月31日、道新スポーツを訪れ、今リーグにかける意気込みを語った。

日本リーグは25日まで全国6都市を転戦して行われる。今年から新たに2チームが増え計8チームによる争い。4連覇を狙うNTT東京を除く7チームは力量に差がなく、2位以下は混戦が予想されている。

NTT北海道は昨年3位と3年ぶりにAクラスに返り咲いた。米山孝二監督は「なんとしてもこのAクラスは確保したい」とキッパリ。第1戦は過去に1度しか勝っていない苦手のトヨタ自動車（昨年4位）が相手で、「相性の悪いトヨタとの初戦に勝って勢いをつけたい」と力が入る。エースの伊藤雅弘主将（28）も「厳しい戦いを強いられそうですが、頑張ります」と奮闘を誓っていた。



日本リーグに闘志を燃やすNTT北海道チーム

NTT北海道 バドミントン部来社

「来季はV目指す」

日本リーグで初の2位



11月3日から全国各地で開催された第12回バドミントン日本リーグの男子で初の2位に輝いたNTT北海道のメンバー＝写真＝が27日、道新スポーツにあいさつに訪れた。

過去3回Aクラスの3位（昭和60、61年、平成元年）から、待望の1ランクアップを成し遂げたうえ、今季新加入の古川英樹（旭工高）がリーグ新人賞を獲得しただけに、米山孝二監督も「本当によくやったと思いますよ」と選手とともに胸を張る。

来季は当然、優勝が目標となる。米山監督は「今年の自信を財産に来年はより一層練習に励んで頑張りたいです」と力強く話した。

[11・28] 道新スポーツ

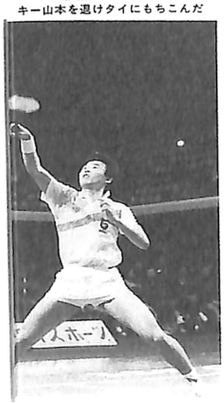
NTT北海道、地元で逆転勝ち

NTT北海道 2―1 北國銀行



▶新人・古川（右）は米山の好リードもあって好プレーを連発。ファイナルで羽田　武田を破り逆転勝利を呼び込んだ

▼エース伊藤がファイナルの末にルーキー山本を退けタイにもちこんだ





「なんと言っても監督のリードがよかったので、思い切りやれました。1年目でこんなに出させてもらえるなんて光栄です」

「江藤君とあそこまでやれて、これからの自信になりました。いい新人（古川）が入って来たので、刺激になったんでしょう」

日本リーグ 第13回大会

1991(平成3)年

〈メンバー〉

【オーナー】



高橋 徹

【部長】



阿部 隆

【副部長】



平山 三城

【監督兼選手】



米山 孝二

【コーチ兼選手】



伊藤 雅弘

【マネージャー兼選手】



加藤 学

【選手】



山尾 克則



田中 弘幸



角谷 淳一



工藤 忠和



古川 英樹

○第13回大会(平成3年)

チーム名	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	北國銀行	トヨタ自動車	日本電装	NTT北海道	NTT東北	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
トナミ運輸	● 0－3		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	6	15	6	0.714	2
NTT関西	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	15	6	0.714	3
北國銀行	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	○ 2－1	3	9	12	0.429	4
トヨタ自動車	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	8	13	0.381	5
日本電装	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	○ 2－1	2	8	13	0.381	6
NTT北海道	● 0－3	● 1－2	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 0－3		● 1－2	1	5	16	0.238	7
NTT東北	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		1	5	16	0.238	8

○ 男子の部（第1日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,500
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	北國銀行 0勝 1敗
複	米山孝二 山尾克則	2	14－17 15－ 5 15－ 1	1	山本明彦 武田 修
単	伊藤雅弘	0	14－18 2－15 —	2	羽田義仁
複	角谷淳一 古川英樹	2	15－18 15－ 8 15－ 7	1	羽田憲治 崎田健一

○ 男子の部（第2日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,500
成績	トヨタ自動車 1勝 1敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 1勝 1敗
複	古賀勝志 福田昭典	2	15－10 11－15 17－16	1	米山孝二 山尾克則
単	小本義久	2	13－15 15－ 3 18－14	1	伊藤雅弘
複	川本英明 城木夢高	1	15－10 14－18 15－18	2	角谷淳一 古川英樹

○ 男子の部（第3日）

会場	尼崎市記念公園総合体育館			入場者数	3,500
成績	NTT東京 3勝 0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	NTT北海道 1勝 2敗
複	松野修二 柳谷辰哉	2	15－ 3 15－ 6 —	0	米山孝二 山尾克則
単	江藤裕樹	2	15－ 6 15－ 4 —	0	伊藤雅弘
複	宮 康二 町田文彦	2	15－11 15－ 9 —	0	角谷淳一 古川英樹

○ 男子の部（第4日）

会場	岩見沢スポーツセンター			入場者数	2,300
成績	トナミ運輸 4勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	NTT北海道 1勝 3敗
複	木船栄士 岩渕公一	2	13－15 15－ 2 15－ 4	1	米山孝二 伊藤雅弘
単	濱北和彦	0	14－17 10－15 —	2	山尾克則
複	気谷篤人 大堀 均	2	15－ 9 15－10 —	0	角谷淳一 古川英樹

○ 男子の部（第5日）

会場	武蔵野市総合体育館			入場者数	1,200
成績	日本電装 2勝 3敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	NTT北海道 1勝 4敗
複	磯部昌弘 奥田貴士	2	13－18 15－ 7 15－12	1	角谷淳一 古川英樹
単	常山兼二	2	15－10 15－ 8 —	0	山尾克則
複	西川 勉 中川 健	2	10－15 15－ 8 15－10	1	米山孝二 伊藤雅弘

○ 男子の部（第6日）

会場	越谷市立総合体育館			入場者数	2,000
成績	NTT東北 1勝 5敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 1勝 5敗
複	海老沢孝一 柴崎直樹	0	3－15 6－15 —	2	伊藤雅弘 角谷淳一
単	加藤安史	2	15－ 8 15－12 —	0	山尾克則
複	原田利雄 柴崎信之	2	15－ 7 15－12 —	0	米山孝二 古川英樹

○ 男子の部（最終日）

会場	越谷市立総合体育館			入場者数	2,000
成績	NTT関西 5勝 2敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	NTT北海道 1勝 6敗
複	奥野 勉 今東 建	2	15－11 15－ 5 —	0	伊藤雅弘 角谷淳一
単	辻田泰昌	2	15－ 4 15－ 0 —	0	工藤忠和
複	村山友二 早戸敬雄	2	15－ 3 12－15 15－11	1	山尾克則 古川英樹

日本リーグ 第13回大会(男子)　1991(平成3)年

［10・29］道新スポーツ



1991年(平成3年)10月29日(火曜日)　道新スポーツ

NTT けが人続出も気力でカバー 昨年は2位

伊藤が左足じん帯、古川 右足半月板、工藤も血行障害…

やるしかない!!

来月3日からバドミントン日本リーグ

チーム一丸Aクラス死守

キャプテン山尾中心に闘志むき出し

［11・18］道新スポーツ



シングルスの山尾（NTT北海道）の活躍で一時は1―1のタイに追いついたが…

NTT地元戦飾れず Aクラス入り赤ランプ

バドミントン日本リーグ岩見沢大会

（17日 岩見沢スポーツセンター）

リーグ全7戦の4回戦。男女の各1戦が行われた。男子のNTT北海道は、3戦全勝と勢いに乗るトナミ運輸（富山）と対戦、トタル1―2で敗れ、地元戦を飾れなかった。これでNTT北海道は1勝3敗となり、Aクラス入りは厳しくなった。

【男子】

トナミ運輸＝4勝　2―1　NTT北海道＝1勝3敗

（単0―1、複2―0）

【女子】

ヨネックス＝3勝　2―1　NTT東京＝2勝2敗

（単1―0、複1―1）

昨年2位の実力を持ちながら、今リーグはエース・伊藤雅弘が左足故障に悩むNTT北海道。2回戦では昨年7位のトヨタ自動車に競り負けるなど、精彩を欠いている。

注目の地元戦では、シングルスを伊藤から主将・山尾克則にオーダー変更したが、創部3年と若く、勢いのあるトナミ運輸に今一歩及ばず黒星を喫した。

2複1単のうち1勝をあげたのは、オーダーの変わった山尾。もともとダブルスプレーヤーだが、ケガをおして頑張る伊藤を助けたいと、自らシングルスを申し出た。その意地もあったか、第1ゲームは6―11、第2ゲームも6―10と離されてから追い上げ、逆転する粘り勝ちだった。

「シングルスの練習は実質3日しかできなかったが、なんとか任務は果たせた」と、山尾は自分の試合内容には納得の表情。ただ、チームとしてはAクラス入りに赤ランプとあって「もっとチームワークを固めていかないと…」と話していた。

岩木		濱		気大
翔	2	北	0	谷
15	15	10	14	堀
4	2	14	17	2
2	15	1	17	15
1		2		10
伊米		山		9
藤山		尾		0
				角
				古
				川谷

［11・25］道新スポーツ

バドミントン 日本リーグ 第5戦

（24日 武蔵野市総合体育館）

NTT北海道●

男子のNTT北海道は、昨年5位の日本電装と対戦した。NTT北海道は第1ダブルスから試合の流れに乗りきれず、日本電装に0―3のストレート負けを喫し、リーグ成績を1勝4敗とした。30日の第6戦は、埼玉県越谷市でNTT東北と対戦する。

▽男子

日本電装		NTT北海道
2勝3敗	3―0	1勝4敗
（単1―0、複2―0）		
中西	磯部	奥田	常山	川村
2	2	2	2	
15 15 10	15 13	15 15	15 10	2
10 8 15	18	12 7	8 10	15
1	1		0	1
伊米	古角		山	伊米
藤山	川谷		尾	藤山

NTT関西　3―0　NTT北海道



▲村山／早戸と接戦を展開した北海道の山尾（右）／古川だったが、第3ゲーム11―15と1歩届かず

トヨタ自動車　2―1　NTT北海道



◀北海道の角谷（右）／古川は、1ゲーム先制されたが、ファイナルセティングの末、逆転勝ちで貴重なポイントを挙げた

日本リーグ 第14回大会(男子)

1992(平成4)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 川内 武


【部長】 牧野 哲也


【副部長】 平山 三城


【監督兼選手】 米山 孝二


【コーチ兼選手】 伊藤 雅弘


【マネージャー】 弓削 展子


【選手】 山尾 克則


角谷 淳一


工藤 忠和


古川 英樹


星 拓磨

○第14回大会(平成4年)

チーム名	NTT東京	NTT関西	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	トヨタ自動車	日本電装	北國銀行	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	21	0	1.000	1
NTT関西	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	6	14	7	0.667	2
トナミ運輸	● 0－3	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	16	5	0.762	3
日本ユニシス	● 0－3	● 1－2	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	3	8	13	0.381	4
NTT北海道	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	2	7	14	0.333	5
トヨタ自動車	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 2－1	2	7	14	0.333	6
日本電装	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		○ 2－1	2	6	15	0.286	7
北國銀行	● 0－3	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 1－2	● 1－2		1	5	16	0.238	8

○ 男子の部（第1日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,500
成績	トナミ運輸 1勝 0敗	3	単1 1－0 / 複2 2－0	0	NTT北海道 0勝 1敗
複	濱北和彦 / 木船栄士	2	15－8 / 15－4 / －	0	角谷淳一 / 古川英樹
単	本山秀昭	2	15－7 / 10－15 / 18－17	1	伊藤雅弘
複	気谷篤人 / 大堀均	2	15－7 / 15－1 / －	0	山尾克則 / 星拓磨

○ 男子の部（第2日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,500
成績	NTT北海道 1勝 1敗	2	単1 1－0 / 複1 1－1	1	北國銀行 0勝 2敗
複	米山孝二 / 山尾克則	2	15－4 / 7－15 / 15－8	1	羽田義仁 / 崎田健一
単	伊藤雅弘	2	15－4 / 15－7 / －	0	山本明彦
複	角谷淳一 / 古川英樹	0	12－15 / 12－15 / －	2	西島弘幸 / 武田修

○ 男子の部（第3日）

会場	八戸市東体育館			入場者数	800
成績	NTT関西 3勝 0敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT北海道 1勝 2敗
複	奥野勉 / 村山友二	2	15－11 / 15－10 / －	0	山尾克則 / 星拓磨
単	鈴木草麻生	0	13－15 / 11－15	2	伊藤雅弘
複	辻田泰昌 / 今井彰宏	2	15－9 / 15－8 / －	0	角谷淳一 / 古川英樹

○ 男子の部（第4日）

会場	様似町スポーツセンター			入場者数	2,000
成績	NTT北海道 2勝 2敗	2	単1 1－0 / 複1 1－1	1	日本電装 1勝 3敗
複	米山孝二 / 伊藤雅弘	2	15－10 / 15－7 / －	0	中川健 / 福田実
単	角谷淳一	2	15－8 / 15－3 / －	0	渡辺亮
複	山尾克則 / 古川英樹	0	10－15 / 9－15 / －	2	山内一志 / 磯部昌弘

○ 男子の部（第5日）

会場	西山公園体育館			入場者数	2,000
成績	NTT東京 5勝 0敗	3	単1 1－0 / 複2 2－0	0	NTT北海道 2勝 3敗
複	松野修二 / 柳谷辰哉	2	15－2 / 15－7 / －	0	角谷淳一 / 星拓磨
単	町田文彦	2	17－14 / 9－15 / 15－12	1	伊藤雅弘
複	宮康二 / 江藤裕樹	2	15－13 / 15－10 / －	0	山尾克則 / 古川英樹

○ 男子の部（第6日）

会場	会津体育館			入場者数	1,200
成績	トヨタ自動車 2勝 4敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT北海道 2勝 4敗
複	古賀勝志 / 福田昭典	2	17－16 / 15－12 / －	0	伊藤雅弘 / 角谷淳一
単	滝田智	1	15－8 / 10－15 / 11－15	2	古川英樹
複	川本英明 / 城木夢高	2	5－15 / 15－7 / 15－9	1	米山孝二 / 山尾克則

○ 男子の部（最終日）

会場	福島・会津体育館			入場者数	1,500
成績	日本ユニシス 3勝 4敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT北海道 2勝 5敗
複	峯岸康史 / 中川敏治	2	15－12 / 13－18 / 15－6	1	米山孝二 / 山尾克則
単	菊地修	0	11－15 / 9－15 / －	2	伊藤雅弘
複	大屋貴司 / 石井隆	2	15－11 / 15－8 / －	0	角谷淳一 / 古川英樹

日本リーグ 第14回大会(男子)

1992(平成4)年

[10・31] 道新スポーツ

NTT北海道 男子 Aクラス復帰へ

期待の星だ

旭工高出身のルーキー

バドミントン日本リーグあす1日開幕

今季のバドミントン日本リーグが、11月1日から始まる。本道唯一の1部チーム、男子のNTT北海道にとっては巻き返しの年になる。一昨年に準優勝を果たしながら昨年は主力3選手のケガもあり7位と不本意な成績に終わった。それだけにAクラス復帰はチーム全員の総意。ルーキー星拓磨(19、旭工高出)も加わり万全の態勢で今リーグに臨む。



初舞台に張り切るルーキーの星拓磨。山尾主将(左)のリードも巧みに実力も急上昇中

星の豪快なジャンピングスマッシュが、コートにさく裂した。2年先輩の古川英樹(20、旭工高出)のお株を奪う強烈なスマッシュの怒声が容赦なく星の身に降り注ぐ。「日本リーグはやしいプレーだが、その勢いは魅力十分。今季、Aクラス復帰を狙うチームのカギを握る新人だ。

練習中の星はよく怒られる。ダブルスを組むことになった山尾克則主将(28)から伸び伸びプレーできないと後々響きますからね。だから、今のうちに怒って委縮しないようにしているんです。頭張ってもわないけませんからね」。怒られるのも、それだけ頼りにされているからだ。

高校出ルーキーの出場は一昨年、新人賞を獲得した古川以来になる。プレーイングマネジャーとして年齢的にも運戦が苦しくなった米山孝二監督(36)と予行

魅力ある強烈スマッシュ

プレッシャー感じるも勝つ気十分

して、ダブルス戦に起用する作戦。米山監督は「まだ雑だけど、スマッシュにかけてはいいものを持っている。日本リーグで自分の名前を売るくらいの気持ちでガンガンやってほしいね」と期待する。

全国高校選抜で3位になったこともある素質の持ち主。「まさか自分が出るとは思ってもみなかった。プレッシャーを感じてしまう」とまだまだ新人らしさが出てしまう。「でも、気合を入れ直して頑張りま米山孝二監督(36)と予行す。先輩に迷惑かけるのは嫌」。

NTT北海道の女子は、88年に部員2人でスタート。翌年には正式に女子部として活動を始めた。現在、部員は6人に増え今年の全道実業団で3連覇を達成。

一昨年は新人古川の奮戦で初のリーグ戦優勝を逃げたNTT北海道。新人効果分かっていますが、どんなことがあっても勝ってみせたい」といたって元気。

全日本実業団では2年連続ベスト8に入

(岩田 浩之)

◆ほし・たくま 昭和48年6月8日、旭川市出身。小学4年から競技を始め、全道小学大会では2連覇を達成。旭川春光台中2年の全道新人戦は複で優勝した。また、旭工高2年の全国選抜複で3位の成績を収めた。今季は、全道社会人の複で米山監督と組みベスト4が最高の成績。夏過ぎから急速に力をつけてきた選手だ。171センチ、64キロ。

今季から2部登場の女子 「1部昇格目指します」

女子も頑張ります。N…っている。

今年2月の入れ替え戦にTT北海道の女子チームは勝って、2部リーグ(8チーム)入りを果たした女子チームにとって、今回が初のリーグ戦。小笠原満1将は「大きな目標が出来てみんな張り切っています。1年でも早く1部昇格を目指しますと張り切っていた。



2部リーグに初挑戦。ステップアップを目指す女子チーム

NTT北海道の試合日程

日	場所	対戦相手
1日	高岡	輪西
3日	八戸	運行関係
8日	様似	東自ユニミ銀
15日	長会	TT電タユ
23日	岡津	ナTT本
28日	若若	北NTT日
29日	松松	京動車シス

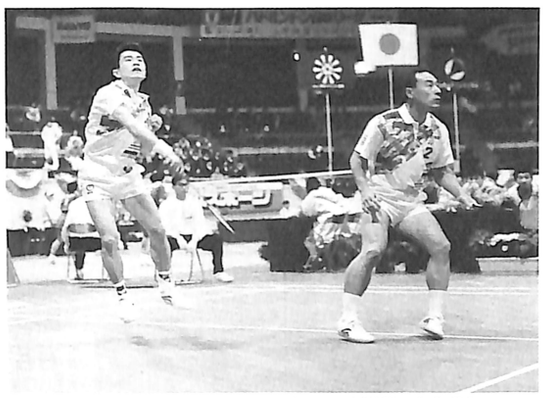
NTT日本リーグ北海道の成績

回	大会	順位
第2回	(80)	6位
第3回	(81)	5位
第4回	(82)	6位
第5回	(83)	4位
第6回	(84)	6位
第7回	(85)	3位
第8回	(86)	5位
第9回	(87)	4位
第10回	(88)	3位
第11回	(89)	2位
第12回	(90)	2位
第13回	(91)	1位

※第2回大会から出場

ベテラン健在、米山、伊藤で1勝もぎ取る

NTT北海道2－1北國銀行



▲山尾(左)とのダブルスで、1年振りの大舞台のコートに立った米山監督だったが、ダブルスの試合巧者ぶりを発揮し、羽田義/崎田を2－1で振り切った



▶開幕戦では新人の本山にあと一歩としながら屈した伊藤だったが、そこはベテラン、気持ちを切り替え、この日は完勝

北國銀行には相性のいい北海道。7位と低迷した昨年も4位と健闘した北國銀行から、唯一の1勝をしっかり挙げている。今回は結果的には2－1だったが、ストレートの快勝。監督兼任の米山が山尾との複で羽田義/崎田をファイナルで下し、ベテラン健在を大きくアピール。エースの伊藤が山本を4本、7本と寄せ付けずに勝負を決めた。

北海道、2勝目でAクラスに望み

NTT北海道2－1日本電装

NTT北海道が、地元で日本電装を下し、うれしい2勝目。混沌とする下位争いから一歩抜け出し、単独4位に浮上した。勝負は第1複の米山/伊藤－福田/中川。第1ゲームは終盤10オールまで競ったが、この勝負どころで米山/伊藤が一気に飛し、15－10で先行すると、第2ゲームは15－7と圧勝。角谷が渡辺をストレートで下し、日本電装の追撃を断った。



▲シングルスのエース、伊藤(左)をあえて第1複に起用し勝負、米山監督とのこのオーダーが当たって北海道がストレートで快勝

◀地元の声援に乗って、角谷が渡辺にまず1本で快勝、ストレートで勝負を決めた

日本リーグ 第15回大会(男子)　1993(平成5)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 川内　武

【部長】 牧野　哲也

【副部長】 平山　三城

【監督兼選手】 米山　孝二

【コーチ兼選手】 伊藤　雅弘

【マネージャー】 臼井　展子

【選手】 角谷　淳一　工藤　忠和　村井　秀樹　古川　英樹　星　拓磨

○第15回大会(平成5年)

チーム名	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	日本ユニシス	NTT東北	NTT北海道	日本電装	トヨタ自動車	勝点	取得点A	失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	21	0	1.000	1
トナミ運輸	● 0－3		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	17	4	0.810	2
NTT関西	● 0－3	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	5	14	7	0.667	3
日本ユニシス	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	4	10	11	0.476	4
NTT東北	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	6	15	0.286	5
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	2	6	15	0.286	6
日本電装	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	1	6	15	0.286	7
トヨタ自動車	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 0－3		0	4	17	0.190	8

○ 男子の部（第1日）

会場	太田市運動公園市民体育館			入場者数	2,300
成績	日本ユニシス 1勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 0勝 1敗
複	中川敏治 / 大谷知昌	2	18－16 / 15－10	0	米山孝二 / 星拓磨
単	山田秀樹	2	15－4 / 15－9	0	伊藤雅弘
複	石井隆 / 大屋貴司	2	15－2 / 10－15 / 15－4	0	村井秀樹 / 古川英樹

○ 男子の部（第2日）

会場	札幌市中島体育センター別館			入場者数	2,073
成績	トナミ運輸 2勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 0勝 2敗
複	木船栄士 / 岩渕公一	2	12－15 / 18－16 / 15－11	1	村井秀樹 / 古川英樹
単	本山秀昭	2	3－15 / 18－13 / 18－13	1	伊藤雅弘
複	気谷篤人 / 大堀均	2	15－5 / 15－3	0	角谷淳一 / 星拓磨

○ 男子の部（第3日）

会場	宝塚市立スポーツセンター総合体育館			入場者数	2,500
成績	NTT関西 3勝 0敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 0勝 3敗
複	辻田泰昌 / 今井彰宏	2	15－7 / 15－3	0	角谷淳一 / 星拓磨
単	鈴木草麻生	2	15－12 / 15－6	0	伊藤雅弘
複	村山友二 / 早戸敬雄	1	15－10 / 4－15 / 4－15	2	村井秀樹 / 古川英樹

○ 男子の部（第4日）

会場	長岡市市民体育館			入場者数	2,000
成績	NTT東京 4勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 0勝 4敗
複	松野修二 / 柳谷辰也	2	15－0 / 15－9	0	角谷淳一 / 星拓磨
単	町田文彦	2	10－15 / 15－10 / 15－9	1	伊藤雅弘
複	宮康二 / 江藤裕樹	2	8－15 / 15－11 / 18－15	1	村井秀樹 / 古川英樹

○ 男子の部（第5日）

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,500
成績	NTT東北 2勝 3敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT北海道 0勝 5敗
複	韮沢伸幸 / 内村剛	2	9－15 / 15－11 / 15－2	1	村井秀樹 / 古川英樹
単	加藤安史	0	10－15 / 4－15	2	伊藤雅弘
複	原田利雄 / 柴崎信之	2	14－17 / 15－2 / 15－6	1	角谷淳一 / 星拓磨

○ 男子の部（第6日）

会場	高槻市立総合スポーツセンター			入場者数	1,500
成績	NTT北海道 1勝 5敗	2	単1 0 / 複1 1	1	日本電装 1勝 5敗
複	米山孝二 / 角谷淳一	0	6－15 / 3－15	2	中川健 / 吉田義利
単	伊藤雅弘	2	15－7 / 15－18 / 15－10	1	磯部昌弘
複	村井秀樹 / 古川英樹	2	15－11 / 15－10	0	山内一志 / 平井肇

○ 男子の部（最終日）

会場	高槻市立総合スポーツセンター			入場者数	2,300
成績	NTT北海道 2勝 5敗	2	単1 0 / 複1 1	1	トヨタ自動車 0勝 7敗
複	米山孝二 / 角谷淳一	0	7－15 / 7－15	2	古賀勝志 / 福田昭典
単	伊藤雅弘	2	15－2 / 15－7	0	橋本宗士
複	村井秀樹 / 古川英樹	2	15－5 / 15－8	0	城木夢高 / 滝田智

日本リーグ 第15回大会(男子)

1993(平成5)年

［11・2］道新スポーツ

あすからバドミントン男子日本リーグ



初の日本リーグに臨む村井。チーム上位進出と新人賞取りへやる気満々

古川との新ペアでダブルスに出場

NTT北海道の試合日程

対戦日	相手	試合会場
11月3日	日本ユニシス	市川市
日	日本ユニシス	市川市
日	NTT関西	馬場町
日	NTT東京	埼玉県
日	NTT東北	群馬県
日	日本電装	長岡市
日	トヨタ自動車	豊橋市
23日	日本電装	新潟県
25日	トヨタ自動車	高槻市
26日	トヨタ自動車	長岡

村井早くも新人賞取り宣言

3年ぶりAクラス奪回へ

NTT北海道に強力な〝新鮮力〟

バドミントン男子日本リーグは3日、群馬県太田市で開幕する。本道男子のNTT北海道が3年ぶりのAクラス（4位以内）入りを目指し2日、開幕戦の会場、群馬県へ出発する。メンバーはリーグ8チーム中最少の7人で、おまけに主将の角谷浮一がけがを押しての出場と苦しい台所事情だが、米山孝二監督を中心に結束は堅い。

威力満点のスマッシュ

全日本実業団でダブル8強の活躍

悲願のAクラス奪回へ、第力な新人が日本リーグにデビューする。今年、強豪・日大から新人賞を狙っています」と入社した村井秀樹（23、札幌第一高出身）。4月の全日本実業団でのデビューを果たし、チームから繰り出すスマッシュは威力十分。「初出場だけど、緊張はない。自然体でやれると思う」と頼もしい。

初めての日本リーグも、その表情に緊張感は全く無く、学生時代と同じくらいの明るさを感じさせる。また、本格的に組んで2シーズン目になりました」とすっかり月あまりたが、春スマッシュは23日札幌、6月の全日本実業団では、ペア練習をしており本人は焦っていない。古川は年齢的にはほぼ年下だが「僕自身も調子がいいし、組みやすいです」。ダブルスの浮沈にかかわるだけに、二人の好調は頼もしい材料だ。全部員7人の〝7番目の男〟は大舞台で大暴れしてくれそうだ。

（松木 純）

NTT北海道メンバー

名前	年齢	身長	体重	利き腕
千須津	26	165	65	右
兼子	20	170	60	右
齋藤	21	171	64	右
山藤	36	165	60	右
谷浮	31	171	64	右
宗像	28	175	70	右
和田	25	170	65	右
原	23	171	60	右
米伊	20	171	60	右
角工	21	175	70	右
村古	20	171	64	右
星				

NTT北海道の過去14年の成績

回	順位	回	順位	回	順位	回	順位	回	順位	回	順位	回	順位
6	5	6	4	6	3	5	4	3	5	4	5	5	?
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)
第1回	(1部)	第2回	(1部)	第3回	(1部)	第4回	(1部)	第5回	(1部)	第6回	(1部)	第7回	(1部)

※参加リーグ

悪夢の連敗ロード、最後に脱出

第15回日本リーグ ★★★ NTT北海道 6位 [男子] 全16チーム総評







第1戦 ●日本ユニシス（0－3）
第2戦 ●トナミ運輸（0－3）
第3戦 ●NTT関西（1－2）
第4戦 ●NTT東京（0－3）
第5戦 ●NTT東北（1－2）
第6戦 ○日本電装（2－1）
第7戦 ○トヨタ自動車（2－1）

・勝ち点…2（28.5%）
・マッチ数…6（28.6%）
・シングルス…3勝4敗
・ダブルス…3勝11敗
・ゲーム数…19（37.3%）
・ポイント…544（45.7%）
・本誌選定MVP…伊藤雅弘

「1勝目まで、本当に長かったですよ」。全試合を終えて、米山監督は初めてホッとした表情を見せた。11月3日の開幕戦から23日の5戦目まで続いた悪夢の連敗ロード。リーグ戦の試合順序は昨年の成績で決まるため、スタートから上位4強との連戦を強いられて勢いに乗りそこなったのだ。

地元で迎えた第2戦のトナミ運輸戦も善戦むなしく敗れ、ようやく初白星にありついたのは、6戦目のデンソー戦。第1複を失い、単の伊藤もファイナルにもつれるピンチ。だが、ここで伊藤はエースの意地をみせた。ねばる機部を10本で振り切り、同点。勝負の第2複は、古川／村井が苦しみながらもストレート勝ちを収めた。

最終日のトヨタ戦でも伊藤がストップ、古川／村井が決勝点をあげるパターンで2勝目をマーク、辛くも入れ替え戦を免れた。

新人の村井は残3勝4敗とますまずのデビュー。雪辱りをはかるチームは、来年も早大の佐藤を補強し、Aクラス復帰をねらう。

［11・8］道新スポーツ

横っ飛びで必死にシャトルを拾うエース伊藤



NTT北海道 あぁ2連敗

伊藤、エースの意地見せた

五輪代表・本山と大接戦

バドミントン日本リーグ 札幌大会

（7日 札幌中島体育センター別館）

2000人を超える観客の集まる中、男女の1試合ずつが行われた。男子は地元・NTT北海道が3ゲーム中2ゲームがファイナルセットにもつれ込む熱戦だったが、0－3でトナミ運輸に惜敗しリーグ2連敗。地元で初勝利は挙げられなかった。女子は三洋電機がヨネックスを2－1で下し開幕2連勝を果たした。

▽男子
トナミ運輸 3－0 NTT北海道
（単1－0、複2－0）
木船・岩渕 15 18 12 1－2 11 16 15 1 村井・古川
本山・大谷 2 18 18 3－0 13 13 15 1 伊藤・堀
（単1－2、複2－0）

▽女子
三洋電機 2－1 ヨネックス

3日の開幕戦、日本ユニシスに0－3で敗れたNTT北海道。この日も結果的には0－3だったが、内容は地元ファンを大いに沸かせるものだった。

特に、頑張ったのがエース・伊藤雅弘だ。バルセロナ五輪代表の本山秀昭に対し第1セット15－3、その後の2セットもセッティングに持ち込む大接戦。ともに本山にとられたが、エースの意地はきっちり見せた。

伊藤は10月の東四国国体で腰を痛め、その後はほとんど毎日、はり治療に通っている。来年2月で32歳を迎え、体力的には全盛期を過ぎ、そこは百戦錬磨。スピードプラス技で本山に対抗した。

「腰の痛みもなく、いい試合ができた。でも悔しいね」と控室で話す伊藤。しかし、第1ダブルスで若手の古川・村井組がファイナルセットまで持ち込むなど、チーム状態は上向き。3戦目以降に明るい見通しが出てきた。

リーグは残り5戦。次のNTT関西、続くNTT東京は厳しい戦いになりそうだが、残り3戦は十分勝機がある。「なんとしても昨年の5位は確保しなければ」と伊藤はきっぱり。

来年は伊藤の後継者にもなりそうなインタハイ金メダリストの佐藤雅伸（早大4年＝札幌第一高）の入社が内定、「来年はコーチ、本格的に…」と笑うが、まだまだ頼りになるエースであることは間違いない。

（松木 純）

日本リーグ 第16回大会(男子)

1994(平成6)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】川内 武


【部長】牧野 哲也


【副部長】木村 敏男


【監督兼選手】伊藤 雅弘


【コーチ兼選手】角谷 淳一


【マネージャー】臼井 展子


【選手】工藤 忠和


村井 秀樹


古川 英樹


星 拓磨


佐藤 嘉伸

○日本リーグ'94(第16回大会(平成6年))

チーム名	NTT東京	NTT関西	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	NTT東北	ベスト電器	日本電装	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT東京		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
NTT関西	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	● 1－2	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	17	4	0.810	2
トナミ運輸	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	14	7	0.667	3
日本ユニシス	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	4	10	11	0.476	4
NTT北海道	● 0－3	○ 2－1	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	● 1－2	○ 3－0	3	10	11	0.476	5
NTT東北	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	2	7	14	0.333	6
ベスト電器	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2		● 1－2	1	4	17	0.190	7
日本電装	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 0－3	○ 2－1		1	3	18	0.143	8

○ 男子の部(第1日)

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,000
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単0 － 1 複2 － 0	1	NTT関西 0勝 1敗
複	村井秀樹 佐藤嘉伸	2	16－17 18－14 15－11	1	辻田泰昌 今井彰宏
単	古川英樹	1	12－15 15－4 1－15	2	鈴木草麻生
複	伊藤雅弘 角谷淳一	2	15－9 15－9 －	0	村山友二 早戸敬雄

○ 男子の部(第2日)

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,700
成績	NTT東京 2勝 0敗	2	単0 － 1 複2 － 0	1	NTT北海道 1勝 1敗
複	松野修二 柳谷辰哉	2	15－7 15－9 －	0	村井秀樹 佐藤嘉伸
単	須賀隆弘	0	6－15 7－15 －	2	古川英樹
複	江藤裕樹 町田文彦	2	15－11 15－3 －	0	伊藤雅弘 角谷淳一

○ 男子の部(第3日)

会場	松江市総合体育館			入場者数	
成績	トナミ運輸 3勝 0敗	3	単1 0 複2 0	0	NTT北海道 1勝 2敗
複	気谷篤人 大堀均	2	15－5 5－15 17－15	1	村井秀樹 佐藤嘉伸
単	本山秀昭	2	15－3 12－15 15－12	1	古川英樹
複	濱北和彦 岩渕公一	2	18－16 15－11 －	0	伊藤雅弘 角谷淳一

○ 男子の部(第5日)

会場	町田市立総合体育館			入場者数	800
成績	ベスト電器 1勝 4敗	2	単0 － 1 複2 － 0	1	NTT北海道 2勝 3敗
複	許嵐 石田隆之	2	15－4 15－18 15－11	1	村井秀樹 佐藤嘉伸
単	松浦二郎	0	8－15 4－15 －	2	古川英樹
複	藤原瑛佳 水島浩一	2	15－2 17－15 －	0	伊藤雅弘 角谷淳一

○ 男子の部(第6日)

会場	坂出市立体育館			入場者数	1,000
成績	日本ユニシス 4勝 2敗	2	単1 － 0 複1 － 1	1	NTT北海道 2勝 4敗
複	徐彪 大谷知昌	1	13－15 15－9 7－15	2	村井秀樹 佐藤嘉伸
単	山田秀樹	2	15－10 15－13 －	0	古川英樹
複	石井隆 大屋貴司	2	15－7 15－10 －	0	伊藤雅弘 角谷淳一

○ 男子の部(最終日)

会場	坂出市立体育館			入場者数	1,300
成績	NTT北海道 3勝 4敗	2	単1 0 複1 1	1	NTT東北 2勝 5敗
複	伊藤雅弘 角谷淳一	0	6－15 6－15 －	2	韮沢伸幸 内村剛
単	古川英樹	2	18－16 15－7 －	0	金城勉
複	村井秀樹 佐藤嘉伸	2	15－10 15－7 －	0	原田利雄 柴崎信之

日本リーグ 第16回大会(男子)　1994(平成6)年



来月5日からバドミントン日本リーグ

NTT北海道

4年ぶり

Aクラスへの切り札

佐藤

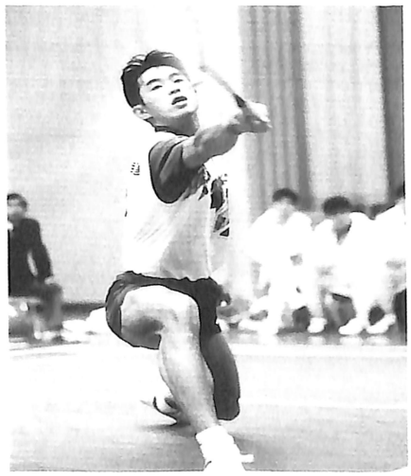
大器

早大―札第一高出

藤伊監督「素質は全日本級」

［10・30］道新スポーツ

波乱に満ちた再スタート



東京の須賀を破るなど久々に気を吐いた5年前の新人賞男・古川。まだ22歳、若返りをはかるチームには心強い存在だ



早大卒のルーキー佐藤（右）は、2年目の村井とのダブルスで4勝3敗と勝ち越し、新人賞も獲得した



今年から監督も兼ねる伊藤（左）は鳴谷と組んだが、苦手のダブルスとあって2勝5敗に終わった

第16回日本リーグ 男子 NTT北海道 第5位

第1戦　○NTT関西（2―1）
第2戦　●NTT東京（1―2）
第3戦　●トナミ運輸（0―3）
第4戦　○日本電装（3―0）
第5戦　●ベスト電器（1―2）
第6戦　●日本ユニシス（1―2）
第7戦　○NTT東北（2―1）

・勝ち点…3（42.8%）
・マッチ数…10（47.6%）
・シングルス…4勝3敗
・ダブルス…6勝8敗
・ゲーム数…24（50.0%）
・ポイント…585（49.7%）
・本誌選定MVP…古川英樹

エース伊藤が監督も兼ねる新体制でのスタートは、波乱に満ちた展開の末、昨年より一歩前進の5位。伊藤監督も「最初としてはいいほうだと思います」と振り返ったとおり、古川の復活、新人佐藤の活躍と、若返りをはかるチームにとって収穫は多かった。

第1戦で、いきなり関西から勝利。トップに立った2年目の村井とルーキー佐藤のペアが、辻田／今井に敗北寸前から逆転した1勝が大きかった。続く2戦目ではシングルスの古川が、東京の須賀から金星をあげる。ここ数年伸び悩んでいた5年前の新人賞男、古川だが、今年は本来のシングルスに専念できたことで通算4勝をマークする健闘ぶり。「まぐれです」と口ではいうが、再浮上への手応えはつかんだはずだ。

対照的に、苦手のダブルスを務めた伊藤は不振。第5戦でベスト電器にまさかの初白星を献上してしまったが「うちは若さが売り。年々よくなっていくはず」と、来季の飛躍を期していた。

20

日本リーグ 第17回大会(男子)

1995(平成7)年

〈メンバー〉


【オーナー】 涌井 裕


【部長】 月尾 修


【副部長】 木村 敏男


【監督兼選手】 伊藤 雅弘


【マネージャー兼選手】 工藤 忠和


【選手】 村井 秀樹


斉藤 一裕


古川 英樹


星 拓磨


佐藤 嘉伸

○日本リーグ'95(第17回大会(平成7年))

チーム名	NTT東京	日本ユニシス	YKK九州	ベスト電器	NTT東北	トナミ運輸	NTT北海道	NTT関西	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
NTT東京		●1－2	○3－0	○2－1	○3－0	○2－1	○3－0	○3－0	6	17	4	0.810	1
日本ユニシス	○2－1		●1－2	○2－1	○3－0	○2－1	○3－0	○3－0	6	16	5	0.762	2
YKK九州	●0－3	○2－1		○2－1	○2－1	○2－1	○2－1	○2－1	6	12	9	0.571	3
ベスト電器	●1－2	●1－2	●1－2		○2－1	●0－3	○2－1	○3－0	3	10	11	0.476	4
NTT東北	●0－3	●0－3	●1－2	●1－2		○2－1	○2－1	○2－1	3	8	13	0.381	5
トナミ運輸	●1－2	●1－2	●1－2	○3－0	●1－2		●1－2	○3－0	2	11	10	0.524	6
NTT北海道	●0－3	●0－3	●1－2	●1－2	●1－2	○2－1		○3－0	2	8	13	0.381	7
NTT関西	●0－3	●0－3	●1－2	●0－3	●1－2	●0－3	●0－3		0	2	19	0.095	8

○男子の部(第1日)

会場	熊本県立総合体育館			入場者数	3,000
成績	NTT東京 1勝 0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	NTT北海道 0勝 1敗
複	松野修二 久保田雄三	2	15－8 15－3 —	0	斉藤一裕 星 拓磨
単	須賀隆弘	2	15－12 10－15 18－17	1	古川英樹
複	町田文彦 渡辺清一	2	15－3 12－15 15－9	1	村井秀樹 佐藤嘉伸

○男子の部(第2日)

会場	熊本県立総合体育館			入場者数	3,300
成績	ベスト電器 1勝 1敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 0勝 2敗
複	沙海平 石田隆之	2	4－15 15－11 15－10	1	古川英樹 斉藤一裕
単	清水文武	2	15－10 15－0 —	0	星 拓磨
複	藤原琪佳 棟居秀行	0	9－15 7－15 —	2	村井秀樹 佐藤嘉伸

○男子の部(第3日)

会場	幸手市民文化体育館			入場者数	
成績	日本ユニシス 2勝 1敗	3	単1 0 複2 0	0	NTT北海道 0勝 3敗
複	石井隆 大谷知昌	2	18－16 15－9 —	0	村井秀樹 佐藤嘉伸
単	山田秀樹	2	15－11 15－9 —	0	古川英樹
複	徐彪 中條起希	2	15－2 15－12 —	0	斉藤一裕 星 拓磨

○男子の部(第4日)

会場	北海道東海大学体育館			入場者数	2,500
成績	YKK九州 3勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 0勝 4敗
複	村中陽介 リオニー・マイナキー	2	15－8 15－4 —	0	斉藤一裕 星 拓磨
単	霜上和宏	2	15－7 15－2 —	0	古川英樹
複	田上厚志 花田政文	1	15－11 3－15 8－15	2	村井秀樹 佐藤嘉伸

○男子の部(第6日)

会場	新潟市体育館			入場者数	
成績	NTT東北 3勝 2敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 0勝 5敗
複	韮沢伸幸 内村剛	0	9－15 2－15 —	2	村井秀樹 佐藤嘉伸
単	金城勉	2	10－15 18－13 15－9	1	古川英樹
複	柴崎信之 関根靖則	2	15－8 15－13 —	0	斉藤一裕 星 拓磨

○男子の部(第7日)

会場	守口市民体育館			入場者数	1,500
成績	NTT北海道 1勝 5敗	2	単1 0 複1 1	1	トナミ運輸 2勝 4敗
複	村井秀樹 佐藤嘉伸	2	15－12 15－8 —	0	気谷篤人 今井彰宏
単	古川英樹	2	15－8 7－15 15－6	1	谷内貴昭
複	斉藤一裕 星 拓磨	0	7－15 12－15 —	2	今井紀夫 鈴木草麻生

○男子の部(最終日)

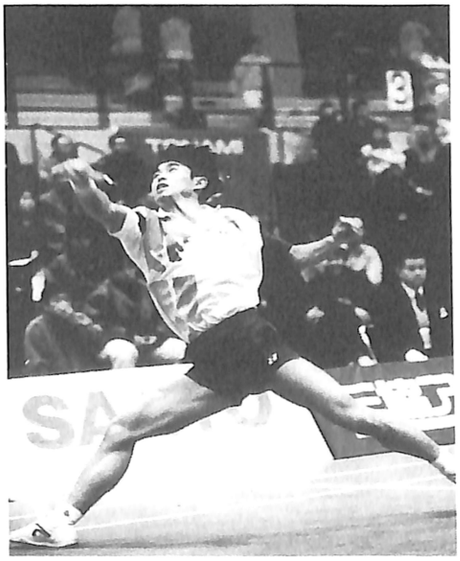
会場	守口市民体育館			入場者数	2,500
成績	NTT北海道 2勝 5敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	NTT関西 0勝 7敗
複	村井秀樹 佐藤嘉伸	2	13－18 15－11 15－11	1	渡辺哲義 岸田明宏
単	古川英樹	2	13－18 15－8 15－7	1	植村昭彦
複	斉藤一裕 星 拓磨	2	15－11 15－9 —	0	村山友二 早戸敬雄

日本リーグ 第17回大会(男子)　1995(平成7)年

今年も最後でしぶとさ発揮



5連敗と苦しい状況のなか4戦目から4連勝、通算5勝をあげてエースダブルスの自覚を見せた村井（右）／佐藤



5連敗から2連勝とチームの成績に足並みをそろえる結果を残した古川。トナミ戦ではシングルスで連敗ストップのポイントをあげた



ともに開幕から6連敗していた斉藤（右）／星も最後の関西戦でリーグ初勝利。ついに健闘が報われた

第17回 日本リーグ 男子
NTT北海道 第7位

第1戦　●NTT東京（0－3）
第2戦　●ベスト電器（1－2）
第3戦　●日本ユニシス（0－3）
第4戦　●YKK九州（1－2）
第5戦　●NTT東北（1－2）
第6戦　○トナミ運輸（2－1）
第7戦　○NTT関西（3－0）

・勝ち点…2（28.5%）
・マッチ数…8（38.1%）
・シングルス…2勝5敗
・ダブルス…6勝8敗
・ゲーム数…20（40.0%）
・ポイント…569（47.5%）
・本誌選定MVP… 村井秀樹

第5戦まで黒星が並び最下位の危機に瀕したが、最後に連勝。入れ替え戦をなんとか免れた。

今年から指導に専念している伊藤監督は、さすがに試合後安堵の表情を見せたが、勝利を得られたのはたまたま相手が不調だったためで、「本来なら最下位はうちだったと思うと恐い」という。

7位が確定したのは最終日、星一つ差で追う関西との直接対決だった。勝負の第1複で村井／佐藤が接戦をものにした時点で順位が決まり、古川、そして斉藤／星までが勝利を得た。

最後は大いに盛り上がったチームだが「初めのダブルスを落としていたら逆に0－3だったかも」と伊藤監督は気を引き締める。ここ数年5～6位をキープしてきたが、今や下からの突き上げが激しくのんびりしてはいられない。

村井／佐藤はミスをなくすこと、そして古川にはもっとプレッシャーに強くなってほしいと、来季へ向けて早くも熱く語る伊藤監督だった。

22

日本リーグ 第18回大会(男子)

1996(平成8)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】



涌井　裕

【部長】



月尾　修

【副部長】



木村　敏男

【監督兼選手】



伊藤　雅弘

【コーチ兼選手】



村井　秀樹

【マネージャー】



工藤　忠和

【選手】



古川　英樹



水澤　直哉



吉岡　秀樹



斉藤　一裕



星　拓磨



佐藤　嘉伸

○日本リーグ'96(第18回大会(平成8年))

チーム名	NTT東京	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	YKK九州	NTT関西	ベスト電器	NTT東北	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT東京		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	7	18	3	0.857	1
トナミ運輸	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	● 1－2	5	13	8	0.619	2
日本ユニシス	● 1－2	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	4	14	7	0.667	3
NTT北海道	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		○ 2－1	● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	4	11	10	0.524	4
YKK九州	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	11	10	0.524	5
NTT関西	● 1－2	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	3	8	13	0.381	6
ベスト電器	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	5	16	0.238	7
NTT東北	● 0－3	○ 2－1	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		1	4	17	0.190	8

○ 男子の部（第1日）

会場	三協アルミスポーツセンター			入場者数	2,000
成績	トナミ運輸 1勝 0敗	2	単1 15－10 / 複1 15－1	1	NTT北海道 0勝 1敗
複	万 政文 / 今井紀夫	0	11－15 / 12－15	2	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	鈴木草麻生	2	15－5 / 17－14	0	古川英樹
複	今井彰宏 / 大山宏司	2	15－11 / 15－4	0	星 拓磨 / 吉岡秀樹

○ 男子の部（第2日）

会場	三協アルミスポーツセンター			入場者数	3,500
成績	NTT東京 2勝 0敗	3	単1 15－10 / 複2 15－0	0	NTT北海道 0勝 2敗
複	片山卓哉 / 久保田雄三	2	15－6 / 18－14	0	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	町田文彦	2	15－2 / 15－8	0	古川英樹
複	太田慎二 / 竹鼻拓也	2	15－7 / 15－12	0	星 拓磨 / 吉岡秀樹

○ 男子の部（第3日）

会場	宮城県ポーツセンター			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝 2敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT東北 0勝 3敗
複	村井秀樹 / 佐藤嘉伸	2	15－10 / 15－5	0	内村 剛 / 関根靖則
単	古川英樹	2	15－11 / 15－7	0	金城 勉
複	星 拓磨 / 吉岡秀樹	2	15－6 / 18－14	0	寺島剛志 / 柴崎信之

○ 男子の部（第4日）

会場	町田市立総合体育館			入場者数	1,000
成績	NTT北海道 2勝 2敗	2	単1 15－10 / 複1 15－11	1	YKK九州 2勝 2敗
複	村井秀樹 / 佐藤嘉伸	0	8－15 / 8－15	2	リオニー・マイナキー / 花田政文
単	古川英樹	2	15－12 / 15－5	0	霜上和宏
複	星 拓磨 / 吉岡秀樹	2	15－5 / 15－6	0	古井博高 / 田上良治

○ 男子の部（第5日）

会場	町田市立総合体育館			入場者数	1,200
成績	NTT北海道 3勝 2敗	2	単1 15－10 / 複1 15－11	1	日本ユニシス 3勝 2敗
複	村井秀樹 / 佐藤嘉伸	2	15－12 / 15－12	0	大谷知昌 / 林 貴昭
単	古川英樹	2	15－9 / 15－12	0	山田秀樹
複	星 拓磨 / 吉岡秀樹	1	4－15 / 18－14 / 6－15	2	徐 彪 / 石井 隆

○ 男子の部（第6日）

会場	北海道立札幌中島体育センター別館			入場者数	
成績	NTT北海道 4勝 2敗	2	単1 0 / 複1 1	1	ベスト電器 1勝 5敗
複	村井秀樹 / 佐藤嘉伸	2	15－13 / 7－15 / 15－12	1	沙 海平 / 清水文武
単	古川英樹	2	15－10 / 15－10	0	五十嵐一智
複	星 拓磨 / 吉岡秀樹	0	14－17 / 14－18	2	藤原琰佳 / 棟居秀行

○ 男子の部（最終日）

会場	新田町文化会館総合体育館			入場者数	1,500
成績	NTT関西 3勝 4敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT北海道 4勝 3敗
複	岸田明宏 / 平井達也	2	6－15 / 15－8 / 15－7	1	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	大谷誠二	0	7－15 / 4－15	2	古川英樹
複	村山友二 / 渡辺哲義	2	15－9 / 17－18 / 15－11	1	星 拓磨 / 吉岡秀樹

日本リーグ 第18回大会(男子)　1996(平成8)年

［12・6］道新スポーツ

8日に札幌で3年ぶりバドミントン日本リーグ

決めるゾ Aクラス

NTT北海道

バドミントン日本リーグの男子NTT北海道ーベスト電器、女子の三洋電機ー三菱電機の2試合が8日、札幌中島体育センター別館で行われる。地元NTT北海道は5戦を消化して現在4位で、3年ぶりの札幌開催でベスト電器を下せばAクラスはほぼ確実となる。それだけに、選手は張り切っている。

2連敗から3連勝。NTT北海道が見事な粘り腰で、Aクラス入りのチャンスを手繰り寄せた。8日のベスト電器に勝てば4勝2敗、最終戦のNTT関西戦(22日、群馬県)も取ればやくエンジンがかかり9出し3位の可能性もあるだけに「何としても札幌では3ー0で勝ちたい。そして最終戦を逆えたい」と伊藤雅弘監督の鼻息も荒くなってきた。

1、2戦で現在5連勝中のトナミ運輸、NTT東京に連敗、3戦目のNTT東北戦を3ー0で奪い、よう3位の可能性もあるだけにた。シングルスの古川英樹が3連勝でエースの役目をきっちりとなし、第1ダブルスの村井秀樹・佐藤雅伸組が白大、佐藤が旧大と違うが、出身高校はともに札第一。村井が1年先輩で、ペアを組んで3年目。今年は第2ダブルスの吉岡秀樹・星拓勝組も、村井組が終としたYKK九州戦で1勝を挙げるなど、こちらも2勝1敗と健闘。チーム全体の力で盛り返した3連勝だった。

3年ぶりの札幌開催で、特に気合の入るのが村井・佐藤組だ。出身大学は村井



地元札幌でのベスト電器戦に向け練習にも熱がこもる村井(手前)と佐藤

調子上々 札第一高出身ペア
村井・佐藤 試合心待ち

選手権では初のベスト8入りと波に乗っている。

村井は「今年はある程度目標も達成していますし、自信もついてきました」と話せば、佐藤は「かっこ悪いとこは見せられませんからね」と胸を張る。伊藤監督も「もともと力はあるペア。ベスト8というひとつの壁を突破できたことで、気持ちの面でも成長してます」と目を細める。

ゲームを作るのが村井、そして強烈なスマッシュで決めるのがサウスポーの佐藤とコンビネーションもバッチリ。勝手知ったる地元のコートで、トップダブルスが大暴れしてくれそうに貢献、11月の全日本総合だ。

(松木 純)

後半の猛威で Aクラス復帰



後半戦の巻き返しの立て役者となったのがシングルスの古川。3戦目で東北の金城から初白星をあげると、以後5連勝。YKKの霜上、ユニシスの山田からも勝ち星を稼ぎ、「日本リーグ男」の面目躍如



古川とともにチームを支えたトップダブルスの村井(右)／佐藤だが、最後の関西戦では痛い失点。3位入賞に貢献できなかった



新人の吉岡(左)も星2の第3ダブルスで2勝をゲット。平均年齢の上がりつつあるチームに明るい材料を提供した

BADMINTON NIPPON LEAGUE '96
日本リーグ '96
男子

第4位
NTT北海道

2連敗から4連勝と中盤戦の快進撃で、みごと6年ぶりAクラスに返り咲いた。とはいえ、戦い終えて伊藤監督の表情は曇りっぱなし。最終日の関西戦を落とし、3位入賞を逃したからだ。

「いけると思ったんだけど…。やっぱり気持ちが一番大事。甘かったかもしれない」と伊藤監督。関西には昨季勝っていただけに、悔しさはより募ったようだ。

それにしても「最下位だけは」と無欲で臨んだにもかかわらず、この成績。勢いづくのは3戦目、同じく戦前から危機感を抱いていた東北との一戦を切り抜けてからだ。以後、関者は対照的な道を歩むのだから、日本リーグの流れの怖さを感じずにはいられない。

不動のオーダーで臨んだ今季は古川がシングルスに専念して生き生きとプレー。東北戦で金城を下し初勝利をもたらしたのに続き、YKKの霜上、ユニシスの山田と強敵を連破し、エースの立場を確立させた。トップダブルスの村井／佐藤も、ユニシス戦では大谷／林との大熱戦を制してみせた。

そして迎えた地元札幌でのベスト電器戦。満員のファンを前に、持てる力のすべてを出し尽くし、2ー1で勝利をもぎとった。"あれで燃え尽きてしまったのかも"と伊藤監督が振り返るように、今季最大のステージを乗り切ると、最終日は関西に元気なく敗れ、連勝ストップ。

来季は新人の補強こそないが、一丸となって戦った今季のメンバーに加え、出番のなかった新人、水澤の成長にも期待がかかる。

★本陸選定MVP…古川英樹



単の古川がYKKの霜上、ユニシスの山田と大物食いを発揮。2連敗から3連勝と、古川の成績がそのままチームの勝敗にも反映し、久々にAクラス入りの機会を迎えている。

NTT北海道

日本リーグ 第19回大会(男子)　1997(平成9)年

〈メンバー〉


【オーナー】堀口　昌基


【部長】月尾　修


【副部長】木村　敏男


【監督】伊藤　雅弘


【コーチ兼選手】村井　秀樹


【マネージャー】工藤　忠和


【選手】水澤　直哉


吉岡　秀樹


斉藤　一裕


古川　英樹


星　拓磨


佐藤　嘉伸

○日本リーグ'97(第19回大会(平成9年))

チーム名	YKK九州	NTT東京	日本ユニシス	NTT関西	トナミ運輸	ベスト電器	NTT北海道	NTT東北	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
YKK九州		●1－2	○3－0	○3－0	○2－1	○2－1	○3－0	○3－0	6	17	4	0.810	1
NTT東京	○2－1		●1－2	○2－1	○2－1	●1－2	○2－1	○3－0	5	13	8	0.619	2
日本ユニシス	●0－3	○2－1		○2－1	●0－3	○2－1	○2－1	○3－0	5	11	10	0.524	3
NTT関西	●0－3	●1－2	●1－2		○2－1	○2－1	○2－1	○3－0	4	11	10	0.524	4
トナミ運輸	●1－2	●1－2	○3－0	●1－2		○2－1	●1－2	○3－0	3	12	9	0.571	5
ベスト電器	●1－2	○2－1	●1－2	●1－2	●1－2		○2－1	○2－1	3	10	11	0.476	6
NTT北海道	●0－3	●1－2	●1－2	●1－2	○2－1	●1－2		○2－1	2	8	13	0.381	7
NTT東北	●0－3	●0－3	●0－3	●0－3	●0－3	●1－2	●1－2		0	2	19	0.095	8

○男子の部(第1日)

会場	北九州市立総合体育館			入場者数	2,200
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 0 / 複1 1	1	トナミ運輸 0勝 1敗
複	村井秀樹 / 佐藤嘉伸	2	10－15 / 15－11 / 15－1	1	今井紀夫 / 大山宏司
単	古川英樹	2	18－13 / 12－15 / 15－8	1	谷内貴昭
複	水澤直哉 / 吉岡秀樹	0	11－15 / 12－15 / —	2	今井彰宏 / 本田和裕

○男子の部(第2日)

会場	北九州市立総合体育館			入場者数	3,000
成績	YKK九州 2勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 1勝 1敗
複	サントソ・スギハルジョ / 花田政文	2	15－5 / 17－16 / —	0	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	霜上和宏	2	12－15 / 15－6 / 15－3	1	古川英樹
複	村中陽介 / 田上良治	2	15－13 / 18－16 / —	0	水澤直哉 / 吉岡秀樹

○男子の部(第3日)

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,000
成績	NTT関西 1勝 2敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 1勝 2敗
複	岸田明宏 / 平井達也	0	8－15 / 16－17 / —	2	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	渡辺哲義	2	15－10 / 15－6 / —	0	古川英樹
複	早戸敬雄 / 川口馨士	2	15－8 / 15－3 / —	0	水澤直哉 / 吉岡秀樹

○男子の部(第4日)

会場	高岡市民体育館			入場者数	3,000
成績	NTT北海道 2勝 2敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT東北 0勝 4敗
複	村井秀樹 / 佐藤嘉伸	2	15－6 / 15－11 / —	0	内村　剛 / 清元亮太
単	古川英樹	0	15－18 / 12－15 / —	2	上滝賢二
複	水澤直哉 / 吉岡秀樹	2	8－15 / 15－6 / 15－12	1	関根靖則 / 山浦元樹

○男子の部(第5日)

会場	岩見沢スポーツセンター			入場者数	1,750
成績	NTT東京 3勝 1敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 2勝 3敗
複	太田慎二 / 竹鼻拓也	0	16－18 / 7－15 / —	2	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	町田文彦	2	15－6 / 15－6 / —	0	古川英樹
複	片山卓哉 / 久保田雄三	2	6－15 / 15－9 / 15－8	1	水澤直哉 / 吉岡秀樹

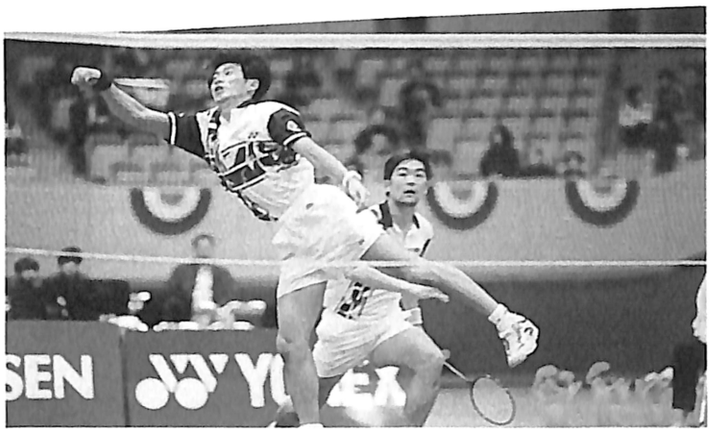
○男子の部(第6日)

会場	宮城県スポーツセンター			入場者数	2,000
成績	ベスト電器 2勝 3敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 2勝 4敗
複	藤原瑛佳 / 水島浩一	0	14－18 / 4－15 / —	2	水澤直哉 / 吉岡秀樹
単	清水文武	2	18－14 / 15－7 / —	0	古川英樹
複	崔　相範 / 棟居秀行	2	15－0 / 15－9 / —	0	村井秀樹 / 佐藤嘉伸

○男子の部(最終日)

会場	守口市民体育館			入場者数	2,500
成績	日本ユニシス 5勝 2敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 2勝 5敗
複	大谷知昌 / 林　貴昭	0	10－15 / 8－15 / —	2	村井秀樹 / 佐藤嘉伸
単	山田秀樹	2	15－7 / 15－13 / —	0	古川英樹
複	片岡直茂 / 加賀谷　洋	2	15－13 / 15－10 / —	0	水澤直哉 / 吉岡秀樹

日本リーグ 第19回大会(男子)　1997(平成9)年



NTT北海道

トナミを開幕戦で攻略。エースダブルスの村井（前）／佐藤は、東京の太田／竹鼻を含め4勝と気を吐くが、単の古川が4連敗と不振に陥り、5戦消化して3敗と厳しい状況。

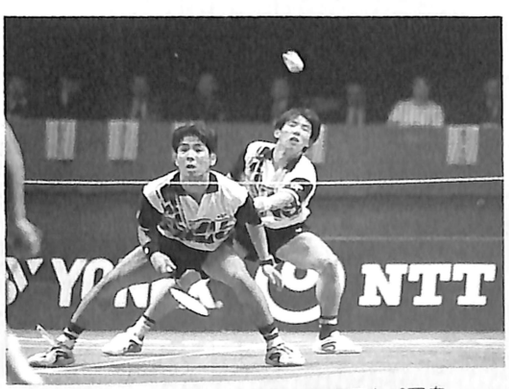
BADMINTON NIPPON LEAGUE '97
日本リーグ '97
男子

第7位
NTT北海道

全試合を通して不動のオーダーで挑むも、2勝5敗でAクラス転落。随所で見せた善戦が白星に結びつかなかったのは、エース古川の不振にもよる。しかしながら、「夏のひじ手術以降、十分な練習をしていない」（伊藤監督）状況下で、2戦目に霜上（YKK九州）から執念で1ゲームを奪取。MVPから唯一ゲームを奪ってみせた。

また、地元で行なわれたNTT東京戦は白星こそ勝ち得なかったが、素晴らしい内容で、ファンを大いに沸かせた。太田／竹鼻を下したベテラン村井も「観客も盛り上がってくれて、NTT東京が相手でよかった」と、生き生きとプレーできた喜びを語った。

★本誌選定MVP…村井秀樹
佐藤嘉伸



昨季は出番のなかった水澤（左）が吉岡とペアを組み、全試合に出場。2勝5敗という結果に終わったが、ところどころで粘りを見せ、内容の濃いゲームを演じてくれた

日本リーグ 第20回大会(男子)　1998(平成10)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 堀口　昌基


【部長】 月尾　修


【副部長】 木村　敏男


【監督】 伊藤　雅弘


【コーチ兼選手】 村井　秀樹


【マネージャー兼選手】 古川　英樹


【選手】 水澤　直哉


吉岡　秀樹


井野　嘉久


斉藤　一裕


星　拓磨

○日本リーグ'98(第20回大会(平成10年))

チーム名	YKK九州	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	日本ユニシス	ベスト電器	NTT北海道	NTT東北	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
YKK九州		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	7	18	3	0.857	1
NTT東京	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	6	16	5	0.762	2
トナミ運輸	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	5	12	9	0.571	3
NTT関西	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	4	9	12	0.429	4
日本ユニシス	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	10	11	0.476	5
ベスト電器	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	1	7	14	0.333	6
NTT北海道	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	1	7	14	0.333	7
NTT東北	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		1	5	16	0.238	8

○ 男子の部（第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：3,300

成績							
	トナミ運輸 1勝 0敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 0勝 1敗
複	今井紀夫 / 大山宏司	2	15－0 / 15－7 / －	0	村井秀樹 / 井野嘉久
単	谷内貴昭	2	11－15 / 15－3 / 17－14	1	古川英樹
複	今井彰宏 / 本田和裕	1	15－6 / 5－15 / 5－15	2	水澤直哉 / 吉岡秀樹

○ 男子の部（第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：3,000

成績							
	NTT東京 2勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 0勝 2敗
複	太田慎二 / 竹鼻拓也	2	15－9 / 15－6 / －	0	村井秀樹 / 古川英樹
単	町田文彦	2	15－1 / 15－13 / －	0	井野嘉久
複	渡辺清一 / 久保田雄三	2	15－1 / 15－5 / －	0	水澤直哉 / 吉岡秀樹

○ 男子の部（第3日）

会場：新座市民総合体育館　11／22　入場者数：2,000

成績							
	YKK九州 3勝 0敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 0勝 3敗
複	サントソ・スギハルジョ / 花田政文	2	15－10 / 15－5 / －	0	星拓磨 / 水澤直哉
単	霜上和宏	2	15－6 / 15－3 / －	0	井野嘉久
複	村中陽介 / 田上良治	0	6－15 / 10－15 / －	2	村井秀樹 / 古川英樹

○ 男子の部（第4日）

会場：旭川市総合体育館　入場者数：2,100

成績							
	NTT関西 2勝 2敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 0勝 4敗
複	岸田明宏 / 平井達也	2	15－12 / 3－15 / 17－14	1	村井秀樹 / 古川英樹
単	渡辺哲義	2	15－6 / 15－10 / －	0	井野嘉久
複	松井充 / 川口馨士	1	15－11 / 8－15 / 5－15	2	水澤直哉 / 星拓磨

○ 男子の部（第5日）

会場：千葉県体育館　入場者数：2,500

成績							
	NTT北海道 1勝 4敗	2	単1 0 / 複1 1	1	ベスト電器 1勝 4敗
複	星拓磨 / 水澤直哉	0	16－18 / 10－15 / －	2	崔相範 / 棟居秀行
単	古川英樹	2	15－2 / 17－15 / －	0	清水文武
複	村井秀樹 / 井野嘉久	2	2－15 / 15－10 / 15－7	1	藤原瑛佳 / 簿智彦

○ 男子の部（第6日）

会場：守口市民体育館　入場者数：2,000

成績							
	日本ユニシス 3勝 3敗	2	単0 1 / 複2 0	1	NTT北海道 1勝 5敗
複	片岡直茂 / 藤本ホセマリ	2	12－15 / 15－7 / 15－10	1	村井秀樹 / 井野嘉久
単	山田秀樹	0	12－15 / 17－18 / －	2	古川英樹
複	加賀谷洋 / 矢部正博	2	15－4 / 15－1 / －	0	星拓磨 / 水澤直哉

○ 男子の部（最終日）

会場：守口市民体育館　入場者数：2,000

成績							
	NTT東北 1勝 6敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 1勝 6敗
複	内村剛 / 関根靖則	0	10－15 / 8－15 / －	2	村井秀樹 / 井野嘉久
単	上滝賢二	2	15－6 / 15－8 / －	0	古川英樹
複	清元敬吾 / 清元亮太	2	13－15 / 18－13 / 15－9	1	星拓磨 / 水澤直哉

日本リーグ 第20回大会(男子)　1998(平成10)年



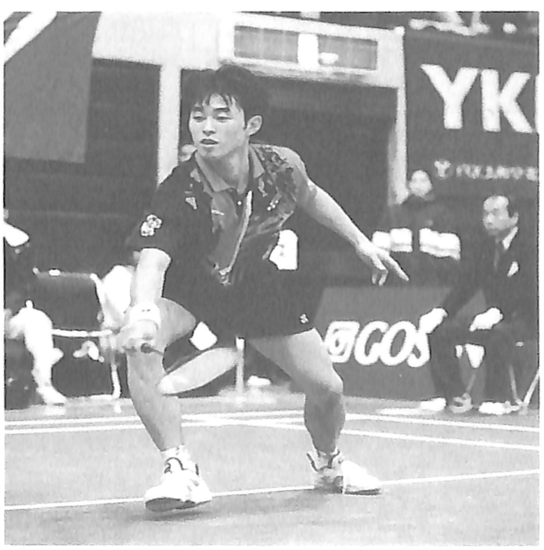
NTT北海道

第1戦でトナミに善戦およばず。谷内戦であと1点に泣いた古川(左)が2戦目から村井との複に回り、新人井野が単を務めるが、東京、YKK、関西と上位チームを相手に、まだ白星には恵まれていない。勝負は後半だ。

不調を断ち切り危機脱す

第7位
NTT北海道

BADMINTON NIPPON LEAGUE '98
日本リーグ '98
男子



単複で奮闘しトータル3勝の古川。NTT東北との最終戦では痛い黒星を喫したが、ベスト電器戦では清水を下しチームに貴重な1勝をもたらした

4連敗のあとのベスト電器戦、村井／井野が藤原／薄に競り勝って、古川が清水を下す健闘を見せ、大きな1勝をあげた。

「前半戦が全体的に悪く、オーダーも定まらなかった」という伊藤監督。第5戦以降はオーダーを固定し接戦も増え、勝利にこそ結びつかなかったが、マッチ率で最下位を免れた。

NTTの統合で危惧された来年度の方針は、いままでどおりの活動を続けることに決定。こちらの危機も脱している。

★本誌選定MVP……古川英樹

日本リーグ 第21回大会(男子)

1999(平成11)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 堀口 昌基


【部長】 白髭 博司


【監督兼選手】 伊藤 雅弘


【マネージャー兼選手】 古川 英樹


【選手】 水澤 直哉


吉岡 秀樹


井野 嘉久


星 拓磨

	YKK九州	NTT東日本	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT西日本大阪	NTT北海道	NTT宮城	ベスト電器	勝点	取得マッチ
YKK九州		2/6	○ 2－1	1/30	○ 3－0	2/5	○ 2－1	○ 3－0	4	10
NTT東日本	2/6		2/5	○ 2－1	○ 2－1	1/23	○ 2－1	○ 3－0	4	9
トナミ運輸	● 1－2	2/5		○ 2－1	1/30	○ 3－0	○ 3－0	2/6	3	9
日本ユニシス	1/30	● 1－2	● 1－2		2/6	○ 3－0	2/5	○ 2－1	2	7
NTT西日本大阪	● 0－3	● 1－2	1/30	2/6		○ 2－1	○ 2－1	2/5	2	5
NTT北海道	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	2	3
NTT宮城	● 1－2	● 1－2	● 0－3	2/5	● 1－2	2/6		1/23	0	3
ベスト電器	● 0－3	● 0－3	2/6	● 1－2	2/5	● 1－2	1/23		0	2

○ 男子の部 第1節(第1日)

会場：新潟市東総合スポーツセンター　入場者数：1,500

成績：トナミ運輸 1勝 0敗 3 (単1 0－0, 複2 0－0) 0 NTT北海道 0勝 1敗

複	今井紀夫 大山宏司	2	15－7, 15－5, －	0	古川英樹 水澤直哉
単	吉川大助	2	15－8, 8－15, 17－15	1	井野嘉久
複	朴 星宇 今井彰宏	2	15－8, 15－11, －	0	吉岡秀樹 星 拓磨

○ 男子の部 第1節(第2日)

会場：新潟市東総合スポーツセンター　入場者数：2,100

成績：日本ユニシス 2勝 0敗 3 (単1 0－0, 複2 0－0) 0 NTT北海道 0勝 2敗

複	加賀谷 洋 矢部正博	2	15－8, 15－6, －	0	吉岡秀樹 星 拓磨
単	山田英孝	2	15－7, 17－14, －	0	井野嘉久
複	中條 彪 片岡直茂	2	10－15, 15－4, 15－12	1	古川英樹 水澤直哉

○ 男子の部 第2節

会場：八代市総合体育館　入場者数：1,200

成績：NTT西日本大阪 2勝 1敗 2 (単1 0－1, 複1 1－1) 1 NTT北海道 0勝 3敗

複	岸田明宏 松井 充	2	15－7, 13－15, 15－5	1	吉岡秀樹 星 拓磨
単	渡辺哲義	2	15－11, 15－11, －	0	井野嘉久
複	平井達也 川口馨士	0	6－15, 11－15, －	2	古川英樹 水澤直哉

○ 男子の部 第3節

会場：千歳市スポーツセンター　入場者数：1,100

成績：NTT北海道 1勝 3敗 2 (単1 0－1, 複1 1－1) 1 ベスト電器 0勝 4敗

複	古川英樹 水澤直哉	2	15－2, 15－0, －	0	北田葆光 清水文武
単	井野嘉久	2	15－8, 15－7, －	0	副島浩史
複	吉岡秀樹 星 拓磨	0	9－15, 7－15, －	2	崔 相範 薄 智彦

○ 男子の部 第4節(第1日)

会場：北九州市立総合体育館　入場者数：3,000

成績：NTT東日本 5勝 0敗 2 (単1 0－1, 複1 1－1) 1 NTT北海道 1勝 4敗

複	片山卓哉 久保田雄三	2	15－1, 15－6, －	0	古川英樹 水澤直哉
単	町田文彦	2	15－7, 15－10, －	0	井野嘉久
複	太田慎二 竹鼻拓也	0	7－15, 14－17, －	2	吉岡秀樹 星 拓磨

○ 男子の部 最終節(第1日)

会場：高岡市民体育館　入場者数：2,500

成績：YKK九州 6勝 0敗 2 (単1 0－1, 複1 1－1) 1 NTT北海道 1勝 5敗

複	リオニー・マイナキー 花田政文	2	15－7, 15－9, －	0	古川英樹 水澤直哉
単	霜上和宏	2	15－11, 15－7, －	0	井野嘉久
複	村中陽介 田上良治	0	7－15, 6－15, －	2	吉岡秀樹 星 拓磨

○ 男子の部 最終節(第2日)

会場：高岡市民体育館　入場者数：3,500

成績：NTT北海道 2勝 5敗 2 (単0 1－1, 複2 0－1) 1 NTT宮城 2勝 5敗

複	古川英樹 水澤直哉	2	15－13, 15－9, －	0	内村 剛 関根靖則
単	井野嘉久	1	11－15, 15－12, 6－15	2	上滝賢二
複	吉岡秀樹 星 拓磨	2	17－14, 15－1, －	0	清元敬吾 清元亮太

日本リーグ 第21回大会(男子)

1999(平成11)年

［12・5］道新スポーツ

リストラ御免。

少数精鋭で残留目指す

NTT北海道バドミントン部

今年7月クラブチームに

あす日本リーグ1部開幕

全日本社会人で8強

井野がシングルスに任命

今年7月、クラブチームとして再出発した男子バドミントンのNTT北海道が1年間守り続けている1部の4日、新潟県で開幕する日本リーグに臨む。終業時から約2時間に限られた練習時間を有効に使い、本番に臨む選手たち。今季新入加入はなし。戦力も、伊藤雅弘監督(37)を含めて6人という少数精鋭部隊が、19年間守り続けている1部の座死守に燃えている。

身長180㌢から繰り出すパワフルスマッシュが武器の井野嘉久(23)が、シングルスに任命された。

高校界の強豪・札幌第一の出身。日大に進学し3年のとき、インカレ団体優勝に貢献している。しかし、昨年は社会人の壁にぶち当たって、思うような成績は残せなかった。日本リーグも「自分ではもっとできると思っていたんですけど、納得のプレー(試合)はなかった」と悔しさだけが残ってしまった。

それだけに今大会は、1年目の借りを返したいところ。高校時代から武器にしている強力なスマッシュだけでは通用しないと、実感し、相手の目を見て練習にも取り組んだ。

9月に行われた合同入会人(合山)のシングルスでは、1993年の伊藤監督以来となるベスト8に出、「感覚のある程度は手だかないませんが、多少自信が出てきました」と笑顔を見せる。

チームは今年7月の会社再編を受け、クラブチームに縮小。今春、井野の下には後輩も入らなかった。練習時間も制限されるなど、当初は納得できない気持ちもあったが「今は開き切ってます。自分がNTTでバドミントンをやりたくて入ったのですから」と立場を理解し、最善を尽くすことだけを考えている。

伊藤監督も「今年は良いと思うし、やってもらわねばね」と期待十分。チーム最年少が弾みを付ければ、1部残留も十分可能だ。

(松木 純＝jun@dousupo.aurora-net.or.jp)

井野はシングルスで「1試合でも多く勝ちたい」と練習にも力が入る

NTT北海道 過去の成績

| 回 | 数 | 順位 | 位 | 位 |

日本リーグ 第22回大会(男子)

2000(平成12)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 堀口 昌基


【部長】 白髭 博司


【監督】 伊藤 雅弘


【マネージャー兼選手】 古川 英樹


【主将】 吉岡 秀樹


【選手】 星 拓磨


水澤 直哉


井野 嘉久

	YKK 九州	NTT 東日本	トナミ 運輸	NTT 西日本大阪	日本 ユニシス	NTT 北海道	ベスト 電器	NTT 東日本宮城	勝ち点	マッチ率	ゲーム率	順位
YKK 九州		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	7	.762	.688	1
NTT 東日本	● 1－2		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	.857	.809	2
トナミ 運輸	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	5	.571	.578	3
NTT 西日本大阪	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	3	.476	.480	4
日本 ユニシス	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	.429	.458	5
NTT 北海道	● 0－3	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2		○ 2－1	● 1－2	2	.286	.319	6
ベスト 電器	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	.333	.333	7
NTT 東日本宮城	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	○ 2－1	● 1－2		1	.286	.340	8

○ 男子の部（第1節・第1日）

会場：宇都宮市民体育館　入場者数：2,000

成績					
	NTT東日本 1勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 0勝 1敗
複	片山 卓哉 / 久保田 雄三	2	15－7 / 15－5 / －	0	古川 英樹 / 井野 嘉久
単	松本 徹	2	17－16 / 15－12 / －	0	水澤 直哉
複	町田 文彦 / 太田 慎二	2	15－5 / 17－14 / －	0	吉岡 秀樹 / 星 拓磨

○ 男子の部（第1節・第2日）

会場：宇都宮市民体育館　入場者数：2,100

成績					
	NTT北海道 1勝 1敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT西日本大阪 1勝 1敗
複	古川 英樹 / 井野 嘉久	2	15－12 / 15－9 / －	0	岸田 明宏 / 川口 馨士
単	水澤 直哉	2	15－9 / 11－15 / 15－8	1	渡辺 哲義
複	吉岡 秀樹 / 星 拓磨	1	7－15 / 15－12 / 11－15	2	平井 達也 / 松井 充

○ 男子の部（第2節）

会場：川崎製鉄水島体育館　入場者数：1,400

成績					
	日本ユニシス 1勝 2敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 1勝 2敗
複	矢部 正博 / 中村 憲尚	2	15－12 / 15－9 / －	0	古川 英樹 / 井野 嘉久
単	中條 彪	2	15－7 / 15－11 / －	0	水澤 直哉
複	藤本 ホセマリ / 福井 剛士	1	15－10 / 9－15 / 10－15	2	吉岡 秀樹 / 星 拓磨

○ 男子の部（第3節）

会場：北広島市総合体育館（12/09）　入場者数：1,100

成績					
	NTT東日本宮城 1勝 3敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 1勝 3敗
複	関根 靖則 / ハルモノ・ユウォノ	2	15－11 / 15－8 / －	0	古川 英樹 / 井野 嘉久
単	草井 篤	2	15－13 / 11－15 / 15－11	1	水澤 直哉
複	清元 敬吾 / 清元 亮太	0	12－15 / 9－15 / －	2	吉岡 秀樹 / 星 拓磨

○ 男子の部（第4節・第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：1,800

成績					
	YKK九州 5勝 0敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 1勝 4敗
複	リオニー・マイナキー / 花田 政文	2	15－4 / 17－15 / －	0	古川 英樹 / 井野 嘉久
単	霜上 和宏	2	15－6 / 15－4 / －	0	水澤 直哉
複	村中 陽介 / 田上 良治	2	15－8 / 15－12 / －	0	吉岡 秀樹 / 星 拓磨

○ 男子の部（第4節・第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：2,800

成績					
	トナミ運輸 5勝 1敗	3	単1 0 / 複2 0	0	NTT北海道 1勝 5敗
複	今井 紀夫 / 大山 宏司	2	15－11 / 15－8 / －	0	水澤 直哉 / 井野 嘉久
単	吉川 大助	2	15－1 / 15－7 / －	0	古川 英樹
複	岡山 秀義 / 酒井 将之	2	5－15 / 15－5 / 17－16	1	吉岡 秀樹 / 星 拓磨

○ 男子の部（最終節・第2日）

会場：守口市民体育館　入場者数：1,300

成績					
	NTT北海道 2勝 5敗	2	単1 0 / 複1 1	1	ベスト電器 1勝 6敗
複	古川 英樹 / 水澤 直哉	0	8－15 / 8－15 / －	2	清水 文武 / 崔 相範
単	井野 嘉久	2	15－13 / 15－11 / －	0	副島 浩史
複	吉岡 秀樹 / 星 拓磨	2	15－4 / 15－3 / －	0	宮田 典明 / 木谷 修

日本リーグ 第22回大会(男子)

2000(平成12)年

[11・24] 道新スポーツ

初の男女ペアで臨む NTT北海道

あすからバドミントン日本リーグ1部

昨年、女子も日本リーグ1部入りを果たしたNTT北海道バドミントン部が、男女そろって25日から始まる今世紀最後の日本リーグに臨む。23日、NTT体育館で最後の調整を行い、24日、初戦の行われる宇都宮市(栃木県)に出発する選手たち。目標は男子がAクラス(4位以内)、女子が1部残留だ。

◆NTT北海道試合日程と対戦相手◆

		女子	男子
会場		機器(①)	東日本(①)
24	宮市	電気(⑤)	大阪(③)
25	市	機器(④)	シダックス(④)
26	市	クルセイダース(⑥)	日本ユニシス(⑤)
日	〃	新日鉄広畑(⑦)	九州電力(⑥)
日	島	ミズノ(②)	日本ユニシス(⑦)
日	岡	澄川(③)	輪業(②)
日	守	順位決定戦	順位決定戦
日	口	昨年度の丸数字は	昨年度の丸数字は
日	〃	三洋ECE(⑤)	NTT東日本(⑧)
日	宮	NEC(⑧)	三洋電機(⑤)
日	市	九州電力(⑦)	NTT西日本(⑦)
日	市	北海道(⑨)	東京ガス(⑨)
日	市	NTT東日本(①)	NTT関東(①)
日	市	NTT西日本(②)	NTT九州(②)
日	市	NTT関東(③)	NTT北海道(③)
日	市	NTT九州(④)	NTT東京(④)
日	市	NTT東京(⑥)	NTT中国(⑥)
日	市	NTT中国(⑧)	NTT四国(⑧)
日	市	NTT四国(⑨)	NTT北陸(⑨)

※チーム名の後の丸数字は昨年



女子 地力で残留決める

昇格したからには落ちる訳にいかない。NTT女子の6人娘は、1部残留へ意欲を見せる。伊藤雅弘監督(38)が「7位に入れば万歳します」と話すように、強豪相手の7試合は苦戦の連続になるのは明白。それでも後藤綾子主将(25)は、「今年残れば、来年は強い選手も入りますからね」と死力を尽くす覚悟だ。

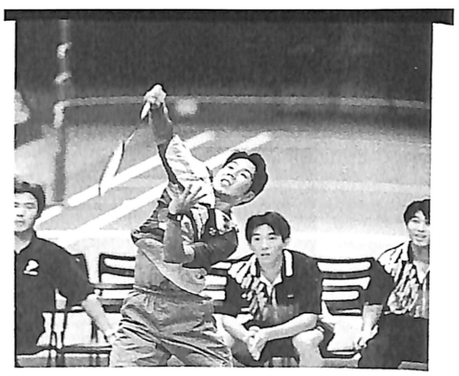
昨年の1、2部入れ替え戦は、NTTのシンボルチームでもある東日本相手に5人きりきりの布陣で臨み勝った。その勢い、思いを選手は忘れてはいない。1部で戦える喜びは身近の男子を見ているだけに実感できる。「1部と2部では雰囲気が全然違うんです。それにのまれずに楽しんで戦えれば…」と後藤主将。

今年は中島輝美(18)が札幌修徳高から入り、きりきりのメンバーは解消された。しかし、経験という意味合いでは〝昨年の5人〟がフル出場で戦うことになる。ダブルスは太田恵(22)と後藤、武田明美(26)と高橋昌子(23)が組み、シングルスは櫛(しめき)千春(22)が踏ん張る。総力戦は選手も覚悟の上だ。

来春にはインカレでシングルス2連覇を果たした岩松総理(つくば国際大4年―旭実高)の入部が予定されており、戦力も充実する。今年1部の三協アルミが日本リーグ後に休部するため、最下位でも残留が決まる可能性もあるが〝他力本願〟が本意ではない。一つでも多く勝って胸を張っての1部残留が目標だ。

(松木 純=jun@tousupo.aurora-net.or.jp)

25日に開幕する日本リーグへ意欲を見せるNTT北海道の選手たち





「基本的には古川とのダブルスを考えているが、状況次第ではシングルスで出場する可能性もある」(伊藤監督)

NTT北海道

事務局〒005-0039
北海道札幌市南区南39条西11―1―23
☎011-581-7499

日本リーグ'99成績
●トナミ運輸 0―3
●日本ユニシス 0―3
●NTT西日本大阪 1―2
○ベスト電器 2―1
●NTT東日本 1―2
●YKK九州 1―2
○NTT宮城 2―1

監督◎伊藤雅弘 マネジャー◎古川英樹

吉岡 秀樹	②	26	174/68	左	A	茨城 法大
水澤 直哉	①	26	172/64	右	A	北海道 早大
伊藤 雅弘	③	38	178/74	右	O	埼玉 日大
井野 嘉久	④	24	180/74	右	A	北海道 日大
古川 英樹	⑧	28	175/63	右	O	北海道 旭川工高
星 拓磨	⑨	27	171/67	右	A	北海道 旭川工高

3年連続の7位から一気にAクラス入りをねらう。メンバーは今年も伊藤監督を含めて6人と最小限の人数。準優勝した全日本実業団より調子は悪いというものの、チームは円熟期を迎えている。シングルスには成長著しい井野を予定しているが、水澤もスタンバイOK。ベテラン古川も含め柔軟に対応する。吉岡主将と星のダブルスも勝負強く、期待大。



井野選手



古川・井野組

日本リーグ 第23回大会(男子)

2001(平成13)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】
松田　信行


【部長】
白髭　博司


【監督兼選手】
古川　英樹


【マネージャー兼選手】
吉岡　秀樹


【主将】
星　拓磨


水澤　直哉


井野　嘉久


吉川　勇司

	トナミ運輸	NTT東日本	YKK九州	日本ユニシス	NTT東日本宮城	NTT北海道	NTT西日本大阪	ベスト電器	勝ち点	マッチ率	ゲーム率	順位
トナミ運輸		3－0 ○	3－0 ○	2－1 ○	2－1 ○	2－1 ○	2－1 ○	3－0 ○	7	.810	.750	1
NTT東日本	0－3 ●		1－2 ●	2－1 ○	2－1 ○	3－0 ○	2－1 ○	2－1 ○	5	.571	.604	2
YKK九州	0－3 ●	2－1 ○		2－1 ○	2－1 ○	1－2 ●	2－1 ○	2－1 ○	5	.524	.520	3
日本ユニシス	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●		1－2 ●	3－0 ○	2－1 ○	2－1 ○	3	.524	.490	4
NTT東日本宮城	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●	2－1 ○		2－1 ○	1－2 ●	2－1 ○	3	.476	.467	5
NTT北海道	1－2 ●	0－3 ●	2－1 ○	0－3 ●	1－2 ●		2－1 ○	2－1 ○	3	.381	.404	6
NTT西日本大阪	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●	2－1 ○	1－2 ●		1－2 ●	1	.381	.429	7
ベスト電器	0－3 ●	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●	1－2 ●	2－1 ○		1	.333	.381	8

○ 男子の部（第1節・第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：

成績					
	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT西日本大阪 0勝 1敗
複	星　拓磨 井野嘉久	0	10－15 11－15	2	平井達也 川口馨士
単	水澤直哉	2	17－14 15－8	0	渡辺哲義
複	吉岡秀樹 古川英樹	2	12－15 17－14 17－14	1	松井充 一宮孝一

○ 男子の部（第1節・第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：

成績					
	NTT北海道 2勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	YKK九州 0勝 2敗
複	吉岡秀樹 古川英樹	0	6－15 7－15	2	リオニー・マイナキー 花田政文
単	吉川勇司	2	15－10 15－7	0	古井博高
複	星　拓磨 井野嘉久	2	11－15 15－4 15－10	1	村中陽介 田上良治

○ 男子の部（第2節）

会場：川崎製鉄(株)水島体育館　入場者数：1,800

成績					
	NTT東日本 3勝 0敗	3	単1 0 複2 0	0	NTT北海道 2勝 1敗
複	片山卓哉 久保田雄三	2	15－5 15－8	0	星　拓磨 吉岡秀樹
単	町田文彦	2	15－7 15－8	0	吉川勇司
複	太田慎二 竹鼻拓也	2	15－10 15－11	0	井野嘉久 古川英樹

○ 男子の部（第3節）

会場：久留米総合スポーツセンター県立体育館　入場者数：2,100

成績					
	トナミ運輸 4勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 2勝 2敗
複	舛田圭太 大東忠司	2	15－5 15－1	0	星　拓磨 吉岡秀樹
単	吉川大助	2	15－7 11－15 15－12	1	井野嘉久
複	今井紀夫 大山宏司	0	9－15 10－15	2	水澤直哉 古川英樹

○ 男子の部（第4節）

会場：当麻スポーツセンター　入場者数：1,600

成績					
	NTT北海道 3勝 2敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	ベスト電器 1勝 4敗
複	星　拓磨 吉岡秀樹	0	5－15 5－15	2	清水文武 崔　相範
単	井野嘉久	2	15－7 15－4	0	副島浩史
複	水澤直哉 古川英樹	2	15－8 15－4	0	宮田典明 木谷　修

○ 男子の部（第5節・第2日）

会場：国立代々木競技場第二体育館　入場者数：500

成績					
	NTT東日本宮城 2勝 4敗	2	単1 0 複1 1	1	NTT北海道 3勝 3敗
複	関根靖則 ハルモノ・ユウォノ	2	15－17 17－15 15－7	1	吉岡秀樹 古川英樹
単	草井篤	2	15－8 15－6	0	吉川勇司
複	上滝賢二 清元敬吾	0	14－17 10－15	2	星　拓磨 井野嘉久

○ 男子の部（最終節）

会場：国立代々木競技場第二体育館　入場者数：1,700

成績					
	日本ユニシス 3勝 4敗	3	単1 0 複2 0	0	NTT北海道 3勝 4敗
複	加賀谷洋 矢部正博	2	15－3 15－2	0	星　拓磨 井野嘉久
単	藤本ホセマリ	2	15－8 17－14	0	水澤直哉
複	福井剛士 中村憲尚	2	15－11 13－15 15－11	1	吉岡秀樹 古川英樹

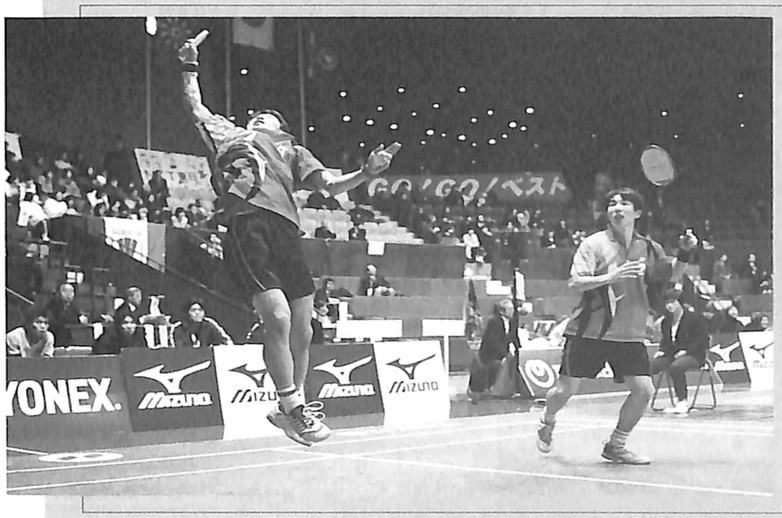
日本リーグ 第23回大会(男子)　2001(平成13)年

新人加入を起爆剤に

ＮＴＴ北海道

早稲田大から吉川が加入、古川も監督に就任し、相変わらず少人数ながら再出発を期している。ほぼ全員が単複をこなすため、好不調によって組み替えることができる。前季は接戦のすえ、古川／井野が西日本の岸田／川口を、水澤が渡辺を下すなど、上位進出の兆しも見えた。今季は00年全日本実業団２位の再現をめざしたい。





新監督に就任した古川（左）は吉岡（右）、井野らと組んでリーグに出場。自身の白星は3つに留まったが、精神的柱としてチームをまとめた

6位 NTT北海道

金星つかみ希望の光

ユニシス、宮城と3勝で並んだが、マッチ率から昨年同様、チームは6位。しかし、これまでにない大きな星をつかみ、うれしい年だったに違いない。

北海道にとって、最大のドラマはＹＫＫ九州との第2戦だ。古川／吉岡はマイナキー／花田に散ったが、早大卒のルーキー吉川が古井を撃破。続いて星／井野が村中／田上をファイナルで下す殊勲でチームは沸いた。その後は、ベスト戦で1勝をあげるに留まり、Ａクラス入りの願いは届かなかったが、古川の監督就任、吉川の加入で新風はたしかに吹いた。

日本リーグ 第24回大会(男子)

2002(平成14)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 松田 信行


【部長】 堂前 実


【副部長】 小林 政敏


【総監督】 平山 三城


【監督兼選手】 古川 英樹


【マネージャー兼選手】 吉岡 秀樹


【主将】 星 拓磨


【選手】 水澤 直哉


井野 嘉久


吉川 勇司


三上 裕司

	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT東日本	YKK九州	NTT北海道	NTT西日本大阪	ベスト電器	NTTグループ東北	勝ち点	マッチ率	ゲーム率	順位
トナミ運輸		○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	7	0.857	0.787	1
日本ユニシス	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	0.714	0.653	2
NTT東日本	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	5	0.714	0.674	3
YKK九州	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	4	0.714	0.667	4
NTT北海道	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	0.333	0.354	5
NTT西日本大阪	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	2	0.238	0.333	6
ベスト電器	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	0.238	0.320	7
NTTグループ東北	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		0	0.190	0.229	8

○ 男子の部（第1節・第1日）

会場：北九州市立総合体育館　入場者数(3,200)

NTT東日本 1勝 0敗			NTT北海道 0勝 1敗
3	単 1 － 0	0	
	複 2 － 0		
複	太田慎二 / 竹鼻拓也	2 (15－10, 15－2) 0	星拓磨 / 井野嘉久
単	松本徹	2 (15－11, 12－15, 15－9) 1	吉川勇司
複	片山卓哉 / 久保田雄三	2 (15－10, 7－15, 15－10) 1	水澤直哉 / 三上裕司

○ 男子の部（第1節・第2日）

会場：北九州市立総合体育館　入場者数(3,500)

トナミ運輸 1勝 0敗			NTT北海道 0勝 2敗
3	単 1 － 0	0	
	複 2 － 0		
複	今井紀夫 / 大東忠司	2 (15－11, 17－15) 0	星拓磨 / 井野嘉久
単	舛田圭太	2 (15－2, 15－6) 0	吉川勇司
複	朴星宇 / 酒井将之	2 (15－7, 15－4) 0	水澤直哉 / 三上裕司

○ 男子の部（第2節・第2日）

会場：小樽市総合体育館　入場者数(2,600)

NTT北海道 1勝 2敗			NTT西日本大阪 1勝 2敗
2	単 1 － 0	1	
	複 1 － 1		
複	水澤直哉 / 三上裕司	2 (15－12, 15－8) 0	平井達也 / 川口馨士
単	井野嘉久	2 (15－6, 10－15, 15－11) 1	橋本敏信
複	古川英樹 / 吉岡秀樹	0 (13－15, 11－15) 2	渡辺哲義 / 松井充

○ 男子の部（第3節）

会場：鳴門県民体育館　入場者数(1,000)

NTT北海道 2勝 2敗			ベスト電器 0勝 4敗
2	単 1 － 0	1	
	複 1 － 1		
複	星拓磨 / 古川英樹	0 (7－15, 5－15) 2	陶暁強 / 木谷修
単	吉川勇司	2 (15－11, 15－10) 0	須藤恭伴
複	水澤直哉 / 三上裕司	2 (15－5, 12－15, 15－13) 1	清水文武 / 武田信一郎

○ 男子の部（第4節・第2日）

会場：宮城県スポーツセンター　入場者数(2,100)

NTT北海道 3勝 2敗			NTTグループ東北 0勝 5敗
2	単 0 － 1	1	
	複 2 － 0		
複	星拓磨 / 井野嘉久	2 (15－9, 15－17, 15－9) 1	山浦元樹 / ハルモノ・ユウォノ
単	吉川勇司	0 (9－15, 7－15) 2	草井篤
複	水澤直哉 / 三上裕司	2 (15－5, 15－5) 0	高柳健 / 清元亮太

○ 男子の部（最終日・第1日）

会場：守口市民体育館　入場者数(1,000)

日本ユニシス 5勝 1敗			NTT北海道 3勝 3敗
2	単 1 － 0	1	
	複 1 － 1		
複	ダビス・エフライム / 福井剛士	2 (15－8, 15－10) 0	星拓磨 / 井野嘉久
単	中西洋介	2 (4－15, 15－12, 15－5) 1	吉川勇司
複	仲尾修一 / 坂本修一	0 (15－17, 6－15) 2	水澤直哉 / 三上裕司

○ 男子の部（最終日・第2日）

会場：守口市民体育館　入場者数(2,000)

YKK九州 4勝 3敗			NTT北海道 3勝 4敗
3	単 1 － 0	0	
	複 2 － 0		
複	リオニー・マイナキー / 花田政文	2 (15－10, 15－10) 0	星拓磨 / 井野嘉久
単	霜上和宏	2 (15－11, 15－12) 0	吉川勇司
複	山下大介 / 田上良治	2 (15－9, 15－12) 0	水澤直哉 / 三上裕司

日本リーグ 第24回大会(男子)　2002(平成14)年

ひとホットコーナー

男女で日本リーグに参戦しているＮＴＴ北海道バドミントン部のオーナー

松田　信行さん(52)

［11・26］道新スポーツ

社員も驚く熱意で応援



こまめに会場に顔を出す松田オーナー。スポーツ観戦は大好きだ

国体準Ｖの活躍

◆まつだ・のぶゆき　1950年(昭和25年)8月31日、札幌市生まれ。73年に北大を卒業後、日本電信電話公社に入社。北海道支社営業部長や東日本電信電話総務部長などを歴任し昨年6月、北海道支社長着任。趣味は読書で、歴史ものを好む。野球は阪神タイガースの大ファンで「2006年ごろに優勝かな」。

バドミントン部に限らず、野球部、スキー部のオーナーも兼ねているが、現場からは「新オーナーになってから、活気が出た」と評判だ。確かに野球部が都市対抗予選で代表権獲得あと一歩まで迫り、バドミントンでは同チームが今年の国体で13年ぶりの準優勝をもたらした。

「選手の頑張りが、ほかの社員の励みになる」というのが持論。このため、とにかく各部の応援にこまめに出掛ける。オーナーになったのは昨年だが、過去に応援団を立ち上げ部長も経験しているため、腰が軽いのだ。

猛吹雪の中でのスキー部応援、炎天下の野球場…。周りの社員も驚くほどの情熱の持ち主だ。

男女ともランクＵＰ期待

これが選手のプレッシャーにもなるが、逆に「見に来てくれている」という発奮材料にもなる。北海道はとかく企業スポーツではお寒いニュースしかないが、ここはトップから元気いっぱいだ。

12月1日にはバドミントン日本リーグ小樽大会が行われる。大号令を掛け、昨年同様バスを連ねて応援に向かう予定。「男女とも勝ち負けは紙一重。粘り強く戦って一つ殻を破れば、ドンと上にいけるはず」とチームを分析する。男子は昨年の6位から4位、女子は8位から2ランクアップを期待している。

この期待はユニホームにも表れている。「あのチームの色を見たら強すぎて嫌になる、といわれるように」と試合着を一新。企業カラーであるＮＴＴブルーとオレンジに変えた。小樽では〝御前試合〟でこの新ユニホームの躍動が見られそうだ。

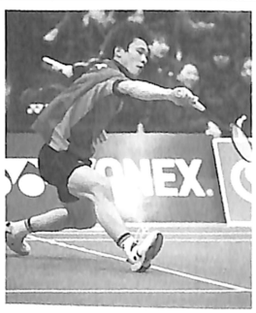
(小野　倉義)

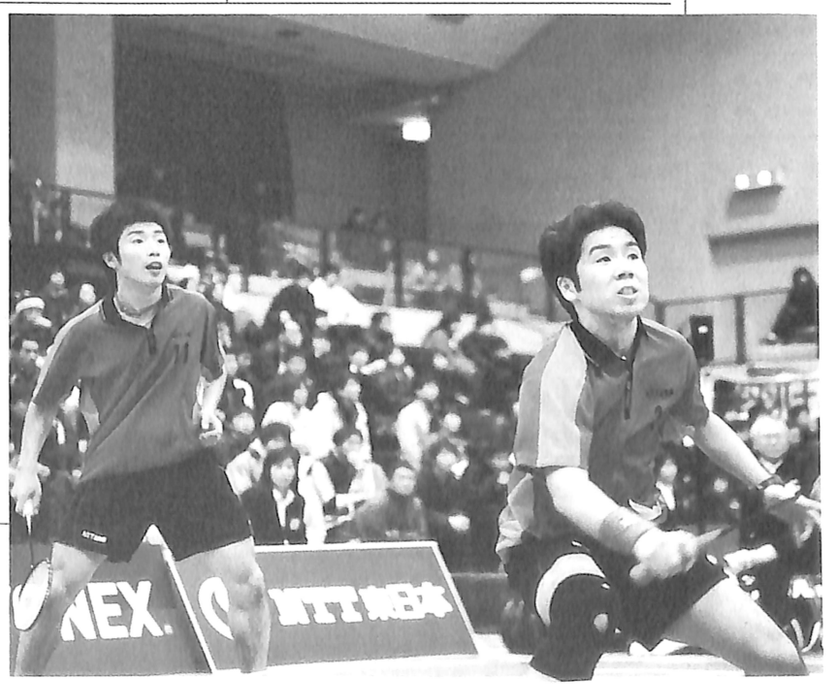
5位　NTT北海道　エース登場で新たな一歩

最終戦が終わった表彰式。水澤と三上は敢闘選手賞に選ばれると、他のどの選手よりも大きな笑みを見せその栄光を喜んだ。

昨季、ＮＴＴ北海道は対戦相手によってダブルスを組み替えたが、今季はエースとして水澤／三上が安定。これまでせり合ってきた下位チームと比較的、楽に戦えた。２人は国体で北海道を２位に導いた立役者。開幕戦のＮＴＴ東日本戦で総合２位の片山／久保田に好勝負を演じたことも、チームが６位から５位に前進する勢いを与えただろう。

欲をいえば、１勝に留まった単の吉川がユニシス・中西戦などの接戦を制せれば、なおよかった。ただＮＴＴ北海道はもともと地道さを感じさせるチームなだけに、若くて勢いのある吉川は今後、ますます伸びそうだ。





⬆社会人２年目の吉川勇司は１勝５敗と負け越したが、ユニシス・中西、東日本・松本、ＹＫＫ九州・霜上と、後半は実力者に好勝負を演じた

➡水澤(右)はルーキー三上と４勝３敗で敢闘選手賞を獲得。上位チームのユニシス・仲尾／坂本からも星を奪った

日本リーグ 第25回大会(男子)

2003(平成15)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 松田 信行


【部長】 堂前 実


【副部長】 小林 政敏


【総監督】 平山 三城


【監督】 古川 英樹


【マネージャー】 吉岡 秀樹


【主将】 星 拓磨


【選手】 水澤 直哉


井野 嘉久


吉川 勇司


三上 裕司


中村 寿史

男子	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT東日本	くまもと八代YKK	NTT北海道	NTT西日本大阪	ベスト電器	ジャトコ	勝ち点	取得マッチ率	順位
トナミ運輸		●1－2	○3－0	○3－0	○2－1	○3－0	○3－0	○3－0	6	0.857	1
日本ユニシス	○2－1		●1－2	○2－1	○2－1	○3－0	○3－0	○3－0	6	0.762	2
NTT東日本	●0－3	○2－1		●1－2	○2－1	○3－0	○3－0	○3－0	5	0.667	3
くまもと八代YKK	●0－3	●1－2	○2－1		○2－1	○2－1	○2－1	○2－1	5	0.524	4
NTT北海道	●1－2	●1－2	●1－2	●1－2		○2－1	○2－1	○3－0	3	0.524	5
NTT西日本大阪	●0－3	●0－3	●0－3	●1－2	●1－2		○2－1	○2－1	2	0.286	6
ベスト電器	●0－3	●0－3	●0－3	●1－2	●1－2	●1－2		○2－1	1	0.238	7
ジャトコ	●0－3	●0－3	●0－3	●1－2	●0－3	●1－2	●1－2		0	0.143	8

○ 男子の部（第1節・第1日）

会場：北海道立総合体育センター　入場者数(3,850)

NTT北海道 1勝 0敗　2（単 1－0／複 1－1）1　NTT西日本大阪 0勝 1敗

複	水澤直哉／三上裕司	0（6－15／16－17／－）2	松井充／櫻井勝仁
単	吉川勇司	2（16－17／17－15／17－14）1	橋本敏信
複	井野嘉久／中村寿史	2（15－8／15－5／－）0	渡辺哲義／平井達也

○ 男子の部（第1節・第2日）

会場：北海道立総合体育センター　入場者数(3,200)

NTT北海道 2勝 0敗　2（単 1－0／複 1－1）1　ベスト電器 1勝 1敗

複	水澤直哉／三上裕司	1（15－8／12－15／13－15）2	崔相範／松本武
単	吉川勇司	2（15－3／15－6／－）0	宇治克樹
複	井野嘉久／中村寿史	2（15－12／11－15／15－10）1	武田信一郎／岡田淳

○ 男子の部（第2節・第2日）

会場：江刺市中央体育館　入場者数(1,600)

日本ユニシス 2勝 0敗　2（単 0－1／複 2－0）1　NTT北海道 2勝 1敗

複	カルル・マイナキー／福井剛士	2（15－2／15－6／－）0	水澤直哉／三上裕司
単	中西洋介	1（13－15／15－5／16－17）2	吉川勇司
複	仲尾修一／坂本修一	2（15－11／15－9／－）0	井野嘉久／中村寿史

○ 男子の部（第3節・第2日）

会場：JFE倉敷体育館　入場者数(1,500)

トナミ運輸 4勝 0敗　2（単 1－0／複 1－1）1　NTT北海道 2勝 2敗

複	舛田圭太／大東忠司	0（10－15／13－15／－）2	水澤直哉／三上裕司
単	大東真也	2（15－11／15－8／－）0	吉川勇司
複	ハルモノ・ユウォノ／酒井将之	2（15－9／15－7／－）0	井野嘉久／中村寿史

○ 男子の部（第4節・第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数(2,800)

NTT東日本 3勝 1敗　2（単 1－0／複 1－1）1　NTT北海道 2勝 3敗

複	青木孝徳／川口馨士	1（15－7／10－15／7－15）2	水澤直哉／三上裕司
単	松本徹	2（15－8／15－5／－）0	吉川勇司
複	太田慎二／竹鼻拓也	2（17－16／15－6／－）0	井野嘉久／中村寿史

○ 男子の部（第4節・第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数(2,700)

NTT北海道 3勝 3敗　3（単 1－0／複 2－0）0　ジャトコ 0勝 5敗

複	水澤直哉／三上裕司	2（15－7／15－4／－）0	中島信頼／鈴木正博
単	吉川勇司	2（15－7／15－12／－）0	古川裕輔
複	井野嘉久／中村寿史	2（8－15／17－15／15－7）1	清水達也／山下豪

○ 男子の部（最終節・最終日）

会場：国立代々木競技場　第二体育館　入場者数(2,500)

くまもと八代YKK 5勝 2敗　2（単 0－1／複 2－0）1　NTT北海道 3勝 4敗

複	リオニー・マイナキー／小林広季	2（15－3／15－13／－）0	井野嘉久／中村寿史
単	平松孝浩	0（12－15／9－15／－）2	吉川勇司
複	花田政文／田上良治	2（15－11／13－15／15－13）1	水澤直哉／三上裕司

日本リーグ 第25回大会(男子)

2003(平成15)年

[3・31] 道新スポーツ

日本リーグ上位目指す

ひとこと ホットマン

バドミントンのNTT北海道女子監督に就任した

吉岡 秀樹さん(29)



女子の練習を見守る吉岡新監督

「昨年以上の成績を残すため、自分に何ができるか」。旦下の最大の関心事だ。NTT女子チームは昨年、日本リーグで8チーム中6位となり、2年連続の最下位から脱出した。2月に退部した同チームOGである田中範子コーチの力が大きかった。今年は強力新人が二人入り、さらに上を狙えるチーム力が備わった。

本州と違い、北海道の相手がいないため、日々チームは近くに競合する強豪チームにお邪魔して勉強したい」と思っていたところに、今回の監督就任の話が持ち上がった。「どうせなら自分の体が動くうちに」と快諾した。やる気満々、29歳の青年監督に期待がかかる。(小野 倉義)

昨年8チーム中6位

「体が動くうちに」現役引退

◆よしおか・ひでき 1974年(昭和49年)1月11日、茨城県生まれ。東京・関東一高時代に全国選抜大会団体戦で3位。法大時代はインカレでダブルス3位(3年)、団体戦優勝、ダブルス8強(4年)。96年NTT北海道入社。

[11・16] 道新スポーツ

NTT北海道男子 白星発進

バドミントン日本リーグ2003札幌大会 第1日(15日 道立総合体育センター1・札幌)



男女16チームが集結し、第25回記念大会が開幕した。会場には3850人が詰め掛け、熱い声援を送った。NTT北海道は男子がNTT西日本大阪を2―1で下し白星スタート。女子は昨年3位のベスト電器に0―3で敗れた。

女子が3試合連続負け。男子も第1ダブルスが敗れ、出番を迎えたシングルス吉川勇司=写真=に大きなプレッシャーがかかった。

「普段通りの力を出せば、負けるはずがない」(吉川英樹監督)吉川も、応援に詰め掛けた大観衆にびびった。「緊張で押しつぶされそうになったのは初めて」と、いつもは決まるサイドを狙ったスマッシュがことごとく外れた。

第1ゲームをセティング(デュース)の末落とすと、コートの真ん中にショットを集め相手のミスを待った。これが功を奏し第2、3ゲームとも接戦を制し、北海道勢初白星。この流れが第2ダブルスにつながり、チームの勝利に貢献した。殊勲の吉川は「JR北海道さんが力を伸ばし、競ったゲームを多く経験したおかげ」と、道内のレベルアップを強調した。

[9・6] 道新スポーツ

NTTアベック開幕ダッシュだ

バドミントン日本リーグ

札幌で全チーム集結シリーズ

11月15、16日

バドミントンの日本リーグが今年も11月から開幕するが、15、16日の開幕2連戦が札幌で行われる。今年25回を数える日本リーグで、全チームがそろう開幕シリーズを北海道で開くのは初めて。その会見が5日、札幌市内のホテルで行われた。

きたえーる8千人動員を

「25回という記念大会を、バドミントン人気が高い北海道から始められてよかった」。会見で宮永武司日本リーグ運営委員長は札幌開催を喜んだ。もともとバドミントン日本リーグの観客動員は、全国的にみても、高い数字を出しているが、今回「会場のきたえーる(道立総合体育センター)を満杯にする」と、実行委員会は8000人の動員を目指す。

そのため、道内の小中高校生を、1000人以上(数は未定)、NTT北海道が招待するプランも進行中で、大会を盛り上げる。「今のスター選手も昔、日本リーグを観戦して選手になった人もいる。いいことです」と宮永運営委員長。来年のアテネ五輪枠獲得を目指す日本代表20人中19人がそろうのは、開幕戦と最終戦だけ。見応えがありそうだ。

北海道勢唯一の参戦となるNTT北海道の男女チームは、5日、岩見沢でNTT東日本との合宿を打ち上げ、「地元でいいプレーを披露したい」と決意を新たにした。

とりわけ男子の水沢直哉主将(30)は「全日本実業団が最悪だったので、ぜひ取り返したい」と危機感を募らせている。6月の全日本実業団選手権では、3回戦から登場し、JR北海道と対戦、1―3でまさかの初戦敗退。勢いに乗ったJR北海道は3位という好成績を収めた。このため、吉川英樹監督(32)が各職場の了解を取り付け、今回、1週間のNTT東日本合宿に参加する運びになったのだ。

「普段の練習では配球や球筋がわかりきっている。だから今回のような練習は非常に有意義」と吉川監督。また、札幌で開催されている東日本学生大会の上位選手を招くなど、通常と違う練習相手を選び大会に備えた。

一方、女子は男子と好対照で、全日本実業団では3位に輝いた。海外遠征中のエース中麻衣子(27)に加え、黒川真緒(23)、吉岡久美子(21)の新人が期待通りの活躍を見せた。本田恵主将(26)も「みんなひと皮むけた感じ。ミスも少なくなったし、いい状態です」。NTT東日本との合宿でもいい動きを見せていた。

全日本実業団では昨年の日本リーグ3位・ベスト電器も破っており、躍進してくれそう。本田主将も「昨年はBクラスだったけど、今年はAクラスの上位を狙います」と手応えを感じていた。(小野 倉義)

北海大全国出場者あわせ

【15日】▽男子 NTT北海道―ベスト電器 ▽女子 三洋電機クス電九州 ネットC日本 ヨネックスE日本 ▽男子 NTT西日本大阪 NTTジャトコ 七十七銀行 三菱電機TT 北海道日本 NN子ども会 八代YKK 日本と西コ ベストTT電器 【16日】▽男子 運輸シス本一 東北日本一 北海道一七十七銀行 ▽女子 NTTTT北海道一三菱電機

バドミントン日本リーグ2002成績

	男子	女子
①優勝	勝	勝
②準優勝	勝	勝
③4位	勝	勝
④5位	勝	勝
⑤6位	勝	勝
⑥7位	勝	勝
⑦8位	勝	勝
敗数	1	1
敗数	2	2
敗数	4	4
敗数	4	6
敗数	6	5
敗数	7	6
敗数	6	5
	本田	北海道
	北海道	大阪
	九電機	北海道
	東北	北海道
	日本	大阪
	日本	大阪
	北海道	大阪
	北海道	大阪
	北海道

日本リーグ 第26回大会(男子)

2004(平成16)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 牧野　哲也


【部長】 清水　善廣


【副部長】 小林　政敏


【総監督】 平山　三城


【監督】 古川　英樹


【コーチ】 星　拓磨


【主将】 水澤　直哉


【選手】 井野　嘉久


一宮　孝一


吉川　勇司


三上　裕司


中村　寿史


長原　正博

男子	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT東日本	NTT北海道	くまもと八代YKK AP	大阪トリッキーパンダース	JR北海道	ジヤトコ	勝ち点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A+B	順位
トナミ運輸		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
日本ユニシス	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	19	2	0.905	2
NTT東日本	● 1－2	● 0－3		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	16	5	0.762	3
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 3－0	● 1－2	○ 3－0	3	9	12	0.429	4
くまもと八代YKK AP	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	8	13	0.381	5
大阪トリッキーパンダース	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	2	5	16	0.238	6
JR北海道	● 0－3	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 1－2		● 1－2	1	5	16	0.238	7
ジヤトコ	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		1	3	18	0.143	8

○ 男子の部（第1節・第1日）

会　場：高岡市民体育館　入場者数(3,200)

NTT北海道 1勝 0敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　くまもと八代YKK AP 0勝 1敗

複	井野 嘉久 / 中村 寿史	0 {14－17, 8－15, －} 2	リオニー・マイナキー / 小林 広季
単	長原 正博	2 {15－10, 15－2} 0	土田 真義
複	水澤 直哉 / 三上 裕司	2 {15－4, 15－6, －} 0	花田 政文 / 田上 良治

○ 男子の部（第1節・第2日）

会　場：高岡市民体育館　入場者数(2,300)

トナミ運輸 2勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 1勝 1敗

複	今井 紀夫 / 舛田 圭太	2 {15－6, 15－5, －} 0	水澤 直哉 / 三上 裕司
単	大東 真也	2 {15－7, 15－4, －} 0	長原 正博
複	ハルモノ・ユウォノ / 酒井 将之	2 {15－5, 15－9, －} 0	井野 嘉久 / 中村 寿史

○ 男子の部（第2節）

会　場：北海道立総合体育センター（27日）　入場者数(2,800)

NTT北海道 2勝 1敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　ジヤトコ 0勝 3敗

複	水澤 直哉 / 三上 裕司	2 {9－15, 15－8, 15－13} 1	岡山 秀義 / 山下 豪
単	長原 正博	2 {17－14, 15－4, －} 0	栗 佑貴
複	井野 嘉久 / 中村 寿史	2 {15－2, 15－9, －} 0	長谷川 篤志 / 清水 達也

○ 男子の部（第3節）

会　場：広島県立総合体育館(4日)　入場者数(1,250)

NTT北海道 3勝 1敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　大阪トリッキーパンダース 0勝 3敗

複	水澤 直哉 / 三上 裕司	2 {15－11, 15－8, －} 0	黄 善鎬 / 櫻井 勝仁
単	吉川 勇司	2 {15－2, 17－14, －} 0	古川 裕輔
複	井野 嘉久 / 中村 寿史	2 {15－5, 8－15, 15－4} 1	平井 達也 / 岡野 史裕

○ 男子の部（第4節）

会　場：宮城県スポーツセンター　入場者数(2,250)

日本ユニシス 4勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 3勝 2敗

複	劉 永 / 福井 剛士	2 {15－11, 15－8, －} 0	一宮 孝一 / 中村 寿史
単	山田 英孝	2 {15－7, 15－2, －} 0	吉川 勇司
複	坂本 修一 / 池田 信太郎	2 {15－6, 15－4, －} 0	水澤 直哉 / 三上 裕司

○ 男子の部（第5節）

会　場：仙南総合体育館「リリオス」　入場者数(1,100)

JR北海道 1勝 4敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTT北海道 3勝 3敗

複	小野 敏和 / 松本 章	0 {9－15, 3－15, －} 2	井野 嘉久 / 中村 寿史
単	竹村 純	2 {15－9, 15－6, －} 0	長原 正博
複	橋村 竜彦 / 関野 有起	2 {15－7, 15－7, －} 0	水澤 直哉 / 三上 裕司

○ 男子の部（最終節・最終日）

会　場：国立代々木競技場第二体育館　入場者数(3,000)

NTT東日本 5勝 2敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 3勝 4敗

複	松本 徹 / 川口 馨士	2 {15－13, 15－5, －} 0	水澤 直哉 / 三上 裕司
単	清水 裕	2 {11－15, 15－13, 15－10} 1	吉川 勇司
複	新開 裕介 / 川前 直樹	2 {15－8, 15－6, －} 0	井野 嘉久 / 中村 寿史

日本リーグ 第26回大会(男子)

2004(平成16)年

［11・28］北海道新聞



北海道新聞　2004年(平成16)年11月28日(日曜日)

バドミントン
日本リーグ札幌大会

NTT北海道 男子快勝

JR北海道 初勝利ならず

バドミントンの日本リーグ札幌大会は27日、道立総合体育センターで男女2試合を行い、男子はNTT北海道が3―0でジャトコに快勝し、通算成績を2勝1敗とした。今季1部に昇格したJR北海道は昨季3位のNTT東日本に0―3で敗れ、初勝利はならなかった。女子のNTT北海道は、2年ぶり1部復帰の広島ガスに1―2と手痛い敗戦を喫した。(太字は勝者)

▽男子
NTT北海道 3―0 ジャトコ
2勝1敗
小野 13 15 15 井野
15 13 13 中村
関口 15 15 2 関野
吉本 15 15 10 長原
山田 3 0 2 三上
ヨネックス 3―0 三協出雲
3勝

▽女子
広島ガス 2―1 NTT北海道
2勝1敗
川本 15 15 5 長原
松村 15 17 7 関野
新垣 15 15 3 井水
川本 15 15 8 関野
松村 15 15 13 三上
日吉 15 15 9 井水
小野 13 15 13 中村
日吉 15 15 11 三上
川本 15 15 8 長原
松村 15 15 4 関野
新垣 15 15 7 井水
三木 15 9 15
上野 15 13 8 山田
長原 15 17 14
関野 4 0 関
井野 15 15 9
関野 2 0 井水
中村 15 15 2
JR北海道 0 NTT北海道
2勝

粘りの試合をみせたNTT北海道の長原
(金田淳撮影)

Aクラス入り頼もしいルーキー

2勝1敗で今シリーズ初勝利を挙げたNTT北海道。男子のNTT北海道は、昨季最下位のジャトコ相手に油断があったのか、第1ダブルスはゲームを落とすが、ルーキーペアがしぶとくリードを許さず1ゲームを取った。

大黒星スタートを切った昨季とは違い、2試合目から主力が登場。第2ダブルスの松本・関野組は第1ゲームを21―19と競り勝ち、第2ゲームも15―8と押し切った。

第3ダブルスの小野・中村組は第1ゲームを13―15と落とすが、第2ゲームは15―2と圧倒。第3ゲームは15―13と競り勝った。

シングルスは、エースの吉本が第1ゲームを15―5と先取。第2ゲームは15―7と落とすが、第3ゲームは15―5と押し切った。

第4シングルスの関野は第1ゲームを15―3と先取。第2ゲームは15―4と落とすが、第3ゲームは15―0と圧倒した。

大黒星スタートを喫した昨季の雪辱を果たした。

ルーキーペアの長原・関野組は、第1ゲームを21―19と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第3ゲームは15―5と落とすが、第4ゲームは15―7と押し切った。

第5シングルスの三上は、第1ゲームを15―3と先取。第2ゲームは15―4と落とすが、第3ゲームは15―0と圧倒した。

第6シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第7シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第8シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第9シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第10シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第11シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第12シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第13シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第14シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第15シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第16シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第17シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第18シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第19シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第20シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第21シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第22シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第23シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第24シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第25シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第26シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第27シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第28シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第29シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第30シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第31シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第32シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第33シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第34シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第35シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第36シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第37シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第38シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第39シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第40シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第41シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第42シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第43シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第44シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第45シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第46シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第47シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第48シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第49シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第50シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第51シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第52シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第53シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第54シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第55シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第56シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第57シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第58シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第59シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第60シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第61シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第62シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第63シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第64シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第65シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第66シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第67シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第68シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第69シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第70シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第71シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第72シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第73シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第74シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第75シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第76シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第77シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第78シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第79シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第80シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第81シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第82シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第83シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第84シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第85シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第86シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第87シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第88シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第89シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第90シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第91シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第92シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第93シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第94シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第95シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第96シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第97シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第98シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第99シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第100シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第101シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第102シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第103シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第104シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第105シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第106シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第107シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第108シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第109シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第110シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第111シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第112シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第113シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第114シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第115シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第116シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第117シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第118シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第119シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第120シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第121シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第122シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第123シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第124シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第125シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第126シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第127シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第128シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第129シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第130シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第131シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第132シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第133シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第134シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第135シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第136シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第137シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第138シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第139シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第140シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第141シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第142シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第143シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第144シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第145シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第146シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第147シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第148シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第149シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第150シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第151シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第152シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第153シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第154シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第155シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第156シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第157シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第158シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第159シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第160シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第161シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第162シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第163シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第164シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第165シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第166シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第167シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第168シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第169シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第170シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第171シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第172シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第173シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第174シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第175シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第176シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第177シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第178シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第179シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第180シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第181シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第182シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第183シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第184シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第185シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第186シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第187シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第188シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第189シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第190シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第191シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第192シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第193シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第194シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第195シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

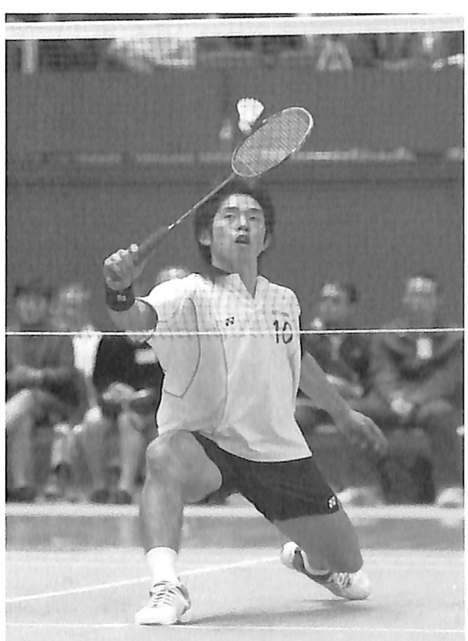
第196シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第197シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第198シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。

第199シングルスの関野は、第1ゲームを15―13と競り勝ち、第2ゲームは15―8と押し切った。

第200シングルスの井水は、第1ゲームを15―9と先取。第2ゲームは15―0と圧倒した。



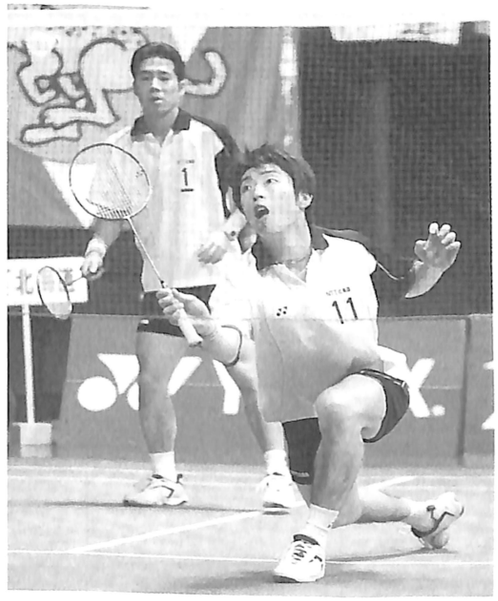
長原選手

Aクラス入りするも無念の思い

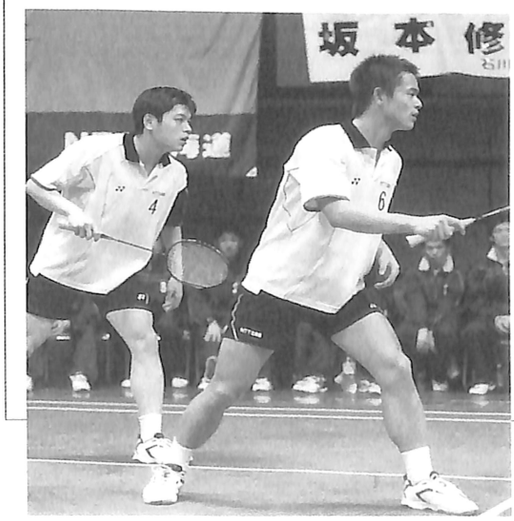
4位
NTT北海道

ほかのチームでさまざまなペアの組み替えが目立つなか、水澤／三上、長原、井野／中村というほぼ固定したオーダーで臨んだ今季リーグ。その戦力の安定を証明するかのように、悲願だったAクラス入りの目標を達成した。4位に入るのは96年以来、8年ぶり。しかし、その試合内容について、古川監督からは「いつもだったら3強にも0－3で負けることはなかったのに…。今年はうちらしいしぶとさが出せなかった」と悔しさがもれた。

無念はそれだけではない。第6戦のJR北海道戦、1－1で回ってきた第2複で、エース水澤／三上が橋村／関野にストレート負け。因縁の地元ライバルに敗れ、最終戦はNTT東日本と3位争いができなかった。「今季は一歩前進できたけれど、来季はもっと！」（古川監督）。飽くなき思いが飛躍につながる。



❶ここ数年、5、6位が定位置と化していたがようやく脱出。水澤（奥）／三上が初戦のくまもと八代YKK戦で勝利ポイントをあげたことが大きかった。来季はさらなる安定感を加え絶対的エースに！
❷24歳の中村（右）はベテラン井野（左）、一宮と組んで全戦出場。3勝をあげ、第2複としての役割を果たした



日本リーグ 第27回大会(男子)

2005(平成17)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 牧野　哲也


【部長】 富居　次郎


【副部長】 小林　政敏


【総監督】 平山　三城


【監督】 古川　英樹


【男子主将】 井野　嘉久


【選手】 一宮　孝一


吉川　勇司


三上　裕司


中村　寿史


長原　正博


米　隆夫

男子

	日本ユニシス	NTT東日本	トナミ運輸	JR北海道	NTT北海道	大阪トリッキーパンダース	くまもと八代YKK AP	NTTグループ東北	勝ち点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A+B	順位
日本ユニシス		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
NTT東日本	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	18	3	0.857	2
トナミ運輸	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	15	6	0.714	3
JR北海道	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	4	10	11	0.476	4
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	3	8	13	0.381	5
大阪トリッキーパンダース	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	2	5	16	0.238	6
くまもと八代YKK AP	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	5	16	0.238	7
NTTグループ東北	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		0	4	17	0.190	8

○ 男子の部（第1節・第2日）

会　場：仙台市体育館　入場者数(3,000)

NTT北海道 1勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　大阪トリッキーパンダース 0勝 1敗

複	三上 裕司 / 米 隆夫	2	15－11, 15－5	川口 佳介 / ﾊﾙﾃﾞｨ・ｻﾌﾟﾄﾗ
単	吉川 勇司	2	15－12, 17－16	古川 裕輔
複	井野 嘉久 / 中村 寿史	2	17－16, 15－8	松井 充 / 櫻井 勝仁

○ 男子の部（第2節）

会　場：新潟市東総合体育館　入場者数(1,800)

JR北海道 2勝 1敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTT北海道 1勝 1敗

複	橋村 竜彦 / 関野 有起	0	7－15, 10－15	三上 裕司 / 米 隆夫
単	竹村 純	2	15－5, 15－5	吉川 勇司
複	多田 亮太 / 鈴木 知道	2	17－16, 15－12	井野 嘉久 / 中村 寿史

○ 男子の部（第3節）

会　場：北海道立総合体育館(きたえ～る)　入場者数(2,400)

NTT北海道 2勝 1敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTTｸﾞﾙｰﾌﾟ東北 0勝 4敗

複	三上 裕司 / 米 隆夫	2	15－7, 15－2	山浦 元樹 / 垣内 大輔
単	吉川 勇司	2	11－15, 15－9, 15－8	大島 一央
複	井野 嘉久 / 中村 寿史	1	15－11, 12－15, 13－15	ｲｸﾞﾅﾃｨｳｽ・ﾙﾃﾞｨ / 天野 真一

○ 男子の部（第4節）

会　場：久喜市総合体育館　入場者数(1,600)

日本ユニシス 4勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 2勝 2敗

複	劉 永 / 池田 信太郎	2	15－9, 10－15, 15－10	三上 裕司 / 米 隆夫
単	山田 英孝	2	11－15, 15－6, 15－7	吉川 勇司
複	仲尾 修一 / 坂本 修一	2	15－7, 15－9	井野 嘉久 / 中村 寿史

○ 男子の部（第5節・第1日）

会　場：高岡市民体育館　入場者数(2,700)

トナミ運輸 5勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 2勝 3敗

複	舛田 圭太 / 大東 忠司	2	15－3, 15－6	三上 裕司 / 米 隆夫
単	大東 真也	2	17－14, 15－11	吉川 勇司
複	ﾊﾙﾓﾉ・ﾕｳｵﾉ / 平田 典靖	2	15－4, 15－5	井野 嘉久 / 中村 寿史

○ 男子の部（最終節・最終日）

会　場：守口市民体育館　入場者数(2,200)

NTT東日本 6勝 1敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 3勝 4敗

複	松本 徹 / 川口 馨士	2	15－9, 15－17, 15－11	三上 裕司 / 米 隆夫
単	佐藤 翔治	2	15－9, 15－1	吉川 勇司
複	新開 裕介 / 川前 直樹	2	15－8, 15－2	井野 嘉久 / 中村 寿史

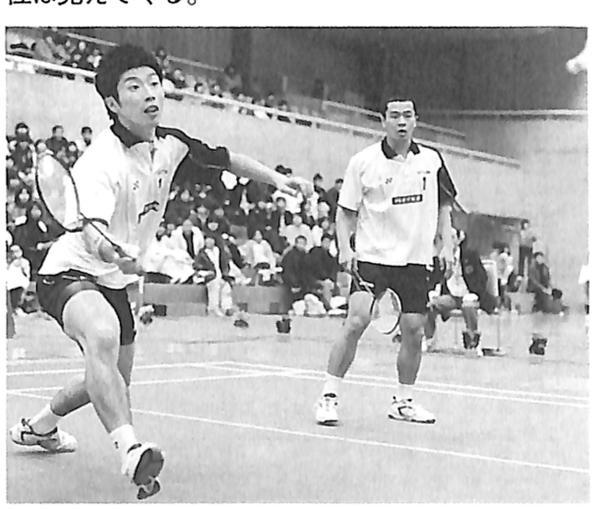
日本リーグ 第27回大会(男子)　2005(平成17)年

5位 NTT北海道

リズム失い一歩後退

本誌選定MVP 三上裕司&米隆夫

三上／米、吉川、井野／中村というほぼ固定オーダーで挑んだ今季。ときに大物食いを演じる三上は、ルーキー米との相性もよく、今季は4ペアにストレート勝ち。さらに、ユニシスの劉永／池田、東日本の松本／川口にもファイナル勝負し、エースの役割を果たした。だが、チームはこの善戦を繋げず昨季4位から一歩後退。「第2戦でJR北海道に敗れてから井野／中村が調子を崩してしまった」と古川監督。JR北海道は地元・札幌で覇を競う好敵手で、とくに意識せざるをえない相手だろう。3連敗中の相手をどう切り崩すかで、来季の順位は見えてくる。



4勝3敗で新エースとしての役割をきっちり果たしたのは三上(左)／米。ユニシスの劉永／池田、NTT東日本の川口／松本にも接戦を演じ、ダブルス巧者らしさを見せつけた





日本リーグ 第28回大会(男子)

2006(平成18)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 加茂 孝之



【部長】 富居 次郎



【副部長】 小林 政敏



【総監督】 平山 三城



【監督】 古川 英樹



【コーチ兼選手】 井野 嘉久



【マネージャー兼選手】 一宮 孝一



【男子主将】 三上 裕司



吉川 勇司



中村 寿史



米 隆夫



○ 男子の部

チーム名	日本ユニシス	トナミ運輸	NTT東日本	大阪トリッキーパンダース	NTT北海道	JR北海道	くまもと八代YKK AP	日立情報通信エンジニアリング	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A/A+B	順位
日本ユニシス		●1－2	○2－1	○3－0	○3－0	○2－1	○3－0	○3－0	6	17	4	0.810	1
トナミ運輸	○2－1		●1－2	○3－0	○2－1	○3－0	○3－0	○3－0	6	17	4	0.810	2
NTT東日本	●1－2	○2－1		○3－0	○3－0	○2－1	○3－0	○3－0	6	17	4	0.810	3
大阪トリッキーパンダース	●0－3	●0－3	●0－3		○3－0	○2－1	○2－1	●1－2	3	8	13	0.381	4
NTT北海道	●0－3	●1－2	●0－3	●0－3		○3－0	●1－2	○3－0	2	8	13	0.381	5
JR北海道	●1－2	●0－3	●1－2	●1－2	●0－3		○3－0	○2－1	2	8	13	0.381	6
くまもと八代YKK AP	●0－3	●0－3	●0－3	●1－2	○2－1	●0－3		○3－0	2	6	15	0.286	7
日立情報通信エンジニアリング	●0－3	●0－3	●0－3	○2－1	●0－3	●1－2	●0－3		1	3	18	0.143	8

1～3位はゲーム率による

○ 男子の部（第1節・第1日）

会場：守口市民体育館　入場者数(1,300)

NTT北海道 1勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　JR北海道 0勝 1敗

複	三上 裕司 / 米 隆夫	2	21－8, 24－22	橋村 竜彦 / 多田 亮太
単	吉川 勇司	2	21－13, 21－19	竹村 純
複	井野 嘉久 / 中村 寿史	2	16－21, 21－14, 21－18	関野 有起 / 鈴木 知道

○ 男子の部（第1節・第2日）

会場：守口市民体育館　入場者数(1,600)

トナミ運輸 2勝 0敗　2 {単 0－1, 複 2－0} 1　NTT北海道 1勝 1敗

複	舛田圭太 / 大東忠司	2	21－5, 21－12	三上裕司 / 米隆夫
単	大東真也	0	6－21, 20－22	2 吉川勇司
複	劉志遠 / 平田典靖	2	24－26, 21－13, 21－14	1 井野嘉久 / 中村寿史

○ 男子の部（第2節・第1日）

会場：JFE倉敷体育館　入場者数(1,600)

NTT東日本 2勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 1勝 2敗

複	川口馨士 / 川前直樹	2	21－18, 17－21, 21－16	1 三上裕司 / 米隆夫
単	佐伯浩一	2	21－13, 21－10	0 吉川勇司
複	佐藤翔治 / 新開裕介	2	21－7, 21－14	0 井野嘉久 / 中村寿史

○ 男子の部（第3節）

会場：北海道立総合体育センター　入場者数(3,000)

NTT北海道 2勝 2敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　日立情報通信エンジニアリング 0勝 3敗

複	三上裕司 / 米隆夫	2	21－13, 21－18	0 山下洋平 / 舘田真哉
単	吉川勇司	2	21－16, 21－18	0 銭谷公浩
複	井野嘉久 / 中村寿史	2	21－11, 24－22	0 長原克博 / 中山大聡

○ 男子の部（第4節・第1日）

会場：広島市中区スポーツセンター　入場者数(1,050)

くまもと八代YKK 1勝 3敗　2 {単 0－1, 複 2－0} 1　NTT北海道 2勝 3敗

複	花田政文 / 田上良治	2	22－20, 15－21, 21－11	1 三上裕司 / 米隆夫
単	土田真義	1	19－21, 21－16, 18－21	2 吉川勇司
複	小林広季 / 宮崎晃平	2	21－19, 21－17	0 井野嘉久 / 中村寿史

○ 男子の部（第5節・第2日）

会場：福井県営体育館　入場者数(1,450)

日本ユニシス 5勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 2勝 4敗

複	坂本修一 / 池田信太郎	2	21－13, 21－13	0 三上裕司 / 米隆夫
単	中西洋介	2	21－13, 13－21, 21－12	1 吉川勇司
複	仲尾修一 / 廣部好輝	2	21－12, 21－14	0 井野嘉久 / 中村寿史

○ 男子の部（最終節・第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数(3,500)

大阪トリッキーパンダース 3勝 4敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 2勝 5敗

複	櫻井勝仁 / 松井充	2	21－16, 12－21, 21－16	1 三上裕司 / 米隆夫
単	古川裕輔	2	21－14, 21－10	0 吉川勇司
複	川口佳介 / 張雷	2	21－11, 21－18	0 井野嘉久 / 中村寿史

日本リーグ 第28回大会(男子)

2006(平成18)年

［11・24］北海道新聞

バドミントン日本リーグ

道内最終戦飾る

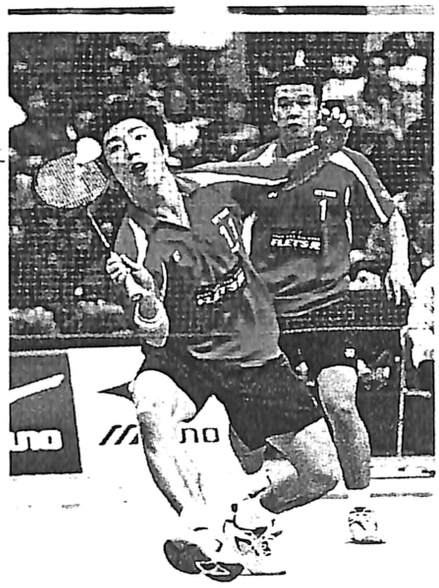
NTT北海道2勝2敗に

社会人バドミントンの日本リーグ札幌大会は23日、札幌市の道立総合体育センターで男女計3試合を行い、男子では今季限りで同リーグを撤退するNTT北海道がリーグ初昇格の日立情報通信エンジニアリングを3－0で下して、道内最終戦を白星で飾った。NTT北海道はこれで2勝2敗の五分に戻した。JR北海道は昨年の覇者の日本ユニシスに1－2で敗れ、1勝3敗。女子は三洋電機が小椋・潮田組の「オグ・シオ」コンビのうち潮田が欠場したものの、NTT東日本に3－0で勝った。（太字は勝者）【男子】

NTT北海道 3－0 日立情報通信エンジニアリング

三上	米	
2	2	
21－12	21－13	中井
21－18	21－16	吉川
0	0	村野
銭	畠山	
谷	田ド	

第1ダブルスとしてチームを勢いづけたNTT北海道の三上（手前）と米（西野正史撮影）



「支えてもらった…」

思い万感、終始圧倒

地元での最後の試合。地力で勝るNTT北海道が、今季リーグ初参戦の日立情報通信エンジニアリングを終始圧倒し、理想的な勝ち方を収めた。

第1ダブルスの三上・米組は第1ゲームを21－13で取ると、第2ゲームも追い上げを受けながらも21－18でかわした。相手の山下・舘田組には昨年の全日本実業団ではストレート負けしたが、「あの時はうまく揺さぶりをかけられた」と主将の三上。この勝利でチームは勢いづき、シングルスの吉川、第2ダブルスの井野・中村組とも1ゲームも与えなかった。

12月のリーグ終了後、男子の所属6人のうち、今春まで主将を務めた井野、吉川、一宮が引退する。残る3人は移籍のほか、指導者としての道を探ってチームを離れる。本州での3試合が残っているが、31歳の井野は「支えてもらった人たちの前でやれるのは今回が最後だと思った」と話す。

三上主将は「小さいころからあこがれていたトップチームでやれた。（社会人バドミントンの）ユニホームを着たのもNTT北海道なら、選手を終えるのもここ」と満足そうに語った。今後は、道内の大学で指導者として再出発する予定だ。（安福 洋）

NTT北海道が日本リーグ撤退 NEWS

NTT北海道バドミントン部が日本リーグからの撤退を発表した。10月28日に開幕する06年大会が最後の戦いとなる。

男子部は67年に発足。日本リーグには第2回の80年から参戦し、90年には準優勝を飾っている。女子部は89年に発足し、99年から05年まで1部で活躍した。しかし、近年の厳しい社会環境のなかでチーム力の維持ができなくなったことを踏まえ、今回の決断に踏み切った。NTT北海道バドミントン部は野球部が4月に休部を発表している。

男子部の古川監督は「今後の補強が見込めず、1部を維持できる強いチームづくりができなくなった。残念ですが、個人の将来も考えて、今後については各選手の移籍先も含め検討中です」という。チームとしての最後の戦いとなる日本リーグは「全員が内に秘めるものがあると思う。ぜひがんばりたい」と決意を語った。



NTT北海道
○3-0大阪トリッキーパンダース／
●1-2JR北海道／
○2-1NTTグループ東北
昨季4位からさらなる上昇をねらい、初戦で新エース三上（右）／米がトリバンの助っ人サブトラペアを突破。続いて吉川、井野／中村もストレート勝ちを収めた。長年のライバルJR北海道には2年連続で敗れ痛手は大きいはずだが、後半は3強に一矢報いたい

NTT北海道

チーム分析

第2回から日本リーグに欠かさず参戦してきた伝統チームだが、厳しい社会環境のなかチーム力維持が困難になったという理由で、今季をもってリーグから撤退することになった。NTT北海道のエースとして最後の挑戦をするのは、昨季4勝をあげた三上／米。ユニシスの劉永／池田、東日本の松本／川口にもファイナル勝負をしており、今年もチームを盛り上げる役割を果たしそう。シングルスは吉川、第2複には井野／中村が立つか。固定オーダーでAクラス入りをめざす。

編集部から一言

「地道で素朴な紳士といった印象のある個性派のリーグ撤退は本当に残念…。最後の雄姿は見逃せません！」

井野（右）／中村





吉川勇司



三上（左）／米

日本リーグ 第14回大会出場 2部リーグ(女子)　1992(平成4)年

〈 メンバー 〉



【オーナー】川内　武
【部長】牧野　哲也
【副部長】平山　三城
【監督】米山　孝二
【コーチ】伊藤　雅弘
【マネージャー兼選手】弓削　展子
【選手】小笠原　満
【選手】日景　真弓
【選手】田中　範子
【選手】土屋　留美子
【選手】佐藤　京子
【選手】武田　明美

○第14回大会(平成4年)

チーム名	ベスト電器	三菱電機	北國銀行	NTT北海道	トヨタ自動車	百十四銀行	日本電装	富士通沼津	勝点	取得点A	失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
ベスト電器		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	17	4	0.810	1
三菱電機	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	5	13	8	0.619	2
北國銀行	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	5	13	8	0.619	3
NTT北海道	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	4	13	8	0.619	4
トヨタ自動車	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	3	12	9	0.571	5
百十四銀行	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 1－2	● 0－3		○ 3－0	○ 3－0	3	11	10	0.524	6
日本電装	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 3－0	1	5	16	0.238	7
富士通沼津	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3		0	0	21	0.000	8

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	ベスト電器 1勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 0勝 1敗
複	金　正子 片岡道子	2	15－4 15－12 —	0	土屋 留美子 佐藤 京子
単	渡辺順子	2	6－11 11－9 11－7	1	小笠原　満
複	田頭美奈子 川添美奈	1	17－18 15－11 10－15	2	日景真弓 田中範子

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	北國銀行 2勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 0勝 2敗
複	山口美香 鶴来悦子	0	0－15 7－15 —	2	日景真弓 田中範子
単	中田裕子	2	11－12 11－3 11－6	1	小笠原　満
複	閤田和恵 堅田美奈子	2	18－16 18－15 —	0	土屋 留美子 佐藤 京子

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝 2敗	2	単1 0 複1 1	1	トヨタ自動車 2勝 1敗
複	日景真弓 田中範子	2	8－15 15－10 15－11	1	松田泰子 鳥居由恵
単	小笠原　満	2	11－3 12－11 —	0	中水流由美
複	土屋 留美子 佐藤 京子	0	5－15 11－15 —	2	藤本暢子 松島貴子

○ 女子の部（第2日・第2試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	三菱電機 3勝 1敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 1勝 3敗
複	久保田美可 千代由美子	1	15－8 0－15 1－15	2	日景真弓 田中範子
単	畑山もとこ	2	11－4 11－3	0	武田明美
複	井上　香 鬼塚知美	2	18－16 12－15 15－10	1	小笠原　満 土屋 留美子

○ 女子の部（第2日・第3試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 2勝 3敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	百十四銀行 1勝 4敗
複	日景真弓 小笠原　満	2	15－12 15－4 —	0	古田真由美 富田美津枝
単	田中範子	0	8－11 3－11 —	2	森下さおり
複	佐藤京子 土屋留美子	2	7－15 15－6 15－9	1	山白麻紀 村瀬安代

○ 女子の部（第3日・第1試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 3勝 3敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	日本電装 1勝 5敗
複	日景真弓 田中範子	2	15－6 15－10 —	0	三原千恵子 矢島優子
単	小笠原　満	2	5－11 11－6 11－4	1	杉本真紀子
複	土屋 留美子 佐藤京子	2	15－12 15－3 —	0	日山智絵 高岡直美

○ 女子の部（第3日・最終試合）

会場	宝塚スポーツセンタ総合体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 4勝 3敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	富士通沼津 0勝 7敗
複	日景真弓 小笠原　満	2	15－1 15－1 —	0	松本朋子 佐野直巳
単	田中範子	2	11－1 11－0	0	渡辺史代
複	土屋 留美子 武田明美	2	15－5 15－1 —	0	伊豆澤 有季子 勝亦朋美

日本リーグ 第15回大会 2部リーグ(女子) 1993(平成5)年

〈 メンバー 〉



【オーナー】川内 武
【部長】牧野 哲也
【副部長】平山 三城
【監督】米山 孝二
【コーチ】伊藤 雅弘
【コーチ兼選手】日景 真弓
【マネージャー兼選手】臼井 展子
【選手】小笠原 満
田中 範子
土屋 留美子
佐藤 京子
武田 明美

○第15回大会(平成5年)

チーム名	ベスト電器	トヨタ自動車	NTT北海道	北國銀行	三菱電機	百十四銀行	日本電装	関東自工	勝点	取得点A	失点B	取得マッチ率A／A+B	順位
ベスト電器		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	7	18	3	0.857	1
トヨタ自動車	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	5	13	8	0.619	2
NTT北海道	● 0－3	○ 2－1		● 1－2	○ 3－0	● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	4	12	9	0.571	3
北國銀行	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	4	12	9	0.571	4
三菱電機	● 0－3	● 1－2	● 0－3	○ 2－1		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	4	10	11	0.476	5
百十四銀行	● 0－3	● 1－2	○ 2－1	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	3	10	11	0.476	6
日本電装	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	8	13	0.381	7
関東自工	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		0	1	20	0.048	8

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2 {単1 0, 複1 1} 1	トヨタ自動車 0勝 1敗
複	日景真弓・田中範子	2 {15－5, 15－8} 0	鳥居由恵・清水由紀子
単	小笠原満	2 {11－1, 11－1} 0	前田久美子
複	佐藤京子・武田明美	0 {6－15, 4－15} 2	藤本暢子・松田泰子

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	百十四銀行 1勝 1敗	2 {単1 0, 複1 1} 1	NTT北海道 1勝 1敗
複	谷岡園子・山下真奈美	0 {7－15, 3－15} 2	日景真弓・田中範子
単	富田美津枝	2 {11－5, 11－5} 0	土屋留美子
複	古田真由美・村瀬安代	2 {8－15, 18－13, 15－8} 1	小笠原満・武田明美

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	NTT北海道 2勝 1敗	2 {単0 1, 複2 0} 1	日本電装 0勝 3敗
複	小笠原満・武田明美	2 {15－3, 15－8} 0	矢島優子・高岡直美
単	土屋留美子	0 {4－11, 7－11} 2	日山智絵
複	日景真弓・田中範子	2 {15－4, 15－9} 0	青木美代子・米倉歩

○ 女子の部（第2日・第2試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	NTT北海道 3勝 1敗	3 {単1 0, 複2 0} 0	関東自工 0勝 4敗
複	日景真弓・武田明美	2 {18－13, 15－3} 0	佐々由美子・大塚由架子
単	田中範子	2 {11－2, 11－4} 0	伊藤圭子
複	小笠原満・佐藤京子	2 {15－8, 15－7} 0	森裕子・斉藤未来

○ 女子の部（第2日・第3試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	ベスト電器 5勝 0敗	3 {単1 0, 複2 0} 0	NTT北海道 3勝 2敗
複	金正子・川添美奈	2 {15－11, 15－8} 0	小笠原満・佐藤京子
単	渡辺順子	2 {11－6, 11－5} 0	田中範子
複	田頭美奈子・清水尚美	2 {15－6, 15－5} 0	日景真弓・武田明美

○ 女子の部（第3日・第1試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	NTT北海道 4勝 2敗	3 {単1 0, 複2 0} 0	三菱電機 4勝 2敗
複	日景真弓・田中範子	2 {12－15, 15－7, 17－14} 1	鬼束明美・秋山紫峰
単	土屋留美子	2 {5－11, 11－7, 11－8} 1	鬼塚知美
複	小笠原満・武田明美	2 {15－10, 15－12} 0	井上香・森川和枝

○ 女子の部（第3日・最終試合）

会場	福岡市南体育館		入場者数
成績	北國銀行 4勝 3敗	2 {単1 0, 複1 1} 1	NTT北海道 4勝 3敗
複	山口美香・中嶋智子	0 {8－15, 5－15} 2	日景真弓・田中範子
単	中田裕子	2 {5－11, 11－6, 11－3} 1	土屋留美子
複	閤田和恵・西島美奈子	2 {15－9, 15－9} 0	小笠原満・武田明美

日本リーグ 第16回大会 2部リーグ(女子)　1994(平成6)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 川内　武



【部長】 牧野　哲也



【副部長】 木村　敏男



【監督】 伊藤　雅弘



【コーチ兼選手】 日景　真弓



【マネージャー兼選手】 臼井　展子



【選手】 小笠原　満



田中　範子



土屋　留美子



佐藤　京子



武田　明美



○日本リーグ'94(第16回大会(平成6年))

チーム名	三菱電機	NTT北海道	NEC	北國銀行	チザキ	トヨタ自動車	百十四銀行	日本電装	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
三菱電機		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	7	15	2	0.882	1
NTT北海道	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	5	14	9	0.609	2
NEC	● 1－2	○ 2－1		○ 2－1	● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	5	14	8	0.636	3
北國銀行	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	4	14	12	0.538	4
チザキ	● 1－2	● 1－2	○ 2－1	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	3	10	12	0.455	5
トヨタ自動車	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	2	7	12	0.368	6
百十四銀行	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	1	6	12	0.333	7
日本電装	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 1－2		1	4	17	0.190	8

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1 百十四銀行 0勝 1敗
複	日景真弓 田中範子	1	15－7 2－15 2－15	2 村瀬安代 富田美津枝
単	武田明美	2	11－1 11－2 —	0 山下真奈美
複	小笠原満 佐藤京子	2	15－4 15－9 —	0 中園恵子 岡さとみ

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	三菱電機 2勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1 NTT北海道 1勝 1敗
複	鬼塚知美 森川和枝	2	17－16 15－8 —	0 田中範子 武田明美
単	鬼束明美	2	12－9 11－1 —	0 土屋留美子
複	秋山紫峰 大村泉	0	4－15 8－15 —	2 小笠原満 佐藤京子

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	NTT北海道 2勝 1敗	2	単0 1 複2 0	1 チザキ 2勝 1敗
複	日景真弓 田中範子	2	15－12 15－6 —	0 岩崎美香 梶原夕子
単	武田明美	0	4－11 1－11 —	2 日原恵美里
複	小笠原満 佐藤京子	2	5－15 15－12 15－7	1 尾関知子 林夕起子

○ 女子の部（第2日・第2試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	NTT北海道 3勝 1敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0 日本電装 0勝 4敗
複	田中範子 武田明美	2	15－3 15－0 —	0 米倉歩 日山智絵
単	土屋留美子	2	11－6 11－3 —	0 矢島優子
複	小笠原満 佐藤京子	2	13－15 15－5 15－6	1 青木美代子 高岡直美

○ 女子の部（第2日・第3試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	NTT北海道 4勝 1敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0 トヨタ自動車 2勝 3敗
複	日景真弓 田中範子	2	15－2 17－15 —	0 藤本暢子 前田久美子
単	武田明美	2	11－4 11－7 —	0 中出綾子
複	小笠原満 佐藤京子	2	15－8 15－10 —	0 鳥居由恵 大串朱美

○ 女子の部（第3日・第1試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	NEC 4勝 2敗	2	単1 0 複1 1	1 NTT北海道 4勝 2敗
複	若林清香 物井あゆみ	0	1－15 1－15 —	2 日景真弓 田中範子
単	加賀ゆかり	2	11－7 3－11 11－8	1 武田明美
複	田中久美子 長谷川貴子	2	4－15 15－9 15－5	1 小笠原満 佐藤京子

○ 女子の部（第3日・最終試合）

会場	八代市総合体育館			入場者数
成績	NTT北海道 5勝 2敗	2	単0 1 複2 0	1 北國銀行 4勝 2敗
複	日景真弓 田中範子	2	15－7 15－4 —	0 下村絵里 中嶋智子
単	小笠原満	0	4－11 8－11 —	2 中田裕子
複	佐藤京子 武田明美	2	15－5 15－11 —	0 閤田和恵 山口美香

日本リーグ 第17回大会 2部リーグ(女子)　1995(平成7)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】

涌井　裕

【部長】

月尾　修

【副部長】

木村　敏男

【監督】

伊藤　雅弘

【コーチ兼選手】

日景　真弓

【マネージャー】

工藤　忠和

【選手】

田中　範子


高橋　昌子


土屋　留美子


佐藤　京子


武田　明美

○日本リーグ'95(第17回大会(平成7年))

チーム名	東北電力	チザキ	NTT北海道	デンソー	北國銀行	NEC	百十四銀行	トヨタ自動車	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
東北電力		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
チザキ	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	6	12	9	0.571	2
NTT北海道	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	4	13	8	0.619	3
デンソー	● 0－3	● 1－2	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	4	9	12	0.429	4
北國銀行	● 0－3	● 1－2	○ 2－1	● 1－2		○ 2－1	● 1－2	○ 2－1	3	9	12	0.429	5
NEC	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	2	9	12	0.429	6
百十四銀行	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2	○ 2－1	● 1－2		○ 2－1	2	9	12	0.429	7
トヨタ自動車	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 1－2		0	4	17	0.190	8

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場	栃木県立県南体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝　0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	日本電装 0勝　1敗
複	田中　範子 佐藤　京子	2	15－11 15－11 —	0	野中　亮子 青木　美代子
単	武田　明美	2	11－12 11－8 11－8	1	吉武　由加里
複	土屋　留美子 高橋　昌子	2	15－13 15－12 —	0	米倉　歩 高岡　直美

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場	東北電力新潟			入場者数	
成績	2勝　0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 1勝　1敗
複	竹野　景子 斎藤　かおり	2	17－14 15－1 —	0	田中　範子 佐藤　京子
単	住矢　直美	2	11－1 5－11 11－5	1	高橋　昌子
複	松縄　香織 遠藤　みゆき	0	13－18 8－15 —	2	土屋　留美子 武田　明美

○ 女子の部（第1日・第3試合）

会場	栃木県立県南体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 2勝　1敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	百十四銀行 1勝　2敗
複	田中　範子 佐藤　京子	2	15－9 15－4 —	0	村瀬　安代 富田　美津枝
単	高橋　昌子	0	7－11 2－11 —	2	谷岡　園子
複	土屋　留美子 武田　明美	2	15－7 15－7 —	0	山下　真奈美 中園　恵子

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場	栃木県立県南体育館(小山市)			入場者数	
成績	NTT北海道 3勝　1敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	トヨタ自動車 0勝　4敗
複	田中　範子 佐藤　京子	2	15－0 15－7 —	0	前田　久美子 原田　いづみ
単	高橋　昌子	2	11－5 11－5 —	0	中出　綾子
複	土屋　留美子 武田　明美	2	15－12 15－1 —	0	鳥居　由恵 大串　朱美

○ 女子の部（第2日・第2試合）

会場	栃木県立県南体育館(小山市)			入場者数	
成績	チザキ 4勝　1敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 3勝　2敗
複	林　夕起子 八角　亜紀	0	7－15 1－15 —	2	田中　範子 佐藤　京子
単	日原　恵美里	2	11－3 11－0 —	0	高橋　昌子
複	梶原　夕子 岩崎　美香	2	15－5 15－9 —	0	土屋　留美子 武田　明美

○ 女子の部（第3日・第1試合）

会場	栃木県立県南体育館(小山市)			入場者数	
成績	北國銀行 3勝　3敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NTT北海道 3勝　3敗
複	下村　絵里 中嶋　智子	2	11－15 15－3 15－12	1	田中　範子 佐藤　京子
単	松田　奈緒子	2	11－3 11－6 —	0	高橋　昌子
複	青木　静香 中田　裕子	0	1－15 12－15 —	2	土屋　留美子 武田　明美

○ 女子の部（第3日・最終試合）

会場	栃木県立県南体育館(小山市)			入場者数	
成績	NTT北海道 4勝　3敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	NEC 2勝　5敗
複	田中　範子 佐藤　京子	2	15－7 15－6 —	0	田中　久美子 吉井　位江
単	高橋　昌子	2	9－12 11－3 11－5	1	加賀　ゆかり
複	土屋　留美子 武田　明美	0	15－18 9－15 —	2	物井　あゆみ 長谷川　貴子

日本リーグ 第18回大会 2部リーグ(女子)　1996(平成8)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 涌井　裕


【部長】 月尾　修


【副部長】 木村　敏男


【監督】 伊藤　雅弘


【コーチ兼選手】 田中　範子


【マネージャー】 工藤　忠和


【選手】 土屋　留美子


高橋　昌子


本田　恵


標　千春


佐藤　京子


武田　明美

○日本リーグ'96(第18回大会(平成8年))

チーム名	ヨネックス	コスモ石油堺	NTT北海道	北國銀行	NEC相模原	百十四銀行	チザキ	デンソー	勝点	取得点A	失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
ヨネックス		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
コスモ石油堺	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	6	16	5	0.762	2
NTT北海道	● 0－3	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	4	10	11	0.476	3
北國銀行	● 0－3	● 0－3	○ 2－1		○ 2－1	● 1－2	○ 3－0	○ 2－1	4	10	11	0.476	4
NEC相模原	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	3	9	12	0.429	5
百十四銀行	● 0－3	● 0－3	● 1－2	○ 2－1	● 1－2		● 1－2		2	7	14	0.333	6
チザキ	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	1	7	14	0.333	7
デンソー	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		1	6	15	0.286	8

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 — 0 / 複1 — 1	1	NEC相模原 0勝 1敗
複	田中範子 / 佐藤京子	2	15－4 / 15－9	0	坂田雅美 / 坂本宏美
単	標　千春	2	6－11 / 11－6 / 11－3	1	中山朋子
複	土屋留美子 / 武田明美	1	18－14 / 10－15 / 5－15	2	物井あゆみ / 吉井位江

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	北國銀行 2勝 0敗	2	単1 — 0 / 複1 — 1	1	NTT北海道 1勝 1敗
複	下村絵里 / 中嶋智子	2	15－5 / 15－10 / —	0	田中範子 / 佐藤京子
単	松田奈緒子	2	11－8 / 5－11 / 11－8	1	標　千春
複	安田香奈 / 松田美希子	1	13－18 / 18－14 / 1－15	2	土屋留美子 / 武田明美

○ 女子の部（第1日・第3試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	コスモ石油堺 2勝 1敗	2	単1 0 / 複1 1	1	NTT北海道 1勝 2敗
複	高塚恵美 / 芳村真梨子	0	15－17 / 0－15 / —	2	田中範子 / 佐藤京子
単	山本静香	2	11－4 / 11－9 / —	0	標　千春
複	伊藤真弓 / 薦田朋美	2	9－15 / 15－10 / 15－5	1	土屋留美子 / 武田明美

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	NTT北海道 2勝 2敗	2	単0 — 1 / 複2 — 0	1	百十四銀行 1勝 3敗
複	田中範子 / 佐藤京子	2	15－8 / 15－8 / —	0	山下真奈美 / 奥田奈々江
単	標　千春	1	7－11 / 11－7 / 10－12	2	富田美津枝
複	土屋留美子 / 武田明美	2	15－10 / 15－10 / —	0	村瀬安代 / 中園恵子

○ 女子の部（第2日・第2試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	ヨネックス 5勝 0敗	3	単1 — 0 / 複2 — 0	0	NTT北海道 2勝 3敗
複	岩田良子 / 高岩住恵	2	15－4 / 15－2 / —	0	田中範子 / 佐藤京子
単	石井知恵美	2	11－1 / 11－7 / —	0	標　千春
複	後藤さゆり / 太田裕子	2	8－15 / 15－6 / 15－5	1	土屋留美子 / 武田明美

○ 女子の部（第3日・第1試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	NTT北海道 3勝 3敗	2	単1 0 / 複1 1	1	チザキ 1勝 5敗
複	田中範子 / 佐藤京子	2	15－2 / 15－3 / —	0	八角亜紀 / 加藤智恵子
単	標　千春	2	11－3 / 12－11 / —	0	星川愛
複	土屋留美子 / 武田明美	0	12－15 / 4－15 / —	2	梶原夕子 / 岩崎美香

○ 女子の部（第3日・最終試合）

会場	名古屋市稲永スポーツセンター			入場者数	
成績	NTT北海道 4勝 3敗	2	単1 0 / 複1 — 1	1	デンソー 1勝 6敗
複	田中範子 / 佐藤京子	0	4－15 / 3－15 / —	2	野中亮子 / 吉武由加里
単	標　千春	2	11－7 / 11－3 / —	0	稗田華子
複	土屋留美子 / 武田明美	2	15－12 / 15－6 / —	0	青木美代子 / 高岡直美

日本リーグ 第19回大会 2部リーグ(女子)　1997(平成9)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 堀口　昌基


【部長】 月尾　修


【副部長】 木村　敏男


【監督】 伊藤　雅弘


【コーチ兼マネージャー】 工藤　忠和


【選手】 中井　貴代美


【選手】 高橋　昌子


本田　恵


土屋　留美子


標　千春


後藤　綾子


武田　明美

○日本リーグ'97(第19回大会(平成9年))

チーム名	NEC相模原	コスモ石油堺	広島ガス	NTT北海道	百十四銀行	チザキ	北國銀行	デンソー	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A＋B	順位
NEC相模原		●1－2	○2－1	○2－1	○3－0	○3－0	○3－0	○2－1	6	16	5	0.762	1
コスモ石油堺	○2－1		○3－0	○2－1	●1－2	●1－2	○2－1	○2－1	5	13	8	0.619	2
広島ガス	●1－2	●0－3		○2－1	○2－1	○3－0	○2－1	○2－1	5	12	9	0.571	3
NTT北海道	●1－2	●1－2	●1－2		○2－1	○3－0	○2－1	○3－0	4	13	8	0.619	4
百十四銀行	●0－3	○2－1	●1－2	●1－2		○2－1	●1－2	○2－1	3	9	12	0.429	5
チザキ	●0－3	○2－1	●0－3	●0－3	●1－2		○2－1	○2－1	3	7	14	0.333	6
北國銀行	●0－3	●1－2	●1－2	●1－2	○2－1	●1－2		○2－1	2	8	13	0.381	7
デンソー	●1－2	●1－2	●1－2	●0－3	●1－2	●1－2	●1－2		0	6	15	0.286	8

○ 女子の部 (第1日・第1試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	NTT北海道 1勝 0敗	3 {単1 0 / 複2 0} 0	チザキ 0勝 1敗		
複	土屋 留美子 / 武田 明美	2 {15－8 / 18－15 / －} 0	梶原 夕子 / 岩崎 美香		
単	標 千春	2 {1－11 / 12－10 / 11－7} 1	伴 宏美		
複	後藤 綾子 / 中井 貴代美	2 {15－2 / 15－5 / －} 0	星川 愛 / 数田 裕美		

○ 女子の部 (第1日・第2試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	NTT北海道 2勝 0敗	2 {単0 1 / 複2 0} 1	百十四銀行 1勝 1敗		
複	土屋 留美子 / 武田 明美	2 {15－3 / 15－9 / －} 0	山下 真奈美 / 奥田 奈々江		
単	標 千春	0 {9－12 / 11－12 / －} 2	富田 美津枝		
複	後藤 綾子 / 中井 貴代美	2 {15－3 / 15－6 / －} 0	中園 恵子 / 山下 恵		

○ 女子の部 (第2日・第1試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	広島ガス 2勝 1敗	2 {単1 0 / 複1 1} 1	NTT北海道 2勝 1敗		
標	荒井 忍 / 角山 恵	0 {6－15 / 6－15 / －} 2	土屋 留美子 / 武田 明美		
単	吉川 愛	2 {11－1 / 11－1 / －} 0	標 千春		
標	福井 奈美 / 渡辺 夕子	2 {15－10 / 15－10 / －} 0	後藤 綾子 / 中井 貴代美		

○ 女子の部 (第2日・第2試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	NTT北海道 3勝 1敗	3 {単1 0 / 複2 0} 0	デンソー 0勝 4敗		
複	後藤 綾子 / 中井 貴代美	2 {15－10 / 15－5 / －} 0	野中 亮子 / 吉武 由加里		
単	高橋 昌子	2 {12－11 / 12－10 / －} 0	稗田 華子		
複	土屋 留美子 / 武田 明美	2 {15－6 / 15－11 / －} 0	高岡 直美 / 毛利 純子		

○ 女子の部 (第2日・第3試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	NEC相模原 5勝 0敗	2 {単1 0 / 複1 1} 1	NTT北海道 3勝 2敗		
複	米谷 真智子 / 関 恵美	1 {9－15 / 18－17 / 7－15} 2	後藤 綾子 / 中井 貴代美		
単	中山 朋子	2 {11－2 / 11－5 / －} 0	高橋 昌子		
複	物井 あゆみ / 吉井 位江	2 {15－6 / 15－11 / －} 0	土屋 留美子 / 武田 明美		

○ 女子の部 (第3日・第1試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	NTT北海道 4勝 2敗	2 {単0 1 / 複2 0} 1	北國銀行 2勝 4敗		
複	後藤 綾子 / 中井 貴代美	2 {10－15 / 15－13 / 15－3} 1	下村 絵里 / 安田 香奈		
単	標 千春	0 {8－11 / 8－11 / －} 2	松田 奈緒子		
複	土屋 留美子 / 武田 明美	2 {15－8 / 15－9 / －} 0	中村 奈穂子 / 松田 美希子		

○ 女子の部 (第3日・最終試合)

会場：旭川市立総合体育館　入場者数：

成績					
	コスモ石油堺 5勝 2敗	2 {単1 0 / 複1 1} 1	NTT北海道 4勝 3敗		
複	伊藤 真弓 / 薦田 朋美	0 {17－18 / 12－15 / －} 2	後藤 綾子 / 中井 貴代美		
単	山本 静香	2 {11－7 / 10－12 / 11－9} 1	標 千春		
複	芳村 真梨子 / 辻 亜希子	2 {15－9 / 0－15 / 17－14} 1	土屋 留美子 / 武田 明美		

日本リーグ 第20回大会 2部リーグ(女子)　1998(平成10)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】堀口　昌基


【部長】月尾　修


【副部長】木村　敏男


【監督】伊藤　雅弘


【コーチ】佐藤　嘉伸


【マネージャー】古川　英樹


【選手】中井　貴代美


高橋　昌子


本田　恵


西城　真理子


標　千春


後藤　綾子


武田　明美

○日本リーグ'98(第20回大会(平成10年))

チーム名	NTT北海道	広島ガス	百十四銀行	北都銀行	北國銀行	三菱電機	鳥取三洋電機	チザキ	勝点	取得点A	損失点B	取得マッチ率A／A＋B	順位
NTT北海道		○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
広島ガス	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	5	13	8	0.619	2
百十四銀行	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	5	12	9	0.571	3
北都銀行	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	4	12	9	0.571	4
北國銀行	● 1－2	○ 2－1	● 1－2	● 1－2		● 1－2	○ 2－1	○ 2－1	3	10	11	0.476	5
三菱電機	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	○ 2－1		○ 2－1	○ 2－1	3	7	14	0.333	6
鳥取三洋電機	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	1	7	14	0.333	7
チザキ	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 0－3		0	4	17	0.190	8

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単1 — 0 複1 — 1	1	北都銀行 0勝 1敗
複	本田　恵 西城　真理子	0	5－15 11－15 —	2	青柳　しのぶ 邵　宇風
単	武田　明美	2	12－11 11－3 —	0	山口　美羽子
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	15－2 15－2 —	0	岡　加代子 佐々木　妙子

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 2勝 0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	鳥取三洋電機 0勝 2敗
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	15－7 15－0 —	0	門脇　あゆみ 中村　このみ
単	標　千春	2	11－6 11－0 —	0	門脇　めぐみ
複	武田　明美 高橋　昌子	2	15－3 15－2 —	0	高塚　恵美 福永　麻美

○ 女子の部（第1日・第3試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 3勝 0敗	3	単1 0 複2 0	0	チザキ 0勝 3敗
複	武田　明美 高橋　昌子	2	15－2 15－6 —	0	加藤　智恵子 数田　裕美
単	標　千春	2	11－1 11－7 —	0	伴　宏美
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	18－15 15－6 —	0	星川　愛 岩崎　美香

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 4勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	北國銀行 1勝 3敗
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	15－1 15－11 —	0	中村　奈穂子 松田　美希子
単	標　千春	0	6－11 8－11 —	2	松田　奈緒子
複	武田　明美 高橋　昌子	2	15－4 15－4 —	0	安田　香奈 中川　紀子

○ 女子の部（第2日・第2試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 5勝 0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	三菱電機 3勝 2敗
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	13－18 15－10 18－17	1	内田　裕子 鬼頭　加代
単	標　千春	2	11－6 11－1 —	0	田村　裕美
複	武田　明美 高橋　昌子	2	15－12 15－8 —	0	武富　いず美 藤井　二美可

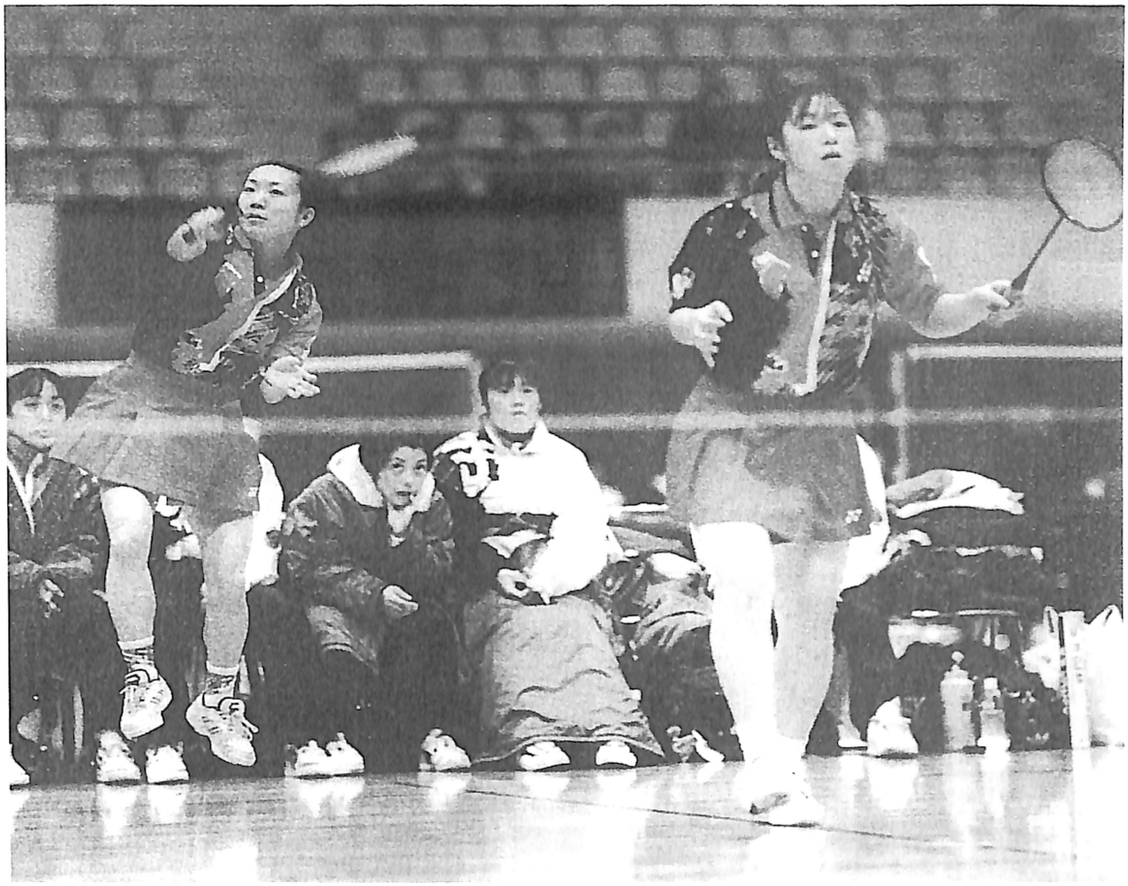
○ 女子の部（第2日・第3試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 6勝 0敗	3	単1 0 複2 0	0	広島ガス 4勝 2敗
複	武田　明美 高橋　昌子	2	13－18 15－7 15－3	1	荒井　忍 角山　恵
単	標　千春	2	11－3 7－11 12－10	1	吉川　愛
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	15－11 15－5 —	0	渡辺　夕子 藤崎　有美

○ 女子の部（第3日・最終試合）

会場	栃木県体育館			入場者数	
成績	NTT北海道 7勝 0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	百十四銀行 5勝 2敗
複	本田　恵 西城　真理子	2	15－5 15－5 —	0	中園　恵子 山下　恵
単	武田　明美	2	11－6 11－8 —	0	山下　真奈美
複	後藤　綾子 中井　貴代美	2	15－4 18－14 —	0	富田　美津枝 奥田　奈々江

日本リーグ 第20回大会 2部リーグ(女子) 1998(平成10)年



後藤・中井組



日本リーグ 第21回大会 2部リーグ(女子)　1999(平成11)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】堀口　昌基



【部長】白髭　博司



【監督】伊藤　雅弘



【マネージャー】古川　英樹



【選手】



高橋　昌子



本田　恵



土屋　留美子



標　千春



後藤　綾子



武田　明美

[2部リーグ]

○ 女子の部（第1日目・第1試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 1勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	北國銀行 0勝 1敗
複	武田 明美 高橋 昌子	2	15－12 15－ 2 —	0	松田 美希子 中村 奈穂子
単	標　千春	1	11－ 8 5－11 4－11	2	松田 奈緒子
複	後藤 綾子 本田 恵	2	15－ 3 15－ 9 —	0	安田 香奈 渡辺 愛香

○ 女子の部（第1日目・第2試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 2勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	三菱電機 0勝 2敗
複	武田 明美 高橋 昌子	2	15－ 2 15－ 3 —	0	宮島 友美 鴨田 操佳
単	標　千春	1	5－11 11－ 9 6－11	2	橋本 純子
複	後藤 綾子 本田 恵	2	15－10 15－ 9 —	0	内田 裕子 藤井 二美可

○ 女子の部（第2日目・第1試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 3勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	鳥取三洋電機 1勝 2敗
複	後藤 綾子 本田 恵	2	2－ 4 — ※注	キケン	福永 麻美 加茂 路代
単	標　千春	0	4－11 4－11 —	2	渡辺 未奈子
複	武田 明美 高橋 昌子	2	15－ 2 15－ 8 —	0	門脇 あゆみ 中村 このみ

○ 女子の部（第2日目・第2試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 4勝 0敗	3	単1 — 0 複2 — 0	0	七十七銀行 2勝 2敗
複	後藤 綾子 本田 恵	2	15－ 6 17－14 —	0	徳永 幸子 塩崎 真弓
単	標　千春	2	13－10 11－ 2 —	0	小川 尚子
複	武田 明美 高橋 昌子	2	15－ 5 15－ 1 —	0	大久保 弘美 岡田 真紀

○ 女子の部（第2日目・第3試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 5勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	北都銀行 3勝 2敗
複	後藤 綾子 本田 恵	2	15－ 1 15－ 0 —	0	青柳 しのぶ 邵　宇風
単	標　千春	1	11－ 9 6－11 4－11	2	山口 美羽子
複	武田 明美 高橋 昌子	2	15－12 17－14 —	0	佐々木 妙子 岡　加代子

○ 女子の部（最終日・第1試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 6勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	1	百十四銀行 2勝 4敗
複	武田 明美 高橋 昌子	2	13－15 15－ 5 15－12	1	富田 美津枝 奥田 奈々江
単	標　千春	0	7－11 3－11 —	2	山下 真奈美
複	後藤 綾子 本田 恵	2	15－ 0 15－ 2 —	0	中園 恵子 小比賀 友香

○ 女子の部（最終日・第2試合）

会場	三原リージョンプラザ			入場者数	
成績	NTT北海道 7勝 0敗	2	単0 — 1 複2 — 0	0	広島ガス 4勝 3敗
複	後藤 綾子 本田 恵	2	15－ 5 15－ 0 —	0	渡辺 夕子 藤崎 有美
単	標　千春	1	11－ 2 1－11 2－11	2	吉川 愛
複	武田 明美 高橋 昌子	2	15－ 7 9－15 15－ 9	1	松本 明子 竹本 由弥

日本リーグ 第21回大会 2部リーグ(女子) 1999(平成11)年

[3・2] 道新スポーツ

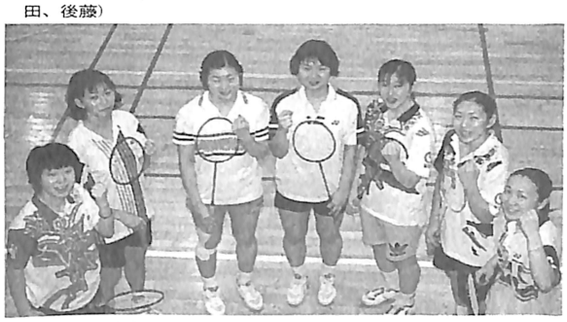
NTT北海道 女子バドミントン部

日本リーグ 1部昇格へGO

きょう出発

7日に東京で入れ替え戦 クラブチーム化前に結束

さまざまな出来事を乗り越え、1部昇格にかけるNTT北海道女子バドミントン部（左から西城、中井、標、高橋、本田、武田、後藤）



◆NTT北海道女子メンバー◆
◎※◎は主将
後藤 美代子（24、高岡女子高―日体大）
武田 貴昌（22、静修学園―日体大）
標 真理子（21、静修学園高―日体大）
西城 千綾（19、ウルスラ学園高）
本田 千香子（21、千歳学園高）
中井 美子（24、千歳―千歳）
高橋 恵子（25、札幌山の手高―千歳）

バドミントンのNTT北海道女子がきょう2日、日本リーグ入れ替え戦（7日、東京・立川市立川柴崎体育館）に向けて出発する。NTT北海道は昨年11月に行われた日本リーグ2部で7戦全勝で初優勝。本道女子では初の1部リーグ入りをかけて、1部最下位のNEC相模原と対戦する。

今は、勝つことしか考えていない。「いろいろあったけれど、プレーになればチームとして再出発が決まった。練習時間は4月1日から業務終了後のみ。これまでのように、大会の2週間前から午後は練習にあてるというわけにはいかなくなった。来年度は新戦力の補強もない。環境は厳しくなるが、それでも「最後」にはならなかった。

「今後のことについては、まだ決まっていない部分もある。1部昇格がいいアピールになればとは、みんな思っています」と、武田主将が入れ替え戦にかけるもう1つの気持ちを打ち明ける。

2日に出発した後、3、4日と今季日本リーグ1部3位のヨネックスと合同練習をし、7日の本番に備える。「2部リーグから3カ月も空いて、気が抜けた時期もあったが、今は引き締まっていい雰囲気になってきている」と伊藤雅弘監督。多くの思いを胸に秘め、入れ替え戦に臨む。（柏山 理恵）

伸コーチは言う。

2部優勝後、部はクラブチームとして再出発が決まった。練習時間は4月1日から業務終了後のみ。これまでのように、大会の2週間前から午後は練習にあてるというわけにはいかなくなった。来年度は新戦力の補強もない。環境は厳しくなるが、それでも「最後」にはならなかった。

「今後のことについては、まだ決まっていない部分もある。1部昇格がいいアピールになればとは、みんな思っています」と、武田主将が入れ替え戦にかけるもう1つの気持ちを打ち明ける。

2日に出発した後、3、4日と今季日本リーグ1部3位のヨネックスと合同練習をし、7日の本番に備える。「2部リーグから3カ月も空いて、気が抜けた時期もあったが、今は引き締まっていい雰囲気になってきている」と伊藤雅弘監督。多くの思いを胸に秘め、入れ替え戦に臨む。（柏山 理恵）

相手は強敵 NEC相模原 一発勝負に勝つ！

○…入れ替え戦でNTT北海道と対戦するNEC相模原は、昨年1部に昇格したばかり。全日本総合でダブルス3位に入った来谷真智子・関恵美組をトップダブルスに据える強敵だ。昨年8月には、相模原で3日間の合同合宿を行った「来谷・関組に勝つのはさすがに厳しかったけれど、それ以外の選手とはそこそこやれた」（武田主将）と、まんざらでもない手ごたえを感じている。何と言っても入れ替え戦は一発勝負。「ネームバリュー、実績は向こうの方が上だが、追う者の強みで、出だしから気持ちで勝っていきたい」と伊藤監督は話している。

[3・8] 道新スポーツ

NTT北海道 1部昇格ならず

バドミントン日本リーグ入れ替え戦

（7日 立川・柴崎市民体育館）

NEC相模原に惜敗

日本リーグ女子2部で優勝したNTT北海道が、1部最下位のNEC相模原に挑戦。2複1単の団体戦で争われ、1部昇格を目指したNTT北海道だったが、1―2で惜敗し2部残留が決まった。



1部昇格の望みを託した第2ダブルス戦。武田明美（25）・高橋晶子（22）組は、全日本総合で3位になった来谷・関の強豪ペアを相手に、第1ゲームでセッティングにもつれこむ競り合いをみせたが、力及ばずストレートで敗れ、昇格は夢と消えた。

1988年（昭和63年）4月に2人の新入部員で女子部が久々にスタート。それから11年かけてたどり着いた1部への入れ替え戦だった。伊藤雅弘監督は「コマオト足はためなかった。ただ、そんな中で十分に戦ってくれた」と選手たちの健闘をねぎらった。

7月に予定されているNTTの会社再編に伴い、正式な部から社内的には外クラブ扱いに変わる。新年度からは遠征費などの予算は確保できたものの、練習時間は業務終了後のみ。新戦力の補強もできなくなる。厳しい環境下での戦いが続くことになるが、武田1将は「来年こそ1部昇格を果たしたい。頑張るだけです」と競技に寄せる情熱には変わりはない。（岩田 浩之）

【女子】

NEC相模原		NTT北海道
2―1		
（単1―0、複―1）		
加藤	0（13―4、15―2）1	後藤
本間	1（18―15、11―3）0	中井
来谷	2（15―6、11―4）0	標
関	2（18―14、10―6）0	高橋

7月に会社再編でサークル化

逆境バネに上目指す

最後の望みを託した武田（左）・高橋組だったが、健闘及ばず2部残留に終わる



逆境をバネに NTT北海道が2連覇

新たなエースペアとして全勝でNTT北海道を優勝に導いた後藤（右）／本田。「後藤さんが精神的に支えてくれたおかげです」と本田は笑顔で振り返った



優勝のかかった第6戦、百十四銀行のエース・富田／奥田から大事な白星を奪ったNTT北海道・武田（右）／高橋。最終戦にも勝って全勝をおさめると感極まった表情を見せた



昨年に続き2部を制したNTT北海道（5人かぶりがつかないで困ったメンバーでもくもない、関き直りがよかったのかも」と伊藤雅弘監督。「良い右は胴上げしたが、堂々の全勝優勝だった

Action Month

日本リーグ'99
【2部女子】
11月20日～22日
広島県三原市・三原リージョンプラザ

日本リーグ 第22回大会(女子)　2000(平成12)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】堀口　昌基


【部長】白髭　博司


【監督】伊藤　雅弘


【マネージャー】古川　英樹


【女子主将】後藤　綾子


【選手】武田　明美


高橋　昌子


標　千春


本田　恵


中島　輝美

	三洋電機	NEC九州	三協アルミ	東北電力新潟	NEC相模原	ヨネックス	ベスト電器	NTT北海道	勝ち点	マッチ率	ゲーム率	順位
三洋電機		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	1.000	.955	1
NEC九州	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	.762	.717	2
三協アルミ	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	○ 3－0	○ 3－0	4	.571	.574	3
東北電力新潟	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	4	.571	.531	4
NEC相模原	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	3	.476	.469	5
ヨネックス	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	3	.429	.435	6
ベスト電器	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	1	.143	.200	7
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		0	.048	.130	8

○ 女子の部（第1節・第1日）

会場：宇都宮市民体育館　入場者数：2,000

成績					
	三洋電機 1勝 0敗	3	単1 21-0 / 複2 21-0	0	NTT北海道 0勝 1敗
複	中山 智香子 / 安城 美華	2	15-5, 11-15, 15-8	1	後藤 綾子 / 本田 恵
単	田中 美保	2	11-6, 11-5	0	標 千春
複	鬼池 めぐみ / 森 かおり	2	15-2, 15-6	0	武田 明美 / 高橋 昌子

○ 女子の部（第1節・第2日）

会場：宇都宮市民体育館　入場者数：2,100

成績					
	ベスト電器 1勝 1敗	2	単0 21-1 / 複2 21-0	1	NTT北海道 0勝 2敗
複	松田 美穂 / 勝嶋 梨絵	2	15-4, 15-11	0	後藤 綾子 / 本田 恵
単	松王 峰代子	0	8-11, 6-11	2	標 千春
複	田村 富士美 / 朱 暎福	2	15-12, 15-8	0	武田 明美 / 高橋 昌子

○ 女子の部（第2節）

会場：千葉県総合運動場体育館　入場者数：950

成績					
	NEC相模原 2勝 1敗	3	単1 21-0 / 複2 21-0	0	NTT北海道 0勝 3敗
複	米谷 真智子 / 高井 恵美	2	15-7, 15-5	0	武田 明美 / 高橋 昌子
単	小室 恭子	2	11-7, 11-2	0	標 千春
複	中 麻依子 / 加藤 真知子	2	13-15, 15-13, 15-6	1	後藤 綾子 / 本田 恵

○ 女子の部（第3節）

会場：北広島市総合体育館（12/09）　入場者数：1,100

成績					
	ヨネックス 2勝 2敗	3	単1 21-0 / 複2 21-0	0	NTT北海道 0勝 4敗
複	高岩 住恵 / 片糸 由希子	2	15-4, 15-5	0	後藤 綾子 / 本田 恵
単	寺本 悦子	2	9-11, 11-7, 11-5	1	標 千春
複	岩田 良子 / 貴田 泉	2	15-4, 15-5	0	武田 明美 / 高橋 昌子

○ 女子の部（第4節・第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：1,800

成績					
	NEC九州 4勝 1敗	3	単1 21-0 / 複2 21-0	0	NTT北海道 0勝 5敗
複	中島 暁子 / 末綱 聡子	2	15-5, 15-3	0	武田 明美 / 後藤 綾子
単	吉岡 知香	2	11-7, 11-7	0	標 千春
複	吉冨 桂子 / 山崎 雅美	2	15-5, 15-3	0	本田 恵 / 中島 輝美

○ 女子の部（第4節・第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：2,800

成績					
	三協アルミ 4勝 2敗	3	単1 21-0 / 複2 21-0	0	NTT北海道 0勝 6敗
複	山本 静香 / 山田 青子	2	15-1, 15-1	0	本田 恵 / 中島 輝美
単	山田 潤子	2	11-1, 11-9	0	標 千春
複	本田 由美 / 舛田 恵	2	15-6, 15-1	0	武田 明美 / 後藤 綾子

○ 女子の部（最終節・第2日）

会場：守口市民体育館　入場者数：1,300

成績					
	東北電力新潟 4勝 3敗	3	単1 21-0 / 複2 21-0	0	NTT北海道 0勝 7敗
複	竹野 景子 / 斎藤 かおり	2	15-7, 15-7	0	後藤 綾子 / 本田 恵
単	江部 真梨	2	6-11, 13-11, 11-4	1	標 千春
複	媚山 映里 / 大下 詩織	2	15-6, 15-12	0	武田 明美 / 高橋 昌子

日本リーグ 第22回大会場(女子)

2000(平成12)年



日本リーグ2000
チャレンジリーグ&入替戦
★3月3日～5日★
東京都立川市・
柴崎市民体育館、泉市民体育館

NTT北海道が悲願の1部入り!

97年全日本3位の伊藤をファイナルで下すと涙を流して腰をかがめたNTT北海道・標(手前)。この大殊勲にベンチは飛び上がって喜んだ



2部リーグでは1勝にとどまった標だが、みごとに名誉挽回。「実力のある伊藤さんについていこうと思いましたが、試合が始まるとやっぱり勝ちたいと思っていました」



NTT東日本の西城(左)は昨年までのチームメイトを相手に果敢に強打。ベテランの田児もクールに球をさばき大事な先制点を奪ったが…



NTT北海道の勝利を決めたのは第2複を務めた武田(左)/高橋。標のあとを受けて勢いよく攻め続け山崎/清口を圧倒した

日本リーグ1部の最下位と2部1位が激突する入替戦。今季は女子の部にドラマが待っていた。

エースダブルスが第1複を落とし、一旦は負けを覚悟したであろうNTT北海道だが、続くシングルスで大きな意味が生まれる。2部リーグで1勝6敗だった標が、全日本3位の実績を持つNTT東日本・伊藤をファイナル8-7で下したのだ。第3ゲーム2-7の劣勢から、あきらめずにシャトルを追う標が何度も床に倒れては起き上がり、逆に伊藤を前後に揺さぶる。伊藤の実力を知っていた標は、「とにかくラリーをつないでいこう」と我慢のプレーに徹した。右ヒザのサポーターが痛々しい伊藤は、本来の速い動きができず肩で息をする。標が10-8から5回目のマッチポイントで放った打球は、ウイニングショットとなった。

「ダブルスは自信があったけど、そこでやられて厳しいと思った。標がよく頑張った」と北海道・伊藤監督。標は大会前、NEC相模原やっくば国際大を単身で訪れ、強豪相手に羽根を打ったという。その意欲が実を結んだ。

標の勝利で一気に盛り上がった北海道は、続く武田/高橋が危なげなくゲームをつくる。硬さの見られる東日本・山崎/清口を圧倒し歓喜のシーンを迎えた。

NTTの再編成でいまはクラブチームとして活動している北海道だが、創部12年目で初昇格の1部入り。昨年に続く2回目の入替戦で晴れて目標を達成した。



NTT北海道

●三洋電機 0－3
●ベスト電器 1－2
●NEC相模原 0－3

今季1部に初登場。まだ勝利には恵まれないが、三洋戦で後藤/本田が中山/安城から第2ゲームを奪い、ベスト戦では標(写真)が松王を破るなど、明るい兆しも。単複が噛み合えばトンネルを出るはず

[3・8] 道新スポーツ

1部昇格に乾杯!



NTT北海道女子 祝勝会

バドミントン日本リーグ1部昇格を果たしたNTT北海道女子の祝勝会が7日、約100人の関係者を集め、札幌市内のホテルで行われた=写真。

5日に東京・立川市柴崎市民体育館で行われたNTT北海道女子の1、2部入れ替え戦にNTT東日本との2-1で勝ち、創部12年目で初の1部昇格を決めたもの。昨年から目標がよく頑張った」と北海道・伊藤監督。標は大会前、NEC相模原やっくば国際大を単身で訪れ、強豪相手に羽根を打ったという。その意欲が実を結んだ。

標の勝利で一気に盛り上がった北海道は、続く武田/高橋が危なげなくゲームをつくる。硬さの見られる東日本・山崎/清口を圧倒し歓喜のシーンを迎えた。

NTTの再編成でいまはクラブチームとして活動している北海道だが、創部12年目で初昇格の1部入り。昨年に続く2回目の入替戦で晴れて目標を達成した。

藤将後主「目標はまず1勝」

Tの実業団チームを統合したシンボルチームの東日本に勝ったあって、ひときわ喜び深い祝勝会となった。

伊藤雅弘監督は「NTT北海道のいいアピールにはなったと思う」としみじみ述べた。また11月から始まるリーグ戦に向け、後藤綾子主将は「1部でまずは1勝できるよう頑張っていきたい」と、出席者に感謝するとともに奮闘を誓っていた。

[12・10] 道新スポーツ



連敗後、一矢を報いようと必死に戦った武田(手前)、高橋ペアだったが…

NTT北海道女子 遠い1勝

初の地元戦も0－3

バドミントン 日本リーグ 第4戦

9日 柴崎体育館

男女のNTT北海道が地元の観衆の前で熱戦を展開。今季1部に昇格したばかりの女子はヨネックスに0－3で敗れ、悔しい開幕4連敗となった。また、NTT東日本・宮城と対戦した男子も1－2で敗れ、通算1勝3敗と目標のAクラス(4位以内)入りが厳しくなってきた。

1部昇格後、初の地元戦となったNTT女子。リーグ初勝利を狙って懸命にシャトルを追ったが、ヨネックスの前に「3タテ」を食らった。伊藤雅弘監督(38)は「テレビ(中継)もついて、選手も硬かったかな」と残念がる。

これで開幕4連敗。選手も苦戦は予測していたが、将は話す。シングルスの標、ダブルス陣は最後まで諦めないという姿勢は示した。

「今までなら決まってたものがスマッシュがアウトになり、相手にミスが出なくなってきた。確かに1部は甘くない。一次の試合に向けて修正していきたい」と後藤。

悲願へ残り3戦

TV中継でアガった?

日本リーグ 第23回大会(女子)

2001(平成13)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】 松田 信行


【部長】 白髭 博司


【監督】 伊藤 雅弘


【マネージャー】 吉岡 秀樹


【女子主将】 高橋 昌子


【選手】 西尾 綾子


標 千春


本田 恵


中島 輝美


岩松 絵理子


播谷 好美

	ヨネックス	三洋電機	NEC九州	ベスト電器	広島ガス	NTT東日本	東北電力	NTT北海道	勝ち点	マッチ率	ゲーム率	順位
ヨネックス		2－1○	2－1○	3－0○	3－0○	3－0○	3－0○	3－0○	7	.905	.826	1
三洋電機	1－2●		2－1○	3－0○	2－1○	3－0○	3－0○	3－0○	6	.810	.766	2
NEC九州	1－2●	1－2●		3－0○	3－0○	3－0○	3－0○	2－1○	5	.762	.694	3
ベスト電器	0－3●	0－3●	0－3●		2－1○	2－1○	2－1○	2－1○	4	.381	.400	4
広島ガス	0－3●	1－2●	0－3●	1－2●		2－1○	2－1○	0－3●	2	.286	.353	5
NTT東日本	0－3●	0－3●	0－3●	1－2●	1－2●		2－1○	2－1○	2	.286	.292	6
東北電力	0－3●	0－3●	0－3●	1－2●	1－2●	1－2●		3－0○	1	.286	.367	7
NTT北海道	0－3●	0－3●	1－2●	1－2●	3－0○	1－2●	0－3●		1	.286	.333	8

○ 女子の部（第1節・第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：

成績					
	NEC九州 1勝 0敗	2	単0－1 / 複2－0	1	NTT北海道 0勝 1敗
複	吉冨桂子 / 中島暁子	2	15－5 / 15－3 / －	0	高橋昌子 / 標千春
単	吉岡知香	1	11－5 / 2－11 / 12－13	2	岩松絵理子
複	山崎雅美 / 末綱聡子	2	15－12 / 15－3 / －	0	西尾綾子 / 幡谷好美

○ 女子の部（第1節・第2日）

会場：高岡市民体育館　入場者数：

成績					
	東北電力新潟 1勝 1敗	3	単1－0 / 複2－0	0	NTT北海道 0勝 2敗
複	媚山映里 / 大下詩織	2	15－9 / 7－15 / 15－6	1	高橋昌子 / 標千春
単	嶋田友紀	2	11－1 / 13－12 / －	0	幡谷好美
複	小池由扶子 / 斎藤かおり	2	15－8 / 15－7 / －	0	西尾綾子 / 岩松絵理子

○ 女子の部（第2節）

会場：佐賀県総合体育館　入場者数：1,700

成績					
	ベスト電器 2勝 1敗	2	単0－1 / 複2－0	1	NTT北海道 0勝 3敗
複	伊藤真弓 / 奥村亜紀代	2	15－10 / 2－15 / 15－5	1	西尾綾子 / 本田恵
単	間敏娜	0	4－11 / 11－13 / －	2	岩松絵理子
複	松田美穂 / 三好奈緒	2	15－7 / 15－10 / －	0	高橋昌子 / 標千春

○ 女子の部（第3節）

会場：武蔵野総合体育館　12/8 実施　入場者数：800

成績					
	ヨネックス 4勝 0敗	3	単1－0 / 複2－0	0	NTT北海道 0勝 4敗
複	岩田良子 / 山本静香	2	15－5 / 11－10 / キケン	0	西尾綾子 / 本田恵
単	米倉加奈子	2	11－4 / 13－10 / －	0	岩松絵理子
複	松田友美 / 赤尾亜希	2	15－6 / 15－11 / －	0	標千春 / 幡谷好美

○ 女子の部（第5節・第1日）

会場：久喜市総合体育館　入場者数：2,000

成績					
	NTT東日本 2勝 4敗	2	単0－1 / 複2－0	1	NTT北海道 0勝 6敗
複	伊藤さおり / 市橋理恵	2	16－17 / 15－3 / 15－8	1	西尾綾子 / 高橋昌子
単	大塚三佳	0	5－11 / 3－11 / －	2	岩松絵理子
複	田児よし子 / 山崎陽子	2	14－17 / 15－11 / 15－5	1	標千春 / 幡谷好美

○ 女子の部（最終節）

会場：国立代々木競技場第二体育館　入場者数：1,700

成績					
	NTT北海道 1勝 6敗	3	単1－0 / 複2－0	0	広島ガス 2勝 5敗
複	西尾綾子 / 高橋昌子	2	15－11 / 15－9 / －	0	高井恵美 / 松本明子
単	岩松絵理子	2	3－11 / 11－8 / 11－4	1	三宅直子
複	標千春 / 幡谷好美	2	15－9 / 13－13 / キケン	0	渡辺夕子 / 藤崎有美

日本リーグ 第23回大会(女子)　2001(平成13)年

8位 NTT北海道

つかんだ1勝！明日に光

1部に昇格して2年目。岩松、幡谷が加入しチーム力がアップしたが、なかなか勝ち点には結びつかなかった。

しかし最終戦で広島ガスを3－0で下し、ついにリーグ戦初勝利。得点源で4勝をあげた岩松の登場前に、西尾／高橋が好調の高井／松本を下したのが大きかった。2人はNTT東日本戦でも、高橋が足をつるまで死闘を演じ気迫を感じさせた。

全6通りに組み替えたダブルスを来季は固定させ、勝利数を増やしたい。



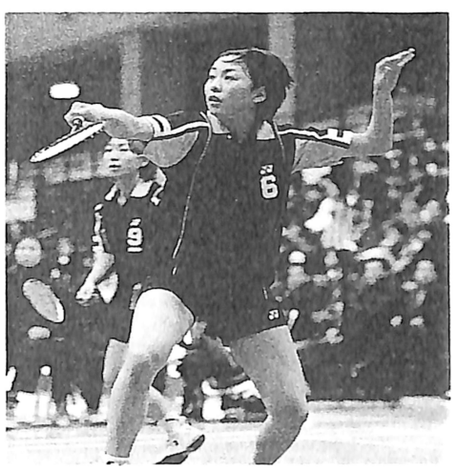
好調の高井／松本を下した西尾(左)／高橋。最終戦でチームに初勝利を呼び込んだ



実力者2人を補強

NTT北海道

1部リーグ初登場の前季はシングルスで標が1勝をあげるにとどまり、苦いデビューを味わった。しかし今季はインカレ王者の岩松と三協アルミから幡谷が加入。単複で大きな戦力アップとなるので、他チームも侮れない。新キャプテンの高橋、小柄ながら抜群の闘志を見せる西尾ら全員でAクラスをめざす。



NTT北海道・後藤綾子(奥)／本田恵は2ゲーム、12本までねばるが、田児の巧妙なテクニックに屈した

女子は三協アルミの休部で、NTT東日本が2部優勝を決めた時点で、1部入りが決定。そのため入替戦は実施されず、代わりに1部最下位のNTT北海道とNTT東日本で順位決定戦が行なわれた。

結果は東日本が頭ひとつ抜けた力量を示しストレート勝ち。東日本・田児／市橋が北海道・後藤／本田を1ゲーム8－8のせり合いを抜けて先制すると、大塚も標に長いラリーを構築して勝利。2部リーグ、順位決定戦と、山場を抜け、ふたたび1部上位の目標に近づいた。

一方、負けた北海道の今後の動向にも注目だ。総合単3位の岩松絵理子の加入で、一躍台風の目になる可能性大。来季、こちらの活躍にも期待ができる。

日本リーグ 第24回大会(女子)

2002(平成14)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】松田　信行


【部長】堂前　実


【副部長】小林　政敏


【総監督兼監督】平山　三城


【女子コーチ兼選手】田中　範子


【マネージャー】吉岡　秀樹


【女子主将】高橋　昌子


【選手】西尾　綾子


本田　恵


標　千春


岩松　絵理子


中島　輝美


中　麻依子

	三洋電機	ヨネックス	ベスト電器	NEC九州	NTT東日本	NTT北海道	三菱電機	広島ガス	勝ち点	マッチ率	ゲーム率	順位
三洋電機		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	1.000	0.894	1
ヨネックス	● 0－3		○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	0.762	0.702	2
ベスト電器	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 2－1	5	0.524	0.531	3
NEC九州	● 0－3	● 1－2	● 1－2		● 1－2	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	3	0.571	0.596	4
NTT東日本	● 0－3	● 1－2	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 3－0	○ 2－1	3	0.476	0.500	5
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	○ 2－1		○ 3－0	○ 2－1	3	0.381	0.388	6
三菱電機	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	1	0.095	0.136	7
広島ガス	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2		0	0.190	0.234	8

○ 女子の部（第1節・第1日）

会　場：北九州市立総合体育館　入場者数(3,200)

三洋電機 1勝 0敗　3 {単 1 － 0 / 複 2 － 0} 0　NTT北海道 0勝 1敗

複	中山 智香子 / 山田 青子	2 {11－5, 11－0, －} 0	西尾 綾子 / 中島 輝美
単	田中 美保	2 {11－1, 11－1, －} 0	岩松 絵理子
複	安城 美華 / 潮田 玲子	2 {11－7, 12－13, 13－12} 1	中 麻依子 / 標 千春

○ 女子の部（第1節・第2日）

会　場：北九州市立総合体育館　入場者数(3,500)

ヨネックス 2勝 0敗　3 {単 1 － 0 / 複 2 － 0} 0　NTT北海道 0勝 2敗

複	岩田 良子 / 山本 静香	2 {11－5, 11－0, －} 0	本田 恵 / 中島 輝美
単	米倉 加奈子	2 {11－2, 11－5, －} 0	岩松 絵理子
複	松田 友美 / 赤尾 亜希	2 {4－11, 13－10, 11－2} 1	中 麻依子 / 標 千春

○ 女子の部（第2節・第2日）

会　場：小樽市総合体育館　入場者数(2,600)

NTT北海道 1勝 2敗　3 {単 1 － 0 / 複 2 － 0} 0　三菱電機 0勝 3敗

複	中 麻依子 / 標 千春	2 {11－2, 11－5, －} 0	宮島 友美 / 鴨田 操佳
単	岩松 絵理子	2 {11－0, 13－11, －} 0	橋本 純子
複	西尾 綾子 / 本田 恵	2 {11－9, 3－11, 11－4} 1	内田 裕子 / 藤井 二美可

○ 女子の部（第3節）

会　場：ひたちなか市総合体育館　入場者数(800)

NTT北海道 2勝 2敗　2 {単 1 － 0 / 複 1 － 1} 1　広島ガス 0勝 4敗

複	中 麻依子 / 標 千春	1 {11－9, 9－11, 10－13} 2	渡辺 夕子 / 松本 明子
単	岩松 絵理子	2 {11－2, 11－1, －} 0	三宅 直子
複	西尾 綾子 / 中島 輝美	2 {11－6, 7－11, 11－2} 1	竹本 由弥 / 須々木 志帆

○ 女子の部（最終節・第1日）

会　場：守口市民体育館　入場者数(1,000)

NEC九州 2勝 4敗　3 {単 1 － 0 / 複 2 － 0} 0　NTT北海道 2勝 4敗

複	末綱 聡子 / 幡谷 好美	2 {11－5, 11－8, －} 0	中 麻依子 / 標 千春
単	今井 幸代	2 {11－4, 11－2} 0	岩松 絵理子
複	引地 恵 / 舛田 恵	2 {11－5, 13－10, －} 0	西尾 綾子 / 本田 恵

○ 女子の部（最終節・第2日）

会　場：守口市民体育館　入場者数(2,000)

NTT北海道 3勝 4敗　2 {単 1 － 0 / 複 1 － 1} 1　NTT東日本 3勝 4敗

複	中 麻依子 / 標 千春	0 {3－11, 6－11, －} 2	市橋 理恵 / 田井 美幸
単	岩松 絵理子	2 {11－4, 4－11, 11－7} 1	岩脇 史
複	西尾 綾子 / 本田 恵	2 {11－5, 11－3, －} 0	大塚 三佳 / 久家 あず加

日本リーグ 第24回大会(女子)

2002(平成14)年

6位　NTT北海道

新戦力一枚、チームに勢い

上位2強に連敗後、2連勝。そして最終戦ではＮＴＴ東日本にも土をつけ3勝目。2年連続の最下位から抜け出た上に、過去最高となる白星をあげた。

広島ガスから移籍した中が標と組んだダブルスで毎回好ゲームを演じチームに勢いをもたらしたのをはじめ、西尾が中島、本田を引っ張りダブルスで3勝をあげるなど健闘した。またシングルスのエース、岩松も東日本戦で岩脇をファイナルで下し3勝目。

来季はさらにワンランクアップをねらいたい。



●7戦すべてシングルスに立った岩松。6戦まで4敗と元気がなかったが、東日本戦で勝負どころを制し意地を見せた

NTT北海道女子バドミントン部が補強

中獲得

広島ガスで活躍

異例の秋移籍で日本リーグ万全

バドミントンのＮＴＴ北海道女子にこのほど、広島ガスで中心選手として活躍した中麻依子（25）が移籍した。この時期に有力選手の移籍は珍しく、11月に開幕する日本リーグへ向けて早くも熱気のこもった練習を繰り広げている。

中は、俊敏な動きと粘り強さが持ち味。その実力をあますところなく発揮したのが、今年の全日本実業団選手権だった。当時所属していた広島ガスで、団体戦3位に貢献した。この1カ月余り、中を見てきた男子の古川英樹監督は「ラケットワークがいいですね」と第一印象を語った。

女子チームは、昨年の日本リーグで最下位の8位に甘んじた。しかし試合内容を見ると、完敗といえる試合は1、2試合。核となる選手がもう一人増えれば、選手層が厚くなり、一気にAクラスへの夢も膨らむ。「私の仕事、それは目の前の試合に勝つこと」ときっぱり言い切る中。頼もしいばかりだ。



粘りが最大の武器の中。北海道での活躍が期待される

もともとシングルスが得意で、NEC相模原時代の2001年には、世界トップクラスがそろうインドネシアオープンでベスト8に入ったほど。「ずっとシングルスでやってたから、自信はあります」。しかし、ＮＴＴにはやはりシングルスが得意のエース岩松絵里子がいるため、ダブルスでの起用が多くなりそう。女子チームの田中範子コーチも「（ダブルスで）計算できる選手が来たので、これからの戦いが楽しみ」と期待を寄せている。

普段はＮＴＴ北海道テレマートに勤務しており、ずっと本州暮らしの中にとって、北海道の寒さは驚き。「どうしてこんなに寒いのですか。まだまだ慣れません」と悲鳴を上げていた。中にとって試合よりも北海道の気候の方が難敵かもしれない。

（小野　倉義）

●なか・まいこ　1976年（昭和51年）12月24日生まれ。群馬県出身。前橋東高－日体大と進む。大学4年の時、インカレ団体V、シングルス、ダブルスともに準Vの快挙。その後NEC相模原に入社し、昨年の全日本実業団選手権団体戦で準優勝。その後、広島ガスに移り、8月にNTT北海道へ。現在、シングルスの日本ランキング15位。

日本リーグ 第25回大会(女子)

2003(平成15)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 松田 信行

【部長】 堂前 実

【副部長】 小林 政敏

【総監督】 平山 三城

【監督】 吉岡 秀樹

【女子主将】 本田 恵

【選手】 標 千春

岩松 絵理子

中島 輝美

中 麻依子

黒川 真緒

吉岡 久美子

女子	三洋電機	ヨネックス	NEC九州	ベスト電器	七十七銀行	NTT北海道	三菱電機	NTT東日本	勝ち点	取得マッチ率	順位
三洋電機		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	0.952	1
ヨネックス	● 1－2		○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	6	0.905	2
NEC九州	● 0－3	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	○ 2－1	5	0.476	3
ベスト電器	● 0－3	● 0－3	● 1－2		● 1－2	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	3	0.476	4
七十七銀行	● 0－3	● 0－3	● 1－2	○ 2－1		● 1－2	○ 3－0	○ 2－1	3	0.429	5
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	○ 2－1		○ 2－1	○ 3－0	3	0.381	6
三菱電機	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	1	0.190	7
NTT東日本	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 1－2	● 1－2	● 0－3	● 1－2		0	0.190	8

○ 女子の部（第1節・第1日）

会 場：北海道立総合体育センター　入場者数(3,850)

ベスト電器 1勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 1敗

複	山崎 雅美 / 金上 路子	2 {15－5, 15－7, －} 0	本田 恵	標 千春
単	吉岡 知香	2 {3－11, 13－12, 11－2} 1	岩松 絵理子	
複	奥村 亜紀代 / 三好 奈緒	2 {15－8, 15－12, －} 0	黒川 真緒	吉岡 久美子

○ 女子の部（第1節・第2日）

会 場：北海道立総合体育センター　入場者数(3,200)

NTT北海道 1勝 1敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　三菱電機 0勝 2敗

複	本田 恵 / 標 千春	1 {15－9, 16－17, 8－15} 2	藤井 二美可	高野 理沙
単	岩松 絵理子	2 {11－2, 11－9, －} 0	橋本 純子	
複	黒川 真緒 / 吉岡 久美子	2 {15－13, 15－4, －} 0	宮島 友美	鴨田 操佳

○ 女子の部（第2節・第1日）

会 場：練馬区立総合体育館　入場者数(900)

ヨネックス 2勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 1勝 2敗

複	山本 静香 / 松田 友美	2 {15－8, 15－8, －} 0	本田 恵	標 千春
単	米倉 加奈子	2 {11－4, 11－7, －} 0	岩松 絵理子	
複	大熊 倫子 / 今別府 靖代	2 {15－13, 15－6, －} 0	黒川 真緒	吉岡 久美子

○ 女子の部（第3節・第2日）

会 場：大和郡山市総合公園多目的体育館　入場者数(1,100)

NTT北海道 2勝 2敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT東日本 0勝 4敗

複	中 麻依子 / 吉岡 久美子	2 {2－15, 15－9, 15－8} 1	市橋 理恵	田井 美幸
単	岩松 絵理子	2 {1－11, 11－7, 11－7} 1	久家 あす加	
複	標 千春 / 黒川 真緒	2 {10－15, 15－4, 15－6} 1	今川 静	西城 真理子

○ 女子の部（第4節・第1日）

会 場：守口市民体育館　入場者数(1,000)

NEC九州 3勝 1敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTT北海道 2勝 3敗

複	吉冨 桂子 / 末綱 聡子	2 {15－8, 15－11, －} 0	中 麻依子	吉岡 久美子
単	幡谷 好美	2 {11－6, 11－2, －} 0	岩松 絵理子	
複	引地 恵 / 舛田 恵	0 {11－15, 11－15, －} 2	標 千春	黒川 真緒

○ 女子の部（第4節・第2日）

会 場：守口市民体育館　入場者数(1,500)

三洋電機 6勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 2勝 4敗

複	小椋 久美子 / 潮田 玲子	2 {15－1, 15－5, －} 0	中 麻依子	吉岡 久美子
単	田中 美保	2 {11－6, 11－5, －} 0	岩松 絵理子	
複	山田 青子 / 森 かおり	2 {15－9, 15－12, －} 0	標 千春	黒川 真緒

○ 女子の部（最終節・最終日）

会 場：国立代々木競技場 第二体育館　入場者数(2,500)

NTT北海道 3勝 4敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　七十七銀行 3勝 4敗

複	中 麻依子 / 吉岡 久美子	2 {7－15, 15－7, 15－2} 1	小川 尚子	長縄 美佳子
単	岩松 絵理子	2 {11－5, 11－9, －} 0	徳永 幸子	
複	標 千春 / 黒川 真緒	0 {6－15, 12－15, －} 2	岡田 真紀	高橋 美紀

日本リーグ 第25回大会（女子）

2003（平成15）年

［11・15］道新スポーツ

バドミントン日本リーグ きょう札幌で開幕

地元でロケットスタート決める！



NTT北海道

初の道内開幕　バドミントン日本リーグ2003がきょう15日、札幌・道立総合体育センターで開幕する。北海道で開幕戦を行うのは、25回の歴史の中でも初めてのことで、男女16チームが勢ぞろいする。14日は札幌市内でレセプションが開かれ、各チームの代表は２日間にわたる健闘を誓った。北海道勢のＮＴＴ北海道は、男女で地元スタートダッシュに燃えている。

5位以上へ まず連勝だ

男子

昨年は3勝4敗で3チーム並び、勝点セット率が最も低く6位に終わったNTT北海道女子。失セットを抑えれば、Aクラス（4位以上）の可能性もあったわけに悪念な結果だった。男子の吉川英樹監督（31）も「戦力的には4位以上の選手がそろっている」とうらやましそうだ。

エース岩松理子（24、NTTテレマート）と昨秋、広島ガスから移籍した中麻依子（26、同）を軸に、今春入社した黒川真緒（22、同）、吉岡久美子（20、テルウエル北海道）の新人を、本田恵主将（25、NTTサービス北海道）がしっかりまとめている。

戦力的にはAクラス

女子

カギ握るエース岩松

今月の全日本総合選手権で、中がアクシデントに見舞われ、今回は出場が微妙ながら「コマはそろっているので、心配していない」と、吉岡秀樹監督（28、NTT-BAT電器戦、16日は三菱電北海道）は戦力の充実ぶりを強調する。

そんな状況でカギを握るのが、社会人3年目の岩松だ。過去リーグでは7勝を挙げ、大舞台での強さには定評がある。

気軽に声かけて

「（W林）バレーボールのような会場からの応援があれば、乗っていけます」。開幕戦の独特の雰囲気を知る岩松ならではの言葉だ。

札幌入会はNTT北海道が道内の小・中・高校生を招待する。

初めて観戦する人も多いが、本田主将は「指手や声援が私たちの力になるので、気軽に声をかけて」と訴えた。きょうはベスト電器戦、16日は三菱電北海道）は戦力の充実ぶりを強調する。

（小野 倉義）

［11・17］道新スポーツ

NTT女子 今季初●

黒川・吉岡 ルーキー活躍

バドミントン日本リーグ2003札幌大会

最終日（16日 札幌・道立総合体育センター）

男女6試合が行われた。NTT北海道の男子はベスト電器と対戦、2―1で破りリーグ戦連勝スタートを切った。女子のNTT北海道は三菱電機に2―1で勝ち、今リーグ初白星を挙げ、地元の応援に応えた。

本来の実力発揮

ただ、Aクラスを狙うチームにとって、格下の三菱電機に取りこぼすことは許されない。1―1の後、黒川真緒・吉岡久美子のルーキーペアに勝利の行方が懸かったが、あっさりストレート勝ち。吉岡秀樹監督は「本来の力を出せばこんなもの」とねぎらった。

今後も厳しい戦いが続くものの「緊張感ある場面で勝てたので自信になりました」と言うルーキー黒川の活躍は心強い。

暗いムード一掃

前日の開幕戦で3タテを食らったNTT北海道女子。「直後は暗～い雰囲気でしたが、なんとか気持ちを切り替えることができました」と本田恵主将もやっと笑顔をのぞかせた。

NTT北海道が道内の小・中・高校生を招待した"NTTシート"も好評で、これまでで一番大きい声援が選手の後ろから絶えず飛び、力強い半面、プレッシャーにもなったという。



地元での勝利に抱き合って大喜びするNTT北海道女子の黒川（右）と吉岡

日本リーグ 第26回大会(女子)

2004(平成16)年

〈 メンバー 〉


【オーナー】牧野　哲也


【部長】清水　善廣


【副部長】小林　政敏


【総監督】平山　三城


【監督】吉岡　秀樹


【コーチ】星　拓磨


【女子主将】岩松　絵理子


【選手】中　麻依子


黒川　真緒


中島　輝美


吉岡　久美子


柴山　明子


宮崎　優花

女子	三洋電機	ヨネックス	NEC九州	七十七銀行	広島ガス	NTT北海道	NTT東日本	三菱電機	勝ち点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A+B	順位
三洋電機		○ 3－0	○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	7	18	3	0.857	1
ヨネックス	● 0－3		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	6	16	5	0.762	2
NEC九州	● 1－2	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	5	16	5	0.762	3
七十七銀行	● 1－2	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	● 1－2	○ 3－0	3	10	11	0.476	4
広島ガス	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	8	13	0.381	5
NTT北海道	● 0－3	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	○ 2－1	2	8	13	0.381	6
NTT東日本	● 1－2	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 0－3		○ 3－0	2	7	14	0.333	7
三菱電機	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3		0	1	20	0.048	8

○ 女子の部（第1節・第1日）

会　場：高岡市民体育館　入場者数(3,200)

三洋電機 1勝 0敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 1敗

複	小椋 久美子 / 潮田 玲子	2	15－1, 15－6	岩松 絵理子 / 中 麻依子
単	廣瀬 栄理子	2	11－7, 11－1	宮崎 優花
複	山田 青子 / 多谷 郁恵	2	15－5, 15－10	黒川 真緒 / 柴山 明子

○ 女子の部（第1節・第2日）

会　場：高岡市民体育館　入場者数(2,300)

NTT北海道 1勝 1敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT東日本 0勝 2敗

複	岩松 絵理子 / 中 麻依子	2	15－10, 9－15, 15－9	田井 美幸 / 岩脇 史
単	宮崎 優花	2	11－6, 11－13, 11－4	媚山 映里
複	黒川 真緒 / 柴山 明子	2	15－9, 17－16	本田 いずみ / 三浦 ちひろ

○ 女子の部（第2節）

会　場：北海道立総合体育センター(27日)　入場者数(2,800)

広島ガス 2勝 1敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTT北海道 1勝 2敗

複	日野 由希江 / 小池 温子	1	15－13, 13－15, 13－15	岩松 絵理子 / 中 麻依子
単	吉岡 知香	2	11－5, 11－3	宮崎 優花
複	寺本 悦子 / 渡辺 夕子	2	15－7, 15－10	黒川 真緒 / 柴山 明子

○ 女子の部（第3節）

会　場：船橋市総合体育館(5日)　入場者数(2,300)

ヨネックス 4勝 0敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTT北海道 1勝 3敗

複	山本 静香 / 今別府 靖代	2	13－15, 15－10, 15－13	黒川 真緒 / 柴山 明子
単	米倉 加奈子	2	11－3, 11－1	宮崎 優花
複	松田 友美 / 赤尾 亜希	1	15－6, 10－15, 9－15	岩松 絵理子 / 中 麻依子

○ 女子の部（第4節）

会　場：宮城県スポーツセンター　入場者数(2,250)

七十七銀行 1勝 3敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　NTT北海道 1勝 4敗

複	小川 尚子 / 長縄 美佳子	1	15－10, 12－15, 7－15	岩松 絵理子 / 中 麻依子
単	徳永 幸子	2	11－4, 8－11, 11－9	宮崎 優花
複	岡田 真紀 / 高橋 美紀	2	9－15, 15－9, 15－9	黒川 真緒 / 柴山 明子

○ 女子の部（第5節）

会　場：熊本県立総合体育館　入場者数(2,300)

NEC九州 4勝 1敗　3 {単 1－0, 複 2－0} 0　NTT北海道 1勝 5敗

複	末綱 聡子 / 前田 美順	2	15－4, 15－12	岩松 絵理子 / 中 麻依子
単	幡谷 好美	2	11－9, 11－2	宮崎 優花
複	吉冨 桂子 / 今井 幸代	2	15－3, 15－3	黒川 真緒 / 中島 輝美

○ 女子の部（最終節・最終日）

会　場：国立代々木競技場第二体育館　入場者数(3,000)

NTT北海道 2勝 5敗　2 {単 1－0, 複 1－1} 1　三菱電機 0勝 7敗

複	岩松 絵理子 / 中 麻依子	2	15－0, 15－6	宮島 友美 / 渡邊 沙織
単	宮崎 優花	2	11－6, 6－11, 11－3	高野 理沙
複	黒川 真緒 / 中島 輝美	1	6－15, 15－11, 10－15	藤井 二美可 / 橋本 純子

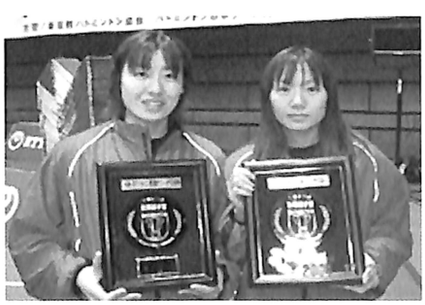
日本リーグ 第26回大会(女子)　2004(平成16)年

接戦続くも勝ち点伸びず

6位
NTT北海道

「不本意な結果です」というのは吉岡監督。男子が8年ぶりのAクラスに到達しただけに、同じ目標を掲げていた女子として無念があった。2年目の吉岡が夏にケガをし、今季は出場できず。「ベストオーダーではなかったが、上をめざすチームとして最低でもあと2勝はしたかった」（吉岡監督）。エースの中／岩松が5勝をあげて得点源となったが、もう1点がなかなか奪えず。七十七銀行戦では宮崎が徳永に、黒川／柴山が岡田／高橋にいずれもファイナル負け。だが三菱電機との最終戦では宮崎が東海女子短大の先輩・高野を下しチームの勝利を決めて来季へ弾みをつけている。


中（左）／岩松は全日本総合3位の自信を胸に、5勝をあげて敢闘賞を獲得。4つのファイナル勝ちを制する勝負強さが光った


敢闘選手賞受賞の中·岩松組



宮崎選手


黒川·柴山組

日本リーグ 第27回大会(女子)

2005(平成17)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 牧野 哲也



【部長】 富居 次郎



【副部長】 小林 政敏



【総監督】 平山 三城



【監督】 吉岡 秀樹



【女子主将】 岩松 絵理子



【選手】 中 麻依子



黒川 真緒



吉岡 久美子



柴山 明子



宮崎 優花



後藤 佳代



女子	三洋電機	ヨネックス	NEC九州	NTT東日本	広島ガス	七十七銀行	北都銀行	NTT北海道	勝ち点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率 A／A+B	順位
三洋電機		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 3－0	7	19	2	0.905	1
ヨネックス	● 1－2		○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	○ 3－0	6	17	4	0.810	2
NEC九州	● 0－3	● 1－2		○ 3－0	○ 2－1	○ 3－0	● 1－2	○ 3－0	4	13	8	0.619	3
NTT東日本	● 0－3	● 0－3	● 0－3		○ 3－0	● 1－2	○ 2－1	○ 3－0	3	9	12	0.429	4
広島ガス	● 1－2	● 0－3	● 1－2	● 0－3		○ 2－1	○ 2－1	○ 3－0	3	9	12	0.429	5
七十七銀行	● 0－3	● 1－2	● 0－3	○ 2－1	● 1－2		○ 2－1	○ 2－1	3	8	13	0.381	6
北都銀行	● 0－3	● 0－3	○ 2－1	● 1－2	● 1－2	● 1－2		○ 3－0	2	8	13	0.381	7
NTT北海道	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 0－3	● 1－2	● 0－3		0	1	20	0.048	8

○ 女子の部（第1節・第1日）

会場：仙台市体育館　入場者数(2,100)

NTT東日本 1勝 0敗　3 {単 1－0 / 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 1敗

複	田井美幸 媚山映里	2 {15－4 / 8－15 / 15－11} 1	岩松絵理子 中麻依子
単	後藤愛	2 {11－9 / 11－2 / －} 0	宮崎優花
複	岩脇史 三浦ちひろ	2 {15－3 / 15－7 / －} 0	黒川真緒 後藤佳代

○ 女子の部（第1節・第2日）

会場：仙台市体育館　入場者数(3,000)

ヨネックス 2勝 0敗　3 {単 1－0 / 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 2敗

複	大熊倫子 今別府靖代	2 {15－5 / 15－5 / －} 0	岩松絵理子 中麻依子
単	米倉加奈子	2 {11－5 / 11－1} 0	吉岡久美子
複	松田友美 赤尾亜希	2 {15－2 / 15－3 / －} 0	黒川真緒 後藤佳代

○ 女子の部（第3節）

会場：北海道立総合体育館（きたえ～る）　入場者数(2,400)

七十七銀行 1勝 3敗　2 {単 0－1 / 複 2－0} 1　NTT北海道 0勝 3敗

複	小川尚子 長縄美佳子	2 {6－15 / 15－11 / 15－11} 1	岩松絵理子 中麻依子
単	平山愛	0 {7－11 / 3－11 / －} 2	宮崎優花
複	高橋美紀 岡田真紀	2 {15－17 / 15－7 / 15－8} 1	黒川真緒 後藤佳代

○ 女子の部（第4節）

会場：久喜市総合体育館　入場者数(1,600)

北都銀行 1勝 4敗　3 {単 1－0 / 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 4敗

複	山崎雅美 金上路子	2 {15－11 / 15－13 / －} 0	岩松絵理子 中麻依子
単	三好奈緒	2 {11－0 / 11－7 / －} 0	宮崎優花
複	正木真澄 松浦裕子	2 {15－4 / 13－15 / 15－6} 1	黒川真緒 後藤佳代

○ 女子の部（第5節・第1日）

会場：高岡市民体育館　入場者数(2,700)

広島ガス 3勝 2敗　3 {単 1－0 / 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 5敗

複	吉岡知香 早川由希子	2 {15－10 / 16－17 / 15－13} 1	岩松絵理子 中麻依子
単	寺本悦子	2 {11－7 / 11－3 / －} 0	宮崎優花
複	日野由希江 小池温子	2 {15－8 / 15－9 / －} 0	黒川真緒 吉岡久美子

○ 女子の部（最終節・第1日）

会場：守口市民体育館　入場者数(522)

三洋電機 6勝 0敗　3 {単 1－0 / 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 6敗

複	小椋久美子 潮田玲子	2 {15－1 / 15－2 / －} 0	黒川真緒 後藤佳代
単	廣瀬栄理子	2 {11－3 / 11－4 / －} 0	吉岡久美子
複	多谷郁恵 脇坂郁	2 {12－15 / 15－0 / 15－9} 1	岩松絵理子 中麻依子

○ 女子の部（最終節・最終日）

会場：守口市民体育館　入場者数(2,200)

NEC九州 4勝 3敗　3 {単 1－0 / 複 2－0} 0　NTT北海道 0勝 7敗

複	末綱聡子 前田美順	2 {15－7 / 15－6 / －} 0	黒川真緒 後藤佳代
単	幡谷好美	2 {11－8 / 11－4 / －} 0	吉岡久美子
複	今井幸代 岡ひとみ	2 {15－6 / 15－13 / －} 0	岩松絵理子 中麻依子

日本リーグ 第27回大会(女子)　2005(平成17)年

8位 NTT北海道

エースの不振で波にのまれる

本誌選定MVP 宮崎優花

ひとつの得点源の不振が、チームの黒星に直結。２複１単のリーグの怖さを知らされた。前年敢闘賞の中／岩松はＮＴＴ東日本の田井／媚山、七十七銀行の小川／長縄、広島ガスの吉岡／早川、三洋電機の脇坂／多谷といずれもファイナル勝負を演じたが、最後にねばり切れず。「いい試合をしても波に乗れない。勝てないから自信が出ずに、最後にやられてしまった」（吉岡監督）。それがそのままチームの戦いに反映。結局、白星は宮崎が第３戦であげた１勝にとどまった。「１月の２部リーグ（岩手）を観て、入替戦では意地を見せたい」と吉岡監督は決意を表している。



04年には5勝をあげたエースの中(右)／岩松がまさかの全敗。4つのファイナルゲームをいずれも勝ちきれなかった



吉岡選手



黒川･後藤組



日本リーグ 第28回大会 2部リーグ(女子) 2006(平成18)年

〈 メンバー 〉

【オーナー】 加茂 孝之



【部長】 富居 次郎



【副部長】 小林 政敏



【総監督】 平山 三城



【女子監督】 吉岡 秀樹



【女子主将】 黒川 真緒



【選手】 柴山 明子



吉岡 久美子



宮崎 優花



後藤 佳代



渡辺 夕子



本田 恵



○女子の部

チーム名	NTT北海道	日立化成	山陰合同銀行	北國銀行	鳥取三洋電機	JR北海道	百十四銀行	勝点	取得点A	喪失点B	取得マッチ率A/A+B	順位
NTT北海道		○ 3−0	○ 2−1	○ 3−0	○ 3−0	○ 3−0	○ 3−0	6	17	1	0.944	優勝
日立化成	● 0−3		○ 2−1	○ 2−1	○ 2−1	○ 3−0	○ 3−0	5	12	6	0.667	2
山陰合同銀行	● 1−2	● 1−2		○ 2−1	○ 2−1	○ 2−1	○ 3−0	4	11	7	0.611	3
北國銀行	● 0−3	● 1−2	● 1−2		○ 2−1	○ 2−1	○ 2−1	3	8	10	0.444	4
鳥取三洋電機	● 0−3	● 1−2	● 1−2	● 1−2		○ 2−1	○ 2−1	2	7	11	0.389	5
JR北海道	● 0−3	● 0−3	● 1−2	● 1−2	● 1−2		○ 2−1	1	5	13	0.278	6
百十四銀行	● 0−3	● 0−3	● 0−3	● 1−2	● 1−2	● 1−2		0	3	15	0.617	7

○ 女子の部（第1日・第1試合）

会場：美郷町仙南総合体育館　入場者数(　)

NTT北海道 1勝 0敗	3	単 1 − 0 複 2 − 0	0	鳥取三洋電機 0勝 1敗
複	黒川 真緒 後藤 佳代	2	21 − 18 21 − 17 −	藤原 由衣 岡野 由有佳
単	宮崎 優花	2	21 − 12 21 − 15 −	0 田中 妙美恵
複	吉岡 久美子 渡辺 夕子	2	21 − 12 21 − 16 −	0 澤 憂妃 西 郁美

○ 女子の部（第1日・第2試合）

会場：美郷町仙南総合体育館　入場者数(　)

NTT北海道 2勝 0敗	3	単 1 − 0 複 2 − 0	0	百十四銀行 0勝 2敗
複	黒川 真緒 後藤 佳代	2	21 − 17 21 − 9 −	0 楠原 麗民 川西 ゆかり
単	宮崎 優花	2	21 − 15 21 − 14 −	0 安徳 美和
複	吉岡 久美子 柴山 明子	2	21 − 9 21 − 13 −	0 米田 佳代 濱口 有里

○ 女子の部（第2日・第1試合）

会場：美郷町仙南総合体育館　入場者数(　)

NTT北海道 3勝 0敗	3	単 1 − 0 複 2 − 0	0	JR北海道 0勝 3敗
複	黒川 真緒 後藤 佳代	2	21 − 16 21 − 17 −	0 田中 美与子 阿野 加代子
単	宮崎 優花	2	21 − 5 21 − 9 −	0 木村 有里
複	吉岡 久美子 柴山 明子	2	21 − 11 22 − 20 −	0 早山 里子 佐藤 あゆみ

○ 女子の部（第2日・第3試合）

会場：美郷町仙南総合体育館　入場者数(　)

NTT北海道 4勝 0敗	3	単 1 − 0 複 2 − 0	0	日立化成 3勝 1敗
複	黒川 真緒 後藤 佳代	2	21 − 7 21 − 12 −	0 矢野 幸美 佐野 志緒梨
単	宮崎 優花	2	21 − 12 21 − 10 −	0 大塚 珠世
複	吉岡 久美子 渡辺 夕子	2	21 − 18 21 − 15 −	0 古川 亜希子 杉山 仁美

○ 女子の部（最終日・第1試合）

会場：美郷町仙南総合体育館　入場者数(　)

NTT北海道 5勝 0敗	3	単 1 − 0 複 2 − 0	0	北國銀行 3勝 2敗
複	黒川 真緒 後藤 佳代	2	21 − 9 21 − 6 −	0 加賀 裕美 牧畠 亜季奈
単	宮崎 優花	2	21 − 23 21 − 13 21 − 9	1 鍛冶 祐美子
複	吉岡 久美子 柴山 明子	2	22 − 20 21 − 13 −	0 青山 早希 村上 夏樹

○ 女子の部（最終日・第2試合）

会場：美郷町仙南総合体育館　入場者数(　)

NTT北海道 6勝 0敗	2	単 0 − 1 複 2 − 0	1	山陰合同銀行 4勝 2敗
複	黒川 真緒 後藤 佳代	2	19 − 21 21 − 10 22 − 20	1 西川 夏紀 高木 さやか
単	宮崎 優花	1	18 − 21 21 − 19 13 − 21	2 小室 恭子
複	吉岡 久美子 柴山 明子	2	21 − 19 21 − 14 −	0 守屋 仁美 山田 紘実

日本リーグ 第28回大会 2部リーグ(女子)　2006(平成18)年



女子チーム　有終の美！ ６戦全勝で優勝!!

平成18年12月1日(金)から3日(日)まで秋田県美郷町総合体育館においてバドミントン日本リーグ2006二部大会が行われました。女子チームはこの大会が最後の大会となり、選手一同悔いの残らない戦いを誓い、圧勝で優勝を勝ち取り有終の美を飾る事が出来ました。初日から危なげない試合運びで、最終戦1セット落とした以外はすべて3-0で勝利し、昨年まで一部で活躍してきた貫禄を見せつけ、ほぼ完全優勝となりました。また、個人賞として黒川・後藤組が殊勲選手賞を受賞いたしました。皆さんのたくさんの応援本当にありがとうございました！



宮崎選手


黒川・後藤組


柴山・吉岡組


黒川・後藤組 ハイタッチ


渡辺・吉岡組


柴山・吉岡組 ハイタッチ

バドミントン部
40年の軌跡





創部当時の思い出

江口　歳男

発足当時の責任者

昭和30年代は、電々公社時代、もっとも電話事業が拡張した時代でした。

事業拡大と共に事業所も社員も増大していきました。社員の健康増進と明るい職場づくりを目的として公社は早くから「レクリエーション運動」を職場の中に取り入れ成果をあげていました。

軟式野球・バレーボール・バドミントン・卓球等が多くの職場でおこなわれておりました。そして公社ではそれらスポーツの全国大会を開催してさらなる向上をはかっておりました。

一方、札幌市においても市民スポーツが盛んにおこなわれていて、バドミントン大会が春・秋大会が行われていました。

昭和36年頃、札幌市民バドミントン大会に参加していた社員が大会終了後、数名集って話合う機会があり、市内で一つの「バドミントン同好会」を結成して活動していこうと意見がまとまり、同好会としてのチームが生まれました。

翌年39年から「北海道実業団バドミントン連盟」に新規登録してはじめて会社チームとして出場し、従来経験したことのない勝敗の厳しさや、勝った時の大きな喜びを会員全員が感じたものでした。



そんな活動を続けるうち、会員数も多くなり40名程となって練習会場の確保が難しくなりました。それを解消してくれたのは当時の電気通信学園（現セミナーセンタ）の屋内体育館でした。体育館ではバドミントン・バレーボール・卓球部が熱心に練習に励んでいました。

昭和42年電電札幌バドミントン部と改名し初めての公式試合の実業団北海道大会二部において、念願の初優勝を果しました。

ここまでの道のりは長いものでしたが、会員の弛（たゆ）まぬ活動努力とともに、社内・社外の方々の多くの支援と御指導の賜物と深く感謝をいたしておるところです。

1967（昭和42）年

全日本実業団大会　第17回・勝山大会



主な出来事

電電札幌バドミントン部発足
全道実業団2部初優勝

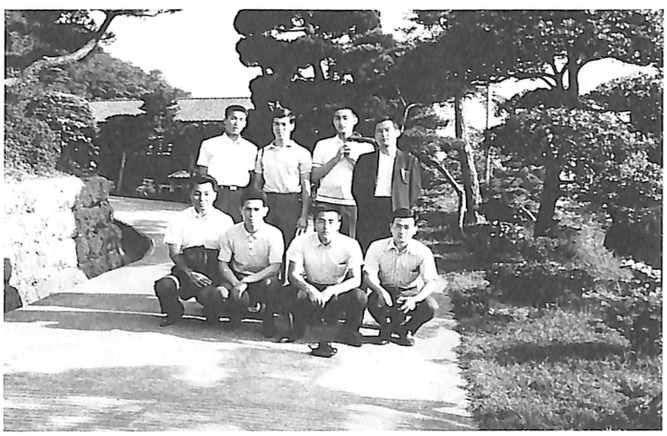
戦　　績

全道実業団　2部初優勝

メンバー

伊勢　武　　山田　龍一　　新人　佐藤　信次
江口　歳男　　平野　義孝　　新人　中村　徳光
森田　彪　　新人　成瀬　敏夫

1968（昭和43）年



主な出来事

全道実業団1部昇格

戦　　績

全道実業団1部昇格

メンバー

新人　木村　敏男

1969（昭和44）年

メンバー

新人　中瀬　幸記
新人　古川　孝行





こぼれ話

バドミントン発祥の地は？

1820年代にインドのある地方で行われていた遊びをイギリスの一将校が1873年に本国に紹介したのが始まり。その後、グロスターシャー州のバドミントンという村で現在の競技の形が出来上がり、その村の名前がそのまま競技名となりました。

日本への普及

日本にバドミントンが伝えられたのは大正時代末のこと。横浜、神戸などの在留外国人を通して広まりました。全国的に普及したのは第二次大戦後のことで、昭和23年に第1回全日本選手権が東京で行われています。

1971（昭和46）年

主な出来事

全道実業団1部において初優勝

戦　　績

全道大会	全道実業団	男子初優勝	
	北海道選手権	シングル優勝	赤塚
		ダブルス優勝	中村･木村組
	北海道社会人	シングル優勝	赤塚
		ダブルス優勝	中村･木村組
	国体道予選	ダブルス優勝	中村･木村組

メンバー

新人　赤塚　正三
新人　平山　三城
新人　山口　克志



初代監督
江口　歳男

昭和30年代半ば、愛好の社員が集まって作った「バドミントン同好会」

それから出発して40有余年の月日が流れました。

同好会の結成から6～7年後の昭和42年の全道実業団バドミントン大会（二部）において初優勝（団体戦）した時は、信じられない程うれしかったものでした。

それは同好会の活動がすべて自分達の力で続けながら、いつの日か努力が報いられる日があることを信じていたからです。

この初優勝により北海道実業団バドミントン連盟から北海道代表として福井県勝山市で開催される第17回全日本実業団大会に出場の推薦を受け全国大会に初参加したことの喜びを今でも忘れておりません。

このあと、全日本実業団バドミントン大会には昭和42年・43年と46年に「電電札幌」チームの監督として参加しました。大会に参加して強く感じたことの一つは試合会場の室温・湿度が高く選手が実力を十分に発揮することが難しいことでした。

さらに当時の大会は参加チームが多く、団体・個人戦があったため早朝8時開始で終了が午後10時までといった具合いでした。

選手のコンディション維持には、随分気をつかいました。

近年は試合会場の設備も改善され、またゲーム形式も健康管理に配慮されておこなわれているようです。

今回、会社事情により活動休止となりましたが、再会される日が訪れることを期待しております。

1972（昭和47）年

主な出来事

『電電北海道バドミントン部』と改名（4月）

戦　　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
全道大会	全道実業団	男子2連覇	
		シングル優勝	赤塚
		ダブルス優勝	中村･木村組
	北海道選手権	シングル優勝	赤塚
		ダブルス優勝	中村･木村組
	北海道社会人	シングル優勝	赤塚
		ダブルス優勝	平山･赤塚組
	国体道予選	ダブルス優勝	中村･木村組

メンバー

新人　中川　　肇
新人　佐藤　義孝
新人　福島　清寛

備　　考

国体出場　中村･木村組



第二代目監督
森田　彪

監督としての思い出の前に、やはり昭和42年以前のこぼれ話をさせていただきたいと思います。

バドミントン好きの仲間が勤務終了後に三々五々集まり、当時の練習会場であった上白石小学校の体育館で、まずはチョークと雑巾等でのライン引きから始まり、賑やかに練習していたことを懐かしく思い出します。

この頃は、電電東京の創部時メンバーの一人であった山田龍一氏が札幌に戻っていたので、彼との二人三脚での活動が中心でありました。

当時は、札鉄・地崎の二強時代であり、何とかこの二強に勝ちたいの一念から、全道高校生のつわものどもを補強（平野君、佐藤（信）君、成瀬君、中村君、木村君、古川君、中瀬君）してメンバーは揃ったが、中々二強の壁を破れそうで破れなかった。そこで、日大の後輩の平山君と赤塚君に声をかけたが、平山君からは良い返事をもらうのに時間がかかりましたが、何とか二人揃って入部してくれ、その年に念願の全道実業団選手権大会で初優勝してくれました。翌年も連勝し更に、全日本実業団選手権大会（茂原大会）では初のベスト8となったことを思い出します。

欲が出るものであり次は、夢の全国制覇するためには当時、全日本メンバーでインカレのシングルチャンピオンであった日大の後輩である遠藤君を何とか入部させたかったので、毎日のように電話での誘いと何回かの上京で口説き落としたことが、それからのチームの飛躍に大きく貢献したと思っています。

本当に良くぞ遠藤君が北海道へ来てくれました。改めて遠藤君に感謝の気持ちで一杯です。

昭和42年頃からは当時の電気通信学園の小さな体育館での練習でありましたが練習後は、よく我が家で家族を含めて盛り上がったものであり、その選手の面倒を女房が嫌な顔をせずに自分の子どものように面倒を見てくれました。その意味では女房も強いチーム作りに貢献してくれた一人であったのではないかと思っています。

お世話いただきました多くの皆様に、心よりありがとうございましたと言いたいです。今は、チームの復活を祈るのみであります。

1973（昭和48）年

主な出来事

第1回日中大会（日中国交回復記念）に遠藤選手中国遠征する

戦　　績

全国大会
- 全日本実業団　男子団体9位

全道大会
- 全道実業団　男子3連覇
  - シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　平山・遠藤組
- 北海道選手権
  - シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　木村・遠藤組
- 北海道社会人
  - シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　木村・遠藤組
- 国体道予選
  - シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　木村・遠藤組

メンバー

新人　遠藤　好男

普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　　考

遠藤、ナショナルチームメンバー
国体出場　伊勢・木村・遠藤



第三代目監督
伊勢　武

私は当時の上司から三代目の監督を任命され以来四年間チームと共にしましたが、当時バドミントン部は公社から公認サークルとして認められていない頃で、必要経費は全て自己負担という財政的にも精神的にも辛い時期でありましたが、この状況を理解されご支援を頂いた直属の上司及び素晴らしい選手諸君にも恵まれ北海道の各種バドミントン大会では連戦連勝、全日本実業団バドミントン大会ではチーム結成以来最高の成績をあげることが出来た。

私はこの時期を電電北海道バドミントン部の第一期黄金時代と呼びたい。

監督在任中特に印象強い次の三点について感謝を込めて記述します。

第一点　全国大会初の第三位

監督歴二年目の四十九年度の全国実業団バドミントン大会では順調に勝ち進み準々決勝ではシードチームで強豪の関東自動車（神奈川代表）と対戦し報道の予想に反し快勝し準決勝では優勝した電電東京（東京代表）に敗れたが初めて第三位に入賞した。

第二点　全国大会二年連続第三位

監督歴三年目五十年度の全国大会で準々決勝では強敵ヨネックス（東京代表）を破り、準決勝では優勝した高岡市役所（富山代表）と対戦・互角の試合を展開し、初優勝が目前に迫っていたがここでアクシデントが発生した。

絶好調の遠藤選手が一セットを取り二セット途中で足をつって棄権。初優勝を逃し悔しい第三位となった。

第三点準公認サークルの認定

チームの好成績の要因は、今迄はすべて自己責任において対処してきたが、昭和五十年、公社から準公認サークルに認定されたことにより必要経費、用具補強、選手の採用、練習時間等々に理解が得られ、今日の基盤が出来たことは岡田さん当時全電通労組北海道地方本部調査交渉部長の多大なご支援とご理解の賜ものと、今でも感謝の気持ちを忘れることが出来ません。

以上

全日本実業団体会　第23回・石岡大会









1974(昭和49)年

主な出来事

公社組合の合意により「準公認サークル」として取り扱われる(50.2.19)

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体3位
	全日本社会人	シングル2位　遠藤
	全日本総合	シングル2位　遠藤
全道大会	全道実業団	男子4連覇 ※個人戦廃止
	北海道選手権	シングル優勝　遠藤 ダブルス優勝　木村・遠藤組
	北海道社会人	シングル優勝　遠藤 ダブルス優勝　木村・遠藤組
	国体道予選	シングル優勝　遠藤 ダブルス優勝　木村・遠藤組

メンバー

新人　岩村　重勝

普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　考

遠藤、ナショナルチームメンバー
国体出場　伊勢・木村・遠藤
日中友好で中国遠征

○感 謝○

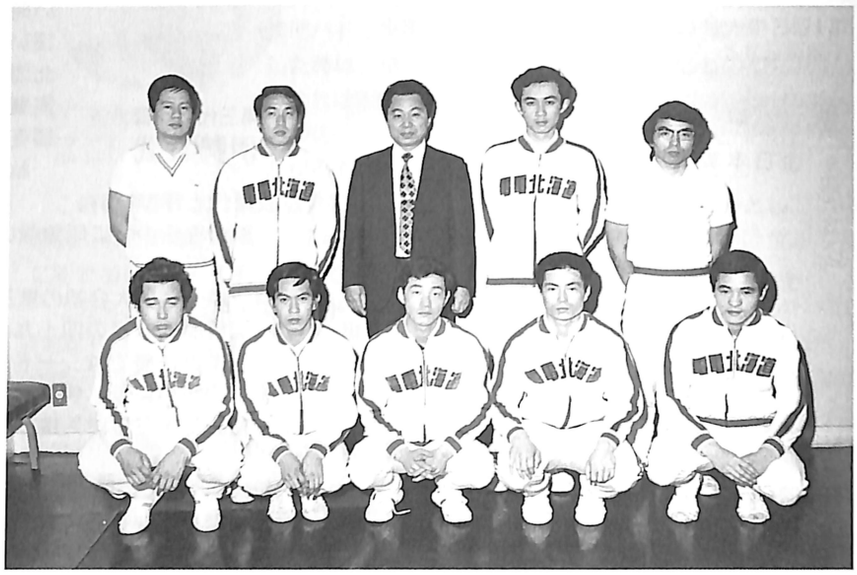
葛西定美さん

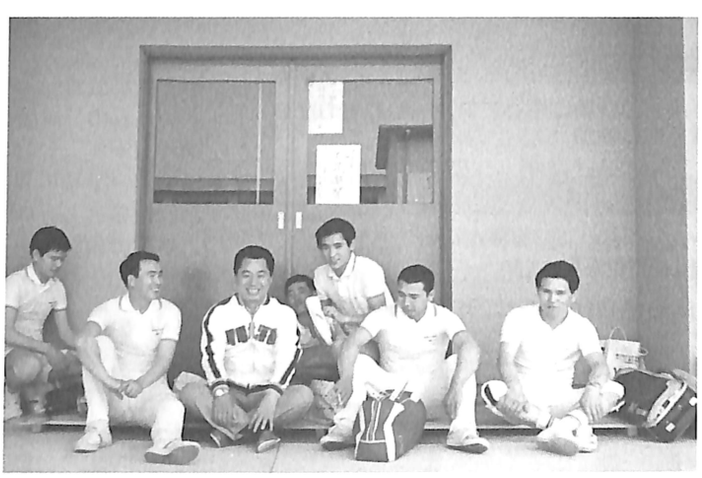
昭和42年同好会として発足したバドミントン部でしたが、部員は少なく、所用経費は全て自己負担かつ練習は市立体育館、学校開放の体育館及び札幌電気通信学園の体育館を転々としながら技量向上に励む、等々苦難の連続でした。

その頃電電公社北海道全般のスポーツを統括する葛西さんが同好会の内情を理解し、昭和46年正式な組織の発足と共に初代副部長に就任して以来、選手の採用、用具の補強、全国大会出場に伴う費用等々多大なる尽力をいただき電電北海道バドミントン部男子が誕生した。もし葛西さんのような理解ある素晴らしい上司にお会い出来なければ今日の電電北海道チームの誕生はなかったと部員一同心から感謝しております。

当時　北海道電気通信局職員部　厚生課長
最終　富良野電報電話局長

全日本実業団大会第24回・松阪大会







1975（昭和50）年

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体3位	
全日本社会人	シングル5位	遠藤
	混合ダブルス3位	木村·高野(地崎)組

全道大会

全道実業団	男子5連覇	
北海道選手権	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	木村·遠藤組
	混合ダブルス優勝	木村·高野組
北海道社会人	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	木村·遠藤組
	混合ダブルス優勝	木村·高野組
国体道予選	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	木村·遠藤組

メンバー

新人　九原　政敏
新人　平沢　　徹

普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　考

国体出場　伊勢·木村·遠藤

1976（昭和51）年

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
全日本社会人	シングル5位	遠藤
全日本総合	シングル5位	遠藤

全道大会

全道実業団	男子6連覇	
北海道選手権	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	木村·遠藤組
	混合ダブルス優勝	木村·高野組
北海道社会人	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	木村·遠藤組
	混合ダブルス優勝	木村·高野組
国体道予選	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	木村·遠藤組

メンバー

新人　高木　勝弘
新人　篠尾　幸孝

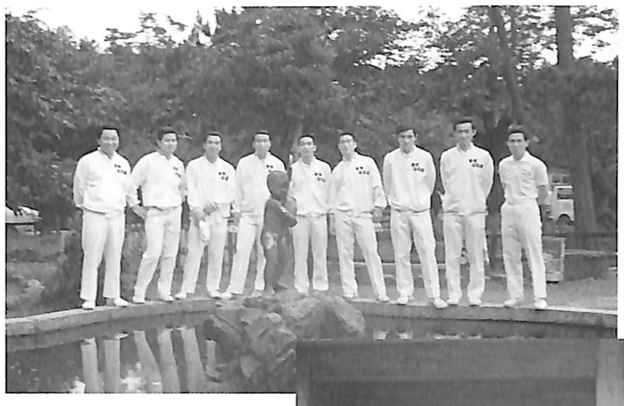
普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　考

国体出場　伊勢·木村·遠藤·九原

全日本実業団大会第25回·高岡大会





○感　謝○

岡田満吾さん

常日頃、岡田さんはバドミントン部は人、物、金が困難な状況下の中で各種大会で好成績を残し、かつ道内各地からの要請に応じてスポーツ教室に参加する等地域貢献、スポーツ振興、職員への活力付与等々公社としても援助すべきではないかとの持論から再三公社と交渉し昭和50年2月正式に準公認サークルとしての認定を受けた。

この歴史的な準公認サークルの決定は岡田さんのチームに対する熱い想いと、部員一同心から感謝しております。地域貢献の活動に対する理解なくして実現はしなかった。

岡田満吾
当時　全電通労働組合北海道地方本部　調査交渉部長
最終　全電通労働組合北海道地方本部　執行委員長

全日本実業団大会　第26回·藤沢大会



1977（昭和52）年

戦　　績

全国大会
- 全日本実業団　男子団体5位
- 全日本社会人　シングル5位　遠藤

全道大会
- 全道実業団　男子7連覇
- 北海道選手権　シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　木村・遠藤組
  - 混合ダブルス優勝　木村・高野組
- 北海道社会人　シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　木村・遠藤組
  - 混合ダブルス優勝　木村・高野組
- 国体道予選　シングル優勝　遠藤
  - ダブルス優勝　木村・遠藤組

普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　　考

国体出場　平山・遠藤・木村・九原



日本リーグへの挑戦

平山　三城　第四代目監督

私が、伊勢監督の後任として監督（四代目）に指名されたのは27歳であった。

当時は、バドミントンそのものが競技としては、あまり競技者以外は理解されていない頃であり、ましてやお金を払って観るスポーツかと言った感じであった。

私は、バドミントンを一般の方にも観て楽しんでいただけるスポーツに出来ないか、競技として如何に普及させるかに主眼を置いて、協会の仕事とチームの選手をつれての全道各地でのバドミントン教室の開催などに積極的に動き回っていたころであった。それに専念出来たのは頼れるメンバーが、揃っていたからであると改めて思う。

チームとしての練習の方は、赤塚君・木村君・遠藤君に殆ど任せ、社内外へ積極的に顔を出すことに心がけていた。それと、マスコミへのアプローチと言うか情報提供を行い、バドミントンを如何にアピール出来るかを真剣に考えていたころであった。

そこで、バドミントンを競技として広く認知してもらう近道は、我がチームを日本リーグに出場させることだと強く感じていたので、ダメもとで当時の菅原部長にお願いに伺った。監督としてどうしたいのかと聞かれ「選手にチャンスを与えていただきたい。九原君を本社へ送り出した直後であり、挑戦してもリーグ入りは難しいかも知れないが、選手の力を信じている。監督として、選手に夢のステージへ挑戦させたい」と訴えた。

菅原部長の動きは早かった、自ら関係部にお願いに歩かれ、翌日にはオーナーからも了承を取り付けていただき日本リーグへの挑戦がスタートした。

日本リーグ入りをかけた試合は、京都市の島津製作所体育館で3チームでのリーグ戦で行われることになった。試合前日に伊丹空港で選手と別れて、林信幸前部長の芦屋のお宅へご挨拶に伺った。林前部長は急きょ帰宅され夕食を囲みながら、激励をいただいた後、林前部長の運転で奥様も一緒に芦屋駅まで送っていただき、選手の待つ宿舎に着いたのはかなり夜遅くなっていた。翌日の試合展開を考えて寝つかれず朝を迎えた。試合前のミーティングでは「菅原部長にチャンスをいただいた、チーム一丸でこのチャンスを活かして、菅原部長への誕生日プレゼントとして報告したい」であった。選手は見事そのチャンスをものにしてくれたが、感激する時間もなく慌しく帰路に着いたことを覚えている。

監督としての日本リーグでの思いでは沢山ある中で、印象が強い二つを紹介したい。

まずは、最初の日本リーグでの第一戦（代々木第二体育館）チームとしての初勝利を確信した瞬間にシングルスの佐藤義孝君がアキレス腱断絶のアクシデントで初勝利を逃したこと。もう一つは、北海道で最初に開催された日本リーグ札幌大会である。試合は年末も押迫った12月28日（日）に札幌中島体育センターでの開催であった。

入場料を払って、この押迫った時期に観衆が集まるか心配であったが、会場は超満員で立ち見ができ、コートサイドの仮設スタンドに入りきれない人がでるなどで、試合前に、札幌協会の担当者として場内整理に汗を流したことを懐かしく思い出す。

この試合、チームとしては負けたが、最後の第二ダブルスの高木・米山組が接戦をものにしたこともあり、チームとして勝ったような異様な盛り上がりで終わった大会であった。

私は、縁があって日大の大先輩である森田さんの情熱で赤塚君と一緒に北海道に来た選択が、今、振り返ると私にとって間違いなくラッキーであったのだと感じる。

監督としてのノウハウは、伊勢さんから直接に教わった。色んな難しい局面にも同席させていただいたことが、監督となった際に大いに役立ち、本当に充実した監督時代を体験できたものと思っている。

北海道に来なければこのような素晴らしい体験は、まずできなかったのではないかと思う。良き上司、同僚そして厚き思いのバドミントン仲間に恵まれたからだと感謝している。この大きな貴重な財産を伝えれる機会があれば幸いである。



木村・遠藤組

1978(昭和53)年

戦　　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
		ダブルス5位	木村・遠藤組
	全日本社会人	ダブルス3位	木村・遠藤組
	全日本総合	ダブルス5位	木村・遠藤組
全道大会	全道実業団	男子8連覇	
	北海道選手権	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組
		混合ダブルス優勝	木村・高野組
	北海道社会人	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組
		混合ダブルス優勝	木村・高野組
	国体道予選	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組

普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　　考

・国体出場　平山・遠藤・木村・九原
　遠藤選手団選手宣誓者
・道協創立30周年記念で技能賞受賞団体、木村選手



バドミントン教室　網走市

1979(昭和54)年

主な出来事

日本リーグ始まる(第1回)

戦　　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
		ダブルス3位	木村・遠藤組
	全日本社会人	ダブルス3位	木村・遠藤組
	全日本総合	ダブルス5位	木村・遠藤組
全道大会	全道実業団	男子9連覇	
	北海道選手権	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	高木・米山組
	北海道社会人	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組
		混合ダブルス優勝	高木・田垣組
	国体道予選	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組

メンバー

新人　米山　孝二

普及活動等

道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備　　考

国体出場　林・平山・木村・遠藤・九原
　22年ぶり第3位
　木村選手、選手団旗手
日体協より技能賞受賞
(連続10回出場)

全日本実業団大会第29回・倉敷大会





1980（昭和55）年

主な出来事

日本リーグにＮＴＴ北海道初参加（第2回）

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
		30歳シングル優勝	赤塚
	日本リーグ	6位（0勝5敗）	
全道大会	全道実業団	男子10連覇	
	北海道選手権	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	高木・米山組
	北海道社会人	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	高木・米山組
	国体道予選	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組

メンバー

新人　高田　浩二

普及活動等（スポーツ教室）

斜里町（80名×2日）
根室市（200名×2日）
白老町（60名）

3会場約620名

備　考

国体出場
菅原・平山・木村・遠藤・高木



電電北海道10連覇

北海道新聞（昭和55年4月28日）

◇バドミントン　第三十回全道実業団選手権最終日（27日・江別市民体育館）

【男子二部】▽準決勝
電電北海道　3―0　札鉄Ｂ
札鉄Ａ　3―0　地崎
▽3、4位決定戦
地崎　3―2　札鉄Ｂ

▽決勝
電電北海道　3―0　札鉄Ａ
高木　2　15―9　0　高橋
米山　2　15―6　1　田口
佐藤　2　15―12　1　栗沢
高木　2　15―7　0　高橋
来山　2　15―8　0　高橋

【男子一部】▽準決勝
平沢　2―1　三光商事
大昭和製紙白老　2―1　ビジネスジムキ

▽決勝
地崎工業　2―0　大丸
地崎商事　2―0　十勝信用金庫

【女子二部】▽準決勝
地崎工業　2―0　十勝信用金庫
大丸　2―1　地崎商事

▽決勝
地崎工業　2―0　地崎商事
山岸　2　18―16　0　深川
中尾　2　11―5　0　佐藤

▽3、4位決定戦
大丸　2―1　十勝信用金庫

1981（昭和56）年

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
		30歳ダブルス優勝	赤塚・木村組
	全日本社会人	30歳混合ダブルス3位	赤塚・岡本（地崎）組
	日本リーグ	5位（2勝3敗）	
全道大会	全道実業団	男子11連覇	
	北海道選手権	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	高木・米山組
	北海道社会人	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	高木・米山組
	国体道予選	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	木村・遠藤組

普及活動等（スポーツ教室）

斜里町（80名×2日）
名寄市（110名×2日）
網走市（75名×2日）
静内町（50名）
陸別町（120名×2日）
追分町（60名）
新十津川町（50名）

7会場約960名参加

備　考

国体出場　平山・木村・遠藤
遠藤選手、日体協より技能賞受賞（連続10回出場）
全国実業団大会功労賞受賞　木村（連続10回出場）

北海電電時報　第638号　昭和56年6月15日（月曜日）毎月15日発行

電電北海道バドミントン部

第31回全道実業団選手権大会
堂々11年連続優勝

去る5月30日と31日の両日、札幌中島体育センターで全道から41チームを迎えて「第31回全道実業団バドミントン選手権大会兼第31回全日本実業団選手権大会道予選」が開催されたが、電電北海道バドミントン部は札幌鉄道管理局（A）（C）チームと対戦。いずれも3対0のストレート勝ちを収める実力を見せつけ、11連覇の記録を樹立した。

男子二部トーナメントは、電電北海道と札幌鉄道管理局（A）、男子二部優勝の地崎、同二位の札幌鉄道管理局（C）の四チームで争われ、まず、札幌鉄道管理局（C）と対戦した電電北海道は、三対0のストレート勝ちで決勝戦に駒を進めた。

決勝戦は、同じく三対0のストレートで地崎を下した札幌鉄道管理局（A）との対戦となったが、第一試合高木、米山組が15―3、15―12と一、二セットとも確実なスマッシュでストレート勝ち。続く木村、遠藤組も15―4、15―12とベテラン・木村のうまいフェイントや遠藤のコーナーぎりぎりをねらうスマッシュが決まり、優勝を不動のものとした。

さらに完全試合を決める第三試合はシングルスで高木が出場。一セット目は15―9と快調な滑り出しだったが二セット目、にわかに乱れはじめ8―15とこのセットを落とした。しかし、三セット目は高木本来の実力を発揮し15―8で勝ち、十一年連続優勝を飾った。なお去年十月、東京・代々木第二体育館で行われた日本リーグ戦でアキレスケンを切るアクシデントに見舞われた佐藤も地元に元気に出場した。不安があったけれど十分に走り込んだ、また大会に出場できてとてもうれしい」と喜びを語ってくれた。



11年連続優勝の記録を樹立した電電北海道バドミントン部員

日本リーグを目指して


平山監督

電電北海道バドミントン部

今回の試合は日本リーグ後、初めての公式試合ということで注目されておりましたので、選手も気合を入れて打ち込んでいました。絶対に勝てるとは思っていましたが、まずは全道十一連覇できたことでほっとしているという感じです。職員の皆様の温かいご支援と選手個人個人の努力に対し感謝しています。

我が部のことしの目標は、やはり日本リーグに残って職員の皆様や道民のスポーツファンの期待にこたえられるようになることです。それと、各報話局等のご協力をいただき、バドミントンを通して地域社会との触れ合いを深めたいと思っています。また、職員の皆様の体力の向上につながるお手伝いができれば幸いと考えています。



名寄でのバドミントン教室

1982（昭和57）年

主な出来事

電電北海道バドミントン部後援会できる
電電札幌体育館落成

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
全日本社会人	ダブルス5位	遠藤・米山組
日本リーグ	6位（0勝5敗）	

全道大会

全道実業団	男子12連覇	
北海道選手権	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	遠藤・米山組
北海道社会人	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	遠藤・米山組
国体道予選	シングル優勝	遠藤
	ダブルス優勝	遠藤・米山組

メンバー

新人　久郷　俊明
新人　千葉　昌弘

普及活動等（スポーツ教室）

美幌町（70名）　江差町（80名）　清水町（80名）
釧路市（210名）　北見市（150名）
滝川市（120名）　追分町（30名）

7会場約740名参加

備　考

国体出場　木村・遠藤・米山
　　千葉　第３位



第5代目監督
木村 敏男

第４回（'82）、第５回（'83）大会に監督として参加した思い出をと思いましたが、何故か監督としての苦い思い出だけが、よみがえってきます。

第４回大会は、６チームの中にまだ「全日体大」の大学生チームが入っており、何とか学生には勝ちたいものだとの思いで臨んだ大会でありましたが、全日体大も強かった。

その後の日本リーグで、最下位争いを演じることになる「カワサキ」にも負け、監督として日本リーグに初めて臨んで最下位という結果に終わり、前途多難な監督スタートになってしまった。

翌、'83は「全日本実業団バドミントン選手権大会」が札幌で開催され、ベスト４以上は確実だとの思いと、皆さんの期待を受け臨んだ大会でありましたが、よもやの三回戦で敗退となってしまい、前年の日本リーグの結果と合わせ、監督として責任を取る決断をした事を思い出します。

監督として最後となった第５回（'83）大会は、大学生チームに変わり電電近畿が新加入し、実業団チームだけになった大会でした。２勝３敗で６チーム中４位でありましたが、上位３チームの選手層を考えれば、当時としては最高の順位だったと皆さんに評価されましたし、監督として「優秀の美」で終われたと自負もしておりました。

しかし、その後、優勝こそしてませんが、２位・３位とＡクラスを確保する後輩の活躍を見ていると、最高の順位だと満足していた自分が恥ずかしくなります。


北海電電時報　第660号　昭和57年5月15日（土曜日）　毎月1日・15日発行

バドミントン部 電電北海道

第32回全道実業団バドミントン選手権大会

12年連続優勝

去る四月二十四日、二十五日の二日間、「第三二回全道実業団バドミントン選手権大会兼第三三回全日本実業団選手権大会道予選」が、札幌の中島体育センターで開催された。この大会に電電北海道バドミントン部は、二人の新人を加えたほかダブルスのペアを五年ぶりに大幅に特えての試合となったが、準決勝で地崎チームを三対〇、決勝では札幌鉄道管理局（A）チームを三対二で破り、二二連勝の記録を樹立した。

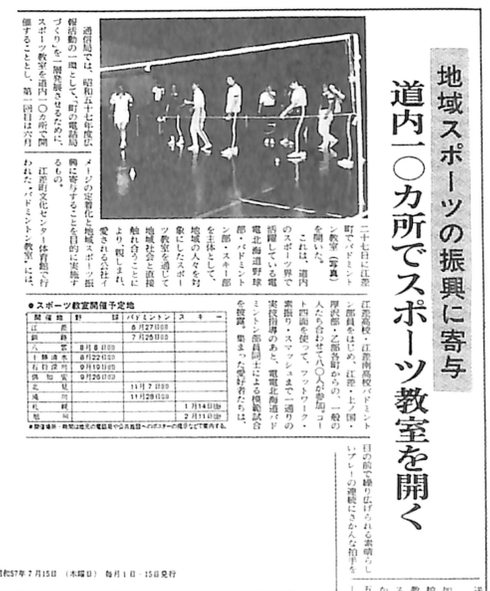
男子一部トーナメントは、電電北海道と男子二部二位の地崎、札幌鉄道管理局（A）と男子二部優勝の札幌鉄道管理局（B）の四チームで争われ、まず、地崎と対戦した電電北海道は、三対〇のストレートで勝ち決勝戦に駒を進めた。決勝戦は、同じく三対〇のストレートで札幌鉄道管理局（B）を下した札幌鉄道管理局（A）との対戦となった。第一ダブルス佐藤・米山組は、米山のネット前の速いアッシュや佐藤のパワーあふれるスマッシュで15－8、15－11とストレート勝ち。

続く第二ダブルスの平沢・千葉組は9－15と一セット目を落としたものの、平沢のリードを新人・千葉の若さある動きで二、三セットを15－10、15－6と逆転勝ちした。

勝勝を決めるシングルスでは、米山、佐藤のいずれもが一セット目を簡単に取りながらも逆転負け。二対二のタイスコアに持ち込まれ、すべての望みはコーチ陣の遠藤に託された。

遠藤は、クリアー、スマッシュ、ネットプレーとも実によくコートがきりきりに飛ばし15－3、15－3と相手を圧倒、いっきょく三対二で十二年連続優勝した。

なお、新人、久郷も準決勝の第一シングルスに出場し、社会人としては初めての対戦で、苦しいゲーム展開となったものの、2－0のストレート勝ちでデビュー戦を飾った。


北海電電時報

第664号　昭和57年7月15日（木）

地域スポーツの振興に寄与

道内一〇カ所でスポーツ教室を開く

通信局では、昭和五十七年度広報活動の一環として、町の電話局づくりを一層推進させるために、スポーツ教室を道内一〇カ所で開催することとし、第一回目は六月二十七日に江差町文化センターで開かれたバドミントン教室には、町内のスポーツ好きの子供たち一〇〇人が参加した。

これは、道内一〇カ所で実施している電電北海道野球部・バドミントン部・スキー部を全体として、地域の人々を対象にしたスポーツ教室を通して地域社会と直接触れ合うことにより、親しまれ愛される会社イメージの定着化と地域スポーツ振興に寄与することを目的に実施するもの。

江差町文化センターで開かれたバドミントン教室には、二十七日に江差町内のスポーツ好きの子供たち一〇〇人が参加した。

これは、道内一〇カ所で実施している電電北海道野球部・バドミントン部・スキー部を全体として、地域の人々を対象にしたスポーツ教室を通して地域社会と直接触れ合うことにより、親しまれ愛される会社イメージの定着化と地域スポーツ振興に寄与することを目的に実施するもの。

江差町文化センターで開かれたバドミントン教室には、町内の小学生から一般の人たちの合せて八〇人が参加。コート二面を使って、フットワーク・素振り・スマッシュまで一通りの指導があり、電電北海道バドミントン部員同士による模範試合を披露、集まった愛好者たちは、一日の練習に汗を流した。

●スポーツ教室開催予定地

開催地	期	日	バドミントン	スキー
江差町			6月27日㈰	
八雲町			7月25日㈰	
八雲町		8月8日㈰		
上砂川町		8月22日㈰		
石狩湾新港		9月19日㈰		
倶知安町		9月26日㈰		
北見市			11月7日㈰	
滝川市			11月28日㈰	
札幌市	第一期			1月14日㈮
	第二期			2月11日㈮

※申込締切・時間は電話局の電話帳や広告局へのお問い合わせください。

目の前で繰り広げられる素晴らしいプレーの数々にさかんな拍手を送っていた。

なお、このスポーツ教室への参加希望または問い合わせは、各教室の開催局（一般教室は中・高校生および一般、バドミントン教室は中・高校生および一般、スキー教室は小・中・高校生および一般）まで。


北海電電時報　第664号　昭和57年7月15日（木曜日）　毎月1日・15日発行

電電北海道バドミントン部

全日本実業団選手権大会で第五位

去る六月十六日から五日間、秩父宮国立競技場で開催された「第三二回全日本実業団バドミントン選手権大会」が、東京・四ツ谷国体体育館で開催され、この大会に電電北海道バドミントン部は、第一回戦から登場。

各地の予選を勝ち抜いてきた二四チームの中から五位の成績を収め、三年連続日本リーグ入りする権利を獲得した。

シードチームの電電北海道は、三回戦から出場、佳友倉敷戦も三対〇で連破し、五回戦に強豪チームの関西電力と対戦。これも三対〇と快勝し、準々決勝に駒を進めた。

準々決勝ではカワサキプレストと対戦、第一ダブルスの佐藤・平沢組が日本リーグ入りの原動力となっている強豪組を相手に一セット目、15－12と競り合いを制すると、二セット目も15－7、三セット目10－15と追われたが、最終セットも15－5と逆転勝ちした。

準決勝の相手は、昨年の全日本選手権大会で優勝した日本リーグ入りの原動力となっている強豪組を相手に一セット目、15－12と競り合いを制すると、二セット目も15－7、三セット目10－15と追われたが、最終セットも15－5と逆転勝ちした。

1983（昭和58）年

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体9位	
	全日本総合	ダブルス9位	遠藤・米山組
	日本リーグ	4位（2勝3敗）	
全道大会	全道実業団	男子13連覇	
	北海道選手権	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	遠藤・米山組
	北海道社会人	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	遠藤・米山組
	国体道予選	シングル優勝	遠藤
		ダブルス優勝	遠藤・米山組

メンバー

新人　中島　俊也

普及活動等（スポーツ教室）

上湧町（50名）　三笠市（40名）　えりも町（70名）
登別市（230名）　長万部町（70名）　留辺蘂町（90名）
上士幌町（90名）　栗山町（70名）　中川町（40名）
広島町（50名）　追分・北竜町（各50名）

12会場約900名参加

備考

国体出場　中道・木村・遠藤・米山

全国実業団大会功労賞受賞
遠藤（連続10回出場）



北海電電時報　第684号　昭和58年5月15日（日曜日）　毎月1日・15日発行

第三回全道バドミントン選手権大会

無敵！電電北海道バドミントン部 三連勝

去る四月二十三、二十四日の両日、札幌の中島体育センター到着で第三回全日本実業団バドミントン選手権大会兼第三回全日本実業団バドミントン選手権大会道予選が行われ、電電北海道は、大黒柱の遠藤選手がひじの故障で欠場したため、若手中心のチームで挑むという大会となったが、準決勝で釧路市役所（A）を三対〇、決勝では札幌鉄道管理局（A）を三対一で破り三連勝を達成。六月二十一日から五日間、札幌で二四年ぶりに開かれる第三回全日本実業団バドミントン選手権大会の出場権を手にした。

勝ちムードを高めた第1ダブルスの佐藤・平沢組（向こう側）

男子一部トーナメントは、電電北海道、札幌鉄道管理局（A）、札幌市役所、男子二部優勝の札幌鉄道管理局（B）、同二部二位の釧路市役所（A）の五チームで争われた決勝戦、第一ダブルスの佐藤・平沢組は、息の合ったコンビネーションプレーで15－3、15－11と勝ちを収めムードを高めた。続く第二ダブルスは、久郷・千葉組がシーソーゲームを展開、よく粘り18－15、15－11と相手を抑えた。

優勝を決めるシングルスでは、一番手の米山選手が16－17、8－15と敗れたものの、二番手の千葉選手が角度のあるスマッシュと軽快なフットワークで15－4、15－3と相手を圧倒し、三対一で優勝を決めた。

1984（昭和59）年

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
	全日本総合	ダブルス5位	遠藤・米山組
	日本リーグ	6位（0勝5敗）	
全道大会	全道実業団	男子14連覇	
	北海道選手権	シングル2位	中島
		ダブルス優勝	遠藤・米山組
	北海道社会人	シングル優勝	千葉
		ダブルス優勝	遠藤・米山組
	国体道予選	シングル優勝	千葉
		ダブルス優勝	遠藤・米山組

メンバー

新人　加藤　　学

普及活動等（スポーツ教室）

静内町（40名）　稚内市（100名）　天塩町（50名）
池田町（100名）　日高町（60名）　森町（100名）
早来・広島町（各50名）

8会場約550名参加

備考

北海道・ソ連極東地区親善スポーツ大会出場
（北海道大会）平山・遠藤・米山・千葉出場
ヨネックスカップジャパンオープン'95出場
遠藤・米山
国体出場　平山・遠藤・米山



第6代目監督
遠藤　好男

第36回全日本実業団大会（京都大会）において三位入賞（11年ぶり）を果たしたこと、また、その後の全国大会において、選手一人一人が自信に満ちたプレーが出来たことであります。

前年・前々年の大会結果（札幌大会16位：コーチ）・第35回大会（神奈川県大和市32位：監督）では、村田後援会長（北海道支社副局長）が応援に来ていただきましたがすでに惨敗後であり最悪の屈辱を経験しました。

わたしは、選手を兼ねて日々練習に励んでも、何か今一つもの足らず満足感が得られない日が続き、苦痛と焦りが両肩にのしかかる日々であった思いがあります。

この苛立ちを一掃できたのが京都大会でありました。（重圧からの解放時であった）試合2日目のミーティングでは選手（久郷）などは不満も多く帰りたいと言う始末でした。

5回戦（8位入り：高岡市役所）普段団体戦でよい結果が得られないこともあり、思い切って遠藤・久郷組でダブルスに挑んだことが功を奏したのか見事勝利出来ました。

その後は、準々決勝（NTT関西3:2勝ち）・準決勝（トヨタ自動車0:3負け）と進み、結果的に三位になりましたが、力で負けたわけでなく体力に精魂つきた大会でありました。

この大会で最高に活躍した選手は千葉正弘（準々決勝：NTT関西戦シングルで勝利）で、このことが一番嬉しかった。

この年、日本リーグ戦では、もちろんトヨタ自動車を破り三位になっております。

この大会で思ったことは、選手は試合に勝つことが何よりの良薬であり、チームが一丸にもなれると言うことです。

メンバー（遠藤・米山・伊藤・久郷・千葉・田中・篠尾マネジャー）は、翌年も実業団・日本リーグとも三位に終わっております。（新入部員：山尾）

詳細については、バドミントンマガジンに掲載しております。（1986・8月号参考）

1985（昭和60）年

主な出来事

NTT北海道バドミントン部 と改名
（60.4.1公社から民営）

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体17位	
	全日本社会人	ダブルス9位	千葉・中島組
	全日本総合	ダブルス5位	遠藤・米山組
	日本リーグ	3位（3勝2敗）	
全道大会	全道実業団	男子15連覇	
	北海道選手権	シングル2位	中島
		ダブルス優勝	遠藤・米山組
	北海道社会人	シングル優勝	伊藤
		ダブルス優勝	千葉・中島組
	国体道予選	シングル優勝	伊藤
		ダブルス優勝	遠藤・米山組

メンバー

新人　伊藤　雅弘

普及活動等（スポーツ教室）

恵庭市（150名）　広尾町（50名）
苫小牧市（100名）　旭川市（80名）

4会場約380名参加

備　考

北海道・ソ連極東地区親善　スポーツ大会出場
（ソ連大会）平山・遠藤・米山・千葉出場
国体出場　望月・平山・遠藤・米山・伊藤



ソ連極東地区親善スポーツ大会　昭和60年7月



総合開催式前

1986（昭和61）年

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体3位	
	全日本社会人	シングルス3位	伊藤
		ダブルス9位	千葉・中島組
	全日本総合	シングルス9位	伊藤
		ダブルス5位	遠藤・米山組
	日本リーグ	3位（2勝3敗）	
全道大会	全道実業団	男子16連覇	
	北海道選手権	シングル優勝	伊藤
		ダブルス優勝	米山・伊藤組
	北海道社会人	シングル優勝	伊藤
		ダブルス優勝	米山・伊藤組
	国体道予選	シングル優勝	伊藤
		ダブルス優勝	米山・伊藤組

メンバー

新人　田中　弘幸

普及活動等（スポーツ教室）

苫小牧市（100名）　浦河町（100名）
富良野市（80名）　東区（60名）　西区（100名）

5会場約440名参加

備　考

北海道・ソ連極東地区親善スポーツ大会出場
（北海道大会）平山・遠藤・米山・千葉・中島・伊藤出場
国体出場　平山・遠藤・米山・伊藤
北海道新聞社受賞　遠藤
全国実業団大会功労賞受賞　団体（連続15回出場）



▲ＮＴＴ北海道・千葉昌弘

正確なプレーで圧倒。常にリードを保つ展開で長谷川の反撃を許さず7本、8本で殊勲の1勝を上げた。ＮＴＴ東京は続く西山で3勝目をあげ決勝進出。

決勝は昨年と同じ顔合わせとなった。昨年はすべて2－0のストレートでＮＴＴ東京が圧勝しているが、今回はトヨタ自動車も健闘。第1ダブルスの須貝／坂井は尾崎／西山のミスにつけこみ、7オールから連続ポイントで13－7と一気にリード。尾崎組も1点を返したが、直後に続けてネットミスがでてしまい15－8で須貝組が先行。第2ゲームになるとペースは西山組に。プッシュからドライブという展開で長身の須貝組のスマッシュを封じ、10－1と一気にリード。須貝組はそのうえ坂井がエース西山が坂井を7本、6本と相手にせず6年連続優勝を決めた。

ストをとられ、せっかくの反撃にも水をさされ、結局西山組が15－4でとり1－1。ペースは第3ゲームも変わらず、西山組が6－3から引き離し、15－5と逆転勝ちで1勝目。トヨタ自動車組は坂井が3ゲームで計10度もサービスフォルトをとられたのが痛かった。

トヨタ自動車は続く古賀／川本も土田／宮森に対しミスを恐れずよく攻めたが、ベテラン組のレシーブ力を上回れずに、第1ゲーム15－9、第2ゲーム18－13で土田組。第2ゲームこそあと1歩まで追いつめた古賀組だったが、ミスで相手に点を与え過ぎた。ダブルス2つをとればトヨタ自動車にもチャンスはあったが、逆に0－2では敗色濃厚。ＮＴＴ東京は続くエース西山が坂井を7本、6本と相手にせず6年連続優勝を決めた。



トヨタ、ＮＴＴ北海道とも若い新戦力の台頭で大会を盛り上げた。打倒ＮＴＴ東京はいつ成るか――（左から伊藤、米山、古賀、川本）

1987（昭和62）年

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体3位	
	全日本社会人	シングル5位	伊藤
		ダブルス9位	米山・伊藤組
	全日本総合	シングル9位	伊藤
		ダブルス9位	米山・伊藤組
	日本リーグ	5位（1勝4敗）	
全道大会	全道実業団	男子17連覇	
	北海道選手権	男子シングル優勝	伊藤
		男子ダブルス優勝	米山・伊藤組
	北海道社会人	ダブルス優勝	久郷・山尾組
	国体道予選	シングル優勝	伊藤
		ダブルス優勝	米山・伊藤組

メンバー

新人　山尾　克則

普及活動等（スポーツ教室）

十勝清水町（80名）　札幌市（60名）
根室市（100名）　浜頓別町（150名）
函館市（200名）　東区（50名）　西区（100名）

6会場約670名参加

備考

北海道・ソ連極東地区親善スポーツ大会出場
（ソ連大会）平山・遠藤・米山・千葉・中島・伊藤出場
国体出場　遠藤・米山・千葉・伊藤出場
全国実業団大会功労賞受賞　篠尾（連続10回出場）

［11・25］道新スポーツ

NTT北海道バドミントン

紅一点

来春 女子部員初採用

来春、NTT北海道におのスポーツバドミントン部員が誕生する。時期は女子4年ぶり。27歳の大学職員1人と、ともに昭和35年生まれの4人で、（略田）

道内選手に〝張り〟

会社は「イメージアップを…」

弓削 展子

青学でインカレ4位

NTT北海道の一員として来春、8年ぶりに本道プレーヤーとして復帰する弓削

小笠原 満

練習熱心なガッツ娘

プレーはファイト満々、性格は明るくさわやかな小笠原

［4・27］道新スポーツ

第37回全道実業団バドミントン選手権

最終日（26日 札幌市豊平区体育館）

男子1～3部と女子1、2部の決勝トーナメントが行われた。男子1部決勝はNTT北海道とJR北海道（前札鉄）の8年連続の顔合わせとなったが、NTT北海道が3－2で勝ち、17連覇を達成した。女子1部決勝は地崎が中央区役所を2－1で下し、地崎グループが一本化して以来V4と連覇を伸ばした。

JR北海道の松村を2－0のストレートで下し、NTTの17連勝を決めた千葉

8年連続の決勝対決でJR下し NTT 17連覇

〝働き盛り〟千葉 最後で決めたゾ

NTT北海道6年目のプレーヤー、千葉昌弘（27）と王手をかけた。残りたければ」！というプレッシャーが千葉を襲った。

しかし、千葉はプレッシャーをはねのけた。追いつけ追い越せと、必死の戦いをいどんでくるJR北海道のエース伊藤が勝ち、2の中島が苦戦していた〝勝

千葉は第3シングルス。その試合が始まった時、隣のコートでは、一足早く始まっていた第2シングルス

松村に対し、冷静な試合ぶり。スタートは1－4とリードを許したものの、「相手の勢いに飲まれないように」と粘りに粘ってミスを誘い、第1セットは15－7と逆転勝ちした。後は一気だった。千葉が勝ったあとも熱が続いていた隣のコートでは、結局中島が敗れ、千葉の17連覇につながった。

「ダブルスで負けましたから、ここでいいとこ見せなくっちゃ」。千葉の声が弾んだ。米山に次ぐ古株らしいプレーに、遠藤好男監督は「だから最後に据えたんです」と、してやったりの表情だった。

帯柏葉高－中大と進み、実業団入り。「今の僕の年齢は体力と技術がかみあい、一番力を発揮できる時期なんです。だからもっと頑張らなければ」と自らに気合を入れる千葉には、エース伊藤に次ぐギーマンとしての期待がかかっている。全日本では昨年3位、「今年はそれ以上の成績を！」（遠藤監督）と願うチームにとって、千葉の活躍の場はこれからだ。（岩田）

ノぼれ話

初優勝当時…

交友四十年（著者・葛西定美氏　昭和五十四年発刊）

四十六年、厚生課長のとき、是非電電北海道バドミントン部の副部長になってほしいという話がもち込まれた。非公式には何かと相談相手になっていたが正式に役についてほしいということであったが、私は野球部を預かっているので再三断った。江口歳男、伊勢武、平山三城、なかでも伊勢は執拗に迫りあきらめない。遂に熱意に負けて引受けた。選手はみんな気のいい奴の集まりであった。私もつい力が入り、毎試合家族ぐるみの応援である。

この頃北海道バドミントン界では、国鉄、地崎組、電電が三強であったが、わがチームはこのなかで三位、どうしても国鉄、地崎組の壁は今一歩のところで破れない。なんとかよい選手をもう一人ほしかった。このとき、全日本学生チャンピオンの栄に輝いた遠藤好男が来道した。私と話しているうちに、気が合い電電公社の入社試験を受けてみたい、そして北海道に就職したいということになった。

幸い試験に合格、木村との黄金ペアが出現した。監督、伊勢武～平山三城とよき人材を得ると同時に、部員のレベルも上昇し、やがて電電は北海道の王者となった。札幌を離れる日、全部員で贈ってくれた時計は今でも息子に朝を教えている。昨年、氏名の知らない者から年賀状を頂いた。裏面に、「今年からバドミントン部に入部致しましたよろしく御願いします、高木某」。まだ忘れられていないのがうれしかった。

（忘れえぬことのスポーツ編より抜粋）

1988（昭和63）年

主な出来事

NTT北海道女子部員誕生

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体17位	
	全日本社会人	男子シングル3位	伊藤
		男子ダブルス5位	千葉・中島組
	全日本総合	男子シングル9位	伊藤
		男子ダブルス9位	千葉・中島組
	日本リーグ	4位（2勝3敗）	
全道大会	全道実業団	男子18連覇	
	北海道選手権	男子シングル優勝	伊藤
		男子ダブルス優勝	米山・伊藤組
	北海道社会人	男子シングル優勝	伊藤
	国体道予選	男子シングル優勝	伊藤
		男子ダブルス優勝	伊藤・山尾組

メンバー

新人　弓削　展子
新人　小笠原　満

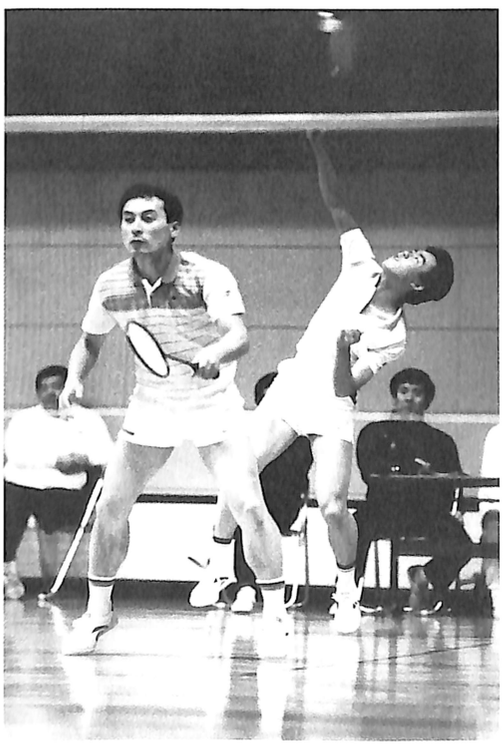
普及活動等（スポーツ教室）

函館市（200名）　岩見沢市（100名）
帯広市（130名）　八雲町（100名）

4会場約530名参加

備　考

国体出場　北川・米山・千葉・中島・伊藤
ジャパンオープン89出場　伊藤
道協創立40周年記念で特別技能賞　団体
技能賞受賞　木村
功労賞受賞　高木・米山





日本リーグ27年間での思い出

米山　孝二　第7代目監督

日本リーグの思い出は四つあります。一つは何といっても昭和55年の日本リーグ参入予選会で優勝したことです。

出場チームは、関東自動車工業・北辰電機・電電北海道の3チームで、2複1単のリーグ戦形式で、平山監督のオーダーが的中し2戦2勝で勝利し、見事日本リーグに参入しました。

入社2年目の私はインカレでダブルス優勝というプライドと誇りをもち、高木さんと組んだダブルスにおいて全力を出し切り、2戦2勝と圧勝した記憶を覚えております。

当時、私が使っていたラケットはヨネックスのウッドラケットで、それも全日本の選手が使用しているフレームが5枚張り（通常は4枚張り）の特注品で、フレームが変形しないよう3本プレスに保管していました。しかし、試合前日の就寝時には「明日は必ず勝つぞ！」と思いつつ、一番使い易いラケット1本をプレス代わりに枕の下に寝押しして、大会に臨んだことを覚えています。

二つ目は、平成元年の第11回大会においてNTT4チームを3チームに削減するというプレッシャーに打ち勝ち3位入賞したことです。東京・関西・北海道に加え東北が2部から昇格したことにより、6チーム中4チームがNTTになったので、参加企業の活性化を図るうえでリーグ最下位チームではなく、NTT4チームの最下位を自動的に2部リーグ降格させるというプレッシャーの中、選手全員がガチガチの緊張感の中で試合をした思い出があります。結果として東北が降格しましたが、その東北と地元仙台で熾烈な戦いを見せ、首の皮一枚で生き延びた記憶が蘇ります。三つ目は、日本リーグ最高記録の準優勝に輝いたことです。平成元年の地元まはなす国体を契機に会社から選手強化や練習量のアップを図っていただいた結果、平成2年の第12回大会においてそれまでの最高記録3位を塗りかえ、NTT北海道バドミントン部史上最高の準優勝を獲得しました。

地元はまなす国体開催も後押しし、道内外からの有望選手スカウトにより世代交代がスムーズにでき過去最高の記録を作ることができたと思ってます。

四つ目は、私が初代女子部監督に就いたことです。前記同様平成元年のはまなす国体を契機に女子部が誕生し、全道実業団選手権大会の優勝を得て日本リーグ2部に参入しました。それまで北海道の女子バドミントンは地崎チームが引っ張っていましたが、これを契機に女子部の黄金時代が続き99年の2部リーグ優勝の礎を築き1部リーグ昇格へと導きました。

以上、四点について私が在籍した15年間における日本リーグの思い出です。

今大会で日本リーグ27年間の戦いに幕を下ろしたことで、一OBとしては応援するチームがなくなり非常に寂しい思いです。

これまで部で培った貴重な経験は宝物であり、これからも人生や仕事の面で必ず生きていくはずであり、生かさねばなりません。

今後は、我々OB・OGが一丸となり各地域でジュニア育成等強化を図り、いつの日かNTT北海道が日本リーグにカムバックできるよう頑張りましょう。

1988（昭和63）年

［4・24］道新スポーツ

米山NTT船出

さすがサービス上手、部員、職場に気配りコール

新監督

大張り切り―自らダブルスで一勝

「守るぞ伝統、V18へ」



常勝のNTT北海道の新指導者となった米山、戦歴を見守る目も厳しい

米山孝二新監督に率いられた新生NTT北海道が船出した。3チームによるブロックの予選リーグでは、第1試合の相手クラブ戦に自ら出場、伊藤雅弘と組んだ第1ダブルスで先制の1勝を挙げた。チームは第2試合の真鍋内SHAらスストレートの3―0で下し、米山・NTT・の船出は順風満帆のスタートだ。

スシリ責任感

格下相手のブロック予選とはいえ、米山の戦歴を見守る目は厳しい。「今季の目標は決勝トーナメントがある。

男子24チーム、女子7チームが出場し、男子の1、2部混合のブロックと3部、女子の1、2部混合ブロックの予選リーグが行われた。男子はNTT北海道とJR北海道、女子は地崎など強豪チームが順当に勝ち進んだ、24日は決勝トーナメントがある。

5年の主将経験

NTTに入社して10年目、2年目でチームは日本一、早い時期から200%の気持ちでトレーニングなど今季への意気込みを見せた。

道内では無敵！

NTT北海道はこの大会17連覇中、常勝の宿命を背負った日は厳しい。「今季の守るぞ伝統」と闘志満々だ。（岩田）

5年の主将経験

NTTに入社して10年目、2年目でチームは日本一、早い時期から200%の気持ちでトレーニングなど今季への意気込みを見せた。

道内では無敵！

NTT北海道はこの大会17連覇中、常勝の宿命を背負った日は厳しい。「今季の守るぞ伝統」と闘志満々だ。（岩田）

NTT北海道 歴代監督

在籍期間	監督名	
40～45年	江口 成男	
46～47年	森田 彰	
48～51年	伊藤 勇	
52～56年	平山 三雄	
57～59年	木村 敏男	
59～62年	遠藤 好男	
63～	米山 孝二	

よねやま・こうじ

昭和31年11月20日、山形県生まれの31歳。日大山形高―中央大と進み、インカレでダブルスに優勝。54年にNTTに入社、主にダブルスプレーヤーとして活躍してきた。趣味は、釣り。身長169㌢、体重65㌔。家族は妻の初美さん（30）と長男・翔大くん（5つ）、二男・達也くん（3つ）の4人。

［5・15］道新スポーツ

米山・伊藤組V3

全道バドミントン選手権大会

第2日（14日・札幌市豊平区体育館）

一般男女ダブルス、高校男女シングル、年齢別男女ダブルスが決勝戦まで行われた。一般男子ダブルスは米山・伊藤組（NTT北海道）がV3を達成、米山孝二個人としてはこの種目10連覇を果たした。また、高校女子シングルは、中垣真紀子（札幌静修）が前日のダブルスと合わせて2冠を獲得した。

【高校】◇男子▽シングル準決勝 勝（札第一）2―0 佐藤（札第一）

▽決勝 横山（札第一）2―0 古川（旭工）

▽3位決定戦 横山・工藤（職員）2―1 佐藤・古川（◇女子▽シングル準決勝 中垣（札静修）2―0 山根（札静修）

▽決勝 中垣 2―1 三上（登別南）

▽決勝 上本・多田（NTT北海道）2―1 中垣・三上（札静修）

▽3位決定戦 平沢・立野（NTT札幌）2―0 千葉・中島（NTT北海道）

▽決勝 米山・伊藤 2―1 千葉・中島

▽3位決定戦 稲野尾・水崎（ヨネックス・指広育学校）2―0 平沢・立野・桑権・稲野尾・水崎

【一般】◇男子▽ダブルス準決勝 本多 2―0 山根



NTT北海道初の女性バドミントン部員の小笠原（左）と弓削。惜しくもデビュー戦を飾れなかった

弓削、小笠原ペア残念

NTT北海道に今年初めて誕生した2人の女性部員、弓削展子と小笠原茜が一般女子ダブルスで登場したが、惜しくもデビュー戦を飾れなかった。対戦相手は道女短大の第1ダブルスの近藤・羽立組。小笠原の後輩だ。「勝たなければ」という意識が強過ぎたためか、動きが硬い。スマッシュも決まらず結局0―2のストレート負けだった。

試合を終えた2人は「デビュー戦を（意識するつもりは全くなかったけれど、あっという間に終わってしまった…」と残念そう。大学では実績を残した2人だが、社会人デビューは予想以上のプレッシャーがかかったようだ。だが、すぐに気を取り直し、小笠原は「これからです」、弓削は「猛練習で実力をつけたい」と決意を新たにしていた。（渡部）

○感 謝○

西村　守正さん

北海道教育委員会及び関係団体から地域貢献（国体）の一環として女子部を設立してほしいとの要望が再々あり西野北海道支社長の決断により63年女子部の設立が認められた。

しかし、通年の採用では63年弓削展子、小笠原満２名でチーム構成は出来ず平成元年田中範子の採用が決定したが、あと１名が決まらず止む得ず電電東京バドミントン部で活躍中の小飼真弓の移籍を考え人事事務を進めたが難行し前進がしない。

そこで異例と思える東京支社トップの西村さんに直接面会を求め様々な事情を説明し理解を求めながら決断をお願いした。当時東京から北海道にもどりたい社員が順番待ちの状況の中で西村さんは北海道の事情を理解し苦渋の決断がなされた。

女子部活躍の基礎は西村さんの決断がなければあり得なかったと心から感謝しております。

西村　守正　当時　NTT 取締役東京支社長
最終　NTT 常務取締役グループ事業推進本部長



日本実業団副会長を囲んで

1989（平成元）年

主な出来事

地元はまなす国体開催　成年男子準優勝
ＮＴＴ北海道女子部発足

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位 女子団体17位
	全日本社会人	男子シングル3位　伊藤 男子ダブルス9位　山尾・角谷組 女子ダブルス9位 小飼・星（ブジチュー）組
	全日本総合	男子ダブルス9位　山尾・角谷組 女子ダブルス9位　小飼・田中組
	日本リーグ	3位（3勝2敗）
全道大会	全道実業団	男子19連覇 女子準優勝
	北海道選手権	男子シングル優勝　伊藤 男子ダブルス優勝 伊藤・小飼（RSスガワラ）組
	北海道社会人	男子シングル優勝　伊藤
	国体道予選	男子シングル優勝　伊藤 男子ダブルス優勝　伊藤・山尾組

メンバー

新人　角谷　淳一　　新人　小飼　真弓
新人　工藤　忠和　　新人　田中　範子

普及活動等（スポーツ教室）

帯広市（130名）　栗山町（50名）　栗沢町（60名）
名寄市（70名）　岩見沢市（100名）

5会場約410名参加（OB主体）

備　考

伊藤、アジア選手権大会上海へ行く（ナショナルメンバー）
道カナダアルバータ州親善スポーツ道大会、田中・工藤・小笠原・田中（範）出場
全国実業団大会功労賞受賞　米山（連続10回出場）
はまなす国体男子準優勝

［4・20］道新スポーツ

22、23日の全道実業団でお披露目

即戦力新人加入で男女とも充実！

NTT バドミントン部

角谷 法大卒 工藤 札第一卒

日本リーグAクラス返り咲きまかせたぞ

ダーシと帽出た選手権 兼任監督に出番はない!?

NTT北海道のバドミントン部が、今季完全にAクラスとなる8名の陣容を整えた。日本リーグに加盟している男子は即戦力の新人2人を加入、女子はNTT東京からの転勤者を含め4人が入部。これで揃えて団体戦に出場可能な陣容がそろった。23日の全道実業団選手権（団体戦、札幌）、新戦力の活躍が楽しみだ。



チームに溶け込んではつらつとしたプレーをみせる工藤（前方）と角谷

［4・20］道新スポーツ

こちら女子

小飼、田中



ＮＴＴ北海道バドミントン部に入部、張り切る小飼（右）と田中

［12・12］道新スポーツ



バドミントン

アジア選手権行ってきます

18日から上海で

1勝はするゾ

NTT北海道

伊藤

世界の強豪相手に

「どうせならNo.1中国と」

1990（平成2）年

主な出来事

全道実業団大会で男子20連覇　女子優勝
アベック優勝
日本リーグ準優勝

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位 女子団体33位
全日本社会人	男子シングル3位　伊藤 女子ダブルス5位　小飼・田中組
全日本総合	男子ダブルス5位 伊藤・本田（NTT東京）組
日本リーグ	第12回日本リーグ 史上初準優勝（5勝2敗）

全道大会

全道実業団	男子20連覇 女子初優勝
北海道選手権	男子シングル優勝　伊藤 女子シングル優勝　田中 男子ダブルス優勝　山尾・角谷組 女子ダブルス優勝　小飼・田中組
北海道社会人	男子シングル優勝　角谷 女子シングル優勝　田中 男子ダブルス優勝　伊藤・古川組 女子ダブルス優勝　小飼・田中組
国体道予選	男子シングル優勝　伊藤 女子シングル優勝　田中 男子ダブルス優勝　山尾・角谷組 女子ダブルス優勝　小飼・田中組

メンバー

新人　古川　英樹

普及活動等（スポーツ教室）

帯広市　鹿追町　名寄市　小樽市（ヤマハ協賛）
旭川市（ヤマハ協賛）　士別市（ヤマハ協賛）

備　考

全道実業団大会男子20連覇　女子初優勝
日本リーグ、古川新人賞
日韓大会北海道大会、小飼・田中組出場
国体出場　北川・米山・伊藤 山尾・角谷・古川・小飼・田中
20連覇祝勝会開催される
伊勢副部長、NTT北海道スポーツ功労賞受賞

［4・15］道新スポーツ



1990年（平成2年）4月15日（日曜日）

全道実業団バドミントン選手権

満点デビュー 古川鮮やか

NTT北海道・旭工

連戦連勝

まさに即戦力

光る、おもいっきりの良さ
課題は、我慢のプレー

NTT北海道のエース伊藤（後方）とペアを組み、好調な滑り出しを見せた古川

怒られてばかり

こちらもハツラツ

JR北海道・平野

［4・16］道新スポーツ



女子

NTT北海道 初V

創部2年目、常勝地崎を破る

全道実業団バドミントン選手権

米山監督を胴上げし、男女アベックVに大喜びのNTT北海道チーム

昨年は逆転負け

うれしい勝算も

応援団も歓喜、失セット0の完勝劇

強豪を一蹴も「目標は日本リーグ」

十分満足いく練習に

第1ダブルスに続き、弓削（左）・小笠原の第2ダブルスも圧勝し、NTT北海道はストレート勝ちへ弾みついた

NTT北海道 男子も貫録20連覇

［4・16］道新スポーツ



笑顔のNTT4人娘

♥弓削麗子（ゆげ・のぶこ）昭和40年9月30日生まれ、160cm・52kg。千葉学園高―専修大。大曲バドミントンは小学5年から始めた。かわチャンピオン。趣味は音楽。

♥小笠原満（おがさわら・みちる）昭和42年8月15日生まれ、158cm・54kg。北星女高―道女短大出。前年NTT東京から移籍。昨年の全日本実業団8年、思い切りのよいプレーが身上。ワンポイントアドバイスが得意。ニックネームはチャウ、酒はワイン。

♥小笠原満（おなか・のりこ）昭和45年6月24日生まれ、162cm・56kg。北星女高―道女短大出。最強後衛は日本一。パワフルなプレーが売り物。ニックネームは本名ミホ。未成年なのでお酒は×。

♥田中範子（たなか・のりこ）昭和42年11月1日生まれ、158cm・54kg。北星女高―道女短大出。最強後衛は日本一。パワフルなプレーが売り物。ニックネームはタヌキ。酒ならビール。

1990（平成2）年

［5・14］道新スポーツ



母の日にBigプレゼント

田中 NTT北海道

両親観戦の中 若手・加藤 地崎を圧倒

持ち前のパワーで初V

伊藤 楽々5連覇

エース NTT北海道

全国へ照準ピタリ！

「優勝が大きな恩返し…」





伊勢副部長、NTT北海道スポーツ功労賞受賞

1991（平成3）年

主な出来事

全道実業団大会で男子21連覇、女子2連覇
全日本実業団男子　2位　　女子　5位
女子日本リーグ2部昇格

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体準優勝	
	女子団体5位	
全日本社会人	男子シングル3位	伊藤
	男子ダブルス3位	伊藤・角谷組
全日本総合	男子シングル5位	伊藤
	混合ダブルス5位	角谷・田中組
日本リーグ	7位（1勝6敗）	

全道大会

全道実業団	男子21連覇	
	女子2連覇	
北海道選手権	男子シングル優勝	伊藤
	女子シングル優勝	田中
	男子ダブルス優勝	伊藤・角谷組
	女子ダブルス優勝	小飼・田中組
	混合ダブルス優勝	角谷・田中組
北海道社会人	男子シングル優勝	角谷
	女子シングル優勝	田中
	男子ダブルス優勝	米山・山尾組
	女子ダブルス優勝	小飼・田中組
国体道予選	男子シングル優勝	伊藤
	女子シングル優勝	田中
	男子ダブルス優勝	伊藤・角谷組
	女子ダブルス優勝	小飼・田中組

メンバー

新人　土屋留美子
新人　佐藤　京子

普及活動等（スポーツ教室）

釧路市（ヤマハ協賛）帯広市（ヤマハ協賛）
旭川市（ヤマハ協賛）小樽市　長沼町　芦別市　名寄市

備　考

国体出場　阿部・米山・伊藤・山尾・角谷・小飼・
　　小笠原・田中出場　成年男子4位入賞
全道選手権田中三冠王獲得
ジャパンオープン出場　伊藤

男女各リーグ決勝トーナメントが行われた。男子1部リーグはNTT北海道が21年連続のV。女子1部もNTT北海道が3－0で地崎を破り、2年連続のアベック優勝を決めた。また、女子2部では北海道リコーが初出場初優勝を遂げた。

［4・22］道新スポーツ

全道実業団バドミントン

ニューフェース

佐藤 女子1部

NTT北海道アベックV

日本リーグ入りへ即戦力だ



NTTのニューフェース、佐藤は苦しみながらも相手を下しガッツポーズ

［4・19］道新スポーツ

NTT北海道22連覇へ
強～い新戦力

星鮮やかデビュー

2戦2勝



デビュー戦を白星で飾り、好調なスタートをきったNTT北海道の星

［5・11］道新スポーツ

道バドミントン選手権

同期生コンビ息ピッタリ

強い！角谷・田中

ミックスダブルス



組んで2週間とは思えないほど、息のあった角谷・田中ペア

年表

月	日	内容
4	22	全道実業団バドミントン　NTT北海道アベックV　日本リーグ入りへ即戦力だ　ニューフェース　佐藤　女子1部
4	19	NTT北海道22連覇へ　強～い新戦力　星鮮やかデビュー　2戦2勝
5	11	道バドミントン選手権　同期生コンビ息ピッタリ　強い！角谷・田中　ミックスダブルス

1991（平成3）年

[5・13] 道新スポーツ

一般女子タイトル総ナメ

完全制覇だ 田中 NTT

スタミナで勝負

道バドミントン選手権

最終日（12日・苫小牧市総合体育館）6種目が行われた。準決勝進出者がすべてNTT勢となった一般男子シングルスは、伊藤政弘（29）が優勝、道内大会の連覇記録を17と伸ばした。女子シングルスもNTTの田中範子（20）が混合、女子ダブルスに続き今大会3冠目の優勝を飾り、一般女子完全制覇を果たした。



単複・混合と3種目を制覇した田中（NTT）

▽一般男子シングルス準決勝
伊藤（NTT北海道）2 15-5 15-6 0 古川（NTT北海道）
山尾（NTT北海道）2 15-8 15-14 0 角谷（NTT北海道）
▽同決勝
伊藤 2 15-12 15-9 0 山尾

▽一般女子シングルス準決勝
田中（NTT北海道）2 11-1 11-5 0 藤本（富川高教）
小飼（NTT北海道）2 11-5 11-6 0 小笠原（NTT北海道）
▽同決勝
田中 2 11-1 11-3 0 小飼

冬場も男子と15キロランニング

一般女子タイトルを総ナメにしたNTTの田中の強さの秘密は、女性離れしたその スタミナにある。3日間を通じて計11試合を戦ったが、試合後息一つ切らさず、ニコニコした笑顔で「約束通り3つ優勝しましたね」と話す。

冬場の練習で体力をつけるために、女子は毎日10キロのランニングを行うが、田中だけは男子とともに15キロを走る。米山孝一監督は、「僕なんか置いてけぼりにされてしまうほど、凄いもんです」と舌を巻いている。

「ただ走るのが好きなだけです。子供のころからバドミントンを教えてくれた母に走らされましたから」と田中はけんそんするが、10キロは軽く40分を切るほどの走力を持つ。

これで昨年2月の札幌選手権からシングルス、ダブルス合わせて42連勝中。それもほとんどが2－0のストレート勝ちと盤石では敵なしとなった。

「いえ、まだまだです。女子は一発で決められるスマッシュがないだけに、どちらが多く相手の攻撃を拾えるかが勝負の分かれ目。全国で戦うためには、もっともっと体力をつけなければ…」。この気持ちがある限り、まだまだ田中は伸びそうだ。（原田）

[6・19] 道新スポーツ



男子は初の準優勝、女子は5位と大喜びのNTT北海道バドミントン部

全日本実業団で男子準V、女子5位

NTT北海道バドミントン部

日本リーグ2位の力を証明出来た

11月の日本リーグに意欲

「ダブルスで力を付ければイケる」

16日まで仙台市で行われた全日本実業団バドミントン選手権で準優勝したNTT北海道男子と、ベスト8トナミ運輸（富山）を3－2で破ってのV決勝進出で果たした同女子が18日、道新スポーツにあいさつに訪れた。

「今でも実感はわかないんですよ。ただ、日本リーグ2位がフロックでないことを証明出来ました」と米山監督は胸を張る。

チームは11月の日本リーグへ向けて再び猛練習に励む。男子はもちろん悲願の初Vが目標だ。「NTT東京戦でも伊藤さん（雅弘）が1ゲーム取ってますし、後はダブルスで力を付ければいい勝負が出来ると思います」と山尾克則主将も力強く話していた。

[9・13] 道新スポーツ

社会人バドミントン

3位のNTT北海道 本社訪れ熱闘報告

10日まで山形県新庄市で開かれていた全日本社会人バドミントン選手権のシングルスで伊藤雅弘、ダブルスで伊藤雅弘・角谷浮一組かともに3位の好成績を収めたNTT北海道チームが帰道、12日に道新スポーツへあいさつに訪れた。

昨年の日本リーグで準優勝、今年の全日本実業団選手権（団体戦）でも準優勝と勢いにのるNTT北海道。今大会でも、その実力をいかんなく発揮した。ダブルス3位の角谷は「団体戦の調子はよくなかったが、試合の緊張感が、うまく集中力に変わっていった」と、大会を振り返った。



全日本社会人選手権のダブルスで3位になり、メダルを手に笑顔の角谷

3位の成績については「初めての入賞でうれしい半面、決勝進出のチャンスもあったので悔しい気持ちも残った」と、苦笑い。

NTT北海道の選手にとって、この大会は全道社会人選手権、国体、最大のターゲットである日本リーグと連戦が控えている。ぬきさしならない状況でも力をつけ、チームの中心選手としてなっていかなければならない。当然、戦った試合が多くなる。疲労との戦いを勝ち抜く精神面の強化、鍛錬に重点をおく、と、新たな戦いに向けて抱負を語っていた。

[9・16] 道新スポーツ



道内負け知らずの最強ペアの小飼（右）と田中

全道社会人バドミントン選手権大会

最終日（15日・札幌市西区体育館）男女10種目のダブルスで覇を競った。女子一部ダブルスでは、小飼・田中（NTT北海道）が2連覇を果たした。田中は前日のシングルに続いて2年連続の2冠に輝いた。

【男子】▽一部ダブルス
①米山・山尾（NTT北海道）②熊谷・伊藤（チームTV）③小飼・松村（RSスガワラ・JR北海道）

【女子】▽一部ダブルス
①小飼・田中（NTT北海道）②小笠原・土屋（NTT北海道）③高橋・林（チザキ）

若い田中を引っぱるNTT北海道のベテラン

小飼、結婚前祝いV2

女子一部ダブルス

女子一部ダブルスを制した小飼真弓・田中範子のNTT北海道ペア。小飼は、来月結婚を控えてのうれしいV2達成だ。

ペアを組んで2年目。その間、道内では負け知らずの実力を誇っている。21歳の若いエース田中の力を十分に引き出すのが、5歳年上の小飼の役目。「経験豊富な先輩に甘えてばかりです」と田中。頼りにされる小飼は「最近、ベテランとよく言われるようになっちゃった」と苦笑いする。

そんな小飼が10月26日に独身生活にピリオドを打つ。NTT北海道ネットワークセンターの同僚・日景耕司さん（27）と結婚。新しい生活が待っている。結婚、主婦と三重の生活を強いられることになるが、「しっかりとなさないといけませんね」と元気。来年2月には、日本リーグ2部入りをかけた入れ替え戦も控えているだけに、チームにとっては欠かせぬ存在。現役主婦選手として、第2のバドミントン人生のスタートだ。（岩田）

1992(平成4)年

主な出来事

全道実業団男子22連覇　女子3連覇
全日本実業団男子3位　女子5位
全日本総合　混合　角谷・田中組3位

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体3位 女子団体5位	
	全日本社会人	男子シングル5位 男子ダブルス5位	伊藤 山尾・古川組
	全日本総合	混合ダブルス3位	角谷・田中組
	日本リーグ	男子1部第5位(2勝5敗) 女子2部第4位(4勝3敗)	
全道大会	全道実業団	男子22連覇 女子3連覇	
	北海道選手権	男子シングル優勝 女子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝 混合ダブルス優勝	伊藤 田中 伊藤・角谷組 小笠原・田中組 角谷・田中組
	北海道社会人	男子シングル優勝 女子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝	伊藤 田中 伊藤・山尾組 小笠原・田中組
	国体道予選	男子シングル優勝 女子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝	古川 田中 角谷・古川組 小笠原・田中組

メンバー

新人　星　拓磨　　新人　武田　明美

普及活動等(スポーツ教室)

小樽市 4.16　砂川市 7.19　名寄市 7.19
芽室町 7.25　幕別町 7.25　帯広市 7.27
栗山町 8.22　新得町 1.24　函館市 2.21　鶴居村 3.7

備考

伊藤　ナショナルチーム入り日韓大会・バルセロナオリンピック合宿に参加
古川　アトランタオリンピック候補選手になりタイペーマスターズ・韓国オープン・ジャパンオープンに出場

[4・20] 道新スポーツ

1992年(平成4年)4月20日(月曜日)

ワッショイ ワッショイ ワッショイ

NTTアベック3年連続

NTT北海道は3年連続のアベック優勝に米山監督を胴上げして大喜び

男子 輝く22連覇

開幕戦を好発進

日本リーグAクラス章回へ気合十分

伊藤・角谷を中心に万全態勢だ

福岡JR北海道の第2ペアを倒し、NTT北海道を優勝へ導いた伊藤(右)角谷組



準優勝に貢献した北海道リコー田村(右)長谷川組

熱戦…名門チザキ撃破!!

創部2年リコー全国へ



第47回国民

成年女子

第3位◉北海道

山形にストレートで敗れて決勝進出を逸したが、愛知との3位決定戦では古川(右)がマッチポイントから逆転勝ち、遅しさを見せた(左は角谷)

1992(平成4)年

[9・28] 道新スポーツ

全道社会人バドミントン選手権大会

田中(NTT北海道)3年連続2冠

女子シングルス、ダブルス

最終日（27日 札幌市厚別区体育館）

男女各4ダブルスが行われた。男子1部は、伊藤・山尾(NTT北海道)が優勝。女子1部は小笠原・田中(NTT北海道)が制した。前日のシングルスと合わせ、伊藤と田中はそれぞれ2冠に輝いた。

女子1部で小笠原と組みダブルスを制した田中鴨子（22、NTT北海道）は、シングルスと合わせ3年連続の2冠を獲得。本道NO1の実力をアピールした。

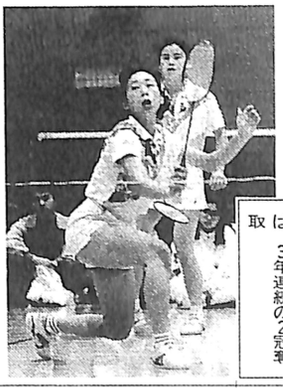
この日、2冠のかかったダブルス戦決勝は、同じNTT北海道の後輩ペア佐藤・竹田組が相手。フルセットの末に下し先輩の意地を見せたが、最終セットはセッティングにもつれ込むほどの苦戦ぶり。田中は「後輩のパワーに押されてしまった。ちょっとふがいない試合でした」と舌をペロリと出した。

社会人となって4年目。平成2年1月の札幌選手権で初めてタイトルを獲得してからは道内での黒星はわずか一つ。今年の札幌選手権シングルスで同僚の小笠原に敗れた1戦のみ。本道屈指の実力者だ。

国体では8強以上の成績を…

来月4日から山形県で始まる国体に出場。成年の部で3年連続となる今回も単複の両輪を狙う。一昨年のベスト8が最高の成績で、田中は「今日のような試合にならないよう頑張りたい。これまで以上の成績を」と気合を入れ直していた。

（岩田 浩之）



小笠原（後方）と組みダブルスを制した田中は、3年連続の2冠奪取

【男子ダブルス】▽1部
準決勝
小村飼 ‖RSS、ガワラ、北海 2―0 古角 ‖NTT北海道 川谷
伊藤 山尾 ‖NTT北海道 2―0 米星 ‖NTT北海道 山飼
▽同決勝
伊藤 尾 2―0 小村 飼
山尾 藤

【女子ダブルス】▽1部
準決勝
小笠原 田中 ‖NTT北海道 2―0 高星 ‖チザキ 木
佐藤 武田 ‖NTT北海道 2―0 宮谷川部 ‖北海道リコー
▽同決勝
小笠原 田中 2―1 佐藤 武田

[4・20] 北海道新聞

全道実業団バドミントン

NTT北海道がアベック優勝(1部)

第四十二回全道実業団バドミントン選手権最終日は十九日、札幌中島体育センター別館で行われ、一部はNTT北海道が三連覇を飾った。男子は二十二年連続二十二度目、女子は三度目の決勝、2位に男子がJR北海道、女子は一部初優勝のNTT北海道リコーが入った。一部の男子は6位までが全日本実業団選手権に出場する。



男子1部決勝。優勝したNTT北海道の第2ダブルス、伊藤（手前）、角谷組

【男子1部】▽決勝トーナメント1回戦
自衛隊北 3―1 都道A
チザキ
▽2回戦
都道A 3―1 所
ジョップスガワラ
札幌市役所 3―1 都道A
JR北海道
▽準決勝
都道A 3―0 自衛隊北
JR北海道 3―1 札幌市役所
▽決勝
NTT北海道 3―0 都道A
JR北海道
▽2回戦
札幌市役所 3―1 チザキ
▽3決定戦
所 3―0 都道A
チザキ
▽決勝リーグ
NTT北海道 3―0 自衛隊北
JR北海道 3―1 札幌市役所
札幌市役所 3―1 都道A
JR北海道 3―0 自衛隊北
▽1部5位決定戦
札幌市役所 3―1 チザキ
【女子1部】▽決勝リーグ
NTT北海道 3―0 都道A
JR北海道 3―0 自衛隊北
NTT北海道 3―0 札幌市役所
JR北海道 3―1 札幌市役所
▽1部5位決定戦
札幌市役所 3―1 都道A
【女子2部】▽決勝リーグ
NTT北海道2 3―0 都道A
JR北海道2 3―0 自衛隊北
NTT北海道2 3―0 札幌市役所
JR北海道2 3―1 札幌市役所
▽2部5位決定戦
札幌市役所 3―1 都道A

古山 川 15 15 2 松田岡
伊藤 角谷 2 15 15 14 15 11 11 7
古川 15 18 6 15 15 10 0 松岡村木
伊藤 2 15 15 0 10 0 鳥木
シャップスガワラ 3―0 自衛隊北
【男子2部】①ヨネヤマ・モンの札幌市役所②コマノ・ルメックスの札幌市役所③北海道機サービスの札幌市役所④アルメックス・④札幌交通
【女子1部】▽決勝リーグ
NTT北海道2勝①②
【女子2部】▽決勝リーグ
NTT北海道2勝①②
【女子3部】①マコト・ちゃっちゃ・材児①片桐房①サービス

NTT北海道がまた一つ、道選の2冠を加えた。特に二十二連覇の男子は、挑戦し続けてつかんだ栄冠だけに感慨がある。米山監督は「強さの裏を上げた最後の一生懸命にやってくれた」と労の言葉を掛け合い、ねぎらった。

NTT北海道 勝負どころで経験の差

組み始めダブルスも第1ゲームは14―14のあと、3いったん相手の勢いを断ち、後は逃げた。「金リ出していくと自己ベスト8が最高の成績で、

リーグ3位と巻き中心と意識の2敗を喫したが、ダブルスが思わぬ逆転負け。エースの伊藤、角谷の取り戻す勢いに乗ると、最終10―10から二五に4点を連点に抑えた伊藤は「やっぱりこの大会がスター。これを機にどんどん伸びたい。その前、全日本実業団では一年の疲れがどっと出ちゃうから」と来山監督が、その確保と、日本リーグのタイトル奪還を目標に掲げた。

北海道リコー勝一敗のチザキ2敗【女子二部】①竹中・吉野・モンの札幌市役所②コマノ・ルメックスの札幌市役所③北海道機サービスの札幌市役所④アルメックス・④札幌交通【女子三部】①マコト・ちゃっちゃ・材児①片桐房①サービス

◆全道選手権の成績◆
戦、三勝則十分、吉野・チザキを破った瞬間、北海道リコーのベンチはまるで優勝したかのようなお祭り騒ぎとなった。
敗、本選では三番目の



全道社会人大会　1992年9月27日　札幌市白石区体育館

1993（平成5）年

主な出来事

全道実業団男子23連覇　女子準優勝

戦績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位 女子団体9位	
全日本社会人	男子シングル5位 女子シングル9位 女子ダブルス9位	伊藤 田中 日景・田中組
全日本総合	男子シングル5位	伊藤
日本リーグ	男子1部第6位（2勝5敗） 女子2部第3位（4勝3敗）	

全道大会

全道実業団	男子23連覇 女子準優勝	
北海道選手権	男子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝 混合ダブルス優勝	伊藤 伊藤・古川組 日景・田中組 古川・佐藤組
北海道社会人	男子シングル優勝 男子ダブルス優勝	古川 角谷・村井組
国体道予選	男子シングル優勝 女子シングル優勝 男子ダブルス優勝	伊藤 田中 伊藤・古川組

メンバー

新人　村井　秀樹

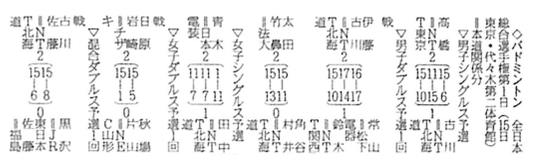
普及活動等（スポーツ教室）

小樽市 5.12　芦別市 6.13　幕別町 7.14
芽室町 7.15　斜里町 8.17　歌志内市 8.18
石狩市 11.18　岩見沢市 2.13

備考

ジャパンオープン出場　伊藤
国体出場　牧野・米山・伊藤・村井・古川・田中出場
ナショナルメンバーに選考される　伊藤

［12・16］


◇バドミントン 全日本総合選手権第1日（15日 東京・代々木第二体育館）
▽男子シングルス予選1回
古川（NTT東日本）
2 15 11 15 6 1
15 10 15 6 1
高橋（NTT東日本）
▽男子ダブルス予選1回
古川・佐藤（NTT北海道）
2 15 11 15 6 1
15 10 15 6 1
古川・鈴木（NTT東日本）
▽男子シングルス予選1回
伊藤（NTT北海道）
2 15 17 16 6 1
10 14 17 4 1
常川（NTT東日本）
▽女子ダブルス予選1回
竹内・田村（法人）
2 15 13 11
13 11 5
村井・角谷（NTT北海道）
▽女子シングルス予選1回
青木（日本電装）
2 11 11 11 6 1
7 7 7 11 1
田中（NTT北海道）
▽混合ダブルス予選1回
キチ（NTT北海道）
2 15 15 0
1 5 5 C
片山・秋形（UNI）
▽女子シングルス予選1回
日景（NTT北海道）
2 11 11 11 6 1
7 7 7 11 1
田中（NTT北海道）
▽男子シングルス予選1回
佐古（NTT北海道）
2 15 8 0
6 8 I
黒沢（東日本JR）
戦
日原（NTT北海道）
2 15 15 0
1 5 5 C
秋山（UNI）
戦
伊藤（NTT北海道）
2 15 17 16 6 1
10 14 17 4 1
常川（NTT東日本）
戦
佐藤（NTT北海道）
2 15 8 0
6 8 I
黒沢（東日本JR）
戦
高橋（NTT東日本）
2 15 11 15 6 1
15 10 15 6 1
古川（NTT北海道）
戦
竹内・田村（法人）
2 15 13 11
13 11 5
村井・角谷（NTT北海道）
戦
青木（日本電装）
2 11 11 11 6 1
7 7 7 11 1
田中（NTT北海道）
戦
日原（NTT北海道）
2 15 15 0
1 5 5 C
秋山（UNI）
戦
キチ（NTT北海道）
2 15 15 0
1 5 5 C
片山・秋形（UNI）
戦
佐古（NTT北海道）
2 15 8 0
6 8 I
黒沢（東日本JR）
戦
伊藤（NTT北海道）
2 15 17 16 6 1
10 14 17 4 1
常川（NTT東日本

1994（平成6）年

主な出来事

全道実業団男子24連覇　女子優勝
日本リーグ女子２部準優勝

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体17位 女子団体9位	
	全日本社会人	女子ダブルス9位	田中・佐藤組
	全日本総合	男子ダブルス9位	伊藤・佐藤組
	日本リーグ	男子1部第５位（3勝4敗） 女子2部準優勝（5勝2敗）	
全道大会	全道実業団	男子24連覇 女子優勝	
	北海道選手権	男子シングル優勝 男子ダブルス優勝	伊藤 伊藤・佐藤組
	北海道社会人	男子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝	伊藤 伊藤・角谷組 土屋・武田組
	国体道予選	男子シングル優勝 男子ダブルス優勝	古川 村井・古川組

メンバー

新人　佐藤　嘉伸

普及活動等（スポーツ教室）

小樽市 5.21　清水町 7.2～3　音更町 7.23
幕別町 7.24　上磯町 10.2　八雲町 10.2
浜益村 11.27

備　考

日本リーグ男子新人賞　佐藤
国体出場　牧野・伊藤・角谷・村井・古川・武田出場

勇退を決めた米山前監督（左）は、伊藤新監督とガッチリ握手



[2・15]
道新スポーツ

バドミントン
NTT北海道

米山監督勇退

後任にエース・伊藤が就任

バドミントン日本リーグなど、NTT北海道のトップとしてチームを引っ張ってきた米山監督（37）が13日付で勇退、後任に伊藤雅弘プレーイングコーチ（31）が昇格することになり、二人が14日、道新スポーツを訪れた。

米山監督は昭和63年の就任以来、平成元年のはまなす国体、2年の日本リーグ男子1部、3年の全日本実業団の3大会で準優勝するなど、NTT北海道のトップとしてチームを引っ張ってきた。

後任に伊藤雅弘プレーイングコーチ（31）が昇格することになり、二人が14日、道新スポーツを訪れた。

米山監督は昭和63年の就任以来、平成元年のはまなす国体、2年の日本リーグ男子1部、3年の全日本実業団の3大会で準優勝するなど、

と言っているうちに決勝まで進出したんだ」と感慨深げ。残念なのは「2位は出るときはいつもだが、スカッと上昇傾向や対外的な折衝、他チームとの交流など、慣れるまで人変だろうね」と、緊張感も、指導力の向上にまでおり、男女合計14人のメンバーで、日本一を目指す構え。

日本リーグ準Vなど数々の戦歴 全国レベルに引き上げた功労者

思い出に残るのは全日本実業団での神優勝。「選手今年で入社10年目、平成元年には全日本メンバーにも選ばれている。コーチの

伊藤新監督は同入出身で



第8代目監督
伊藤　雅弘

私は同じ日本大学出身の電電北海道OB平山さん・遠藤さん（当時監督）に勧誘していただき、昭和60年４月、電電公社からNTTという民間企業になった最初の年に採用されました。その後、選手・コーチとして約９年間という長い間プレーに専念させていただき、国際試合も含む多くの大会に参加し、平成元年に開催された地元「はまなす国体」では選手として参加することができました。今から振り返ると非常に運が良く、恵まれた選手生活だったと思います。

平成６年から約８年間監督を務め、多くの良い経験をさせていただきました。平成11年１月に「NTT構造改革に伴うスポーツ部の見直し」という理由で、「部の解散」と「バドミントンを続けたい選手はNTT東京に移籍させる」と会社側から宣告されました。また、会社が東西に分割した場合、西日本に転勤できる最後の機会となるため、転勤を希望する選手は引退と同時に転勤させるというものでした。そういった噂はありましたが具体的なことは何もなく、大丈夫だろうと楽観的に考えていたため、突然言われた時は大変驚き、どうすることもできず、当時の月尾部長と共に選手を集めて説明をしました。選手たちは、やっぱり…といった表情でしたが、監督としては選手に申し訳ない思いと、悔しい思いで一杯でした。結局、２名が引退・転勤し、１名がNTT東京移籍となり、男女選手５名ずつが北海道に残り、何とか活動を継続できることになりました。

その年の11月に行われた日本リーグ女子２部では、武田、後藤、高橋、本田、標の選手５名で優勝し、平成12年３月の入替戦において、１部リーグ最下位のNTT東日本に2-1で勝ってNTT北海道女子創部以来初の１部昇格を果たしました。また男子については、古川・星・水沢・吉岡・井野の選手５名で、平成12年７月の全日本実業団において準々決勝でNTT関西・準決勝で日本ユニシスと強豪チームに競り勝ち、トナミ運輸との決勝では選手が力尽き痙攣のため棄権となりましたが、平成３年以来２度目の準優勝という大変価値のある成績を残すことができました。このとき優勝候補のNTT東日本男子はトナミ運輸に準決勝で敗れ３位となり、より一層悔しい思いをしていたことと思います。

廃部宣告され、練習では人数が集まらない日も多く、団体戦では選手が一人でも怪我をすれば棄権というぎりぎりの状況であったにも関わらず、すばらしい結果を残し、なお且つ一時的にもシンボルチームであるNTT東日本を男女とも上回ることができ、他の監督では味わえない感動を選手が与えてくれました。

当時の堀口北海道支店長には大変喜んでいただき、親身になってバドミントン部の面倒をみていただきました（監督・選手はISDNのコマーシャルにも出させていただきました。）。また、白髭バドミントン部長には、採用のない状況でも何とか選手獲得にご尽力いただき、テレマート・植木社長（故人）にも無理なお願いをして、岩松選手をはじめ多くの選手を採用していただきました。会社が正式に認めているシンボルチームではなくなり、単なる同好会になってもご協力していただいた多くの皆様には、本当に感謝しております。

平成14年４月に監督をバトンタッチしましたが、後任の古川監督をはじめ選手・OB・関係の皆様には部の存続について大変ご苦労され、前監督として何の力にもなれず大変申し訳ありませんでした。残念な結果となりましたが、多くの皆様に応援され支えられた幸せなチームだったと思います。非常に難しいことではありますが、いつかチームが復活できることを信じて頑張っていきたいと思います。OBの皆さん、よろしくお願いします。

1994（平成6）年

［4・7］道新スポーツ

1994年（平成6年）4月7日（木曜日）　道新スポーツ

いきなり主軸だ 佐藤

NTT北海道バドミントン部のルーキー

全道実業団でデビュー！

即戦力ルーキーとして活躍が期待される佐藤

練習試合でNTT関西に全勝!!

さすがインカレ団体の覇者

［5・9］
道新スポーツ

全道バドミントン選手権

最終日（8日・苫小牧市民体育館）

一般男子シングルスはNTT北海道のエース・伊藤智弘（32）が、チームの新人・佐藤嘉伸（22）を2－0で下し9連覇を飾った。一般女子シングルスは、エース同士の対決となりチザキの日原真智里（23）がNTT北海道の田中範子（23）を破り、2年連続女王の座についた。

NTT北海道

伊藤9連覇

新人・佐藤を力でねじ伏せた

9連覇したNTT北海道の伊藤（円内も）

「いやー疲れた。危なかった―。たかが北海道なのに、けっこうきつくなって来たな―」と試合後、9連覇の感想を漏らす伊藤。今春、鳴り物入りでNTTに入社した佐藤との決勝戦は、2ゲームともセッティングにもつれ込む大接戦。しかし、最後は伊藤が押し切る形で勝負を決めた。

パワーで勝負する佐藤を、左右前後の揺さぶりで体力を消耗させる作戦に出た伊藤は、振っても振ってもしぶとくついてくる新人・佐藤を「強いねー。一度はこれが負け時かな―と思ったよ」と最高の言葉で評する。

それでも、いざコートに出ると伊藤の表情は一変。いくら点を重ねても一度もニコリとせず厳しい表情で対抗。それは今年から新監督となった伊藤が新人部選手を試合の中で育て上げる教育の一つでもあった。「貫録負けです」とあっさり敗戦の弁を述べる佐藤。

9年連続、北海道チャンピオンの座に君臨する伊藤を「いつかだれかが破らなければいけないんだけど…」と周りは口にするが、「まだまだ、若い者には負けない」と伊藤は王者の風格十分に話していた。

（原田　裕之）

女子は日原が連覇

チザキ・日原対NTT・田中、北海道女子バドミントン界を二分するエース同士の対決は、第2ゲーム9－9からセッティングにまでもつれ込んだが、最後は田中のショットがコートをあろう、女の戦い。はまたこれで両者の社会人へとなった。

ってからの対戦成績は日原の3勝0敗、一昨年は、新人ということで気楽に戦えたが、今年は同じ分（立道）として一歩も張って行かなければいない心境なので、精神的にもしんどいですねと日原、ともに決勝の相手。これからも絶えずますます燃えるライバルでありたい。

【一般男子】◇シングルス▽準決勝
伊藤2（15 15）1（12 12）NTT北海道
伊藤2（15 12 15）1（11 11 12）道T北海
NTT北海2（15 15）0（10 10）道T北海
NTT北海2（15 12 10）0（15 10 12）道T北海
▽決勝
伊藤2（17 18）1（14 13）0佐藤（NTT北海道）
【一般女子】◇シングルス▽準決勝
日原2（11 11）0武田（NTT北海道）
チザキ2（11 11）0小笠原（NTT北海道）
▽決勝
日原2（11 11）0チザキ（NTT北海道）

［9・25］

1994年（平成6年）9月25日（日曜日）　道新スポーツ

全道社会人バドミントン選手権

最終日（24日・札幌市厚別区体育館）

【男子】◇一部シングルス
①伊藤（NTT北海道）②佐藤（NTT北海道）③佐藤（NTT北海道）
◇二部シングルス
①阿部（札幌クラブ）②林（NTT北海道）
【女子】◇一部シングルス
①日原（NTT北海道）②チザキ（NTT北海道）③林（NTT北海道）
【男女】◇一部ダブルス
①伊藤・佐藤（NTT北海道）②日原・チザキ（NTT北海道）
【男子】◇一部ダブルス
①伊藤・佐藤（NTT北海道）②武田・土屋（NTT北海道）
【女子】◇一部ダブルス
①日原・チザキ（NTT北海道）②武田・土屋（NTT北海道）

武田・土屋 感激 初V

1部女子ダブルス

決勝はNTT北海道同士 先輩を撃破

女子ダブルスで初優勝したNTT北海道の武田（左）・土屋組

急成長のチーム最年少コンビ

日本リーグ 昇格へ期待の戦力

［4・20］北海道新聞

バドミントン 全道実業団

NTT北海道V

女子、チザキに競り勝つ

光る20歳・武田 NTT北海道

女子1部決勝の第2ダブルスで懸命にシャトルを追うNTT北海道の武田（左）と土屋組

1995（平成7）年

主な出来事

全道実業団男子25連覇　女子２連覇

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位 女子団体2回戦敗退	
	全日本社会人	男子ダブルス5位 男子ダブルス9位	古川・斎藤組 村井・佐藤組
	全日本総合	混合ダブルス9位	星・田中組
	日本リーグ	男子1部第7位（2勝5敗） 女子2部第3位（4勝3敗）	
全道大会	全道実業団	男子25連覇 女子2連覇	
	北海道選手権	男子シングル優勝 男子ダブルス優勝	古川 村井・佐藤組
	北海道社会人	男子シングル優勝 女子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝	佐藤 田中 村井・佐藤組 佐藤・武田組
	国体道予選	男子シングル優勝 女子シングル優勝 男子ダブルス優勝 女子ダブルス優勝	古川 田中 村井・佐藤組 田中・佐藤組

メンバー

新人　斎藤　一裕
新人　高橋　昌子

普及活動等（スポーツ教室）

岩見沢市 2.26　小樽市 5.20　幕別町 7.20
音更町 7.23　北見市 1.20　礼文町 2.10

備　考

国体出場　月尾・伊藤・村井・古川・佐藤・木村
　　田中・佐藤
全国実業団大会功労賞受賞　伊藤（連続10回出場）



●写真は日本リーグ'95旭川大会の模様（11月23日）



道新スポーツ　1995年（平成7年）4月17日（月曜日）

女子はチザキとまたもファイナル

武田決めた！

NTT北海道・アベックV2

気力と体力で女王の座死守

第45回全道実業団バドミントン

男子は前人未到の25連覇！

注目の道外出身ルーキー対決

斉藤に軍配

[4・17]

1995年（平成7年）6月24日（土曜日）

全日本実業団バドミントン

NTT北海道（男子）16強入り

チザキは男女とも敗退

好調川崎相手に正念場

NTT北海道 カギ握ったダブルス

[6・24] 北海道新聞

●写真は日本リーグ'95旭川大会の模様（11月23日）

1996（平成8）年

主な出来事

全道実業団男子26連覇　女子3連覇

戦績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
	女子団体3回戦敗退	
全日本社会人	男子シングル9位	古川
	男子ダブルス9位	村井・佐藤組
	混合ダブルス3位	村井・田中組
全日本総合	男子ダブルス5位	村井・佐藤組
日本リーグ	男子1部第4位（4勝3敗）	
	女子2部第3位（4勝3敗）	

全道大会

全道実業団	男子26連覇	
	女子3連覇	
北海道選手権	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	土屋
	男子ダブルス優勝	村井・佐藤組
	女子ダブルス優勝	土屋・武田組
北海道社会人	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	武田
	男子ダブルス優勝	村井・佐藤組
	女子ダブルス優勝	土屋・武田組
国体道予選	男子シングル優勝	水澤
	女子シングル優勝	武田
	男子ダブルス優勝	村井・佐藤組

メンバー

新人	水澤　直哉	新人	標　千春
新人	吉岡　秀樹	新人	本田　恵

普及活動等（スポーツ教室）

小樽市 5.18　黒松内町 7.13　滝川市 10.12
砂川市 10.26　北見市 2.01　登別市 2.15
帯広市 3.22

備考

国体出場　月尾・伊藤・村井・佐藤・水澤
　　武田
男子6年ぶり日本リーグＡクラス入り

[4・11]
道新スポーツ



社会人デビュー戦となる全道実業団を目前に、即戦力の期待がかかる標（左）・本田ペア

NTT北海道の新人、Uターンコンビ

標&本田

（しめぎ）

社会人デビューへやる気満々

13日から全道実業団選手権

バドミントン女子で、日本リーグ一部入りを狙うNTT北海道に楽しみな新人ダブルスが入部した。青森県の千葉学園高で活躍した標（しめぎ）千春・本田恵で、中学時代まで本道でプレー、強豪校で腕を磨いた、Uターンペアだ。13日から行われる全道実業団選手権（団体戦、札幌中島体育センター別館）でも即戦力としての活躍が期待される。

中学時代まで本道でプレー

強豪・千葉学園に留学し腕を磨く

地元チームでリーグ1部入りを…

[4・16]
道新スポーツ



新人ながら優勝の原動力となった標（右）

全道実業団バドミントン

NTT北海道アベック V3

標、3勝の大活躍

プレッシャーと無縁の新"鮮"力

[11・3]
道新スポーツ



1996年（平成8年）11月3日（日曜日）　道新スポーツ

女子バドミントン

NTTに有望新鮮力

インカレ3位、名門日体大の強豪ペア内定

中井

富山県出身

後藤

函館出身

部員も9人にアップ

1部昇格へ土台固め着々

「バランスとれたペア」



1997（平成9）年

主な出来事

全道実業団男子27連覇　女子4連覇

戦　績

全国大会	全日本実業団	男子団体9位 女子団体3回戦敗退
	全日本社会人	男子ダブルス9位　村井・佐藤組 男子ダブルス9位　斎藤・水澤組 女子ダブルス9位　土屋・武田組
	全日本総合	男子ダブルス5位　村井・佐藤組 女子ダブルス9位　後藤・中井組
	日本リーグ	男子1部第7位（2勝5敗） 女子2部第4位（4勝3敗）
全道大会	全道実業団	男子27連覇 女子4連覇
	北海道選手権	男子シングル優勝　水澤 女子シングル優勝　武田 男子ダブルス優勝　村井・佐藤組 女子ダブルス優勝　土屋・武田組
	北海道社会人	男子シングル優勝　古川 女子シングル優勝　武田 男子ダブルス優勝　村井・佐藤組 女子ダブルス優勝　武田・中井組
	国体道予選	男子シングル優勝　水澤 女子シングル優勝　武田 男子ダブルス優勝　村井・佐藤組 女子ダブルス優勝　中井・後藤組

メンバー

新人　後藤　綾子　　新人　中井貴代美

普及活動等（スポーツ教室）

小樽市 5.17　恵庭市 7.12　滝川市 8.9
長万部町 12.13　上富良野町 2.1　帯広市 3.22

備　考

国体予選新人の後藤・中井組初優勝
国体出場　月尾・伊藤・村井・佐藤・水澤
　　工藤・武田・後藤・中井

［4・21］北海道新聞



NTT北海道
男子が27連覇

全道実業団バドミントン 女子は4年連続

▼貴録の開幕ダッシュ

［4・21］



NTT北海道 27連覇
女子はV4

日本代表を視野
村井・佐藤ペア

燃える全道最強ダブルス
23日からの代表選考会に弾み

1998(平成10)年

主な出来事

全道実業団男子28連覇　女子5連覇

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位 女子団体2回戦敗退	
全日本社会人	男子シングル9位	古川
	男子ダブルス9位	村井・古川組
	男子ダブルス9位	水澤・吉岡組
	女子シングル9位	武田
	女子ダブルス9位	後藤・中井組
	混合ダブルス9位	吉岡・後藤組
全日本総合	男子シングル9位	古川
	混合ダブルス9位	吉岡・後藤組
日本リーグ	男子1部第7位(1勝6敗) 女子2部優勝(7勝0敗)	
日本リーグ1部2部入替戦	女子1－2で敗退	

全道大会

全道実業団	男子28連覇 女子5連覇	
北海道選手権	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	武田
	男子ダブルス優勝	水澤・吉岡組
	女子ダブルス優勝	後藤・中井組
	混合ダブルス優勝	吉岡・後藤組
北海道社会人	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	中井
	男子ダブルス優勝	村井・古川組
	女子ダブルス優勝	武田・高橋組
国体道予選	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	武田
	男子ダブルス優勝	水澤・吉岡組
	女子ダブルス優勝	後藤・中井組

メンバー

新人　井野　嘉久
新人　西城真理子

普及活動等(スポーツ教室)

仁木町 5.16　浜益村 5.17　黒松内町 7.11
旭川市 8.11　旭川市 10.18　美唄市 11.14
岩見沢市 12.12　帯広市 3.20　北見市 3.28

備　考

女子2部創部10年目悲願の初優勝
国体出場　月尾・伊藤・古川・水澤・吉岡
佐藤・武田・後藤・中井



NTT北海道は2年ぶりの8強入り。村井、佐藤らベテランが去る一方で、日大から補強した井野が北國銀行の石本に大逆転勝ちと、元気にデビューした

全日本実業団体会

バドミントン部

公式第1戦からアベック優勝(通算8度目)

4月11日、12日の両日、恵庭市で開催された第48回全道実業団バドミントン選手権大会は、NTT北海道の圧勝に終わり男女とも全戦全勝。これで男子28連覇、女子5連覇と記録を伸ばした。

男　子(4戦全勝)

NTT北海道	3－0	札幌市役所
NTT北海道	3－0	JSDF北海道
NTT北海道	3－0	千歳市役所
NTT北海道	3－0	JR北海道

女　子(2戦全勝)

NTT北海道	3－0	JSD北海道
NTT北海道	3－1	チ　ザ　キ



バドミントン部

第53回 国民体育大会 バドミントン 北海道予選
全種目代表権を獲得

8月22日(土)、23日(日)、釧路町総合体育館において開催された第53回国民体育大会北海道予選で、男女とも全種目で優勝し、男女6名の選手が北海道代表に選ばれました。

なお、代表に選ばれた6名の選手は、10月24日(土)から神奈川県大和市で開催される第53回国民体育大会秋季大会に北海道選手として出場します。

今大会で、男子では、シングルスで古川選手が3年ぶり7度目、ダブルスでは、水澤・吉岡選手組が初の優勝。女子では、シングルスで武田選手が3年連続3度目、ダブルスでは、中井・後藤選手組が2年連続2度目の優勝を果たし、他の選手も上位入賞するなど他を寄せ付けない大会でした。

北海道代表となった6名の選手



古川選手　水澤選手　吉岡選手　武田選手　中井選手　後藤選手

男女全種目制覇できず
女子シングルス準優勝

5月8日(金)～10日(日)の3日間、札幌市豊平区体育館において、第51回北海道バドミントン選手権大会が行われた。この大会は個人戦で、一般男女のシングルス・ダブルス・ミックスダブルスに出場。昨年は、全ての種目をNTT北海道の選手が制覇したが、女子シングルスに出場した標選手が惜しくも中国人で苫小牧駒大の李荔選手に敗れ、準優勝に終わり全種目制覇はならなかった。

試合結果(決勝戦)

●一般男子・シングルス
古川、2年ぶり3回目の優勝。



古川(NTT) 2－0 水澤(NTT)

●3位／吉岡(NTT)　●4位／井野(NTT)

●一般男子・ダブルス
吉岡・水澤組、初優勝。



吉岡・水澤(NTT) 2－1 古川・井野(NTT)

●3位／斉藤・星(NTT)　●4位／田口・小倉(JR北海道)

●一般女子・シングルス
惜しくも準優勝

李(苫小牧駒沢大) 2－0 標(NTT)



●3位／高橋(NTT)　●4位／本田(NTT)

●一般女子・ダブルス
後藤・中井組、初優勝。



後藤・中井(NTT) 2－1 武田・西城(NTT)

●3位／岩崎・伴(チザキ)　●4位／本田・標(NTT)

●一般ミックス・ダブルス
吉岡・後藤組、初優勝。



吉岡・後藤(NTT) 2－0 古川・標(NTT)

●3位／佐藤・高橋(NTT)　●4位／星・西城(NTT)

1999(平成11)年

主な出来事

全道実業団男子29連覇　女子6連覇

戦績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
	女子団体3回戦敗退	
全日本社会人	男子シングル5位	井野
	男子シングル9位	古川
	男子ダブルス9位	古川・井野組
	男子ダブルス9位	吉岡・星組
	混合ダブルス3位	吉岡・後藤組
全日本総合	男子ダブルス9位	古川・井野組
	男子ダブルス9位	吉岡・星組
	混合ダブルス5位	吉岡・後藤組
	混合ダブルス9位	星・武田組
日本リーグ	男子1部第7位(2勝5敗)	
	女子2部優勝(7勝0敗)	
日本リーグ1部2部入替戦	女子2－1で勝利	
	念願の1部昇格	

全道大会

全道実業団	男子29連覇	
	女子6連覇	
北海道選手権	男子シングル優勝	水澤
	女子シングル優勝	標
	男子ダブルス優勝	吉岡・星組
	女子ダブルス優勝	後藤・本田組
	混合ダブルス優勝	星・武田組
北海道社会人	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	標
	男子ダブルス優勝	吉岡・星組
	女子ダブルス優勝	後藤・本田組
国体道予選	男子シングル優勝	古川
	女子シングル優勝	標
	男子ダブルス優勝	吉岡・星組
	女子ダブルス優勝	後藤・本田組

普及活動等(スポーツ教室)

旭川市 8.11　帯広市 3.18

備考

女子創部11年目念願の1部リーグ昇格
ジャパンオープン出場　古川・吉岡・水澤・後藤
※クラブチームとして再スタート
国体出場　白髭・伊藤・古川・水澤・井野
遠藤・後藤・標・本田

[1・19] 道新スポーツ



NTT北海道アベックV

全道実業団バドミントン選手権

女子は部員不足が悩み

日本リーグに向け引退選手の再登録も

[4・18]



NTT北海道

クラブチームで再出発

全道実業団バドミントン選手権

結果出して会社の理解得よう

全員が"完封"意識

29連覇へ好発進!

北海道新聞

夕刊　1999年(平成11年)2月25日(木曜日)

クラブチーム移行なんてへっちゃらさ

燃えろ!入れ替え戦



NTT北海道女子バドミントン部

「出るからには勝つ」

[12・7]

夕刊　1999年(平成11年)12月7日(火曜日)　6版　(4)

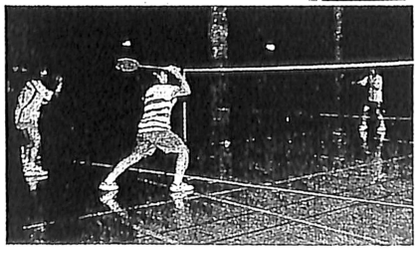
クラブチームへ移行

V2のNTT北海道

バドミントン日本リーグ

練習時間不足　工夫で克服

女子2部1部昇格に意欲



2000（平成12）年

主な出来事

全道実業団男子30連覇　女子７連覇
全日本実業団男子9年ぶり2回目の準優勝に輝く

戦　績

全国大会

全日本実業団	男子団体準優勝 女子団体2回戦敗退
全日本社会人	男子シングル9位　古川 男子ダブルス9位　古川・井野組
日本リーグ	男子1部第6位（2勝5敗） 女子1部第8位（0勝7敗）
日本リーグ1部2部入替戦	女子0－2で敗退 三協アルミ廃部のため1部残留

全道大会

全道実業団	男子30連覇 女子7連覇
北海道選手権	男子シングル優勝　井野 男子ダブルス優勝　古川・井野組 女子ダブルス優勝　武田・高橋組
北海道社会人	男子シングル優勝　古川 女子シングル優勝　標 女子ダブルス優勝　武田・後藤組
国体道予選	男子シングル優勝　古川 男子ダブルス優勝　古川・井野組 女子シングル優勝　後藤 女子ダブルス優勝　武田・後藤組

メンバー

新人　中島　輝美

普及活動等（スポーツ教室）

名寄市 7.15　函館市 3.10　帯広市 3.17

備　考

ジャパンオープン出場　古川・吉岡・水澤・井野
後藤・本田
ニュージーランドオープン、オーストラリアオープン出場
古川・井野組ベスト8　古川シングルス3位
国体出場　白髭・伊藤・古川・井野
武田・後藤・本田

［3・7］北海道新聞

新聞（夕刊）　2000年（平成12年）3月7日（火曜日）　6版　（4）

クラブチーム移行で選手減少

5人でつかんだ悲願の1部昇格

バドミントン NTT北海道 逆境に意地と粘り



選手が五人だけのクラブチームが、バドミントン日本リーグの一部昇格を決めた。五日に東京で行われた入れ替え戦で、女子のNTT北海道がNTT東日本との〝姉妹対決〟を制して、念願の一部に昇格。昨年からクラブチームとなり、厳しい環境で頑張ってきた選手たちが、逆境をバネに大きな成果をつかんだ。

入れ替え戦のポイントとなったのは、シングルスの標（しめぎ）千春、東日本のエース格、伊藤さおりとの対戦はフルセットにもつれ込んだ。ミスが続いて2－7とリードされてから、任されながら、戦績は勝ち思いきりのよいスマッシュを連発。連続7点を奪って逆転勝ちを決めた。

殊勲の勝利を挙げた。「こわかった。勝った瞬間、思わず、泣きじゃくった標を仲間が大喜びで迎えた。

これでムードが一気に北海道へ。最後のダブルスでは武田明美・高橋圓子組がのびのびと強打を打ちまくり、相手ペアを圧倒して押し切った。

伊藤雅弘監督は「今日はとにかく標に苦しかった」と後藤稔子主将は語る。

そんな中でも、一部に上がる夢は捨てなかった。昇格を決めた後、太田恵ら選手たちは応援に来ていたNTT道支店の畑口昌基支店長を胴上げし、喜びを爆発させた。「私たちは、結果以上に強くなった。北海道から移籍していった選手もいる。クラブチームに移行してから、練習は勤めに励務を終えてからとなり、選手も団体戦を吸える日を目標に頑張りたい」と十一月からのリーグ戦にファイトを燃やしていた。

1部昇格を決め、試合会場で同僚にあいさつするNTT北海道の選手たち

［4・17］

2000年（平成12年）4月17日（月曜日）　道新スポーツ

2度の名称変更、昨年クラブ化を経て

NTT北海道 男子 V30

前身・電電札幌から

現在メンバーギリギリ5人

目標は最低でもAクラス！



JR北海道戦で息のあったプレーを展開した井野（左）・古川ペア

2000（平成12）年

［7・1］北海道新聞



全日本実業団バドミントン選手権

NTT北海道 9年ぶり4強

男子、西日本大阪下す

バドミントンの全日本実業団選手権は第三日の八日、東京体育館で男女の準々決勝戦などを行い、北海道（苫小牧）は男子ダブルスの（略）組が当日の5連勝で、9年ぶりのベスト4進出を果たした。男子ではほかにNTT北海道（苫小牧）とNTT北海道（苫小牧）が準々決勝に進んだ。

［4・16］



2000年（平成12年）4月16日（日曜日） 道新スポーツ

期待の新人 中島 岩々 社会人初勝利

札幌勢ベスト8進出

今季から1部昇格 チームの刺激に一役

［7・9］道新スポーツ



5回戦でのデンソー戦に続き第1シングルスとして勝利の原動力になった水沢

NTT北海道男子4強入り

全日本実業団バドミントン選手権

第3日（8日、東京体育館）

男子のNTT北海道は、5回戦でデンソー（三重）に快勝。続く6回戦ではNTT西日本大阪に3―2で競り勝ち、準決勝進出を決めた。NTT北海道の4強は、1991年に準優勝して以来、9年ぶり。

（本道関係分）

【男子】▽5回戦 NTT北海道 3―0 デンソー（三重）▽6回戦 NTT北海道 3―2 NTT西日本大阪

3番手・水沢の大逆転劇で勢い

NTT北海道が、久々の4強進出にわいた。格上のNTT西日本大阪を相手に勝機をつかんだのは、ダブルス戦に続き3番手で登場した第1シングルスの水沢直哉（26）だった。ファイナルゲームで8―14の土壇場から八逆転、試合の流れをチームに呼び込んだ。

「水沢の勝利がこの試合のポイントでした」と伊藤雅弘監督（38）。第2シングルスを落とし2―2のタイに追いつかれたが、最後に登場した古川英樹（28）が、2―1で相手を退け、勝負を決めた。古川は11年目の最古参。右ひざ部の故障を抱え、「歩くのがやっと」の状態だったが、「水沢に刺激された」と先発出場を志願した。

NTT北海道は、右ひざ部の故障を抱え、「歩くのがやっと」の状態だったが、「水沢に刺激された」と先発出場を志願した。

ダブルス戦に続き3番手で登場した第1シングルスの水沢直哉（26）だった。ファイナルゲームで8―14の土壇場から八逆転、試合の流れをチームに呼び込んだ。

「水沢の勝利がこの試合のポイントでした」と伊藤雅弘監督（38）。第2シングルスを落とし2―2のタイに追いつかれたが、最後に登場した古川英樹（28）が、2―1で相手を退け、勝負を決めた。古川は11年目の最古参。右ひざ部の故障を抱え、「歩くのがやっと」の状態だったが、「水沢に刺激された」と先発出場を志願した。



第50回全道実業団バドミントン選手権大会

北海道立総合体育センター（きたえーる）大会会場にて（平成12年4月16日撮影）

［8・21］道新スポーツ



NTT北海道 海外国際大会出場

古川 井野 世界上位狙う

全日本実業団バドミントン

男子バドミントン

きょう出発 オセアニア地域で2大会

テレビCMに出演



こぼれ話

シャトルの話

プレーで使うシャトルは、重さは約5g。ずいぶん軽いものですが、一流プレーヤーが打つと初速は、時速300km以上にもなります。テニスプレーヤーの弾丸サーブが約240kmくらいですから、シャトルがいかにスピードが出るものかが分かります。

2001（平成13）年

主な出来事

全道実業団男子31連覇　女子8連覇

戦績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
	女子団体2回戦敗退	
全日本社会人	男子ダブルス9位	古川・井野組
	女子ダブルス9位	西尾・幡谷組
	女子シングル9位	岩松
	女子シングル9位	幡谷
全日本総合	男子ダブルス9位	古川・井野組
	女子ダブルス9位	高橋・標組
	女子シングル5位	岩松
	混合ダブルス9位	水澤・本田組
日本リーグ	男子1部第6位（3勝4敗）	
	女子1部第8位（1勝6敗）	

全道大会

全道実業団	男子31連覇	
	女子8連覇	
北海道選手権	男子シングル優勝	井野
	女子シングル優勝	幡谷
	混合ダブルス優勝	吉岡・幡谷組
北海道社会人	男子シングル優勝	井野
	男子ダブルス優勝	古川・井野組
	女子シングル優勝	幡谷
	女子ダブルス優勝	西尾・岩松組
国体道予選	男子シングル優勝	水澤
	男子ダブルス優勝	星・井野組
	女子シングル優勝	岩松

メンバー

新人　吉川　勇司
新人　岩松絵理子
新人　幡谷　好美

普及活動等（スポーツ教室）

函館市 7.1（4名）　根室市 7.7（2名）
道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備考

国体出場　古川・井野・星・水澤・岩松

[4・22] 道新スポーツ



2001年（平成13年）4月22日（日曜日）　道新スポーツ

全道実業団バドミントン男子

吉川 NTT北海道

あっぱれ新人

チームの救世主

圧勝デビュー

無敵の男子31連覇へ好発進

インターハイ3位の実力者

[4・4] 北海道新聞



ヨネックス杯バドミントン

岩松、本選へ

移籍後初戦の幡谷敗退

[5・14] 北海道新聞



バドミントン

標（NTT北海道）が初優勝

男子は2年ぶり水沢

精神面でも成長

女子単V

[9・4] 北海道新聞



NTT北海道バドミントン部 幡谷好美

USオープンに出場

アテネ目指し「まず実績を」

2002（平成14）年

主な出来事

全道実業団男子32連覇　女子9連覇
国体男子13年ぶり準優勝・
日本リーグ敢闘賞受賞　水澤・三上組

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
		女子団体9位	
	全日本社会人	男子ダブルス5位	星・井野組
		女子シングル9位	中
	全日本総合	女子シングル5位	中
	日本リーグ	男子1部第5位（3勝4敗）	
		女子1部第6位（3勝4敗）	
全道大会	全道実業団	男子32連覇	
		女子9連覇	
	北海道選手権	男子ダブルス優勝	古川・吉岡組
		女子シングル優勝	岩松
		混合ダブルス優勝	後藤・西尾組
	北海道社会人	男子シングル優勝	水澤
		男子ダブルス優勝	星・井野組
		女子シングル優勝	中
		女子ダブルス優勝	中・標組
	国体道予選	男子ダブルス優勝	水澤・三上組
		女子シングル優勝	岩松

メンバー

新人　三上　裕司
新人　中　麻依子

普及活動等（スポーツ教室）

千歳市 8.30　豊浦町 3.20
道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備考

国体出場　堂前・古川・水澤・三上・岩松
　　男子13年ぶり準優勝
日本リーグ男子敢闘賞受賞　水澤・三上組

[4・22]



2002年（平成14年）4月22日（月曜日）　道新スポーツ

全道実業団バドミントン選手権

NTT北海道 貫録アベック V9 達成

北海道

田中 コーチ兼選手で5季ぶり復帰

女子V原動力だ！

選手不足…窮地のチーム救う まとめ役、ハマった

男子 32連覇の偉業達成

[4・22]
北海道新聞



2002年（平成14年）4月22日（月曜日）

バドミントン 道実業団

NTTアベック優勝

男子32年、女子9年連続

全国4強へ意気込む



第52回全道実業団バドミントン選手権大

第52回全日本実業団バドミントン選手権大会全道予選

2003（平成15）年

主な出来事

全道実業団男子33連覇　女子10連覇
全日本実業団女子創部初3位
日本リーグ新人賞　黒川
全日本社会人女子単3位　中

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体ベスト64位 女子団体3位
	全日本社会人	男子シングル9位　三上 男子シングル9位　中村 男子ダブルス9位　井野・中村組 女子シングル3位　中 女子シングル9位　岩松、吉岡 女子ダブルス9位　中・岩松組
	全日本総合	女子シングル5位　中 混合ダブルス5位　三上・黒川組
	日本リーグ	男子1部第5位（3勝4敗） 女子1部第6位（3勝4敗）
全道大会	全道実業団	男子33連覇 女子10連覇
	北海道選手権	女子シングル優勝　吉岡 混合ダブルス優勝　三上・黒川組
	北海道社会人	男子シングル優勝　吉川 男子ダブルス優勝　水澤・三上組 女子シングル優勝　岩松 女子ダブルス優勝　黒川・吉岡組
	国体道予選	男子シングル優勝　吉川 男子ダブルス優勝　水澤・三上組 女子シングル優勝　中 女子ダブルス優勝　黒川・吉岡組

メンバー

新人　中村　寿史
新人　黒川　真緒
新人　吉岡久美子

普及活動等（スポーツ教室）

札幌市 5.24　札幌市 7.19　旭川市 7.20　江別市 8.30
函館市 10.4　北見市 2.07　白老町 2.14　深川市 2.18
千歳市 2.20　森町 2.28

備考

国体出場　堂前・古川・吉岡・水澤・三上・
吉川・岩松・黒川・吉岡（久）
日本リーグ女子新人賞受賞　黒川
ランキングサーキット女子単4位　中
全日本社会人女子単3位　中
バララト国際大会準優勝　中
ナショナルメンバー入り　中


2003年（平成15年）3月6日（木曜日）　道新スポーツ

NTT北海道バドミントン部
北海道96年以来
3新人
日本リーグ上位狙いに本腰

男子・中村、女子・黒川、吉岡
来月ジャパンオープン出場

入社早々腕試し

◆NTT北海道バドミントン部新人メモ◆

中村寿史

吉岡久美子

2回目のジャパンオープンに張り切る黒川

[3・6]
道新スポーツ


2003年（平成15年）4月21日（月曜日）　道新スポーツ

全道実業団バドミントン選手権

北海道
NTT男子
33連覇

4時間超えの死闘の末、王座死守

勝ち続ける重圧はねのけ
最終・三上で決めた！

[4・21]
道新スポーツ


全道実業団バドミントン選手権

新人 黒川、吉岡 伝統つないだ！
NTT女子10連覇

吉岡新監督初戦飾る
日本リーグでも大暴れだ

危なげない試合でストレート勝ちしたNTTの新人ダブルスの黒川（左）と吉岡

[4・20]
道新スポーツ

2004（平成16）年

主な出来事

全道実業団男子34連覇　女子11連覇
全日本総合岩松・中組3位入賞
日本リーグ男子8年ぶり第4位
岩松・中組、初の敢闘賞受賞

戦績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
	女子団体5位	
全日本社会人	男子シングル9位	三上
	男子シングル9位	長原
	男子ダブルス5位	井野・中村組
	女子ダブルス9位	岩松・中組
全日本総合	男子ダブルス9位	水澤・三上組
	女子ダブルス3位	岩松・中組
日本リーグ	男子1部第4位（3勝4敗）	
	女子1部第6位（2勝5敗）	

全道大会

全道実業団	男子34連覇	
	女子11連覇	
北海道選手権	男子シングル優勝	長原
	男子ダブルス優勝	水澤・三上組
	女子シングル優勝	岩松
	混合ダブルス優勝	三上・黒川組
北海道社会人	男子シングル優勝	吉川
	女子シングル優勝	岩松
	女子ダブルス優勝	黒川・柴山組
国体道予選	男子シングル優勝	長原
	女子シングル優勝	岩松
	女子ダブルス優勝	岩松・中組

メンバー

新人　長原　正博
新人　柴山　明子
新人　宮崎　優花

普及活動等（スポーツ教室）

江別市 6.19　札幌市 6.22　倶知安町 6.03
室蘭市 2.13　根室市 2.26　森町 3.13

備考

ランキングサーキット女子単3位岩松
国体出場　清水・吉岡・岩松・中・宮崎・長原
　　成年男子第3位
全日本総合岩松・中組、創部以来初の第3位入賞
日本リーグ男子8年ぶり第4位
日本リーグ女子敢闘賞受賞　岩松・中組



［4・18］道新スポーツ

第54回北海道実業団バドミントン選手権
第1日（17日・道立総合体育センター）

NTT北海道女子V11

ハムあやかりユニホーム効果だ

全道から男女55チームが参加し、1～3部に分かれて熱戦を繰り広げた。2チームのみのエントリーとなった女子1部では決勝戦が行われ、NTT北海道がJR北海道相手に5―0の完勝。11年連続14度目の優勝を果たした。男子1部決勝リーグでは4チームが2試合ずつを消化。NTT北海道、JR北海道の2強が順当に勝ち星を重ねた。

【男子】◇1部▽決勝リーグ
NTT北　3―0　札幌市役所
JR北海　3―0　自衛隊北海道
NTT北　3―0　自衛隊北海道
JR北海　3―0　札幌市役所
【女子】◇1部▽決勝
NTT北　5―0　JR北海道



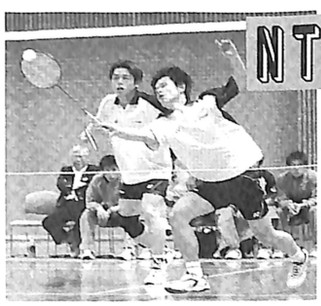
4連勝中のファイター天翔が伝わった？　今季から黒い左袖に金色のラインという、プロ野球・日本ハムモデルの新ユニホームを着て戦うNTT北海道が、まずは女子1部11連覇という幸先のいいスタートを切った。

ユニホームのお披露目でも"JR北海道をまった"かのように、試合でもJR北海道を寄せ付けなかった。ダブルスを岩松・中のエースコンビ、黒川・吉岡の2年目コンビで連取し、優勝を懸けた第1シングルスのコートに立ったのはルーキー・柴山明子（22）＝写真。「すごく緊張しました」と話すが、1ポイント取るごとに「よし！」と声を出す気迫を見せ、11―1、11―2で2セットを連取。あっさり優勝を決めた。

しかし、5ゲーム戦って1セットも落とさなかったにもかかわらず、吉岡秀樹監督（30）は「ミスの連発で予想以上にてこずってしまった。もう少し楽に勝てたはず」と手厳しい。今季から主将を務める岩松も「目標は北海道ではなく全国ですから」と話す。

当面の目標は、6月に行われる全日本実業団選手権で、3位以内に入ること。その後には日本リーグも控えている。連覇記録もこのチームには通過点にすぎない。（羽鳥　慶太）

［4・19］道新スポーツ



NTT北海道V34

JR北海道に快勝

第54回北海道実業団バドミントン選手権
最終日（18日・道立総合体育センター）

男子1部決勝リーグの天王山、NTT北海道対JR北海道が行われ、NTT北海道が3―1で快勝。連覇記録を34に、前日優勝を決めた女子との連続にそれぞれ伸ばした。また、男女の各2、3部の決勝トーナメントが行われ、順位が決定した。

【男子】◇1部▽決勝リーグ
NTT北　3―1　JR北海道
札幌市役所　3―2　自衛隊北海道
▽最終成績（NTT北海道は3勝2敗の3位、JR北海道は3勝2敗の4位、札幌市役所は1勝3敗の5位、自衛隊北海道は1敗4敗の6位）

NTT北海道の牙城はJR北海道によって崩された。ダブルスを井野・中村組、太沢・三上組で連取し勢いに乗ると、第1シングルスにエースを巻き込んだ4つの、第2シングルスは4年目の吉川勇司（25）が2―0の快勝。勝負を決める2面同時にガッツポーズが飛び出し、NTTベンチからは大歓声が上がった。

宿敵JRとの実力差は、ごくわずか。昨年のこの大会では、第3シングルスまでもつれ込む熱戦の末、何とか勝つことができたが、7月に岡山で行われた全日本実業団選手権3回戦ではっきりとした力の差を見せつけられ敗戦。チームは大きなショックを受けた。吉川

昨年の全日本敗北ばね

英樹監督（33）は「昨年負けたことで逆に開き直り、きょうは挑戦者の気持ちで臨むことができた」と勝因を語った。

昨冬の日本リーグ終了後、選手たちは走り込み、フットワークといった地道なトレーニングに明け暮れた。「実業団入りしてから一番いい試合ができた」と言うように、吉川も「精神面を鍛えるために、練習では自分を本当に追い込みました」と語る。日本リーグで5連敗したという自信も初めて団体戦3回戦突破の原動力に。チームは大きなエース候補に成長した。

道内トップに君臨した英樹監督がら、さらに進化を続けるNTT北海道。次の目標は6月名古屋市で行われる全日本実業団選手権。昨年悔しい思いをした舞台で、上位進出を目指す。（羽鳥　慶太）

［11・13］
北海道新聞

2004年（平成16年）11月13日（土曜日）

全日本バドミントン

中・岩松組、初の4強

男子は水沢・三上組敗退

バドミントンの第88回全日本総合選手権は第2日の12日、大阪・守口市入りを果たした。

男子ダブルスの水沢恵一・三上哲則組（NTT北海道）、NTT北海道アレマート）は2回戦で男女ダブルスなどを行った。

女子ダブルスの中庭依子・岩松絵里子組（NTT北海道アレマート）は2回戦で男女ダブルスの水沢恵一・三上哲則組（NTT北海道）、NTT北海道アレマート）を2―0でし、初の4強入りを果たした。

男子ダブルスの水沢恵一・三上哲則組（NTT北海道）、NTT北海道アレマート）は2回戦で敗退。



全日本バドミントンで、初の4強に進出した岩松と中（左）

女子複　中・岩松組　**優勝候補を圧倒**

準々決勝で山田智子・多田谷恵組（三洋電機）を佐々木翔（NMGアローズ）、ストレート負けした（日本ユニシス）2―1、上野由岐子・矢田部裕（ルネサス高崎）を3―0で破った。

【男子】マッシングルス4強

佐々木翔（NMGアローズ）
2（15―13）1（15―8）
0　NMG
1（15―4）0　ルネサス
多田修一・坂本修一（日本ユニシス）
2（15―13）1　上野雅恭・三上哲則（NTT北海道）
NTT北海道アレマート
【女子】マッシングルス4強
岩松
2（15―13）0　NTT北海道アレマート
矢田部
1（15―4）0　ルネサス高崎
山口

予選から勝ち上がってきた中・岩松組が、優勝候補ペアを破る金星で初の4強に駒を進めた。

昨年は1回戦敗退の苦杯をなめた北海道ペアが1年間の積みの成果をコートにぶつけた。中が拾い、岩松の強力スマッシュがさえわたる。アテネ五輪代表の山田・自国に突き刺さるシャトルになすすべなかった15―1、15―4の圧勝だった。

9月の全日本社会人選手権3位の道産ペアを、同ペアストレート16の北海道ペアが倒そうだ。（四ツ原久夫）

勝利の瞬間、ガッツポーズを決めた岩松。「負けてもともとの気持ちで攻めました」と話した。

「相手を知りつくした戦いができた」。岩松さんのスマッシュがすごく強かった」と余りの笑顔を見せた。

2人が誓うNTT北海道の新ユニホームは、白を基調にそでに黒を配した「日本ハム仕様」。上位ペアを次々倒し、北海道ペアの快進撃が続きそうだ。

2005（平成17）年

主な出来事

全道実業団男子35連覇ならず　女子12連覇

戦績

全国大会

全日本実業団	男子団体5位	
	女子団体5位	
全日本社会人	男子ダブルス9位	井野・中村組
	男子ダブルス9位	三上・米組
	女子ダブルス5位	岩松・中組
全日本総合	男子ダブルス5位	三上・米組
	女子ダブルス5位	岩松・中組
日本リーグ	男子1部第5位（3勝4敗）	
	女子1部第8位（0勝7敗）	

全道大会

全道実業団	男子準優勝	
	女子12連覇	
北海道選手権	男子ダブルス優勝	三上・米組
	女子シングル優勝	岩松
	女子ダブルス優勝	黒川・後藤組
	混合ダブルス優勝	米・中組
北海道社会人	男子シングル優勝	吉川
	男子ダブルス優勝	三上・米組
	女子シングル優勝	宮崎
	女子ダブルス優勝	黒川・後藤組
国体道予選	男子シングル優勝	吉川
	男子ダブルス優勝	三上・米組
	女子シングル優勝	宮崎
	女子ダブルス優勝	岩松・中組

メンバー

新人　米　　隆夫　　新人　後藤　佳代

普及活動等（スポーツ教室）

江別市 6.25　旭川市　7.23
道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備考

国体出場　富居・古川・吉岡・吉川・三上・米・岩松・中・宮崎
成年男子第4位
全日本総合　三上・米組、岩松・中組5位

[9・21] 北海道新聞

2005年（平成17年）09月21日（水曜日）　北海道新聞　夕刊



[9・25] 北海道新聞

2005年（平成17年）09月25日（日曜日）　北海道新聞　朝刊

人会トン
社ミ
道バ

男子、三上・米組がV

ダブルス　女子は黒川・後藤組

【千歳】バドミントンの第49回道社会人選手権の第49回道社会人選手権は24日、千歳市スポーツセンターで開幕、男女ダブルスを行った。1部男子は三上裕司（NTT北海道）・米隆夫（NTT北海道テレマート）組同女子は黒川貴絵・後藤



女子の1部ダブルスを制した黒川（手前）と後藤

ネット際で強さ　黒川・後藤組

女子の1部ダブルスを9月上旬に行われた道選手権に続く優勝に、「今回勝ちたいと（前回の優勝が実力だと）認めてもらえない、と思っていたのでうれしい」（後藤）と喜んだ。

黒川がネット際の球に角度をつけて相手を揺さぶり、浮き上がったリターンで後衛がたたくパターンで得点を重ねた。

優勝候補筆頭の岩松・中組を破り、勢いに乗る吉岡・宮崎組との決勝でも、相手の強烈なスマッシュを懸命に拾ってネットの際のプレーに持ち込んだ。精鋭、相手のミスをうまく誘いストレート勝ち。吉岡監督が「2人はダブルスの戦い方を知っている」と感ずる試合内容だった。

「決勝では勝ちたいという気持ちで試合に臨むことができた」という黒川。全日本社会人選手権後、今後の全国レベルでの戦いを前に、自信をつけた様子だった。（安福　善）

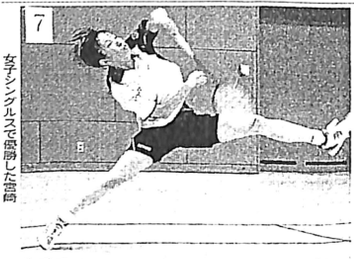
[9・26] 北海道新聞

2005年（平成17年）09月26日（月曜日）　北海道新聞　朝刊

道社会人
バドミントン

女子 宮崎が初V

シングルス　男子は吉川3連覇



女子シングルスで優勝した宮崎

【千歳】バドミントンの第49回道社会人選手権大会は最終日の25日、千歳市スポーツセンターで男女シングルスを行い、男子シングル1部は吉川裕司（NTTドコモ北海道）が竹村純（JR北海道）を下して3連覇、女子1部は宮崎

粘りで複のパートナー下す　宮崎

女子シングルス決勝では、前日のダブルスで準優勝した吉岡との対戦となった。パートナーとして初優勝した宮崎は「9月初めの道選手権で負けているので、勝てて良かった」と笑顔を見せた。

5月の国体予選では



「こんな試合は嬉」男子で3連覇を果たした吉川

女子シングルス決勝

吉川（NTTドコモ北海道）2-1 竹村（JR北海道）
2-0 宮崎（NTT北海道）

女子ダブルス決勝

宮崎・吉岡（NTT北海道）2-1 黒川・後藤（NTT北海道テレマート）

男子シングル1部

吉川（NTTドコモ北海道）2-1 竹村（JR北海道）
2-0 宮崎（NTT北海道テレマート）
2-1 吉岡（NTT北海道）
2-0 後藤（NTT北海道テレマート）

男子ダブルス決勝

三上・米（NTT北海道）2-1 井野・中村（NTT北海道テレマート）

[12・3] 北海道新聞

2005年（平成17年）12月03日（土曜日）　北海道新聞　朝刊

準々決勝で善戦する米と三上（右から）



本トン
日ミン
全バド

佐々木（男子）（単）が4強

女子複　中・岩松組は敗れる

バドミントンの全日本総合選手権第2日は2日、兵庫・宝塚市総合体育館で行われ、男子シングルスの佐々木翔（北都銀行、上磯中出）は準々決勝で笹田雄一（ヨネックス）にストレート勝ちし、単3強に進んだ。同ダブルスの三上裕司・米隆夫組（NTT北海道）は2回戦で川前直樹・新理組（NTT北海道）に逆転勝ちしたが、準々決勝で敗れた。女子ダブルスの中麻依子・岩松絵理組（NTT北海道）は準々決勝で志賀亜希・山田一恵組（NTT東日本）に敗れ3強入りを逃した。

粘り発揮し　強豪に肉薄

三上・米組

NTT北海道の新コンビがきらりと光った。三上・米組は逆転で2回戦を勝ち上がり、昨年の準優勝ペアとの準々決勝も、第ファイナルゲームに持ち込む熱戦なプレーで会場を沸かせた。

NTT東日本ペアとの2回戦では第1ゲームを9-7から第2の好スマッシュなどで踏ん張り、第3ゲームに持ち込んだ。

「良い試合をした」とはいえ、「社会人になってから2回戦で勝ったが、まく戦闘できている」と日本社会人の舞台で善戦した。

上位とも互角に戦える」と古川監督は強調した。

4強入りを逃した伊尾・坂本組（日本ユニシス）との準々決勝。落とした第1ゲームも僅差の21-19で競り勝ち、第2ゲームも19-16で振り切った。

第3ゲームは序盤から4-0とリードを広げ、相手の反撃を振り切った。

「相手の動きが出た」と反省しきりだが、竹村の得意なネット際のプレーでミスを誘い、前後左右に相手を揺さぶる。攻めのプレーもできた。接戦に勝ち自信をつかんだ吉川は日本リーグなどに向けて「良い点差に追られる展開だった。

「競ったところで気持ちの弱さ

2006（平成18）年

主な出来事

全道実業団女子13連覇
日本リーグ女子2部全勝優勝

戦績

全国大会	全日本実業団	男子団体5位	
		女子団体5位	
	全日本社会人	男子シングル5位	吉川
		男子ダブルス5位	三上・中村組
		女子シングル9位	宮崎
		女子ダブルス9位	黒川・後藤組
		混合ダブルス9位	三上・黒川組
	全日本総合	男子シングル9位	吉川
		男子ダブルス3位	米・平田（トナミ運輸）組
		男子ダブルス9位	三上・中村組
	日本リーグ	男子1部第5位（2勝5敗）	
		女子2部優勝（6勝0敗）	
全道大会	全道実業団	男子準優勝	
		女子13連覇	
	北海道選手権	男子ダブルス優勝	三上・米組
		女子シングル優勝	黒川
		女子ダブルス優勝	黒川・後藤組
	北海道社会人	男子シングル優勝	米
		女子シングル優勝	宮崎
		女子ダブルス優勝	吉岡・宮崎組
	国体道予選	男子ダブルス優勝	三上・米組
		女子シングル優勝	吉岡
		女子ダブルス優勝	黒川・後藤組

普及活動等（スポーツ教室）

稚内市 7.13　幕別町 7.20　旭川市 7.22
苫小牧市 1.21
道内各地からの要請に応じてスポーツ教室の講師として個人的に参加

備考

国体出場　富居・古川・吉岡（秀）・三上・米・黒川・吉岡（久）・後藤
成年男子第4位
日本リーグ女子2部優勝
殊勲選手受賞　黒川・後藤組

[9・4] 北海道新聞

バドミントン道社会人1部

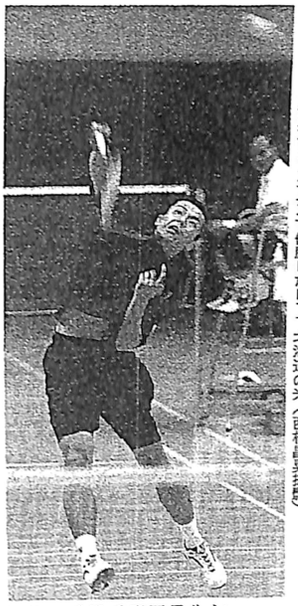
男子単 米が初V

【千歳】バドミントンの第50回道社会人選手権大会（北海道新聞社後援）は最終日の3日、千歳市民道場で男女シングルスなどを行い、シングルスの1部男子は米隆夫（NTT北海道）が関野育起（JR北海道）を下して初優勝し、同女子は宮崎優花（NTT北海道）が後藤佳代（NTTテレマート）を破り2連覇を果たした。

【男子】▽1部準決勝 関野（JR北海道）2―0竹村（JR北海道）、米（NTT北海道）2―1吉川（NTTドコモ北海道）▽同3位決定戦 竹村2―0吉川▽同決勝 米2―1関野

【女子】▽1部3位決定戦 阿部（JR北海道）棄権 権吉咲（アルウェル東日本北海道）▽同決勝 宮崎2―0後藤（NTTテレマート）

米、「王者」破り勢い


1部男子シングルスで優勝したNTT北海道の米（西村昌晃撮影）



社会人2年目の米が男子シングルスでは初の栄冠を手にした。準決勝が潮目だった。相手は大会4連覇を狙う吉川。公式戦で1度も勝ったことのない吉手でもあるが、この強豪を最終ゲームで延長の末に破って勢いがついた。

決勝は、同学年で大学時代から何度も対戦しており互いを知り尽くしている関野。前日のダブルスでも敗れているだけに「きょうは負けられない」と気合を入れて臨んだ。

自陣のフォアから相手のフォアを狙って対角に打つ関野の攻撃に注意し、米は粘り強く球を拾った。そして、チャンスと見るとおくせず攻めた。最終の第3ゲームでは15―6の9点リードから関野に7点連取を許し2点差に迫られたが、落ち着いてプレーし最後は21―16で振り切った。何度も「よしっ」「来いっ」と気合を入れ、決して集中を切らさなかった。

ダブルスでは日体大4年時のインカレ3位を輝かしい成績を挙げながら、シングルスではこれまで目立った活躍のなかった米。「普段だと取れない球も、うまく取れた」と試合後に自信がみなぎっていた。（佐畑 洋）

けが続き苦難の連覇

女子シングルス2連覇を果たした宮崎＝写真＝は「ずっと勝てなかったので良かった」とほっとした様子。

昨年のこの大会を初制覇して以来、右ひざの亜脱臼など、けがが相次ぎ、一気に勝負をつけた。既に出場が決まっている全日本社会人選手権（16日競技開始・石川県）ではダブルス、シングルスともベスト16を目指して「頑張ります」と話した。

けて相手のミスを誘い、優勝から遠ざかっていた。2週間前の大会では決勝まで進みながら、最終の第3ゲームで足や腕がつり、救急車で病院に運ばれた。試合は途中棄権した。

今回は体力の消耗を抑えるため1ゲーム目は慎重に試合を進めた。第2ゲームでは揺さぶりをか

[10・5] 報知新聞

NTT北海道バドミントン部 1部へ



NTT東日本北海道支店は4日、「NTT北海道男女バドミントン部」をNTT東日本の1部リーグ女子の団体戦から撤退させることを発表した。

関係者によると、今年限りで休部が決まっている野球部とともに、本道NTTの看板チームが消滅する。

同支店広報室は「近年、優勝を最高に3位も2回と開催されるNTT東日本リーグ2部大会が最後。同広報部では「団体戦で活動は今季限りで停止するが今後の個人での活動、大会参加などに関しては未定」としている。

男子チーム・吉川英樹監督（34）道内屈指の発展と地域の皆さんに愛される強いチーム目指し「夢に挑戦」をスローガンに活動してきましたが、チームを取り巻く厳しい状況を考えると最後まで戦い抜くことが、選手たちへの最大の恩返しと決断しました。

男子は9日に開幕する今季の日本リーグ戦、女子は15日から開催される日本リーグ2部大会が最後となり、日本リーグ撤退が決まった。

男子は昨年、今年ともに8強。一方、女子は99年に発足、2年から日本リーグ2部入り、99年のリーグ入れ替え戦で1部昇格を果たしたが、今年7月の入れ替え戦で敗れ、7年ぶりに2部降格が決まった。

同支店広報室は「近年、電子媒体の発達で休部が相次ぐ中、男女ともに全国レベルの厳しい環境の中で、チームの維持で頑張ってきたことにより、日本リーグ女子の団体戦から撤退させることを決定した」と説明。

NTT北海道 地元最後の○

[11・24] スポーツニッポン

スポニチプレミア 北海道

メールアドレス hokkaidou@sponichi.co.jp

今季限りで撤退

3千人の大声援受けて





[11・23] 北海道新聞

NTT北海道 道内で最終戦

バドミントン日本リーグ きょう札幌大会

「ファンの期待応えたい」


地元での活躍を誓うNTT北海道の男子メンバー

歴代メンバー

1967(昭和42年)

	伊勢　武
	江口　歳男
	森田　彪
	山田　龍一
	平野　義孝
新人	佐藤　信次
新人	中村　徳光
新人	成瀬　敏夫

1968(昭和43年)

	伊勢　武
	江口　歳男
	森田　彪
	平野　義孝
	佐藤　信次
	中村　徳光
	成瀬　敏夫
新人	木村　敏男

1969(昭和44年)

	伊勢　武
	江口　歳男
	森田　彪
	平野　義孝
	佐藤　信次
	中村　徳光
	成瀬　敏夫
	木村　敏男
新人	中瀬　幸記
新人	古川　孝行

1970(昭和45年)

	伊勢　武
	江口　歳男
	森田　彪
	佐藤　信次
	中村　徳光
	成瀬　敏夫
	木村　敏男
	中瀬　幸記
	古川　孝行

1971(昭和46年)

オーナー	清水　通隆
部長	鈴木　久喜
副部長	葛西　定美
監督	江口　歳男
コーチ	森田　彪
マネージャー	伊勢　武
主将	中村　徳光
	佐藤　信次
	木村　敏男
	中瀬　幸記
	古川　孝行
	山口　克志
新人	赤塚　正三
新人	平山　三城
新人	山口　克志

1972(昭和47年)

オーナー	伊佐　進
部長	鈴木　久喜
副部長	葛西　定美
監督	森田　彪
マネージャー	伊勢　武
主将	中村　徳光
	佐藤　信次
	木村　敏男
	中瀬　幸記
	古川　孝行
	山口　克志
	赤塚　正三
	平山　三城
新人	中川　肇
新人	佐藤　義孝
新人	福島　清寛

1973(昭和48年)

オーナー	伊佐　進
部長	岡本　実
監督	伊勢　武
マネージャー	佐藤　信次
主将	中村　徳光
	赤塚　正三
	平山　三城
	木村　敏男
	中瀬　幸記
	古川　孝行
	山口　克志
	中川　肇
	佐藤　義孝
	福島　清寛
新人	遠藤　好男

1974(昭和49年)

オーナー	植田　義明
部長	岡本　実
監督	伊勢　武
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	中瀬　幸記
主将	木村　敏男
	平山　三城
	古川　孝行
	遠藤　好男
	佐藤　義孝
	福島　清寛
新人	岩村　重勝

1975(昭和50年)

オーナー	植田　義明
部長	福田　整司
監督	伊勢　武
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	中瀬　幸記
主将	木村　敏男
	平山　三城
	遠藤　好男
	佐藤　義孝
	岩村　重勝
新人	九原　政敏
新人	平沢　徹

1976(昭和51年)

オーナー	千葉　孝
部長	福田　整司
監督	伊勢　武
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	平山　三城
主将	木村　敏男
	遠藤　好男
	九原　政敏
	佐藤　義孝
	平沢　徹
	岩村　重勝
新人	高木　勝弘
新人	篠尾　幸孝

1977(昭和52年)

オーナー	千葉　孝
部長	福田　整司
副部長	伊勢　武
監督	平山　三城
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	岩村　重勝
主将	木村　敏男
	遠藤　好男
	九原　政敏
	高木　勝弘
	篠尾　幸孝
	佐藤　義孝
	平沢　徹

1978(昭和53年)

オーナー	松尾　士郎
部長	林　信幸
副部長	伊勢　武
監督	平山　三城
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	岩村　重勝
主将	木村　敏男
	遠藤　好男
	九原　政敏
	高木　勝弘
	篠尾　幸孝
	佐藤　義孝
	平沢　徹

1979(昭和54年)

オーナー	松尾　士郎
部長	林　信幸
副部長	伊勢　武
監督	平山　三城
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	岩村　重勝
主将	木村　敏男
	遠藤　好男
	九原　政敏
	高木　勝弘
	篠尾　幸孝
	佐藤　義孝
	平沢　徹
新人	米山　孝二

1980(昭和55年)

オーナー	信澤　健夫
部長	菅原　光宏
副部長	伊勢　武
監督	平山　三城
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	木村　敏男
主将	遠藤　好男
	高木　勝弘
	佐藤　義孝
	平沢　徹
	米山　孝二
	篠尾　幸孝
新人	高田　浩二

1981(昭和56年)

オーナー	信澤　健夫
部長	菅原　光宏
副部長	伊勢　武
監督	平山　三城
コーチ	赤塚　正三
マネージャー	木村　敏男
主将	遠藤　好男
	高木　勝弘
	佐藤　義孝
	平沢　徹
	米山　孝二
	篠尾　幸孝
	高田　浩二

1982(昭和57年)

オーナー	高橋　一巧
部長	中道　雅克
副部長	伊勢　武
監督	木村　敏男
コーチ	遠藤　好男
マネージャー	米山　孝二
主将	佐藤　義孝
	平沢　徹
	篠尾　幸孝
	高田　浩二
新人	久郷　俊明
新人	千葉　昌弘

1983(昭和58年)

オーナー	坂上　昭二
部長	中道　雅克
副部長	伊勢　武
監督	木村　敏男
コーチ	遠藤　好男
マネージャー	篠尾　幸孝
主将	佐藤　義孝
	平沢　徹
	米山　孝二
	久郷　俊明
	千葉　昌弘
	高田　浩二
新人	中島　俊也

1984(昭和59年)

オーナー	坂上　昭二
部長	中道　雅克
副部長	伊勢　武
監督	遠藤　好男
マネージャー	篠尾　幸孝
主将	米山　孝二
	久郷　俊明
	千葉　昌弘
	中島　俊也
新人	加藤　学

1985(昭和60年)

オーナー	坂上　昭二
部長	望月幸三郎
副部長	伊勢　武
監督	遠藤　好男
マネージャー	篠尾　幸孝
主将	米山　孝二
	久郷　俊明
	千葉　昌弘
	中島　俊也
	加藤　学
新人	伊藤　雅弘

1986(昭和61年)

オーナー	外松　源司
部長	望月幸三郎
副部長	伊勢　武
監督	遠藤　好男
マネージャー	久郷　俊明
主将	米山　孝二
	千葉　昌弘
	中島　俊也
	伊藤　雅弘
	加藤　学
新人	田中　弘幸

1987(昭和62年)

オーナー	外松　源司
部長	望月幸三郎
副部長	伊勢　武
副部長	山本　英一
監督	遠藤　好男
マネージャー	久郷　俊明
主将	米山　孝二
	千葉　昌弘
	中島　俊也
	伊藤　雅弘
	加藤　学
	田中　弘幸
新人	山尾　克則

1988(昭和63年)

オーナー	西野　博
部長	北川　誠
副部長	伊勢　武
監督	米山　孝二
マネージャー	大沼　哲也
主将	千葉　昌弘
	中島　俊也
	伊藤　雅弘
	山尾　克則
	加藤　学
	田中　弘幸
新人	弓削　展子
新人	小笠原　満

1989(平成元年)

オーナー	西野　博
部長	北川　誠
副部長	伊勢　武
監督	米山　孝二
コーチ	千葉　昌弘
マネージャー	中島　俊也
主将	伊藤　雅弘
	山尾　克則
	加藤　学
	田中　弘幸
新人	角谷　淳一
新人	工藤　忠和
女子	弓削　展子
	小笠原　満
新人	小飼　真弓
新人	田中　範子

1990(平成2年)

オーナー	高橋　徹
部長	北川　誠
副部長	伊勢　武
監督	米山　孝二
マネージャー	加藤　学
主将	伊藤　雅弘
	山尾　克則
	角谷　淳一
	田中　弘幸
	工藤　忠和
新人	古川　英樹
女子	弓削　展子
	小笠原　満
	小飼　真弓
	田中　範子

1991(平成3年)

オーナー	高橋　徹
部長	阿部　隆
副部長	平山　三城
監督	米山　孝二
コーチ	伊藤　雅弘
マネージャー	加藤　学
男子主将	山尾　克則
	角谷　淳一
	田中　弘幸
	工藤　忠和
	古川　英樹
女子主将	弓削　展子
	小笠原　満
	小飼　真弓
	田中　範子
新人	土屋留美子
新人	佐藤　京子

1992(平成4年)

オーナー	川内　武
部長	牧野　哲也
副部長	平山　三城
監督	米山　孝二
コーチ	伊藤　雅弘
マネージャー	臼井　展子
男子主将	山尾　克則
	角谷　淳一
	工藤　忠和
	古川　英樹
新人	星　拓磨
女子主将	小笠原　満
	日景　真弓
	田中　範子
	土屋留美子
	佐藤　京子
新人	武田　明美

1993(平成5年)

オーナー	川内　武
部長	牧野　哲也
副部長	平山　三城
監督	米山　孝二
男子コーチ	伊藤　雅弘
マネージャー	臼井　展子
男子主将	角谷　淳一
	工藤　忠和
	古川　英樹
	星　拓磨
新人	村井　秀樹
女子コーチ	日景　真弓
女子主将	小笠原　満
	田中　範子
	土屋留美子
	佐藤　京子
	武田　明美

1994(平成6年)

オーナー	川内　武
部長	牧野　哲也
副部長	木村　敏男
監督	伊藤　雅弘
男子コーチ	角谷　淳一
マネージャー	臼井　展子
男子主将	工藤　忠和
	古川　英樹
	星　拓磨
	村井　秀樹
新人	佐藤　嘉伸
女子コーチ	日景　真弓
女子主将	小笠原　満
	田中　範子
	土屋留美子
	佐藤　京子
	武田　明美

1995(平成7年)

オーナー	涌井　裕
部長	月尾　修
副部長	木村　敏男
監督	伊藤　雅弘
男子コーチ	村井　秀樹
マネージャー	工藤　忠和
男子主将	古川　英樹
	佐藤　嘉伸
	星　拓磨
新人	斎藤　一祐
女子コーチ	日景　真弓
女子主将	田中　範子
	土屋留美子
	佐藤　京子
	武田　明美
新人	高橋　昌子

1996(平成8年)

オーナー	涌井　裕
部長	月尾　修
副部長	木村　敏男
監督	伊藤　雅弘
男子コーチ	村井　秀樹
マネージャー	工藤　忠和
男子主将	古川　英樹
	佐藤　嘉伸
	斉藤　一祐
	星　拓磨
新人	水澤　直哉
新人	吉岡　秀樹
女子コーチ	田中　範子
女子主将	土屋留美子
	佐藤　京子
	武田　明美
	高橋　昌子
新人	標　千春
新人	本田　恵

1997(平成9年)

オーナー	堀口　昌基
部長	月尾　修
副部長	木村　敏男
監督	伊藤　雅弘
男子コーチ	村井　秀樹
マネージャー	工藤　忠和
男子主将	古川　英樹
	佐藤　嘉伸
	斉藤　一祐
	星　拓磨
	水澤　直哉
	吉岡　秀樹
女子主将	土屋留美子
	武田　明美
	高橋　昌子
	標　千春
	本田　恵
新人	後藤　綾子
新人	中井貴代美

1998(平成10年)

オーナー	堀口　昌基
部長	月尾　修
副部長	木村　敏男
監督	伊藤　雅弘
男子コーチ	村井　秀樹
マネージャー	古川　英樹
男子主将	斉藤　一祐
	星　拓磨
	水澤　直哉
	吉岡　秀樹
新人	井野　嘉久
女子コーチ	佐藤　嘉伸
女子主将	武田　明美
	高橋　昌子
	標　千春
	本田　恵
	後藤　綾子
	中井貴代美
新人	西城真理子

1999(平成11年)

オーナー	堀口　昌基
部長	白髭　博司
監督	伊藤　雅弘
マネージャー	古川　英樹
男子主将	吉岡　秀樹
	星　拓磨
	水澤　直哉
	井野　嘉久
女子主将	後藤　綾子
	武田　明美
	高橋　昌子
	標　千春
	本田　恵

2000(平成12年)

オーナー	堀口　昌基
部長	白髭　博司
監督	伊藤　雅弘
マネージャー	古川　英樹
男子主将	吉岡　秀樹
	星　拓磨
	水澤　直哉
	井野　嘉久
女子主将	後藤　綾子
	武田　明美
	高橋　昌子
	標　千春
	本田　恵
新人	中島　輝美

2001(平成13年)

オーナー	松田　信行
部長	白髭　博司
男子監督	古川　英樹
女子監督	伊藤　雅弘
マネージャー	吉岡　秀樹
男子主将	星　拓磨
	水澤　直哉
	井野　嘉久
	古川　英樹
新人	吉川　勇司
女子主将	高橋　昌子
	西尾　綾子
	標　千春
	本田　恵
	中島　輝美
新人	岩松絵理子
新人	幡谷　好美

2002(平成14年)

オーナー	松田　信行
部長	堂前　実
副部長	小林　政敏
男子監督	古川　英樹
女子監督	伊藤　雅弘
マネージャー	吉岡　秀樹
男子主将	星　拓磨
	水澤　直哉
	井野　嘉久
	古川　英樹
	吉川　勇司
新人	三上　裕司
女子コーチ	田中　範子
女子主将	高橋　昌子
	西尾　綾子
	標　千春
	本田　恵
	中島　輝美
	岩松絵理子
新人	中　麻依子

2003(平成15年)

オーナー	松田　信行
部長	堂前　実
副部長	小林　政敏
総監督	平山　三城
男子監督	古川　英樹
女子監督	吉岡　秀樹
男子コーチ	星　拓磨
男子主将	水澤　直哉
	井野　嘉久
	吉川　勇司
	三上　裕司
	古川　英樹
新人	中村　寿史
移籍	一宮　孝一
女子主将	本田　恵
	標　千春
	中　麻依子
	岩松絵理子
	中島　輝美
新人	黒川　真緒
新人	吉岡久美子

2004平成16年)

オーナー	牧野　哲也
部長	清水　善廣
副部長	小林　政敏
総監督	平山　三城
男子監督	古川　英樹
女子監督	吉岡　秀樹
男子コーチ	星　拓磨
男子主将	水澤　直哉
	井野　嘉久
	吉川　勇司
	三上　裕司
	一宮　孝一
	中村　寿史
新人	長原　正博
女子主将	岩松絵理子
	中　麻依子
	黒川　真緒
	中島　輝美
	吉岡久美子
新人	柴山　明子
新人	宮崎　優花

2005(平成17年)

オーナー	牧野　哲也
部長	富居　次郎
副部長	小林　政敏
総監督	平山　三城
男子監督	古川　英樹
女子監督	吉岡　秀樹
男子主将	井野　嘉久
マネージャー	一宮　孝一
	吉川　勇司
	三上　裕司
	中村　寿史
	長原　正博
新人	米　隆夫
女子主将	岩松絵理子
	中　麻依子
	黒川　真緒
	吉岡久美子
	柴山　明子
	宮崎　優花
新人	後藤　佳代

2006(平成18年)

オーナー	加茂　孝之
部長	富居　次郎
副部長	小林　政敏
総監督	平山　三城
男子監督	古川　英樹
女子監督	吉岡　秀樹
コーチ	井野　嘉久
マネージャー	一宮　孝一
男子主将	三上　裕司
	吉川　勇司
	中村　寿史
	米　隆夫
女子主将	黒川　真緒
	吉岡久美子
	柴山　明子
	宮崎　優花
	後藤　佳代

あとがき



男子監督
古川　英樹

NTT北海道バドミントン部は競技の発展と、地域の皆様に愛される強いチームを目指し、「夢に挑戦」のスローガンのもと活動してきました。全国上位入賞はもちろんの事、北海道を代表するチームとしてバドミントン界を牽引してきました。北海道実業団34連覇、全日本実業団準優勝2回、日本リーグでは準優勝1回、3位3回、と輝かしい成績を残してきました。しかし、残念ながら日本リーグ2006を最後に日本リーグ等の団体戦からの撤退ということで、チームとしての活動は今後なくなります。

チームとしての活動のひと区切りとして、今回この記念史を作成する事になりました。

まずはこの記念史作成にあたり、ご協力頂いた多くの関係者の方々に感謝するとともに、お礼申し上げます。

私は平成2年に採用され、現在まで17年間NTT北海道バドミントン部に携わり、選手として8年間、マネージャー兼選手として3年間、監督として6年間、多くの貴重な経験をさせて頂きました。

私が監督になったのは平成13年、当時は「NTT構造改革に伴うスポーツ部の見直し」があり、チームは既にシンボルチームからクラブチームに移行されていました。

監督を引き受けた経緯として、グラブチームになってからの初めての監督という不安の中、当時の白髭部長、伊藤監督から「これからの将来ある若い選手の面倒は誰が見るんだ」と説得されたのを今でも覚えています。

そして、多くの理解ある方々、そして後援会組織皆様の支えにより、北海道の地域に根ざし、シンボルチーム時代と変わらぬ環境を与えて頂き、今日まで活動していく事ができました。

環境面でも多くの方々にご協力頂き、日本のトップチームとして活躍できる体制を整えて頂きました。苦労した事は選手の補強です。採用条件が他と比べて良くない中、将来有望な選手を獲得してくるのは大変でしたし、採用枠の獲得、各グループ会社への採用等本当に苦労しました。条件が悪くなったり、補強が二人からゼロになったり、採用選手の対応で東京日帰りを何度かした事もありました。当時の清水部長には無理なお願いばかりし、選手獲得にご尽力いただいたこと、また小林副部長とも泣きながら話しあったこと、本当に深く感謝しています。

その反面、選手達には不安を与えまいと必死でしたし、選手の頑張りが私を支えてくれていました。今回6名の選手が移籍、1名が指導者の道、1名が新たな道へ、3名が業務に専念します。移籍の選手については何とか選手の望む条件でよい環境のチームを探そうと奔走し、選手達とも多くの話をしました。しかし実際移籍が決定するとホッとすると同時に、何ともいえない寂しい気持ちにとらわれました。

最後の監督とよく言われますが、チームの活動を維持できなくなった責任、これからの若い選手達に何も残してあげられなかった事、最後の選手達には本当に辛い思いをさせてしまったことは今でも拭いきれません。

しかし私自身は、選手やそれを支えてくれた多くの関係者の皆さんと、笑ったり、泣いたり、喜んだり、悔しがったり、バドミントンというものを通じ貴重な体験をさせていただきました。長年に渡り多くの皆さんに支えられ、バドミントン部に所属できたことは大変幸せなことだったと思います。

新たな道へ踏み出す選手とともに、これまで培ってきたことを生かし、頑張っていこうと思います。

これまでお世話になったたくさんの方々に感謝し、お礼申し上げます。

本当にありがとうございました。





女子監督
吉岡　秀樹

平成８年に入部して以来、約11年間と長きに渡り当チームに関わってこれたことを心から幸に感じると共に誇りに思います。残念ながら近年のチームを取り巻く厳しい状況の中、チームの力を維持することが極めて難しくなってきた情勢を踏まえ、日本リーグ等からの撤退というやむを得ない苦しい選択となりました。これまでチームを陰で支えて頂きました多くの先輩方、関係者の皆様からのご支援ご指導のお陰でここまで活躍してこれたと思っております。

女子監督として４年間、選手と共に戦って参りましが、一番の思い出はやはり最後となった2006年です。最後の年では、女子選手５名と最少人数で戦うこととなった矢先に、３月に柴山選手が、練習中に左膝の前十字靭帯を切る全治６ヶ月の大怪我をしてしまい、そのため６月の全日本実業団では、選手４人での戦いとなりました。４人の内３人は単複兼ねて出場と選手にとっては大変厳しい戦いとなりましたが、準々決勝までは１ポイントも落とすことなくストレートで勝ち抜きました。準決勝では、ＮＥＣ九州チームに惜しくも敗れてしまい最後の全日本実業団はベスト８の結果で終わりました。同年の日本リーグでは、昨年の一部の大会で０勝７敗と全敗してしまい最下位となり、入れ替え戦でも二部優勝の三菱電機チームに勢いで押されてしまい本来の力を出せず敗退し２部へ降格となり、最後の日本リーグは２部リーグでの出場となりました。３月に怪我をした柴山選手も驚異的な回復で何とか大会に間に合い、補強選手として東京から渡辺選手を加え総勢６名で挑みました。

この時、既に撤退を表明しており、優勝しても一部リーグ復帰の夢はなく選手にとっては、とても辛い戦いとなりました。試合前、黒川選手が「優勝して監督を胴上げしよう」と言ってくれたのが今でも心に残っています。試合では、初戦から危なげなく勝利し、力の差を見せつけました。最終戦を待たずに優勝が決まりましたが選手の気持ちは最後まで切れることがありませんでした。最終戦の山陰合同銀行戦では、選手一人ひとりが自分のプライドを掛けて戦いました。第一ダブルスの黒川・後藤組は、自分の持っている力を全て出し、今までで最高のプレーをしてくれました。結果は、第３ゲームまで縺れ相手にマッチポイントを取られてからの大逆転で勝利しました。続くシングルスに出た宮崎も、落ち着いたプレーで相手を魅了し第２ゲームを取り、第３ゲームまで行ったが最後に惜しくも敗れてしまいました。ゲームカウント1-1で勝負がかかった第二ダブルスの柴山・吉岡組も終始、主導権をにぎり堂々たるプレーで危なげなく勝利を収め見事、全勝優勝と最高の形で有終の美を飾ることでできました。優勝が決まった瞬間、今まで味わったことのない喜びを感じ、選手みんなで泣きました。そして、公約通り選手達から胴上げをしてもらいこの上ない幸せを感じました。今まで辛いこと悲しいこと、さまざまな出来事がありましたが、監督をやらせて頂き、本当に良かったと実感しています。このメンバーでの戦いはこれで最後となり、とても寂しい気持ちになりますが今後、選手達はそれぞれ新たな道へ再出発いたします。今まで当部でプレーしたことを誇りに感じ胸を張って新天地で活躍してくれるものと信じております。

最後になりますが、当部に対して多くの温かいご支援、ご指導いただいた先輩方、関係者の皆様、そしてファンの皆様、今まで本当にお世話になりました。そしてありがとうございました。



長い間のご支援 本当にありがとうございました。

アイレック技建㈱北海道支店
NTTアドバンステクノロジ㈱北海道支店
㈱NTTアド北海道支店
NTTインフラネット㈱北海道支店
㈱エヌ・ティ・ティエムイー
㈱NTTクオリス北海道
NTTコミュニケーションズ㈱北海道支店
NTTコムウェア北海道㈱
NTTデータカスタマサービス㈱北海道支社
㈱NTTデータ北海道
㈱NTTドコモ北海道
NTT都市開発㈱北海道支店
NTT都市開発北海道BS㈱
NTT番号情報㈱北海道支店
NTT東日本研究開発センタ
NTT東日本札幌病院
㈱NTT東日本-北海道
㈱NTTファシリティーズ北海道支店
NTT北海道テレマート㈱
NTT北海道電話帳㈱
NTTファイナンス㈱北海道支店
NTT労働組合北海道総支部
㈱NTTロジスコ北海道支店
北通産㈱
共立建設㈱北海道支店
㈱協和エクシオ北海道支店
きらら保険サービス㈱北海道支店
㈱札幌日総建
大明㈱北海道支店
㈱つうけん
㈱TTG北海道支店
テルウェル北海道㈱
㈳電信電話工事協会北海道支部
ドコモエンジニアリング北海道㈱
ドコモサービス北海道㈱
ドコモモバイル北海道㈱
日本カーソリューションズ㈱北海道支店
日本コムシス㈱北海道支店
日本情報通信㈱札幌支店
日本メックス㈱北海道支店
日比谷総合設備㈱札幌支店
北海道電電輸送㈱

㈱イトーキ　オフィス事業部北海道販売部
㈱イレブン
㈱近藤商会
シダックスフードサービス㈱
コントラクト北海道支社
ゼット㈱北海道支店
タニコー㈱札幌営業所
㈱デンショクグループ
㈱ニッコクトラスト
東日本事業部北海道支店
㈱南勇次郎商店
レワード㈱
㈱レンタコム北海道

NTT北海道バドミントン部記念史

平成19年4月発行

発行・編集：NTT北海道バドミントン部記念史発行委員会

制　　作：NTTアド北海道支店

印　　刷：岩橋印刷株式会社

資料提供：北海道新聞社、道新スポーツ、スポーツニッポン新聞北海道支社
報知新聞北海道支社、バドミントンマガジン編集部